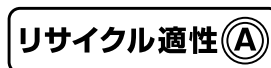


平成 2 2 年度経済産業省委託

高 圧 ガ ス 関 係 事 故 年 報

平成 2 3 年 2 月

高 圧 ガ ス 保 安 協 会



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

目 次

1. まえがき	1
2. 高圧ガス保安法関係事故	1
2.1 事故発生件数の推移と分析・評価	1
(1) 年別事故発生件数の推移	1
(2) 事故区分別発生件数	1
(3) 事故原因等による分析・評価	2
2.2 事故区分による分析・評価	2
(1) 製造事業所の事故分析	2
(2) 移動中の事故分析	4
(3) 消費先の事故分析	4
(4) その他事故（製造事業所、移動中、消費先に係る事故以外の事故） の取扱状態による分析	5
2.3 現象別区分、人的被害、事故等級による分析	5
(1) 現象別区分による分析	5
(2) 人的被害による分析	6
(3) 事故等級による分析	6
2.4 平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表	
(1) 災害事故：製造事業所の事故	38
(2) 災害事故：移動中の事故	91
(3) 災害事故：消費中の事故	98
(4) 災害事故：その他の事故	115
(5) 喪失・盗難事故：製造事業所	116
(6) 喪失・盗難事故：製造事業所	117
(7) 喪失・盗難事故：消費中	118

1. まえがき

本事故年報は、平成 22 年(1～12 月)に発生した高圧ガス保安法関係事故について、その事故内容について分析・評価を行ったものであり、今後の高圧ガス保安対策に資するものである。

なお、高圧ガス事故のうち、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」に係る一般消費者の事故については、本事故年報より除外している。

2. 高圧ガス保安法関係事故

高圧ガス保安法関係事故の発生件数は、平成 11 年まで 100 件前後で推移していたが、平成 12 年から増加に転じ、以後増加し続けている。平成 22 年の事故発生件数は、平成 21 年よりも増加した。

近年における事故件数増加の主要因は、容器の盗難、喪失等の事故(以下、「盗難等事故」という。)の増加である。しかし、盗難等事故は、爆発事故、漏えい事故等の通常の災害(以下、「災害事故」という。)とは性質が異なっているため、盗難等事故を災害事故とともに統計処理して論じることは難しい。そこで、本報告書では、高圧ガス事故を災害事故と盗難等事故に分けて整理し、解析を行った。

2.1 事故発生件数の推移と分析・評価

(1) 年別事故発生件数の推移

表 1 に、最近 10 年間(平成 13 年～平成 22 年)における月別の事故発生件数を示す。最近 5 年間では、平成 18 年は 554 件、平成 19 年は 735 件、平成 20 年は 807 件、平成 21 年は 824 件、平成 22 年は 916 件と大幅に増加している。この増加の最大要因は、盗難等事故の増加にあるが、一方、災害事故も着実に増加していることも注目される。平成 22 年の災害事故件数は 376 件となり、平成 21 年の 299 件と比較して、大幅に上回って過去最大となった。盗難等事故については、平成 22 年は 540 件となり、平成 21 年の 525 件を上回ってこちらも過去最大となった。表 1 から、月別における目立った傾向は見受けられないが、これを表 1 - 1 (災害事故)と表 1 - 2 (盗難等事故)に分けてみると、表 1 - 1 から、災害事故は夏季に多い傾向がある。これは、夏季には、容器の温度上昇による安全装置からの漏えい事故、台風による災害事故等、この時期特有の災害が発生することが一因と考えられる。また表 1 - 2 から、盗難等事故は冬季に多い傾向がある。

(2) 事故区分別発生件数

表 2 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における高圧ガス事故の事故区分別による統計結果を示す。表 2 から、平成 11 年までは毎年 100 件前後で推移していたものが、平成 12 年以降増加していることがわかる。また、災害事故の件数を表 2 - 1 に、盗難等事故の件数を表 2 - 2 にそれぞれ示す。災害事故の件数は、平成 13 年から増加に転じていることが特徴である。また、盗難等事故については、平成 4 年以前は殆ど届け出が無かったのに対し、届出の指導を行った平成 12 年以降急激に増加を続けている。

表 2 から、最近 5 年間ににおける事故の総件数は 3,836 件であり、消費の事故 2,710 件(71%)、製造事業所の事故 913 件(24%)、移動の事故 146 件(4%)、その他の事故 67 件(2%)の順となった。また、平成 22 年に発生した高圧ガス事故件数 916 件の事故区分別内訳は、消費の事故 614 件(67%)、製造事業所の事故 263 件(29%)、移動の事故 34 件(4%)、その他の事故 5 件(1%)の順となった。平成 22 年の事故の割合は、最近 5 年間の割合とほぼ同じであるが、若干製造事業所の事故が増加し、消費の事故が減少している。

表 2 - 1 から、災害事故について同様に比較して見ると、最近 5 年間ににおける事故の総件数は 1,467 件であり、製造事業所の事故 906 件(62%)、消費の事故 370 件(25%)、移動の事故 137 件(9%)、その他の事故 54 件(4%)の順となった。平成 22 年に発生した高圧ガス災害事故件数 376 件の内訳は、製造事業所の災害事故 259 件(69%)、消費の事故 79 件(21%)、移動の事故 33 件(9%)、その他の事故 5 件(1%)の順となった。このように、災害事故は製造事業所が多く、最近は特に件数が増加していることが特徴である。

(3) 事故原因等による分析・評価

表 3 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における高圧ガス事故の事故原因による統計結果を示す。また、最近 5 年間の事故については、総件数 3,836 件のうち、設備上(ハード)、すなわち設備の設計・構造不良及び設備の維持・管理不良によるもの(以下、総じて「設備上事故」という。)が 805 件(21%)、運転・操作上(ソフト)、すなわち管理・操作基準の不備及び運転・工事に係るミスによるもの(以下、総じて「運転・操作上事故」という。)が 430 件(11%)、その他の事故によるものが 2,601 件(68%)であった。

平成 22 年の事故は、設備上事故が 227 件(25%)、運転・操作上事故が 89 件(10%)、交通事故、ごみ処理(くず化を含む。)、盗難等その他の事故によるものが 600 件(66%)であった。

平成 22 年の災害事故の特徴について考察すると、表 3 - 1 に示すように、災害事故件数 376 件に対して、劣化・腐食、点検不良等の設備の維持管理不良によるものが 183 件(49%)、誤操作、認知確認ミス等の運転・工事に係わるミスによるものが 89 件(22%)と災害事故全体の 71%を占めている。設備の維持管理及び教育、訓練等によるヒューマンエラー対策が重要と考えられる。

2.2 事故区分による分析・評価

高圧ガスの事故区分、すなわち製造事業所の事故、移動の事故、消費の事故及びその他の事故について分析・評価した結果を以下に示す。

(1) 製造事業所の事故分析

(イ) 製造事業所における事故の特徴

表 2 に示した通り、最近 20 年間の高圧ガス製造事業所における事故件数の推移は、平成 13 年までは 30 件/年程度で推移していた。しかし、平成 14 年から増加

し、特に平成 18 年以降、事故件数は急激に増加している。

製造事業所に適用される省令は、一般高压ガス保安規則(以下、「一般則」という。)、液化石油ガス保安規則(同「液石則」)、コンビナート等保安規則(同「コンビ則」)及び冷凍保安規則(同「冷凍則」)である。表 2 では、これら省令の分類による事故件数の推移も示しており、近年は、特に一般則適用事業所及び冷凍則適用事業所における事故が増加している。

表 2 - 1 から、平成 22 年における製造事業所の災害事故の内訳を見ると、一般則適用事業所の災害事故が 108 件(29%)と一番多く、以下冷凍則適用事業所が 91 件(24%)、コンビ則適用事業所が 32 件(9%)、液石則適用事業所が 28 件(7%)であった。

(ロ) 業種別事故件数

表 4 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における製造事業所の事故における統計結果を示す。また、最近 5 年間に製造事業所で発生した事故 913 件について、業種別に分類すると、冷凍事業所が 284 件(31%)、一般化学が 104 件(11%)、充填所が 76 件(8%)、石油化学が 50 件(5%)、石油精製が 48 件(5%)の順となっており、その他の事業所(機械、電気、研究所等)が 348 件(38%)であった。その他の事業所の中では、近年、スタンドの事故が増加しており、平成 22 年には、52 件の事故が発生している。このうち 50 件は災害事故であり、内訳は天然ガススタンドにおける事故が 35 件、液化石油ガススタンドが 14 件、及び水素スタンドが 1 件であった。なお、製造事業所では、表 4 - 2 に示すように、盗難等事故は殆ど発生していない。

(ハ) 事故原因による分析

表 5 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における製造事業所の事故原因における統計結果を示す。また、最近 5 年間の製造事業所の事故原因による分析を行うと、設備上事故が 659 件(72%)、運転・操作上事故が 168 件(18%)、その他によるものが 86 件(9%)となっている。更にその内容について精査すると、劣化・腐食等による事故が 506 件(55%)と大部分を占め、以下製作不良によるものが 74 件(8%)、認知確認ミスによるものが 63 件(7%)の順となっている。平成 22 年には、「設備上事故」が 198 件(75%)、「運転・操作上事故」が 35 件(13%)、その他の事故によるものが 30 件(11%)であった。

平成 22 年の事故についても、最近 5 年間の傾向と類似しており、全体に占める劣化・腐食等による事故の割合が特に大きいことが特徴である。このため製造事業所では、経年劣化対策を中心とした、設備の維持管理が重要であることが示唆される。また、製作不良等、設備の設計・構造不良に起因する事故の件数が増加してきており、設計段階での十分な検討及び製作段階における確実な施工と確認など、品質面での対策も重要であることが示唆される。さらに、認知確認ミス等、ヒューマンエラーの事故が多いことから、運転中及び工事中における注意も重要である。

(2) 移動中の事故分析

(イ) 物質名による分析

表 6 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)の移動中の事故について、ガスの種類別による統計結果を示す。平成 22 年は、L P ガスが 20 件(59%)と多数を占める。その他では、炭酸ガス 5 件(15%)、窒素 4 件(12%)、酸素 3 件(9%)と続く。喪失・盗難事故は表 6 - 2 に示すが、製造事業所の事故と同様に殆ど発生していない。

(ロ) 事故原因による分析

表 7 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における高圧ガス事故の事故原因による統計結果を示す。また、最近 5 年間に発生した、移動中の事故 146 件について、原因分析を行うと、表 7 に示すように交通事故によるものが 46 件(32%)で全体の約 1/3 を占めた。また、移動中における、容器固定の措置が不十分であるといった認知確認ミスによる事例は 23 件(16%)発生している。誤判断、誤操作もそれぞれ 16 件(11%)及び 14 件(10%)発生しており、所謂ヒューマンエラーが 53 件(37%)発生している。

(3) 消費先の事故分析

(イ) 物質名による分析

表 8 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における高圧ガス事故の消費先で発生した事故について、ガスの種類別による統計結果を示す。消費先の事故については、L P ガスが圧倒的に多く、平成 22 年には 520 件(85%)発生している。これは、消費先における L P ガス容器の盗難が、近年非常に増加しているためである。また、表 8 - 1 に、ガスの種類別による消費先の災害事故の統計結果を示す。最近 5 年間に発生した 370 件について、ガスの種類別による分析を行うと、表 8 - 1 に示すように L P ガスによる事例が 168 件(45%)、アセチレンによる事例が 91 件(25%)とこれらで大多数を占めている。なお、消費先の事故については、表 8 - 2 に示すように容器の喪失・盗難件数が増加している。平成 22 年には、合計 53 件の喪失・盗難事故が発生しているが、大部分は L P ガス容器の喪失・盗難事故である。

(ロ) 事故原因による分析

表 9 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における、消費中の高圧ガス事故の事故原因による統計結果を示す。平成 22 年は、消費先の事故が 614 件発生しているが、そのうち 513 件(84%)が容器の喪失・盗難によるものであった。消費先の事故では、圧倒的に盗難等事故の割合が高くなっている。

表 9 - 1 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における、消費先の災害事故原因による統計結果を示す。平成 22 年には、消費先の災害事故は 79 件発生しているが、その主原因は、劣化・腐食等によるものが 12 件(15%)、認知確認ミスによるものが 12 件(15%)、誤操作によるものが 12 件(15%)、誤判断によ

るものが 7 件(9%)であった。特に、誤操作、誤判断及び認知確認ミスの合計は 31 件(39%)であり、運転・工事に係るミス(ヒューマンエラー)に関する事故が多いのが特徴である。また、最近 5 年間に消費先の災害事故は 370 件発生しているが、その内訳は、誤判断によるものが 52 件(14%)、劣化・腐食等によるものが 46 件(12%)、誤操作によるものが 45 件(12%)、認知確認ミスによるものが 45 件(12%)、点検不良によるものが 37 件(10%)の順であり、平成 22 年と同様の傾向を示した。高圧ガスの消費では、容器を含む消費器具類の点検及び作業手順の確認及び作業の確実な実施が、事故防止に対して重要であることが示唆される。

(4) その他事故(製造事業所、移動中、消費先に係る事故以外の事故)の取扱状態による分析

表 10 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における、その他の高圧ガス事故の統計結果を示す。母数が少ないため、最近 20 年間のその他事故 224 件について事故時の取扱状態による分析を行うと、表 10 に示すように容器のくず化によるものが 35 件(16%)、ごみ処理中によるものが 24 件(11%)、放置容器によるものが 22 件(10%)の順であった。また、上記容器のくず化、放置容器、ごみ処理中以外については、大部分が保管中の事故であった。

2.3 現象別区分、人的被害、事故等級による分析

表 11 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)における高圧ガス事故について、現象別区分、人的被害及び事故等級による統計結果を示す。

(1) 現象別区分による分析

表 11 に示すように、平成 22 年に発生した高圧ガスの事故件数は 916 件で、事故現象別にみると、盗難等事故を含むその他が 561 件(61%)と多く、以下噴出・漏えい 284 件(31%)、火災 39 件(4%)、破裂・破壊 19 件(2%)、爆発 13 件(1%)の順となっている。

表 11 - 1 には、高圧ガスの災害事故について、現象別区分、人的被害及び事故等級による統計結果を示す。平成 22 年は噴出・漏えい 284 件(76%)、火災 39 件(10%)、破裂・破壊 19 件(5%)、爆発 13 件(3%)の順となり、大部分が噴出・漏えい事故であった。最近 5 年間でみると、噴出・漏えい 1036 件(71%)、火災 214 件(15%)、破裂・破壊 79 件(5%)、爆発 78 件(5%)の順となり、同様の傾向を示す。

平成 22 年に発生した事故現象について、死傷者数/件数の割合でみると、爆発 1.5 人/件、火災 0.4 人/件、噴出・漏えい 0.1 人/件、破裂・破壊 0.5 人/件、その他(中毒等) 0.7 人/件となり、死傷者数/災害事故件数の割合の平均値は 0.2 人/件であった。最近 5 年間の事故については、爆発 1.0 人/件、火災 0.5 人/件、噴出・漏えい 0.2 人/件、破裂・破壊 0.5 人/件、その他(中毒等)1.2 人/件となり、死傷者数/災害事故件数の割合の平均値は 0.3 人/件となった。平成 22 年における爆発の割合が多い理由としては、1 件の飲食店の爆発事故で 11 名の方々が被災され

た事故があったためと推定される。

(2) 人的被害による分析

表 12 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)の人的被害の統計結果を示す。

このうち平成 22 年の人身事故の件数は 41 件であり、高圧ガス保安法事故 916 件に対する人身事故の割合は 4%となる。また、死傷者数 / 人身事故件数の割合は 2.0 人 / 件となる。また、高圧ガスの災害事故 376 件に対して同様に計算すると、人身事故の割合は 11%となる。なお、最近 5 年間における、高圧ガスの災害事故 1467 件、人身事故件数 237 件、死傷者数 465 人に対して同様に計算すると、人身事故の割合が 16%、死傷者数 / 人身事故件数の割合が同様 2.0 人 / 件となった。

人身事故件数は、平成 22 年は 41 件で平成 21 年の 36 件より増加した。しかし、死傷者数は、平成 21 年は 109 名だったが平成 22 年は 80 名に減少した。平成 21 年は、1 件の事故で塩素漏えい事故により 32 名、三フッ化窒素の爆発事故により 11 名の負傷者がそれぞれ発生したことが影響していると推定される。平成 22 年において、1 件の事故で多くの方々が被災されてしまった事故としては、LP ガスの爆発事故により 11 名の方々が被災された事故が挙げられる。安全を第一とし、万が一の際も人的被害が最小限になるよう、関係者のより一層の努力が望まれる。

(3) 事故等級による分析

表 13 に、最近 20 年間(平成 3 年～平成 22 年)の人的被害の統計結果を示す。平成 21 年は A 級事故が 2 件(塩素漏えい事故(被災者 32 名)及び三フッ化窒素充てん場の爆発事故(被害総額が 5 億円以上))発生したが、平成 22 年は発生しなかった。B 級事故は毎年 10 件前後発生していたが、平成 18 年に 25 件と大幅に増加し、平成 21 年は 29 件に増加し、平成 22 年は更に 41 件へ増加した。平成 22 年の B 級事故のうち、災害事故は 36 件であり、適用理由としては、同一事業所で 1 年以内に 2 回以上が 28 件、死亡者数 1 名以上 4 名以下が 3 件、重傷者 2 名以上 9 名以下が 4 件、多大な物的被害が 1 件であった。

表 1 高圧ガス事故統計集計表

年 月	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	合計
1月	10	18	26	41	41	39	67	86	60	88	476
2月	17	19	20	38	33	43	48	85	56	69	428
3月	21	19	30	30	47	39	62	62	65	82	457
4月	10	20	35	40	42	41	56	61	59	79	443
5月	11	19	38	37	36	48	37	52	75	67	420
6月	17	16	25	38	35	36	77	60	77	72	453
7月	24	31	27	35	47	63	62	68	74	71	502
8月	16	28	30	46	43	61	56	60	71	85	496
9月	11	26	36	48	45	38	68	60	55	101	488
10月	18	25	42	62	39	44	58	71	65	78	502
11月	17	30	36	39	44	49	65	70	88	64	502
12月	18	31	39	37	52	53	79	72	79	60	520
合計	190	282	384	491	504	554	735	807	824	916	5687
対前年比		48.4	36.2	27.9	2.6	9.9	32.7	9.8	2.1	11.2	

表 1 - 1 高圧ガス事故統計集計表(災害)

年 月	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	合計
1月	7	11	12	10	16	16	18	23	23	27	163
2月	6	8	10	5	8	13	18	28	14	22	132
3月	13	19	22	15	24	29	36	51	37	49	162
4月	16	10	12	9	17	8	24	23	19	24	162
5月	29	29	34	24	41	37	60	74	56	73	146
6月	5	12	9	13	9	13	15	18	20	32	146
7月	34	41	43	37	50	50	75	92	76	105	157
8月	8	7	11	9	13	20	14	25	26	24	157
9月	42	48	54	46	63	70	89	117	102	129	221
10月	9	10	15	21	13	15	35	28	36	39	221
11月	51	58	69	67	76	85	124	145	138	168	239
12月	18	18	12	15	20	21	34	37	33	31	239
合計	69	76	81	82	96	106	158	182	171	199	241
対前年比	13	17	13	15	21	26	29	32	32	43	241
	82	93	94	97	117	132	187	214	203	242	223
	7	15	19	18	11	17	28	31	22	55	223
	89	108	113	115	128	149	215	245	225	297	190
	11	11	12	21	14	15	24	20	26	36	190
	100	119	125	136	142	164	239	265	251	333	156
	10	9	9	8	12	15	26	18	25	24	156
	110	128	134	144	154	179	265	283	276	357	165
	12	10	12	13	11	14	22	29	23	19	165
	122	138	146	157	165	193	287	312	299	376	2195
合計	122	138	146	157	165	193	287	312	299	376	2195
対前年比		13.1	5.8	7.5	5.1	17.0	48.7	8.7	▲ 4.2	25.8	

表 1 - 2 高圧ガス事故統計集計表(喪失・盗難)

年 月	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	合計
1月	3	7	14	31	25	23	49	63	37	61	313
2月	11	11	10	33	25	30	30	57	42	47	296
3月	5	9	18	21	30	31	38	39	46	58	295
4月	5	8	26	27	33	28	41	43	39	47	297
5月	3	12	27	28	23	28	23	27	49	43	263
6月	8	6	10	17	22	21	42	32	41	33	232
7月	6	13	15	20	27	42	28	31	41	40	263
8月	3	11	17	31	22	35	27	28	39	42	255
9月	4	11	17	30	34	21	40	29	33	46	265
10月	7	14	30	41	25	29	34	51	39	42	312
11月	7	21	27	31	32	34	39	52	63	40	346
12月	6	21	27	24	41	39	57	43	56	41	355
合計	68	144	238	334	339	361	448	495	525	540	3492
対前年比		111.8	65.3	40.3	1.5	6.5	24.1	10.5	6.1	2.9	

表2 高圧ガス保安法関係事故件数の推移

年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	合計	最近5年間合計
製造事業所	冷 凍	3	4	6	10	23	5	7	7	6	7	5	11	4	15	20	39	51	83	91	404	284
製造事業所	コヒナート	7	2	6	6	7	8	7	14	8	5	4	14	16	15	37	31	43	29	33	310	173
	L P	7	9	6	6	6	4	3	6	7	4	6	10	8	11	10	8	25	18	29	204	101
	一 般	5	5	6	7	10	10	9	9	7	18	15	19	24	26	35	55	61	94	110	561	355
	計	22	20	24	29	46	27	26	36	29	33	32	48	59	66	100	150	176	224	263	1479	913
移動	19	14	16	16	16	16	12	13	11	15	20	26	28	33	21	30	31	30	21	34	433	146
消費	59	55	41	41	49	53	41	40	42	63	116	185	289	367	400	408	535	583	570	614	4551	2710
その他	10	6	7	8	2	6	6	11	9	8	5	16	21	22	17	16	19	18	9	5	224	67
計	110	95	88	94	113	98	91	96	94	121	190	282	384	491	504	554	735	807	824	916	6687	3636

表2 - 1 高圧ガス保安法関係事故件数の推移 (災害)

年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	合計	最近5年間合計
製造事業所	冷 凍	3	4	6	10	23	5	7	7	6	7	5	11	4	15	19	39	51	83	91	403	283
製造事業所	コヒナート	7	2	6	6	7	8	7	14	8	5	4	14	16	15	37	31	43	29	32	309	172
	L P	7	9	5	6	6	4	3	5	7	4	6	9	8	10	10	8	24	18	28	198	99
	一 般	5	5	6	7	10	10	8	9	7	18	15	19	23	26	34	55	61	94	108	553	352
	計	22	20	23	29	46	27	25	35	29	33	32	47	58	66	98	149	176	224	259	1463	906
移動	18	14	15	16	16	16	12	13	11	14	19	25	28	31	21	29	29	27	19	33	415	137
消費	59	55	40	39	42	46	40	35	29	42	49	50	56	41	62	54	95	93	49	79	1055	370
その他	10	6	6	7	2	6	6	11	9	7	5	16	13	7	16	12	14	16	7	5	195	54
計	109	95	84	91	106	91	89	90	90	79	99	122	138	146	165	193	287	312	299	376	3128	1467

表2 - 2 高圧ガス保安法関係事故件数の推移 (喪失・盗難)

年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	合計	最近5年間合計
製造事業所	冷 凍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
製造事業所	コヒナート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	L P	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	6	2
	一 般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	0	2	8	3
	計	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	4	0	2	1	0	0	4	16	7
移動	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	2	0	1	2	3	2	1	18	9
消費	0	0	1	2	7	7	1	5	13	21	67	135	233	326	338	354	440	490	521	535	3496	2340
その他	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	8	2	2	1	4	5	2	2	0	29	13
計	1	0	4	3	7	7	2	6	15	22	68	144	238	334	339	361	448	495	525	540	3559	2369

表 3 高圧ガス事故の原因別による分析

区分 年	設備上(ハード)										運転・操作上(ソフト)										その他					合 計			
	設備の設計・構造不良			小 計	設備の維持・管理不良			小 計	管理・操作基準の不備					運転・工事に係るミス					小 計	そ の 他	計	そ の 他	原因不明	そ の 他					
	構造不良	材質不良	製作不良		劣化・腐食等	点検不良	誤作動		操作基準不備	情報の提供不備	作業環境の不適合	管理体制の不備	誤操作	誤判断	認識ミス	確認ミス													
平成22年	16	0	28	44	170	13	0	183	0	227	2	3	2	0	7	25	18	39	82	0	89	10	0	516	3	7	64	600	916
平成21年	7	1	17	25	136	14	0	150	0	175	8	2	1	0	11	16	20	30	66	0	77	8	0	481	11	4	68	572	824
平成20年	7	2	15	24	121	22	2	145	0	169	3	1	6	2	12	34	30	18	82	0	94	7	4	467	9	7	50	544	807
平成19年	11	0	17	28	92	19	0	111	0	139	10	6	9	0	25	19	30	28	77	0	102	9	1	421	24	8	31	494	735
平成18年	7	1	9	17	62	14	2	78	0	95	9	3	6	0	18	18	8	24	50	0	68	14	2	330	19	5	21	391	554
平成17年	3	2	4	9	39	9	0	48	0	57	5	2	8	0	15	18	9	25	52	0	67	11	3	318	25	5	18	380	504
平成16年	3	1	0	4	49	11	1	61	0	65	3	0	2	0	5	9	8	20	37	0	42	19	6	309	24	6	20	384	491
平成15年	2	2	0	4	31	12	0	43	0	47	0	2	9	0	11	12	6	32	50	0	61	12	0	227	13	3	21	276	384
平成14年	5	1	3	9	24	11	0	35	0	44	0	2	17	0	19	20	3	20	43	0	62	20	4	139	4	3	6	176	282
平成13年	5	1	4	10	10	14	0	24	0	34	0	1	11	0	12	17	6	26	49	0	61	13	6	67	3	0	6	95	190
平成12年	2	1	1	4	16	7	1	24	0	28	1	3	7	0	11	20	5	18	43	0	54	11	1	21	0	2	4	39	121
平成11年	0	0	2	2	9	16	1	26	0	28	0	1	5	0	6	14	2	17	33	0	39	7	0	8	7	1	4	27	94
平成10年	2	0	0	2	16	14	2	32	0	34	3	1	6	0	10	17	3	15	35	0	45	5	4	4	2	1	1	17	96
平成9年	2	0	0	2	16	19	0	35	0	37	7	3	4	0	14	9	0	16	25	0	39	4	5	2	0	0	4	15	91
平成8年	4	0	0	4	9	21	0	30	0	34	1	2	7	0	10	16	5	20	41	0	51	4	2	7	0	0	0	13	98
平成7年	4	0	0	4	20	14	0	34	0	38	2	0	5	0	7	12	2	19	33	0	40	11	0	6	16	0	2	35	113
平成6年	2	1	0	3	8	6	0	14	0	17	1	0	10	0	11	18	3	20	41	0	52	11	2	2	8	1	1	25	94
平成5年	0	0	0	0	13	18	1	32	0	32	2	3	10	0	15	11	1	8	20	0	35	10	3	3	1	3	1	21	88
平成4年	1	1	2	4	8	20	0	28	0	32	0	2	13	0	15	19	0	17	36	0	51	7	0	0	0	1	4	12	95
平成3年	4	1	2	7	10	26	0	36	0	43	2	0	10	0	12	12	3	24	39	0	51	9	4	1	2	0	0	16	110
合計	87	15	104	206	859	300	10	1169	0	1375	59	37	148	2	246	336	162	436	934	0	1180	202	47	3329	171	57	326	4132	6687
最近5年間合計	48	4	86	138	581	82	4	667	0	805	32	15	24	2	73	112	106	139	357	0	430	48	7	2215	66	31	234	2601	3836

表 3 - 1 高圧ガス事故の原因別による分析(災害)

区分 年	設備上(ハード)										運転・操作上(ソフト)										その他						合 計
	設備の設計・構造不良			小 計	設備の維持・管理不良			小 計	管理・操作基準の不備			運転・工事に係るミス			小 計	そ の 他	計	交通事故	こみく処理 ずく化	盗 難	自然災害	原因不明	そ の 他				
	構造不良	材質不良	製作不良		劣化・腐食等	点検不良	誤作動		操作基準の不備	情報の提供不備	作業環境の不備	責任の管理不備	誤操作	誤判断										認識確認ミス			
平成22年	16	0	28	44	170	13	0	227	2	3	2	0	7	25	18	39	82	0	10	0	3	7	40	60	376		
平成21年	7	1	17	25	136	14	0	175	8	2	1	0	11	16	20	30	66	0	77	8	0	3	4	32	47	299	
平成20年	7	2	15	24	121	22	2	169	3	1	6	2	12	34	30	18	82	0	94	7	4	4	7	27	49	312	
平成19年	11	0	17	28	92	19	0	139	10	6	9	0	25	19	30	28	77	0	102	9	1	14	8	14	46	287	
平成18年	7	1	9	17	62	14	2	95	9	3	6	0	18	18	8	24	50	0	68	14	2	0	5	9	30	193	
平成17年	3	2	4	9	39	9	0	57	5	2	8	0	15	18	9	25	52	0	67	11	3	10	3	14	41	165	
平成16年	3	1	0	4	49	11	1	65	3	0	2	0	5	9	8	20	37	0	42	19	6	8	4	13	50	157	
平成15年	2	2	0	4	31	12	0	47	0	2	9	0	11	12	6	32	50	0	61	12	0	7	2	17	38	146	
平成14年	5	1	3	9	24	11	0	44	0	2	17	0	19	20	3	20	43	0	62	20	4	0	2	6	32	138	
平成13年	5	1	4	10	10	14	0	34	0	1	11	0	12	17	6	26	49	0	61	13	6	2	0	6	27	122	
平成12年	2	1	1	4	16	7	1	28	1	3	7	0	11	20	5	18	43	0	54	11	1	0	2	3	17	99	
平成11年	0	0	2	2	9	16	1	28	0	1	5	0	6	14	2	17	33	0	39	7	0	1	0	4	12	79	
平成10年	2	0	0	2	16	14	2	34	3	1	6	0	10	17	3	15	35	0	45	5	4	0	1	1	11	90	
平成9年	2	0	0	2	16	19	0	37	7	3	4	0	14	9	0	16	25	0	39	4	5	0	0	4	13	89	
平成8年	4	0	0	4	9	21	0	34	1	2	7	0	10	16	5	20	41	0	51	4	2	0	0	0	6	91	
平成7年	4	0	0	4	20	14	0	38	2	0	5	0	7	12	2	19	33	0	40	11	0	16	0	1	28	106	
平成6年	2	1	0	3	8	6	0	17	1	0	10	0	11	18	3	20	41	0	52	11	2	7	1	1	22	91	
平成5年	0	0	0	0	13	18	1	32	0	32	2	3	10	0	15	11	8	20	0	35	10	3	0	3	1	17	84
平成4年	1	1	2	4	8	20	0	32	0	2	13	0	15	19	0	17	36	0	51	7	0	0	1	4	12	95	
平成3年	4	1	2	7	10	26	0	43	2	0	10	0	12	12	3	24	39	0	51	9	4	2	0	0	15	109	
合計	87	15	104	206	859	300	10	1375	59	37	148	2	246	336	162	436	934	0	1180	202	47	0	77	50	197	573	3128
最近5年間合計	48	4	86	138	581	82	4	805	32	15	24	2	73	112	106	139	357	0	430	48	7	0	24	31	122	232	1467

表 3 - 2 高圧ガス事故の原因別による分析(喪失・盗難)

年	区分	設備上(ハード)						運転・操作上(ソフト)						その他						合 計				
		設備の設計・構造不良			設備の維持・管理不良			管理・操作基準の不備			小 計			運転・工事に係るミス			小 計				そ の 他			
		構造不良	材質不良	製作不良	劣化・腐食等	点検不良	誤作動	情報の提供不備	作業環境の不備	管理体制の不備	小 計	誤操作	誤判断	認識ミス	知識確認ミス	そ の 他	小 計	交通事故	こみく処理 ず化		盗 難	自然災害	原因不明	そ の 他
平成22年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	516	0	0	24	540
平成21年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	481	8	0	36	525
平成20年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	467	5	0	23	495
平成19年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	421	10	0	17	448
平成18年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	330	19	0	12	361
平成17年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	318	15	2	4	339
平成16年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	309	16	2	7	334
平成15年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	227	6	1	4	238
平成14年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	139	4	1	0	144
平成13年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67	1	0	0	68
平成12年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	1	22	22
平成11年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	6	1	0	15
平成10年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	6
平成9年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2
平成8年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7	7
平成7年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	7
平成6年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
平成5年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
平成4年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成3年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3329	94	7	129	3559
最近5年間合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2215	42	0	112	2369

表 4 製造事業所の業種別事故件数

業種 年	石 油 精 製	石 油 化 学	一 般 化 学	冷 凍 事 業 所	充填所	容 器 検 査 所	その他	合 計
平成22年	8	4	37	91	13	1	109	263
平成21年	9	8	18	83	16	1	89	224
平成20年	11	17	21	51	19	0	57	176
平成19年	6	9	13	39	18	1	64	150
平成18年	14	12	15	20	10	0	29	100
平成17年	1	6	6	15	10	0	28	66
平成16年	4	9	9	4	11	0	32	69
平成15年	6	3	12	11	9	0	18	59
平成14年	4	2	12	5	6	2	17	48
平成13年	0	1	6	7	4	2	12	32
平成12年	3	0	7	6	3	1	13	33
平成11年	4	2	3	7	6	1	6	29
平成10年	4	4	9	7	3	0	9	36
平成9年	0	3	9	7	2	2	3	26
平成8年	3	1	5	5	4	1	8	27
平成7年	2	3	4	23	3	2	9	46
平成6年	2	2	3	10	3	0	9	29
平成5年	3	2	2	6	7	0	4	24
平成4年	1	1	1	4	4	0	9	20
平成3年	1	4	4	3	6	2	2	22
合計	86	93	196	404	157	16	527	1479
最近5年間合計	48	50	104	284	76	3	348	913

表 4 - 1 製造事業所の業種別事故件数(災害)

年 \ 業種	石油 精製	石油 化学	一般 化学	冷凍 事業所	充填所	容器 検査所	その他	合計
平成22年	7	4	37	91	12	1	107	259
平成21年	9	8	18	83	16	1	89	224
平成20年	11	17	21	51	19	0	57	176
平成19年	6	9	13	39	17	1	64	149
平成18年	14	12	15	19	9	0	29	98
平成17年	1	6	6	15	10	0	28	66
平成16年	4	9	9	4	7	0	32	65
平成15年	6	3	12	11	8	0	18	58
平成14年	4	2	12	5	5	2	17	47
平成13年	0	1	6	7	4	2	12	32
平成12年	3	0	7	6	3	1	13	33
平成11年	4	2	3	7	6	1	6	29
平成10年	4	4	9	7	2	0	9	35
平成9年	0	3	8	7	2	2	3	25
平成8年	3	1	5	5	4	1	8	27
平成7年	2	3	4	23	3	2	9	46
平成6年	2	2	3	10	3	0	9	29
平成5年	3	2	2	6	7	0	3	23
平成4年	1	1	1	4	4	0	9	20
平成3年	1	4	4	3	6	2	2	22
合計	85	93	195	403	147	16	524	1463
最近5年間合計	47	50	104	283	73	3	346	906

表 4 - 2 製造事業所の業種別事故件数(喪失・盗難)

年 \ 業種	石油 精製	石油 化学	一般 化学	冷凍 事業所	充填所	容器 検査所	その他	合計
平成22年	1	0	0	0	1	0	2	4
平成21年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成20年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成19年	0	0	0	0	1	0	0	1
平成18年	0	0	0	1	1	0	0	2
平成17年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成16年	0	0	0	0	4	0	0	4
平成15年	0	0	0	0	1	0	0	1
平成14年	0	0	0	0	1	0	0	1
平成13年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成12年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成11年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成10年	0	0	0	0	1	0	0	1
平成9年	0	0	1	0	0	0	0	1
平成8年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成7年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成6年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成5年	0	0	0	0	0	0	1	1
平成4年	0	0	0	0	0	0	0	0
平成3年	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	1	1	10	0	3	16
最近5年間合計	1	0	0	1	3	0	2	7

表 5 製造事業所事故の原因別による分析

年	区分	設備上(ハード)										運転・操作上(ソフト)										その他			合 計			
		設備の設計・構造不良			小 計			設備の維持・管理不良				小 計			その他の			盗 難			そ の 他							
		構 造 不 良	材 質 不 良	製 作 不 良	劣 化 ・ 腐 食 等	点 検 不 良	誤 作 動	小 計	管理・操作基準の不備			運転・工事に係るミス			小 計	そ の 他	計											
									操 作 の 基 準 不 備	情 報 の 提 供 不 備	責 任 体 制 不 備	誤 操 作	誤 判 断	認 知 確 認 ミ ス														
		12	0	27	39	152	7	0	159	0	198	1	1	0	0	2	8	7	18	33	0	35	3	0	27	30	263	
		6	0	16	22	124	11	0	135	0	157	4	1	0	0	5	10	9	18	37	0	42	0	3	22	25	224	
		5	2	12	19	99	4	1	104	0	123	1	0	1	2	4	17	6	10	33	0	37	0	1	15	16	176	
		6	0	13	19	80	9	0	89	0	108	2	2	0	0	4	8	11	8	27	0	31	1	1	9	11	150	
		4	1	6	11	51	9	2	62	0	73	4	1	0	0	5	6	3	9	18	0	23	1	1	2	4	100	
		1	2	1	4	26	3	0	29	0	33	3	1	0	0	4	8	3	7	18	0	22	0	7	4	11	66	
		2	1	0	3	32	7	1	40	0	43	3	0	0	0	3	1	2	2	5	0	8	2	8	8	18	69	
		0	2	0	2	19	5	0	24	0	26	0	1	1	0	2	3	2	12	17	0	19	1	7	6	14	59	
		4	0	3	7	17	4	0	21	0	28	0	2	0	0	2	8	2	5	15	0	17	0	1	2	3	48	
		2	1	1	4	6	6	0	12	0	16	0	0	0	0	0	4	2	8	14	0	14	0	1	1	2	32	
		2	1	1	4	10	1	1	12	0	16	1	2	1	0	4	4	2	6	12	0	16	0	0	1	1	33	
		0	0	2	2	7	4	1	12	0	14	0	1	0	0	1	4	2	6	12	0	13	0	1	1	2	29	
		2	0	0	2	7	7	2	16	0	18	1	0	0	0	1	10	1	4	15	0	16	0	1	1	2	36	
		1	0	0	1	8	3	0	11	0	12	5	2	0	0	7	2	0	3	5	0	12	1	0	1	2	26	
		2	0	0	2	4	6	0	10	0	12	1	2	0	0	3	6	3	3	12	0	15	0	0	0	0	27	
		2	0	0	2	13	5	0	18	0	20	1	0	1	0	2	2	0	6	8	0	10	0	16	0	16	46	
		2	1	0	3	4	3	0	7	0	10	1	0	0	0	1	3	1	7	11	0	12	0	7	0	7	29	
		0	0	0	0	7	7	1	15	0	15	2	0	0	0	2	2	1	2	5	0	7	0	1	1	2	24	
		1	1	1	3	5	1	0	6	0	9	0	1	0	0	1	1	0	8	9	0	10	0	0	0	1	1	20
		1	1	1	3	6	4	0	10	0	13	2	0	1	0	3	1	0	3	4	0	7	0	2	0	2	22	
	合計	55	13	84	152	677	106	9	792	0	944	32	17	5	2	56	108	57	145	310	0	366	9	58	102	169	1479	
	最近5年間合計	33	3	74	110	506	40	3	549	0	659	12	5	1	2	20	49	36	63	148	0	168	5	6	75	86	913	

表 5 - 1 製造事業所事故の原因別による分析(災害)

年 区分	設備上(ハード)					運転・操作上(ソフト)										その他			合 計							
	設備の設計・構造不良		設備の維持・管理不良			小 計	計	管理・操作基準の不備				運転・工事に係るミス			小 計	そ の 他										
	構造不良	材質不良	製作不良	劣化・腐食等	点検不良			誤作動	操作の基準不備	情報の提供不備	作業環境の不適	責任体制の不備	誤操作	誤判断			認知確認ミス									
平成22年	12	0	27	39	152	7	0	159	0	198	1	1	0	0	2	8	7	18	33	0	35	26	259			
平成21年	6	0	16	22	124	11	0	135	0	157	4	1	0	0	5	10	9	18	37	0	42	3	22	224		
平成20年	5	2	12	19	99	4	1	104	0	123	1	0	1	2	4	17	6	10	33	0	37	1	15	176		
平成19年	6	0	13	19	80	9	0	89	0	108	2	2	0	0	4	8	11	8	27	0	31	1	9	149		
平成18年	4	1	6	11	51	9	2	62	0	73	4	1	0	0	5	6	3	9	18	0	23	0	2	98		
平成17年	1	2	1	4	26	3	0	29	0	33	3	1	0	0	4	8	3	7	18	0	22	7	4	11	66	
平成16年	2	1	0	3	32	7	1	40	0	43	3	0	0	0	3	1	2	2	5	0	8	7	7	14	65	
平成15年	0	2	0	2	19	5	0	24	0	26	0	1	1	0	2	3	2	12	17	0	19	7	6	13	58	
平成14年	4	0	3	7	17	4	0	21	0	28	0	2	0	0	2	8	2	5	15	0	17	0	2	2	47	
平成13年	2	1	1	4	6	6	0	12	0	16	0	0	0	0	0	4	2	8	14	0	14	1	1	2	32	
平成12年	2	1	1	4	10	1	1	12	0	16	1	2	1	0	4	4	2	6	12	0	13	0	1	1	33	
平成11年	0	0	2	2	7	4	1	12	0	14	0	1	0	0	1	4	2	6	12	0	16	1	1	2	29	
平成10年	2	0	0	2	7	7	2	16	0	18	1	0	0	0	1	10	1	4	15	0	16	0	1	1	35	
平成9年	1	0	0	1	8	3	0	11	0	12	5	2	0	0	7	2	0	3	5	0	12	0	1	1	25	
平成8年	2	0	0	2	4	6	0	10	0	12	1	2	0	0	3	6	3	3	12	0	15	0	0	0	27	
平成7年	2	0	0	2	13	5	0	18	0	20	1	0	1	0	2	2	0	6	8	0	10	16	0	16	46	
平成6年	2	1	0	3	4	3	0	7	0	10	1	0	0	0	1	3	1	7	11	0	12	7	0	7	29	
平成5年	0	0	0	0	7	7	1	15	0	15	2	0	0	0	2	2	1	2	5	0	7	0	1	1	23	
平成4年	1	1	1	3	5	1	0	6	0	9	0	1	0	0	1	1	0	8	9	0	10	0	1	1	20	
平成3年	1	1	1	3	6	4	0	10	0	13	2	0	1	0	3	1	0	3	4	0	7	2	0	2	22	
合計	55	13	84	152	677	106	9	792	0	944	32	17	5	2	56	108	57	145	310	0	366	0	53	100	153	1463
最近5年間合計	33	3	74	110	506	40	3	549	0	659	12	5	1	2	20	49	36	63	148	0	168	0	5	74	79	906

表 5 - 2 製造事業所事故の原因別による分析(喪失・盗難)

年 区分	設備上(ハード)				設備の維持・管理不良				小計				その他				合 計																									
	設備の設計・構造不良				劣化・腐食等				小計				小計					その他																								
	製造不良				製作不良				小計				小計					小計																								
	材料不良				点検不良				小計				小計					小計																								
	構造不良				誤作動				小計				小計					小計																								
運転・操作上(ソフト)																			計				計				計				計											
管理・操作基準の不備																			小計				小計				小計				小計											
操作の基準の不備																			情報の提供の不備				作業環境の不備				責任管理体制の不備				小計				小計				小計			
誤操作																			誤判断				誤認確認ミス				小計				小計				小計							
盗 難																			自然災害				その他				計				計				計							
平成22年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4	4																			
平成21年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成20年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成19年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1																			
平成18年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	2																			
平成17年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成16年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4	4	4																			
平成15年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1																			
平成14年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1																			
平成13年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成12年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成11年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成10年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1																			
平成9年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1																			
平成8年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成7年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成6年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1																			
平成4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
平成3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																			
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	5	2	16	16	16																			
最近5年間合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	1	7	7	7																			

表 6 移動中事故の物質名による分析

種類 年	L P ガ ス	アセチレン	その他の ガ ス	合計
平成22年	20	0	14	34
平成21年	11	1	9	21
平成20年	16	3	11	30
平成19年	16	2	13	31
平成18年	21	0	9	30
平成17年	13	3	5	21
平成16年	15	4	14	33
平成15年	18	3	6	27
平成14年	23	0	5	28
平成13年	17	0	9	26
平成12年	13	1	6	20
平成11年	12	1	2	15
平成10年	9	0	2	11
平成9年	9	0	4	13
平成8年	9	0	3	12
平成7年	9	1	6	16
平成6年	11	0	5	16
平成5年	12	0	4	16
平成4年	9	1	4	14
平成3年	15	0	4	19
合計	278	20	135	433
最近5年間合計	84	6	56	146

表 6 - 1 移動中事故の物質名による分析(災害)

年 \ 種類	ＬＰガス	アセチレン	その他の ガス	合計
平成22年	20	0	13	33
平成21年	11	0	8	19
平成20年	14	2	11	27
平成19年	15	1	13	29
平成18年	21	0	8	29
平成17年	13	3	5	21
平成16年	14	4	13	31
平成15年	17	3	5	25
平成14年	23	0	5	28
平成13年	16	0	9	25
平成12年	12	1	6	19
平成11年	11	1	2	14
平成10年	9	0	2	11
平成9年	9	0	4	13
平成8年	9	0	3	12
平成7年	9	1	6	16
平成6年	11	0	5	16
平成5年	12	0	3	15
平成4年	9	1	4	14
平成3年	14	0	4	18
合計	269	17	129	415
最近5年間合計	81	3	53	137

表 6 - 2 移動中事故の物質名による分析(喪失・盗難)

年 \ 種類	ＬＰガス	アセチレン	その他の ガス	合計
平成22年	0	0	1	1
平成21年	0	1	1	2
平成20年	2	1	0	3
平成19年	1	1	0	2
平成18年	0	0	1	1
平成17年	0	0	0	0
平成16年	1	0	1	2
平成15年	1	0	1	2
平成14年	0	0	0	0
平成13年	1	0	0	1
平成12年	1	0	0	1
平成11年	1	0	0	1
平成10年	0	0	0	0
平成9年	0	0	0	0
平成8年	0	0	0	0
平成7年	0	0	0	0
平成6年	0	0	0	0
平成5年	0	0	1	1
平成4年	0	0	0	0
平成3年	1	0	0	1
合計	9	3	6	18
最近5年間合計	3	3	3	9

表7 移動中事故の原因別による分析

年	区分	設備上(ハード)					運転・操作上(ソフト)										その他			合 計							
		設備の設計・構造不良			設備の維持・管理不良		小 計	小 計	管理・操作基準の不備				運転・工作上に係るミス		小 計	そ の 他	盗 難	自然災害	そ の 他								
		構造不良	材質不良	製作不良	劣化・腐食等	点検不良			誤作動	操作の基準不備	情報の提供不備	作業環境の不備	責任体制管理の不備	誤操作							誤判断	認知確認ミス					
							小 計								小 計		小 計		小 計								
		小 計		小 計		小 計		小 計		小 計		小 計		小 計		小 計		小 計			小 計						
		そ の 他		そ の 他		そ の 他		そ の 他		そ の 他		そ の 他		そ の 他		そ の 他		そ の 他			そ の 他						
平成22年		0	0	0	3	1	0	4	0	4	1	0	0	0	0	5	4	8	17	0	18	9	0	0	3	12	34
平成21年		0	0	0	4	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	3	3	6	0	6	8	2	0	1	11	21
平成20年		0	0	0	5	2	0	7	0	7	0	0	1	0	1	3	4	2	9	0	10	7	0	0	6	13	30
平成19年		0	0	0	0	1	0	1	0	1	4	0	0	0	4	4	5	5	14	0	18	9	0	0	3	12	31
平成18年		1	0	1	4	0	0	6	0	6	0	0	0	0	0	2	0	5	7	0	7	13	0	0	4	17	30
平成17年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	4	8	0	9	11	0	0	1	12	21
平成16年		0	0	0	3	2	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	1	8	9	0	9	16	0	0	3	19	33
平成15年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	8	10	0	10	12	1	0	4	17	27
平成14年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4	7	0	7	20	0	0	1	21	28
平成13年		1	0	1	2	0	1	1	0	3	0	0	2	0	2	1	0	7	8	0	10	12	1	0	0	13	26
平成12年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	3	6	0	7	11	0	0	2	13	20
平成11年		0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	4	5	0	6	7	0	0	1	8	15
平成10年		0	0	0	1	1	0	2	0	2	0	0	2	0	2	1	0	1	2	0	4	5	0	0	0	5	11
平成9年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	8	4	0	0	1	5	13
平成8年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	7	7	0	8	4	0	0	0	4	12
平成7年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	5	0	5	11	0	0	0	11	16
平成6年		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	4	0	5	11	0	0	0	11	16
平成5年		0	0	0	1	1	0	2	0	2	0	0	1	0	1	1	0	1	2	0	3	9	1	0	1	11	16
平成4年		0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	4	0	4	1	0	1	2	0	6	7	0	0	0	7	14
平成3年		0	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	6	7	0	7	9	1	0	0	10	19
合計		2	0	3	5	21	12	0	33	0	38	5	0	15	0	31	20	92	143	0	163	195	6	0	31	232	433
最近5年間合計		1	0	1	2	16	4	0	20	0	22	5	0	1	0	14	16	23	53	0	59	46	2	0	17	65	146

表 7 - 1 移動中事故の原因別による分析(災害)

年	区分	設備上(ハード)										運転・操作上(ソフト)										その他				合 計
		設備の設計・構造不良				設備の維持・管理不良				小 計		その他		管理・操作基準の不備				運転・工事に係るミス				小 計		その他		
		構造不良	材質不良	製作不良	製作不良	劣化・腐食等	点検不良	誤作動	小 計		情報提供の不備	作業環境の不備	責任管理体制の不備	小 計		誤操作	誤判断	認知確認ミス	小 計	その他	交通事故	自然災害	その他			
平成22年	0	0	0	0	3	1	0	4	0	1	0	0	0	5	4	8	17	0	18	9	0	2	11	33		
平成21年	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	3	3	6	0	6	8	0	1	9	19		
平成20年	0	0	0	0	5	2	0	7	0	0	0	1	0	3	4	2	9	0	10	7	0	3	10	27		
平成19年	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4	0	0	0	4	5	5	14	0	18	9	0	1	10	29		
平成18年	1	0	1	2	4	0	0	4	0	0	0	0	0	2	0	5	7	0	7	13	0	3	16	29		
平成17年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	4	8	0	9	11	0	1	12	21		
平成16年	0	0	0	0	3	2	0	5	0	0	0	0	0	0	1	8	9	0	9	16	0	1	17	31		
平成15年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	8	10	0	10	12	0	3	15	25		
平成14年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4	7	0	7	20	0	1	21	28		
平成13年	1	0	1	2	0	1	0	1	0	3	0	0	2	0	2	1	0	8	0	10	12	0	0	12	25	
平成12年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	3	6	0	7	11	0	1	12	19		
平成11年	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4	5	0	6	7	0	0	7	14		
平成10年	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2	0	2	0	2	1	0	2	0	4	5	0	0	5	11		
平成9年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	8	4	0	1	5	13		
平成8年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	7	0	8	4	0	0	4	12		
平成7年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	5	0	5	11	0	0	11	16		
平成6年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	4	4	0	5	11	0	0	11	16		
平成5年	0	0	0	0	1	1	0	2	0	2	0	1	0	1	0	1	2	0	3	9	0	1	10	15		
平成4年	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	4	0	4	1	0	2	0	6	7	0	0	7	14		
平成3年	0	0	1	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	6	7	0	9	0	0	9	18		
合計	2	0	3	5	21	12	0	33	0	38	5	0	15	0	20	31	20	92	143	0	163	195	0	19	214	415
最近5年間合計	1	0	1	2	16	4	0	20	0	22	5	0	1	0	6	14	16	23	53	0	59	46	0	10	56	137

表 7 - 2 移動中事故の原因別による分析(喪失・盗難)

区分 年	設備上(ハード)						運転・操作上(ソフト)						その他				合 計
	設備の設計・構造不良			設備の維持・管理不良			小 計	小 計	管理・操作基準の不備			運転・工事に係るミス			小 計	そ の 他	
	構造不良	材質不良	製作不良	劣化・腐食等	点検不良	誤作動			情報の提供不備	作業環境の不備	責任管理体制の不備	誤操作	誤判断	認知確認ミス			
平成22年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
平成21年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
平成20年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
平成19年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
平成18年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
平成17年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成16年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
平成15年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
平成14年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成13年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
平成12年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
平成11年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
平成10年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成9年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成8年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成7年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成6年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
平成4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	12	18
最近5年間合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	7	9

表 8 消費先事故の物質名による分析

物質名 年	アセチレン	LPガス	塩 素	酸 素	特殊高圧 ガス	その他	合 計
平成22年	51	520	0	23	0	20	614
平成21年	48	491	1	13	1	16	570
平成20年	55	484	0	22	2	20	583
平成19年	58	434	2	17	0	24	535
平成18年	35	347	2	13	1	10	408
平成17年	46	331	1	14	0	8	400
平成16年	49	301	0	8	0	9	367
平成15年	36	228	1	13	0	11	289
平成14年	32	125	1	7	0	20	185
平成13年	27	76	1	7	0	5	116
平成12年	17	33	1	2	0	10	63
平成11年	25	15	0	1	0	1	42
平成10年	15	18	1	2	1	3	40
平成9年	17	15	2	1	0	6	41
平成8年	20	27	2	2	1	1	53
平成7年	19	25	0	0	1	4	49
平成6年	26	10	0	2	0	3	41
平成5年	22	13	1	3	0	2	41
平成4年	30	19	2	1	1	2	55
平成3年	37	17	0	1	2	2	59
合計	665	3529	18	152	10	177	4551
最近5年間合計	247	2276	5	88	4	90	2710

表 8 - 1 消費先事故の物質名による分析(災害)

物質名 年	アセチレン	LPガス	塩 素	酸 素	特殊高圧 ガス	その他	合 計
平成22年	16	39	0	12	0	12	79
平成21年	10	25	1	1	1	11	49
平成20年	24	38	0	13	2	16	93
平成19年	26	41	2	5	0	21	95
平成18年	15	25	2	3	1	8	54
平成17年	21	26	1	7	0	7	62
平成16年	12	17	0	5	0	7	41
平成15年	14	26	1	6	0	9	56
平成14年	16	16	1	3	0	14	50
平成13年	20	18	1	6	0	4	49
平成12年	17	13	1	2	0	9	42
平成11年	20	7	0	1	0	1	29
平成10年	13	16	1	1	1	3	35
平成9年	17	14	2	1	0	6	40
平成8年	20	20	2	2	1	1	46
平成7年	19	18	0	0	1	4	42
平成6年	25	9	0	2	0	3	39
平成5年	22	12	1	3	0	2	40
平成4年	30	19	2	1	1	2	55
平成3年	37	17	0	1	2	2	59
合計	394	416	18	75	10	142	1055
最近5年間合計	91	168	5	34	4	68	370

表 8 - 2 消費先事故の物質名による分析(喪失・盗難)

物質名 年	アセチレン	LPガス	塩 素	酸 素	特殊高圧 ガス	その他	合 計
平成22年	35	481	0	11	0	8	535
平成21年	38	466	0	12	0	5	521
平成20年	31	446	0	9	0	4	490
平成19年	32	393	0	12	0	3	440
平成18年	20	322	0	10	0	2	354
平成17年	25	305	0	7	0	1	338
平成16年	37	284	0	3	0	2	326
平成15年	22	202	0	7	0	2	233
平成14年	16	109	0	4	0	6	135
平成13年	7	58	0	1	0	1	67
平成12年	0	20	0	0	0	1	21
平成11年	5	8	0	0	0	0	13
平成10年	2	2	0	1	0	0	5
平成9年	0	1	0	0	0	0	1
平成8年	0	7	0	0	0	0	7
平成7年	0	7	0	0	0	0	7
平成6年	1	1	0	0	0	0	2
平成5年	0	1	0	0	0	0	1
平成4年	0	0	0	0	0	0	0
平成3年	0	0	0	0	0	0	0
合計	271	3113	0	77	0	35	3496
最近5年間合計	156	2108	0	54	0	22	2340

表 9 消費先事故の原因別による分析

年	区分	設備上(ハード)					設備の維持・管理不良					小計		その他		運転・操作上(ソフト)					その他			合計			
		設備の設計・構造不良		劣化・腐食等			点検不良		誤作動		小計		その他		管理・操作基準の不備		小計		運転・工事に係るミス		小計		その他				
		構造不良	材質不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良		製作不良	製作不良	製作不良
		製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良		製作不良	製作不良	製作不良
		製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良	製作不良		製作不良	製作不良	製作不良
平成22年	4	0	1	5	12	5	0	17	0	22	0	2	2	0	4	12	7	12	31	0	35	513	3	41	557	614	
平成21年	1	1	1	3	6	3	0	9	0	12	2	1	1	0	4	6	7	7	20	0	24	478	8	48	534	570	
平成20年	2	0	3	5	15	15	1	31	0	36	2	0	4	0	6	13	20	6	39	0	45	465	7	30	502	583	
平成19年	4	0	3	7	9	9	0	18	0	25	4	4	9	0	17	5	13	11	29	0	46	417	22	25	464	535	
平成18年	2	0	2	4	4	5	0	9	0	13	5	2	3	0	10	9	5	9	23	0	33	328	16	18	362	408	
平成17年	2	0	3	5	12	4	0	16	0	21	2	0	7	0	9	7	4	10	21	0	30	318	17	14	349	400	
平成16年	0	0	0	0	10	1	0	11	0	11	0	0	2	0	2	7	4	8	19	0	21	305	16	14	335	367	
平成15年	2	0	0	2	10	6	0	16	0	18	0	0	8	0	8	6	4	11	21	0	29	223	6	13	242	289	
平成14年	1	1	0	2	7	7	0	14	0	16	0	0	14	0	14	9	0	8	17	0	31	131	3	4	138	185	
平成13年	2	0	1	3	3	7	0	10	0	13	0	1	9	0	10	11	1	10	22	0	32	66	2	3	71	116	
平成12年	0	0	0	0	6	6	0	12	0	12	0	0	4	0	4	11	3	9	23	0	27	21	0	3	24	63	
平成11年	0	0	0	0	2	11	0	13	0	13	0	0	4	0	4	7	0	5	12	0	16	8	5	0	13	42	
平成10年	0	0	0	0	7	5	0	12	0	12	2	0	3	0	5	5	2	10	17	0	22	4	1	1	6	40	
平成9年	1	0	0	1	6	16	0	22	0	23	2	0	3	0	5	5	0	5	10	0	15	1	0	2	3	41	
平成8年	2	0	0	2	4	15	0	19	0	21	0	0	6	0	6	8	1	10	19	0	25	7	0	0	7	53	
平成7年	2	0	0	2	7	8	0	15	0	17	1	0	4	0	5	8	1	10	19	0	24	6	0	2	8	49	
平成6年	0	0	0	0	3	3	0	6	0	6	0	0	9	0	9	14	0	8	22	0	31	1	1	2	4	41	
平成5年	0	0	0	0	4	10	0	14	0	14	0	2	9	0	11	8	0	5	13	0	24	1	0	2	3	41	
平成4年	0	0	1	1	2	17	0	19	0	20	0	1	8	0	9	16	0	8	24	0	33	0	0	2	2	55	
平成3年	3	0	0	3	2	21	0	23	0	26	0	0	9	0	9	9	1	14	24	0	33	0	0	0	0	59	
合計	28	2	15	45	131	174	1	306	0	351	20	13	118	0	151	176	73	176	425	0	576	3293	107	224	3624	4551	
最近5年間合計	13	1	10	24	46	37	1	84	0	108	13	9	19	0	41	45	52	45	142	0	183	2201	56	162	2419	2710	

表 9 - 1 消費先事故の原因別による分析(災害)

年	区分	設備上(ハード)										運転・操作上(ソフト)										その他			合 計	
		設備の設計・構造不良			小 計	設備の維持・管理不良			小 計	そ の 他	管理・操作基準の不備				小 計			運転・工事に係るミス			小 計	そ の 他				
		構造不良	材質不良	製作不良		劣化・腐食等	点検不良	誤作動			操作の基準不備	情報の提供不備	作業環境の不適合	責任管理体制の不備	誤操作	誤判断	認知確認ミス									
平成22年	4	0	1	5	12	5	0	17	0	22	0	2	2	0	4	12	7	12	31	0	35		3	19	22	79
平成21年	1	1	1	3	6	3	0	9	0	12	2	1	1	0	4	6	7	7	20	0	24		0	13	13	49
平成20年	2	0	3	5	15	15	1	31	0	36	2	0	4	0	6	13	20	6	39	0	45		2	10	12	93
平成19年	4	0	3	7	9	9	0	18	0	25	4	4	9	0	17	5	13	11	29	0	46		13	11	24	95
平成18年	2	0	2	4	4	5	0	9	0	13	5	2	3	0	10	9	5	9	23	0	33		0	8	8	54
平成17年	2	0	3	5	12	4	0	16	0	21	2	0	7	0	9	7	4	10	21	0	30		2	9	11	62
平成16年	0	0	0	0	10	1	0	11	0	11	0	0	2	0	2	7	4	8	19	0	21		1	8	9	41
平成15年	2	0	0	2	10	6	0	16	0	18	0	0	8	0	8	6	4	11	21	0	29		0	9	9	56
平成14年	1	1	0	2	7	7	0	14	0	16	0	0	14	0	14	9	0	8	17	0	31		0	3	3	50
平成13年	2	0	1	3	3	7	0	10	0	13	0	1	9	0	10	11	1	10	22	0	32		1	3	4	49
平成12年	0	0	0	0	6	6	0	12	0	12	0	0	4	0	4	11	3	9	23	0	27		0	3	3	42
平成11年	0	0	0	0	2	11	0	13	0	13	0	0	4	0	4	7	0	5	12	0	16		0	0	0	29
平成10年	0	0	0	0	7	5	0	12	0	12	2	0	3	0	5	5	2	10	17	0	22		0	1	1	35
平成9年	1	0	0	1	6	16	0	22	0	23	2	0	3	0	5	5	0	5	10	0	15		0	2	2	40
平成8年	2	0	0	2	4	15	0	19	0	21	0	0	6	0	6	8	1	10	19	0	25		0	0	0	46
平成7年	2	0	0	2	7	8	0	15	0	17	1	0	4	0	5	8	1	10	19	0	24		0	1	1	42
平成6年	0	0	0	0	3	3	0	6	0	6	0	0	9	0	9	14	0	8	22	0	31		0	2	2	39
平成5年	0	0	0	0	4	10	0	14	0	14	0	2	9	0	11	8	0	5	13	0	24		0	2	2	40
平成4年	0	0	1	1	2	17	0	19	0	20	0	1	8	0	9	16	0	8	24	0	33		0	2	2	55
平成3年	3	0	0	3	2	21	0	23	0	26	0	0	9	0	9	9	1	14	24	0	33		0	0	0	59
合計	28	2	15	45	131	174	1	306	0	351	20	13	118	0	151	176	73	176	425	0	576	0	22	106	128	1055
最近5年間合計	13	1	10	24	46	37	1	84	0	108	13	9	19	0	41	45	52	45	142	0	183	0	18	61	79	370

表 9 - 2 消費先事故の原因別による分析(喪失・盗難)

年 区分	設備上(ハード)					運転・操作上(ソフト)										その他			合 計
	設備の設計・ 構造不良		小 計	設備の維持・ 管理不良		小 計	管理・操作基準 の不備				小 計	運転・工事 に係るミス			小 計	そ の 他			
				劣化・ 腐食等	点検不良		誤作動	操作 基準 の不備	情報 提供 の不備	作業 環境 の不 適		責任 体制 管理 不備	誤 操 作	誤 判 断			認 知 確 認 ミ ス		
	構造不良	材質不良	製作不良	そ の 他	小 計	そ の 他													
平成22年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	513	0	22	535	
平成21年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	478	8	35	521	
平成20年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	465	5	20	490	
平成19年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	417	9	14	440	
平成18年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	328	16	10	354	
平成17年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	318	15	5	338	
平成16年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	305	15	6	326	
平成15年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	223	6	4	233	
平成14年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	131	3	1	135	
平成13年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66	1	0	67	
平成12年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	21	
平成11年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	5	0	13	
平成10年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	5	
平成9年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
平成8年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	7	
平成7年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	7	
平成6年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	
平成5年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
平成4年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
平成3年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3293	85	118	3496	
最近5年間合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2201	38	101	2340	

**表 10 製造事業所、移動中、消費先に係る事故以外の
事故の取扱状態による分析**

年	取扱状態	ごみ 処理中	容器の くず化	放 置 容 器	その他	合 計
平成22年		0	1	3	1	5
平成21年		0	1	0	8	9
平成20年		0	6	2	10	18
平成19年		1	1	2	15	19
平成18年		0	2	3	11	16
平成17年		0	2	0	15	17
平成16年		1	6	0	15	22
平成15年		0	0	0	9	9
平成14年		1	2	1	17	21
平成13年		3	3	1	9	16
平成12年		0	2	0	3	5
平成11年		0	1	0	7	8
平成10年		3	1	1	4	9
平成9年		5	3	1	2	11
平成8年		2	0	2	2	6
平成7年		0	1	0	1	2
平成6年		2	0	1	5	8
平成5年		3	0	1	3	7
平成4年		0	0	2	4	6
平成3年		3	3	2	2	10
合計		24	35	22	143	224
最近5年間合計		1	11	10	45	67

**表 10 - 1 製造事業所、移動中、消費先に係る事故以外の
事故の取扱状態による分析(災害)**

年	取扱状態	ごみ 処理中	容器の くず化	放 置 容 器	その他	合 計
平成22年		0	1	3	1	5
平成21年		0	1	0	6	7
平成20年		0	6	2	8	16
平成19年		1	1	2	10	14
平成18年		0	2	3	7	12
平成17年		0	2	0	14	16
平成16年		1	6	0	13	20
平成15年		0	0	0	7	7
平成14年		1	2	1	9	13
平成13年		3	3	1	9	16
平成12年		0	2	0	3	5
平成11年		0	1	0	6	7
平成10年		3	1	1	4	9
平成9年		5	3	1	2	11
平成8年		2	0	2	2	6
平成7年		0	1	0	1	2
平成6年		2	0	1	4	7
平成5年		3	0	1	2	6
平成4年		0	0	2	4	6
平成3年		3	3	2	2	10
合計		24	35	22	114	195
最近5年間合計		1	11	10	32	54

**表 10 - 2 製造事業所、移動中、消費先に係る事故以外の
事故の取扱状態による分析(喪失・盗難)**

年	取扱状態	ごみ 処理中	容器の くず化	放 置 容 器	その他	合 計
平成22年		0	0	0	0	0
平成21年		0	0	0	2	2
平成20年		0	0	0	2	2
平成19年		0	0	0	5	5
平成18年		0	0	0	4	4
平成17年		0	0	0	1	1
平成16年		0	0	0	2	2
平成15年		0	0	0	2	2
平成14年		0	0	0	8	8
平成13年		0	0	0	0	0
平成12年		0	0	0	0	0
平成11年		0	0	0	1	1
平成10年		0	0	0	0	0
平成9年		0	0	0	0	0
平成8年		0	0	0	0	0
平成7年		0	0	0	0	0
平成6年		0	0	0	1	1
平成5年		0	0	0	1	1
平成4年		0	0	0	0	0
平成3年		0	0	0	0	0
合計		0	0	0	29	29
最近5年間合計		0	0	0	13	13

表 11 現象別区分による分析 1/3

年 現象	平成3年		平成4年		平成5年		平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発	28	3 41	19 12 39	1 9	10 0 8	11 0 24	16 1 26	18 0 38	14 2 27	12 4 9	13 0 14	27 0 12	31 0 21	36 0 24	11 0 9	9 0 0
火 災	47	1 13	39 1 9	7 28	1 6 34	3 44	38 0 10	4 8 3	5 10 0	2 0 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0
噴出・漏えい	25	0 9	28 1 7	4 9	3 8	15 0 8	14 0 4	7 0 0	8 1 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0	9 0 0
破裂・破壊	9	2 4	9 1 4	6 3	8 15	0 4 0	4 0 0	7 0 0	8 1 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0	9 0 0
その他	1	0 0	0 0 0	6 1	0 1 0	4 0 0	7 0 0	8 1 0	2 0 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0	9 0 0
合 計	110	6 67	95 15 59	88 5 30	94 3 86	113 1 58	98 7 57	91 4 56	96 2 55	91 4 56	96 2 55	91 4 56	96 2 55	91 4 56	96 2 55	91 4 56

表 11 - 1 現象別区分による分析(災害) 1/3

年 現象	平成3年		平成4年		平成5年		平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発	28	3 41	19 12 39	1 9	10 0 8	11 0 24	16 1 26	18 0 38	14 2 27	12 4 9	13 0 14	27 0 12	31 0 21	36 0 24	11 0 9	9 0 0
火 災	47	1 13	39 1 9	7 28	1 6 34	3 44	38 0 10	4 8 3	5 10 0	2 0 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0
噴出・漏えい	25	0 9	28 1 7	4 9	3 8	15 0 8	14 0 4	7 0 0	8 1 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0	9 0 0
破裂・破壊	9	2 4	9 1 4	6 3	8 15	0 4 0	4 0 0	7 0 0	8 1 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0	9 0 0
その他	0	0 0	0 0 0	6 1	0 1 0	4 0 0	7 0 0	8 1 0	2 0 0	2 0 0	9 0 0	2 0 0	36 0 24	11 0 9	9 0 0	9 0 0
合 計	109	6 67	95 15 59	84 5 30	91 3 86	106 1 58	91 7 57	89 4 56	90 2 55	89 4 56	90 2 55	89 4 56	90 2 55	89 4 56	90 2 55	89 4 56

表 11 - 2 現象別区分による分析(喪失・盗難) 1/3

年 現象	平成3年		平成4年		平成5年		平成6年		平成7年		平成8年		平成9年		平成10年	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発																
火 災																
噴出・漏えい																
破裂・破壊																
その他	1	0 0	0 0 0	4 0 0	0 0 0	3 0 0	7 0 0	0 0 0	2 0 0	2 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0
合 計	1	0 0	0 0 0	4 0 0	0 0 0	3 0 0	7 0 0	0 0 0	2 0 0	2 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0	6 0 0

表 11 現象別区分による分析 2/3

年 現象	平成11年		平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発	6	0 15	14	1 14	20	2 19	18	2 12	17	1 26	13	0 20	16	0 12	14	1 11
火 災	33	1 9	30	0 17	37	0 19	34	2 12	45	0 21	34	0 13	41	0 16	44	1 20
噴出・漏えい	33	1 12	42	0 29	39	0 9	67	1 23	64	0 91	81	0 6	87	0 20	113	1 26
破裂・破壊	6	0 4	10	0 6	22	2 11	15	1 4	13	0 6	12	0 1	9	1 4	9	1 3
その他	16	0 0	25	2 2	72	0 13	148	0 7	245	2 6	351	0 14	351	2 5	374	0 31
合 計	94	2 40	121	3 68	190	4 71	282	6 58	384	3 150	491	0 54	504	3 57	554	4 91

表 11 - 1 現象別区分による分析(災害) 2/3

年 現象	平成11年		平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発	6	0 15	14	1 14	20	2 19	18	2 12	17	1 26	13	0 20	16	0 12	14	1 11
火 災	33	1 9	30	0 17	37	0 19	34	2 12	45	0 21	34	0 13	41	0 16	44	1 20
噴出・漏えい	33	1 12	42	0 29	39	0 9	67	1 23	64	0 91	81	0 6	87	0 20	113	1 26
破裂・破壊	6	0 4	10	0 6	22	2 11	15	1 4	13	0 6	12	0 1	9	1 4	9	1 3
その他	1	0 0	3	2 2	4	0 13	4	0 7	7	2 5	17	0 13	12	2 5	13	0 31
合 計	79	2 40	99	3 68	122	4 71	138	6 58	146	3 149	157	0 53	165	3 57	193	4 91

表 11 - 2 現象別区分による分析(喪失・盗難) 2/3

年 現象	平成11年		平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発																
火 災																
噴出・漏えい																
破裂・破壊																
その他	15	0 0	22	0 0	68	0 0	144	0 0	238	0 1	334	0 1	339	0 0	361	0 0
合 計	15	0 0	22	0 0	68	0 0	144	0 0	238	0 1	334	0 1	339	0 0	361	0 0

表 11 現象別区分による分析 3/3

年 現象	平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		合 計		最近5年間合計	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発	15	0 16	24	0 18	12	0 15	13	2 18	305	31	78	3 78
火 災	44	4 16	54	2 15	33	0 28	39	0 14	751	12	214	7 93
噴出・漏えい	210	0 31	210	1 35	219	1 58	284	0 23	1706	13	1036	3 173
破裂・破壊	13	1 5	17	1 13	21	1 2	19	0 9	251	17	79	4 32
その他	453	0 12	502	0 11	539	3 1	561	1 13	3674	12	2429	4 68
合 計	735	5 80	807	4 92	824	5 104	916	3 77	6687	85	3836	21 444

表 11 - 1 現象別区分による分析(災害) 3/3

年 現象	平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		合 計		最近5年間合計	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発	15	0 16	24	0 18	12	0 15	13	2 18	305	31	78	3 78
火 災	44	4 16	54	2 15	33	0 28	39	0 14	751	12	214	7 93
噴出・漏えい	210	0 31	210	1 35	219	1 58	284	0 23	1706	13	1036	3 173
破裂・破壊	13	1 5	17	1 13	21	1 2	19	0 9	251	17	79	4 32
その他	5	0 12	7	0 11	14	3 1	21	1 13	115	12	60	4 68
合 計	287	5 80	312	4 92	299	5 104	376	3 77	3128	85	1467	21 444

表 11 - 2 現象別区分による分析(喪失・盗難) 3/3

年 現象	平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		合 計		最近5年間合計	
	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者	件数	死者傷者
爆 発												
火 災												
噴出・漏えい												
破裂・破壊												
その他	448	0 0	495	0 0	525	0 0	540	0 0	3559	0 2	2369	0 0
合 計	448	0 0	495	0 0	525	0 0	540	0 0	3559	0 2	2369	0 0

表 12 人的被害の推移

年 \ 区分	人身事故 件数(件)	死 亡 (名)	重 傷 (名)	軽 傷 (名)	死傷者合計 (名)
平成22年	41	3	18	59	80
平成21年	36	5	14	90	109
平成20年	56	4	13	79	96
平成19年	53	5	15	65	85
平成18年	51	4	8	83	95
平成17年	42	3	6	51	60
平成16年	29	0	11	43	54
平成15年	50	3	24	126	153
平成14年	47	6	10	50	66
平成13年	45	4	13	58	75
平成12年	47	3	17	51	71
平成11年	23	2	9	31	42
平成10年	29	2	14	41	57
平成9年	30	4	7	49	60
平成8年	38	7	9	48	64
平成7年	30	1	14	44	59
平成6年	32	3	13	73	89
平成5年	25	5	9	21	35
平成4年	38	15	8	51	74
平成3年	43	6	16	51	73
合計	785	85	248	1164	1497
最近5年間合計	237	21	68	376	465

表 13 事故等級別事故発生件数

年 \ 級	A 級	B 級	C 級	合 計
平成22年	0	41	875	916
平成21年	2	29	793	824
平成20年	0	21	786	807
平成19年	0	15	720	735
平成18年	0	25	529	554
平成17年	0	11	493	504
平成16年	0	12	479	491
平成15年	1	10	373	384
平成14年	0	8	274	282
平成13年	0	6	184	190
平成12年	0	5	116	121
平成11年	0	3	91	94
平成10年	0	8	88	96
平成9年	0	5	86	91
平成8年	0	8	90	98
平成7年	1	4	108	113
平成6年	0	7	87	94
平成5年	0	3	85	88
平成4年	1	7	87	95
平成3年	0	7	103	110
合 計	5	235	6447	6687
最近5年間合計	2	131	3703	3836

表 13 - 1 事故等級別事故発生件数(災害)

年 \ 級	A 級	B 級	C 級	合 計
平成22年	0	36	340	376
平成21年	2	28	269	299
平成20年	0	19	293	312
平成19年	0	13	274	287
平成18年	0	18	175	193
平成17年	0	4	161	165
平成16年	0	7	150	157
平成15年	1	8	137	146
平成14年	0	8	130	138
平成13年	0	6	116	122
平成12年	0	5	94	99
平成11年	0	3	76	79
平成10年	0	8	82	90
平成9年	0	5	84	89
平成8年	0	8	83	91
平成7年	1	4	101	106
平成6年	0	7	84	91
平成5年	0	3	81	84
平成4年	1	7	87	95
平成3年	0	7	102	109
合 計	5	204	2919	3128
最近5年間合計	2	114	1351	1467

表 13 - 2 事故等級別事故発生件数(喪失・盗難)

年 \ 級	A 級	B 級	C 級	合 計
平成22年	0	5	535	540
平成21年	0	1	524	525
平成20年	0	2	493	495
平成19年	0	2	446	448
平成18年	0	7	354	361
平成17年	0	7	332	339
平成16年	0	5	329	334
平成15年	0	2	236	238
平成14年	0	0	144	144
平成13年	0	0	68	68
平成12年	0	0	22	22
平成11年	0	0	15	15
平成10年	0	0	6	6
平成9年	0	0	2	2
平成8年	0	0	7	7
平成7年	0	0	7	7
平成6年	0	0	3	3
平成5年	0	0	4	4
平成4年	0	0	0	0
平成3年	0	0	1	1
合 計	0	31	3528	3559
最近5年間合計	0	17	2352	2369

平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表

(1)災害事故:製造事業所の事故

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状 態	事故原因	着火 源	事故概要
1	2010-050	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の電磁弁継手部からの漏えい	2010/4/9	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	自動車	冷凍設備、配管、継手	<スター トアップ 中>	<劣化> (腐食)	無	平成22年4月9日、環境実験装置の試運転調整のため、冷凍設備を運転したが冷えないので冷凍機を点検したところ、冷媒不足と判断した。保全担当者に調査依頼した結果、漏えい検知器により電磁弁継手部からの漏えいを発見し、運転禁止措置をした。4月13日、冷凍設備メーカーによる点検確認を実施し、漏えい部位を特定した。4月15日、冷媒配管の保冷材を取り外したところ外面腐食があり、電磁弁フランジ部、及びボルト、ナットが腐食していた。4月16日、電話にて漏えい事故の連絡を県へ行った。漏えい冷媒ガス量は、約70kgであった。原因は、保冷材が施されていたが、わずかな隙間に結露が生じ、外面腐食が発生した。ボルト、ナットも腐食しており締め付け力が低下したことにより、フランジ部から漏えいしたと推定される。
2	2010-098	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の調節弁からの冷媒漏えい	2010/4/27	栃木県	0	0	0	0	フルオロカーボン404A	漏洩等	自動車	冷凍設備、弁	<スター トアップ 中>	<製作不良>	無	平成22年4月27日18時、冷凍機を作動させようとしたところ、警報を発報し起動しなかった。翌日、原因を調査したところ、冷媒(フルオロカーボン404a)の漏えいを確認した。なお、漏えい量は、約160kgと判明した。原因は、漏えい部分の弁の弁体側のネジ加工不良により、ネジ山が少なく、ネジ込み継手部分が不十分な状態で接続されていたため、ガスケットが十分な役割を果たしていない状態であったためと推定される。継手先端部と弁体側のわずかな接合により、かろうじて気密が保たれていたが、振動等の何らかの原因で緩んだために漏えいしたと考えられる。
3	2010-194	製造事業所(冷凍)	冷凍機の圧縮機メカニカルシール部からの冷媒漏えい	2010/8/11	宮城県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、メカニカルシール	<停止 中>	<劣化>	無	8月9日に、事業所内の冷凍機N02ラインを稼働したところ、所定の温度まで下がらなかったため、メーカーにて点検を実施した。点検結果から、運転状態における冷媒量が不足傾向にあることが判明した。(前回稼働時は異常は認められなかった。前回稼働からの停止期間は5日間。)8月11日に冷媒を回収の上、気密検査を実施したところ、圧縮機メカニカルシールの油ドレン口からの漏れが確認された。また、冷媒回収量は100.5kgであり、本年4月にチャージした240kgに対して139.5kg喪失している事を確認したため、冷媒漏えいと断定した。なお、8月12日に圧縮機メカニカルシールを新品と交換のうえ、気密試験を実施し漏えいがないことを確認した後に、冷媒240kgをチャージした。試運転で問題ないことを確認し、13日から通常運転を開始している。事故の発生した冷凍機は、平成21年10月にも同様の漏えい事故を発生させた設備であった。事故原因と考えられた、油中への冷媒溶け込み量過多による油膜切れについて、冷媒量を300kgから240kgに減量し、メカニカルシールの定期点検後は前回事故後、今年2月と4月に実施し異常は認められていなかった。今回発生した漏えい事故については、事故発生の日5日前の使用時は異常がなく、事故後メカニカルシールを調査したところ、固定側シート面(メタル製)及び回転側シート面(カーボン製)に腐食が認められた。原因は、シート間に不純物等が入り込み摩耗が進行了、又は油中に冷媒が多量に溶け込んだことによるフオーミング等で油膜切れが起こり、摩耗が進行したものと推定される。今後は、設備停止中のメカニカルシール内部の油面確保を目的とし、断続的に潤滑油を供給することを検討する。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
4	2010-177	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の圧縮機吐出配管からの冷媒漏えい	2010/8/17	山口県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(会社事務所)	冷凍設備、配管	＜通常運転中＞	＜その他(調査中)＞	無	平成22年8月17日14時00分頃、冷凍設備(53.2トン/日)に圧力低下が見られたため、運転を停止し調査を行ったところ、圧縮機の吐出配管のフランジ部と配管の溶接部に発生したき裂から冷媒(フルオロカーボン22)が漏れていることが確認された。バルブを閉め、漏えい防止措置を行った後、電源を落とし、運転を完全に停止させた。冷媒漏えい量は、約9kgであった。原因は、今回漏えいのが確認された配管は、平成21年度に発生した冷媒漏えい時に取替えられていたが、寸法の誤差が許容値を超えていたため、取り付けの際に既設の配管支持台を加工した。その際、配管の防振が不十分となり、配管フランジ部の付け根に過大な振動が加わって、疲労破壊が発生したと推定される。
5	2010-325	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の圧縮機チューブからの冷媒漏えい	2010/10/1	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	機械	冷凍設備、凝縮器	＜通常運転中＞	＜劣化＞	無	平成22年10月1日午前に、事業所内の冷凍機で、No.1系統の低圧カット保護が作動し異常停止した。冷媒漏れが予想されたため、設備事業者が冷媒回収を実施したところ、約10.5kgの冷媒が漏えいしていることが判明した。また、窒素によるガス漏れ調査を実施したところ、凝縮器内部の冷却チューブからガスが漏えいしていることが判った。原因は、設備の経年劣化により、凝縮器内部の冷却チューブが腐食したためと推定される。
6	2010-304	製造事業所(冷凍)	アンモニア冷凍機の圧縮機メカニカル部からの漏えい	2010/10/8	茨城県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	冷凍設備、メカニカル	＜通常運転中＞	＜劣化＞	無	事業所内の冷凍設備で、自動運転による運転停止中、漏えい検知器の発報があり、機器を確認したところ、アンモニア臭がしたが、間もなく臭いも消えたため、再稼働させた。再度自動停止後、漏えい検知器が再度発報した。機器メーカーの点検により、圧縮機メカニカル部からの漏えいを特定した。原因は、圧縮機の停止により、シーリング部の油膜が途切れ、シーリング部から軸部にアンモニアが流出したと推定される。
7	2010-028	製造事業所(コ)	液化炭酸ガス容器の充てん用ラインからの漏えい	2010/2/5	福岡県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	一般化学	配管	＜通常運転中＞	＜劣化＞(腐食)	無	液化炭酸ガス100m ³ タンクの開放検査に伴うタンク周辺配管の肉厚測定のため、協力会社検査員が共通ラック上で作業していたところ、配管の管台部からのガス漏えいを発見した。社員に連絡後、社員による現地確認の結果、液化炭酸ガス容器充てん用ラインからの漏えいであることを確認し、直ちに容器充てん用のポンプを停止し、当該ラインの緑切り、脱圧処置を行った。設備周辺への臭気等の環境影響は無く、人的被害も無かった。原因は、①-17℃から常温と繰り返すことにより結露、発錆による減肉、②ウットブロック使用による湿潤環境下での外面腐食、③炭素鋼配管表面の防食塗装の劣化、によるものと推定される。
8	2010-097	製造事業所(コ)	熱交換器ろう付部からの天然ガス漏えい	2010/4/27	神奈川県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	一般化学	熱交換器	＜スタートアップ中＞	＜劣化＞(疲労)	無	事業所内で、熱交換器収納ボックス内のプレートフィン型熱交換器(LNG-窒素熱交換)のサイドバー外部ろう付け部に、クラックが生じ漏えいが発生した。また、補修変更許可後に現地に上記以外のろう付け部の補修を実施した。補修後、健全性確認のため気密試験を実施したが、熱交換器内部でのパス間リークが認められた。原因は、液化分離装置をスタートアップさせる際に、循環させる窒素を通常スタート時(40～50℃)より高い140℃～150℃まで上昇させたことにより、LNG-窒素熱交換器にサーマルストレスを与えたためと推定される。今後は、保安管理体制等の見直し(運転・管理マニュアルの見直し、保安教育・技術教育の実施)、及び計装設定の見直しを実施することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
9	2010-293	製造事業所(コ)	塩酸放散塔の液面計部より漏えい	2010/9/7	福岡県	0	0	0	0	塩酸	漏洩等	一般化学	液面計	<通常運転中>	<製作不良>	無	事業所内でパトロール員が、塩酸放散塔の液面計部分からの塩酸漏えいを発見した。直ちに放散塔への原料液の供給停止、及び放散塔内に残留した塩酸の液抜きを実施した後、散水を実施し拡散防止を図った。調査の結果、塩酸の常用温度に対して液面計のテフロンコーティングの厚みが薄かったため、塩酸ガスがコーティングを透過し、液面計の母材とコーティング間に気泡が発生した。この気泡により、コーティングに引張力が生じ、コーティングの薄い部分でき裂が発生した。き裂から漏えいした塩酸が、液面計の母材を腐食し、塩酸が漏えいたものと推定される。原因は、液面計内部のコーティングの厚みに対する設計が不十分であったためであった。今後は、液面計の型式を変更する。また、液面計の運用も変更することとした。
10	2010-273	製造事業所(コ)	塩素ガス製造施設の蒸発器液面コントロール弁からの漏えい	2010/9/17	神奈川県	0	0	0	0	塩素	漏洩等	一般化学	弁	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	無	10時30分頃、事業所内で、運転員が塩素建屋内をパトロール中に異臭に気付いた。この時、塩素建屋内ガス検知器の指示が0.1ppmであることを確認した。さらに、塩素建屋外のガス検知器には、指示がないことを確認した。漏えい箇所を調査した結果、塩素蒸発器の液面コントロール弁本体より塩素ガスが漏えいしていることを確認し、10時45分に施設の運転停止を開始した。なお、塩素漏えい量の推定は、漏れ箇所が微量のため推定が困難と考えられる。この弁は、製作時にノズルが今回の孔開き側に偏った状態で製作されていた。この偏芯により、孔開き部分の肉厚が薄くなり最小1.2mm(図面寸法上肉厚が1.2mmとなる偏芯量は約10mm。)、錆込み時の湯の流れが不均一になったと思われる、内部に錆物キズ(細かなブローホールの連続集合体と思われる。)を形成して外表面近くに達し、この部分の残肉厚は製作当初からごく僅かな状態になっていたと考えられる。原因は、約39年が経過し、この間に実施した定期開放検査(分解点検)等で吸湿による極僅かな腐食が、長年にわたり進行したためと推定される。今後は、錆物弁については、計画的に分解点検時にノズルの偏芯状態を確認し、偏芯が見られる場合には内部のキズの状況、及び肉厚測定を実施し、健全性の確認を行うこととした。
11	2010-254	製造事業所(コ)	ナフサ水素化精製装置からのLPガス漏えい	2010/10/12	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	石油精製	ナフサ水素化精製装置、配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	平成22年10月12日、第2ナフサ水素化精製装置は、通常運転を継続していた。交替勤務者による巡回点検を17時15分頃に実施し、異常は認められなかった。その後、計器室での運転状況監視において、17時33分にガス漏えい検知器が発報したため、作業員が状況確認のために現場付近の調査を実施したところ、18時00分に高さ4mの位置にあるLPガス配管からのガス漏えいを発見した。18時00分に漏えい発見後、当直者(副防災管理者)に連絡し、当直者は公設119番通報を行うとともに、自衛防災組織を発動し、漏えい配管のバルブブロック、ガスバージ及び仕切り板の挿入を翌日3時35分に完了した。漏えい箇所は、常圧蒸留装置から送られてくる飽和水分を含むLPガスと、第2接触改質装置から送られてくる微量の塩素分が残存するLPガスが合流した以降で腐食し、穿孔していた。腐食の原因は、常圧蒸留装置のLPガスに含まれる飽和水分が流体温度低下により凝縮し、遊離水が発生し、第2接触改質装置のLPガスに含まれる塩素が遊離水に溶解して塩酸になったためと推定される。
12	2010-236	製造事業所(コ)	CEの配管と弁のろう付け部からの窒素漏えい	2010/11/30	大阪府	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	コールド・エバポレータ、配管、ろう付け	<通常運転中>	<劣化>	無	窒素CE設備で、8月6日の窒素漏えい事故発生後、11月8日に漏えい箇所の補修を完了した。その後、し補修箇所の漏れ確認を実施し、11月30日に窒素CE設備の貯槽周辺の配管を含めて漏れ検査を実施したところ、新たに配管、弁、銀ろう付けの3箇所からの微量な漏れを確認した。原因は、使用開始から25年が経過しており、経年劣化と推定される。なお、補修の際に他の銀ろう付け箇所を予防保全として補修する方策もあったが、事業者の判断として漏えい箇所の補修を第一とすることを選択していた。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
13	2010-372	製造事業所(コ)	LPガスタンクの受入緊急遮断弁のグランド部からの漏えい	2010/12/10	愛知県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	充填所	井、グランド	<停止中>	<点検不良>	無	平成22年12月10日17時00分、LPガス基地で終業後のパトロールを実施し、異常がないことを確認し、17時10分に、NO2タンク受入及び払出しの緊急しや断弁を閉止した。19時30分、ガス漏れ検知警報が発報したため、現場確認を実施し、受入緊急しや断弁のグランド部から漏えいを確認した。19時35分に、NO2タンク受入元弁、及びポンプ戻り配管の弁を閉止して、漏えい部分への液の流れを断した。21時00分に、受入緊急しや断弁のグランド部の増締めを実施し、21時10分に、ガス検知器によりガス漏えいがないことを確認した。原因は、グランド締め付けトルクが、応力緩和によって低下したため、弁棒周囲のシール面圧が低下したためと推定される。今後は、定期的なグランドバックギンの締め付け圧力を確認する。
14	2010-093	製造事業所(一般)	圧縮機ユニットのベッダー配管からの天然ガス漏えい	2010/4/23	東京都	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	配管	<通常運転中>	<その他(調査中)>	無	天然ガススタンド内で、2号圧縮機室内のガス検知レベル上昇にて非常停止した。点検の結果、放散クッションタンク支持取付部の配管溶接部より、ガス漏えい確認された。原因については、圧縮機メーカー、及びメーカー系メンテナンス会社以外の第三者機関で調査を実施する予定である。
15	2010-096	製造事業所(一般)	液化窒素ローリーのポンプ吐出側フレキシブルホースからの漏えい	2010/4/26	宮城県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	運送	タンクローリー、フレキシブルホース	<停止中>	<劣化(疲労)>	無	平成22年4月26日、液化窒素ローリーの終業点検時に、ポンプ吐出側のフレキシブルジョイントからの漏えいが発見された。同日、当該フレキシブルジョイントの耐圧試験(窒素ガスにて常用圧1.75MPa×1.25倍=2.3MPa)を実施したところ、ペローズとフランジの溶接箇所からの漏えいが確認された。後日、同型のフレキシブルジョイントに交換した。原因は、ポンプ吐出側のフレキシブルジョイントの漏えいであることから、ポンプの振動による疲労破壊と推定される。今後は、フレキシブルジョイントの管理方法の強化(今後毎年耐圧試験を実施し、5年を目処に交換する。)、フレキシブルジョイントの振動防止措置を実施することとした。
16	2010-146	製造事業所(一般)	液化炭酸ガス製造施設の圧縮機吐出側のフレキシブルホースからの漏えい	2010/5/21	福岡県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	食品	フレキシブルホース	<通常運転中>	<劣化(疲労)>	無	液化炭酸ガス製造施設内で、巡視点検中、No2コンプレッサー吐出ラインフレキシブルホースからの微少漏洩を確認。保管していた予備品と取替を行った。(前回交換は平成20年1月15日)原因は、コンプレッサーの振動による金属疲労によるものと推定されるが、フレキシブルホースは破棄しているため、詳細については不明であり、現在メーカーに見解を求めている。
17	2010-170	製造事業所(一般)	天然ガス充填設備の圧縮機1段クーラーからの漏えい	2010/7/22	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	圧縮機、熱交換器	<通常運転中>	<製作不良>	無	圧縮天然ガススタンドにおいて、圧縮機ユニットの1段クーラーの伝熱管と継手とのろう付け部から、天然ガスが漏えいしていることを発見した。原因は、共振による応力集中で、ろう付け部にクラックが発生したためと推定される。
18	2010-220	製造事業所(一般)	液化アンモニアドレン蒸発器のバイパスラインからの漏えい	2010/8/23	福岡県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	一般化学	配管	<シャットダウン中>	<設計・構造上の不良>	無	事業所内で、希硝酸3系プラントの停止作業中、NH3ガス検知器が発報(警報設定値25ppm)したので、周辺を点検した結果、液安ドレン蒸発器の蒸気ドレントラップのバイパスラインより安水が漏れているのを発見した。直ちに蒸発器への受入弁、及び蒸気弁を停止した。設備周辺への臭気等の環境影響、人的被害はなかった。原因は、蒸気ドレンの凍結による内部からの応力により、液安ドレン蒸発器のコイルに損傷したためと推定される。また、液安ドレンが蒸発器コイルに直接当たる構造であったこと、及びコイルに供給する熱源の熱量に対する設計が不十分であったことが、コイル内の蒸気ドレンが凍結した原因であると推定される。今後は、液安ドレンがコイルに直接当たらないように蒸発器を改造する。また、蒸発器の熱源を蒸気から温水へ変更し、流量及び温度を監視する。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
19	2010-198	製造事業所(一般)	燃焼試験設備とカードルを連結する可とう管からの漏えい	2010/8/26	宮城県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	その他(研究所)	可とう管	<定修中>(点検)	<劣化>	無	事業所内の液体ロケット燃焼試験設備で、定期自主検査の気密試験(窒素を使用)を実施していたところ、ヘリウムガスカードルと設備側配管(常用圧力:19.6MPa)を連結する銅製可とう管のろう付け部より、微量の漏えいが確認された。原因は、平成10年に整備された設備であることと、また、銅管とSUS製の継手とのろう付けであったことから、経年的な劣化、並びにろう付け時の熱影響や部材の材質の違いによる、ろう付け不良等によるものと推定される。また、連結管であることから、これまでのカードルの入れ替え作業における連結管を脱着の際、接続部に繰り返し負荷がかかり、蓄積されたことも要因のひとつと考えられる。
20	2010-197	製造事業所(一般)	試験設備への水素供給配管からの漏えい	2010/8/27	宮城県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	その他(研究所)	配管	<定修中>(点検)	<劣化>	無	事業所内の液体水素ロケットエンジン要素試験設備で、定期自主検査の気密試験(窒素を使用)を実施していたところ、ロケットエンジンへ燃料等として水素ガス(メタン、ヘリウムガス併用)を供給するラインの2次側(常用圧力:9.81MPa)の遠隔調圧器と遮断弁、及び逃気弁とを接続する配管の溶接継手溶接部直近から、マイクログラックによる微少漏えいが確認された。原因は、昭和51年度に整備された施設であり、経年的な劣化並びに溶接時の熱影響、又は部材の製造不良等によるものと推定される。
21	2010-252	製造事業所(一般)	デイスベンサーの緊急離脱カブラからの天然ガス漏えい	2010/9/25	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	デイスベンサー、カブラ	<定修中>(点検)	<劣化>	無	スタンドで、デイスベンサーから天然ガスが漏えいした。原因は、緊急離脱カブラ内部のOリングが劣化したためと推定される。
22	2010-358	製造事業所(一般)	スタンドの保安検査中、ガス受入配管フランジ部より漏えい	2010/10/15	山梨県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	配管、継手	<定修中>(点検)	<劣化>	無	スタンド内で、指定保安検査機関による保安検査、及び定期自主検査を実施している際、1号設備の気密試験を行ったところ、ガス受入配管のフランジ継手からの漏えいを確認した。漏えい量は、極微量であった。原因は、ガスケットの経年劣化によるものと推定される。
23	2010-318	製造事業所(一般)	天然ガス充てん設備のフレキシブルホースからの漏えい	2010/10/17	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	フレキシブルホース	<定修中>(点検)	<劣化>	無	天然ガススタンド内で、ガス充てん設備の整備完了後、試運転をしたところ、ガス圧縮機のエンクロージャ内で、ガス臭気がした。整備中まではガス臭気無し。点検を行った結果、ガス圧縮機の吐出側と、蓄ガス器間のフレキシブルホースのかしめ部分より、少量のガス漏れを発見した。原因は、ホースかしめ部が劣化したためと推定される。
24	2010-290	製造事業所(一般)	脱臭炉装置のフランジ3ヶ所からの漏えい	2010/11/2	広島県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	一般化学	LNGサテライト施設、継手	<通常運転中>	<劣化>	無	11月2日9時10分頃、LNGサテライト設備の消費施設(脱臭炉装置)で、定期自主検査の気密試験を行ったところ、脱臭炉装置内のフランジ部3箇所からの漏えいを知った。検知後、直ちに脱臭炉装置の運転を停止し、補修を実施した。なお、ガス漏えいによる人的被害はなかった。原因は、フランジ部の振動による経年の緩みと、シール材、パッキンの劣化であると推定されるが、詳細は調査中である。
25	2010-345	製造事業所(一般)	熱交換器の配管溶接部からの漏えい	2010/12/5	千葉県	0	0	0	0	水素、油	漏洩等	一般化学	配管、熱交換器	<通常運転中>	<製作不良>	無	2時50分頃、事業所内で運転員が点検巡視中、潤滑油水素化精製装置の3階にある熱交換器入ロラインの保温材より、ミス状のもやが出ていることを発見した。ノズル付近の保温材を解体したところ、熱交換器入口のベントノズルのボスと本管との溶接継手部に発生していたピンホールから漏えいしていることを確認した。6時05分にMDEA(アミン洗浄系)のシャットダウン開始し、6時27分にHGP(水素発生装置)のシャットダウン開始し、プラントを停止させた。原因は、溶接継手部の溶接不良と推定されるが、詳細の原因については、現在調査中である。
26	2010-375	製造事業所(一般)	液化酸素貯槽のガス放出弁からの漏えい	2010/12/22	三重県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	電気	コールド・エバポレータ、弁	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年12月22日7時30分頃、事業所内の日常点検時に、液化酸素貯槽のガス放出弁からのガス漏えいを発見し、バルブを閉めて漏えいを止めた。漏えい量は、近づかないと確認できない程度の少量であり、事業所外への漏えい及び二次災害はなかった。原因は、ガス放出弁の弁体に傷がつき漏えいしたもので、何らかの異物のかみ込みにより、傷がついたものと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
27	2010-100	製造事業所(ＬＰ)	配管ラックへの車両接触によるＬＰガス漏えい	2010/5/1	三重県	0	0	0	0	液化石油ガス	破裂等	スタンド	配管・流量計	<停止中>	<認知確認ミス>	無	運送会社のアルミパネルトラックが、オートガスタススタンド充てん所のキャンピング車を潜り抜けたところ、キャンピング下に敷設されていた配管、及び流量計を破損し、ＬＰガスが漏えいた。原因は、トラック運転手の認識不足、及び車両進入防止のための設備不足であった。
28	2010-094	製造事業所(一般)	車両の誤発進による緊急離脱カブラの作動	2010/4/23	東京都	0	0	0	0	天然ガス	その他	スタンド	カブラ	<通常運転中>	<誤操作>	無	天然ガスタススタンド、2号機(ディスプレイセンサー)で充填しようとしたが、2号機の調子が悪いために1号機で充填することになり、運転中にガスを返し、車両を移動させた際にホースを抜き忘れている、そのままホースを引っ張ってしまい、緊急離脱カブラが稼働し、緊急停止した。ガスの漏えい、人的被害はなかった。
29	2010-329	製造事業所(一般)	エビタキシャル装置の排ガス配管部が爆発	2010/11/19	福岡県	0	0	0	0	水素	爆発	その他	配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	静電気	事業所内で、破裂音がしたため現場へ急行したところ、屋外に設置してあるエビタキシャル装置Y-6用の排ガス配管部周辺から出火していることを確認したため、直ちに消火作業を開始した(消防、警察が出動)。また、エビタキシャル装置が設置されているクリーンルームでは、排ガス配管に設置された微差圧計によるY-3、Y-4、Y-6スクラパー差圧異常警報が発報したため、エビタキシャル装置Y-3、Y-4、Y-6及び同装置で使用していた低圧水素の供給を停止し、クリーンルーム内の作業員に対し避難指示を行った。屋外消火作業の終了後、周囲を調査したところ、エビタキシャル装置Y-3用の排ガス配管、希釈レススクラパー及びエビタキシャル装置Y-6用の排ガス配管の溶融、並びにスクラパーを囲っているネットの焼損、エビタキシャル装置Y-4用スクラパーの破損を確認した。原因は、エビタキシャル装置は特殊高圧ガスを使用するため、この装置から排出されるガスは、除害装置(希釈レススクラパー)により強制的に吸引され、除害された後大気へ放出される構造となっている。破損の状況から、エビタキシャル装置Y-3用の排ガス配管の経年劣化により内部へ大気が混入し、静電気が着火源となり爆発がおきたと推定される。爆発によりエビタキシャル装置用のY-3排ガス配管が飛散し、希釈レススクラパーが破損、さらにエビタキシャル装置Y-4用の希釈レススクラパー、及びエビタキシャル装置Y-6用の排ガス配管も破損した。破損したエビタキシャル装置Y-6用の排ガス配管から漏えいした低圧水素に着火し、火災に至ったと推定される。今後は、排ガス配管の材質と接続方法の見直し、漏えい検査の頻度の増加、常時モニタリング化若しくは高頻度化、排ガス除害設備の型式変更を検討することとした。
30	2010-021	製造事業所(コ)	火災による高圧配管の熱損	2010/1/29	大分県	0	0	0	0	酸素	火災	製鉄所	配管	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	裸火	現場パトロール員が、連続製造設備のケーブルペア付近から発煙しているのを発見し、職場関係者へ連絡した。ただちに酸素緊急遮断弁、高圧酸素緊急遮断弁、LPガス緊急遮断弁を閉にした。設備の操業を停止し、電源を遮断後、初期消火活動を行った。原因は、被害の大きい箇所に、微量のダスト及びシリンドラ駆動用エアの排気中油分が堆積(他機より推定)していた。この部位に鋼片切断時のスパッタが飛来して焼けたため、上部にあるバルブスタンドのホースが損傷した。その後、損傷した部位より引火し、バルブスタンドの配管類を焼損したと推定される。今後は、①シリンドラ駆動用エアの排気位置変更(スケールスルースへ直接落とす)②飛来スパッタからの防衛実施(鉄板養生・ホース製の耐熱テープ養生)③4S推進による周辺整備、防災教育による意識の向上を図るを実施することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
31	2010-117	製造事業所(コ)	ポンプのベアリング装着不備による液体化酸素の漏えい	2010/4/8	茨城県	0	0	0	0	酸素	火災	充填所	ローリー、ベアリング	<荷役中>	<製作不良>	無	平成22年4月8日15時55分頃、液体酸素ローリーが液体酸素充てん所に入庫し、16時00分より予冷を開始して16時10分から充てん作業を開始した。運転手が書類の整理のため運転席に戻っていたが、16時35分にミラー越しに煙が見えたため現場を確認し発煙、小火を発見した。原因は、ポンプの分解点検を実施したところ、ベアリング保持器が平成21年9月16日の点検作業後に誤った形で装着されており、その影響で、別ベアリング保持器が破損したものと推定される。破損により影響の振動及び抜い込み不良が起こったため、シール部の不良が起これば微量の液体酸素が漏えいた。同時に破損による発熱でグリスが溶融飛散し、熱と酸素により着火し断熱材の発泡ウレタンに延焼したものと考えられる。また、充てん中に運転手がポンプ設備から離れたため、ポンプの振動等異常に気づかず、火災の発生を予防することができなかった。今後は、ポンプ組み立てマニュアルの改正、及び充てん手順の改正を実施することとする。
32	2010-166	製造事業所(コ)	接触改質装置の反応塔の配管接続部からの漏えい	2010/7/20	北海道	0	0	0	0	水素	火災	石油精製	配管	<スタートアップ中>	<設計・構造上の不良>	静電気	事業所内で、13時24分頃、運転員が工事準備のため接触改質装置の第4反応塔(P-V4)へ行った際に、付近で火災(炎の高さ約50cm)を発見した。直ちに同装置を緊急停止し、市消防本部及び関係官庁への通報を実施した。脱圧操作、窒素による可燃性ガスの排除等を実施したことにより炎は見えなくなり、13時38分に消火を確認した。(市消防本部による鎮火確認は14時11分)原因は、運転停止時(常温)から運転時の温度上昇に伴う第4反応塔の上方への熱膨張により、硫化用配管の接続部に過大な応力が作用し、過去からの装置起動、停止の繰返しによる疲労破壊(高温での低サイクル疲労)を生じたためと推定される。
33	2010-221	製造事業所(コ)	減圧軽油水素化脱硫装置の圧縮機からの水素漏えい	2010/8/24	北海道	0	0	0	0	水素	火災	石油精製	圧縮機	<通常運転中>	<劣化>	火花	平成22年8月24日、減圧軽油水素化脱硫装置は通常運転を実施していた。また発災した圧縮機は、2台運転していた。(吐出圧力9.8MPa、温度133℃)1時9分に、製油1グループ計器室にて供給水素ガス圧縮機の軽故障アラームが発報し、製油1グループ員が状況確認のため、当該圧縮機に向かった。その際、圧縮機からの異常音を聞き停止操作を行おうとしたところ、その直前に圧縮機上部より発火を確認した。1時12分に火災発見後、計器室にて減圧軽油水素化脱硫装置の緊急停止し反応器系内の脱圧を開始し、1時14分に公設119番通報を行い、自衛防災組織を発令され、自衛消防隊が放水を実施、1時43分に公設消防により鎮火が確認された。原因は、水平対向2段圧縮機の「ピストンロッド」と一体の「クロスヘッド」と、クロスヘッドシュー(摩擦防止)を取付ける「ボルト(クロスヘッドシュー取付けボルト)」がゆるみ、『クロスヘッドシューのたつき』が増幅した。そのにより『クロスヘッドシュー取付けボルト』が破損し、『クロスヘッドシューが脱落した。その後「ピストンロッド」と「クロスヘッド」の接続部付近で、曲げ応力が働き、『ピストンロッドが破断』した。その結果『ロッドのたわみ』が生じ、『デイスタンスピース(ピストンロッド室)内のロッドパッキンが破損し、シリンダー内の水素ガスが「デイスタンスピース」「クロスヘッド部」を通じて『クランク室へ流入』した。更に、クランク部品の金属接触により、火花が発生して漏えいした水素に着火したと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
34	2010-229	製造事業所(コ)	接触改質装置の反応塔からのナフサ漏えい	2010/8/18	大阪府	0	0	0	0	炭化水素	火災	石油精製	接触改質装置、反応塔、継手	<通常運転中>	<劣化>	自然発火	事業所内で、接触改質装置の第一反応塔頂部のフランジから、ガス(水素とナフサの混合物)が漏えいし火災が発生した。火災発見後、装置を緊急停止し、素内の圧力降下操作を行ったところ消火を確認したので、泡放水等の消火活動は実施しなかった。同日5時10分、公設消防による鎮火が確認された。原因は、反応塔頂部のフランジボルトが、保温材に囲まれ長時間高温環境となり、ボルトが伸びたため締付力が低下したためと推定される。今後は、反応塔頂部のボルト部への熱のこもりを防止するため、フランジ周りの保温材は取り外すこととした。
35	2010-250	製造事業所(コ)	精留塔への塩素供給配管からの火災	2010/9/22	愛媛県	0	0	0	0	塩素	火災	一般化学	塩素精留塔、配管	<シャットダウン中>	<誤判断>	反応熱	工場は、定期修理に向け、9月22日朝より停止作業を開始し、塩素蒸発器の残留塩素の除去作業を行っていた。10時05分、液体塩素精留塔の出口ガス温度がレンジオーバー(表示上限80℃)となったため、11時00分から出口ガス温度が上昇した原因の調査を実施した。出口配管に設置されたコントロール弁の上蓋部は保温していないため、この部位を担当2名と現場運転員1名で触診した結果、手でさわられる程度の温度であり、系内は窒素除雪中であることから温度計の誤指示と判断した。16時18分、現場作業員が液体塩素精留塔付近より黄色の発煙を発見し、16時31分に鎮火を確認した。原因は、塩素ガスと液体塩素精近傍の塩素用ガス検知器が発報した。原因は、塩素ガスと液体塩素精留塔内のステンレス製の充てん物が塩素化反応をおこし、さらに精留塔の出口配管が閉塞したことで発熱反応が蓄積されたことで、反応が継続的に進む温度になったためと推定される。4年前の精留塔点検時に、塩化鉄が表面に付着した状態で充てん物を水洗、乾燥し再使用された経緯があった。また、その後の開放点検時に、塩化鉄の存在下で水分に接触(塩化鉄の存在下での水分との接触は塩酸処理に相当する機会があり、その際に、表面の不動態酸化皮膜が除去され、かつ接触表面積が大きいため塩素ガスと反応しやすい状態であった可能性が考えられる。従来、塩素ガスとステンレスは120℃以下で反応しないとされてきたが、塩酸処理により表面の不動態皮膜を除去すると、塩素ガスと60℃前後で反応を起こすことが実験により確認された。また、塔内充てん物の塩素化が進行し、反応物の重量が増大、重量増と高温により充てん物のサポートが破損し、反応物が塔底部に落下したことにより塔底部からの塩素供給が絞られ、塩素ガスの供給は主に発生した塩素供給配管からとなり、高温にさらされた配管内に塩素ガスが供給されることにより、配管自体の塩素化が進行し、減肉、反応部分が溶融し発災した。今後は、充てん物等の材質を変更することとした。
36	2010-327	製造事業所(コ)	液抜き中、大気開放ノズル部から、ブタンが漏えい、火災	2010/11/5	大分県	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	石油化学	エチレンプラント、分解炉	<消費中>(停止)	<認知確認ミス>	静電気	11月5日の14時43分頃、エチレンプラントの分解炉においてデコーキングの準備作業中、フレアブローラインが運転状態になっていると思いつい込みブタンの液抜きを実施したところ、大気開放のノズル部よりブタンが少量漏えい、着火した。直ちに対応を取り、1分程度で鎮火し、負傷者はなかった。原因は、工事完了後、フレアブローラインが運転状態に復帰していると思いつい込み、ブタン液抜き作業を開始したためであった。通常の工事の場合は、工事用縁切りをして内容物は窒素にて置換した後、残圧の無いように工事対象範囲の大気弁を開放して工事に入る。工事完了後は気密、窒素置換を経てライン復旧を行い、使用可能としている。今回は、変更許可申請が必要な工事だったため、工事完了後、直ぐのライン復旧が出来なかった。そのため、ライン復旧の指示が不徹底であった。また、工事用縁切りから運転復帰までの運用ルールに問題があった。今後は、類似箇所の確認、操作マニュアルの見直し、情報の水平展開をして再発を防止する。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
37	2010-006	製造事業所(LP)	エアゾール缶に充てんしたLPガスが気化し火災発生	2010/1/14	静岡県	0	0	1	1	液化石油ガス	火災	一般化学	容器本体	<通常運転中>	<認知確認ミス>	静電気	平成22年1月14日、エアゾール缶へのガス充てん作業を開始した直後の午前9時20分頃、ガス充填機上流側からバルブが未装着のエアゾール缶が充填機に供給され、当該エアゾール缶から気化したLPガスに着火し、従業員1名が火傷を負ったほか、ガス充填機の一部、充填室の壁等を焼損した。原因は、ガス充填機内にバルブが未装着のエアゾール缶が供給され、次工程へ送られるまでの間に、充填したガスが気化し、従業員の着衣に帯電した静電気により着火し、火災に至ったと推定される。また、バルブは、ガス充填室の上流側で自動で装着されることが、未装着で流れてきた場合に備え、ガス充填室機の前に、従業員を配置させ監視させているが、これを怠ったものと推定される。
38	2010-130	製造事業所(LP)	液封によるLPガス充てん設備の放出管からの漏えい、火災	2010/6/5	山形県	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	充填所	配管	<停止中>	<誤操作>(バルブ操作)	摩擦熱	充てん所内で、休日のためバルブを全閉していたところ、ローリー受入ラインで液封が発生し、安全弁放出管からガスが放出し着火した。原因は、バルブ開閉ミスにより、貯槽からローリー受入ラインへ液が逆流し、液封が発生したと推定される。着火の原因は、放出管に付着した塵等の摩擦熱によるものと推定される。
39	2010-136	製造事業所(LP)	廃止設備の残ガス処理中の火災	2010/6/16	石川県	0	1	0	1	液化石油ガス	火災	貯蔵基地	配管	<その他>(残ガス処理)	<誤判断>	火花(電気)	高圧ガス製造施設廃止(撤去)に先立つ残ガス処理工程において、ブタン受入配管を窒素ガスパージにより置換し、ガス濃度を測定し安全な濃度を確認した後、プロワフにより当該配管内の窒素を主成分とする湿ガスを排気し、逆方向の開閉部から空気を吸入し空気の置換を行った。その作業中、製造施設である事故現場直前に設置されたガス検知器が作動した。事務所で警報が発報したことに気付いた事業所員が、確認のため現場に急行した際、プロワフの電源コードに躓き、コンセンが外れ周囲に滞留していた可燃性ガスに着火したと想定される。このことにより当該所員が火傷を負った。原因は、窒素ガスによる配管内残ガス置換を行ったが、配管の経路が長く、高低差もあり、置換対象であるブタンガスと置換媒体の窒素ガスのガス密度の差が大き(約2倍)、両者が十分に混合しなかったことが推定される。また、事故の前々日に実施したプロバン受入ラインの置換では問題がなく、同様に完了すると思いい込みがあり、油断があった。さらに、事故当日は、ガス設備全体が水置換及び窒素置換が完了しており、基本的に危険な場所であるという認識が薄く、監視人を置いていなかった。この認識から、空気置換を行っているプロワフ電源の接続を、非防爆コンセントにより行っていた。今後は、二次災害防止のため、パージ作業を行った受入配管開口部に仕切り板を施工するとともに、再発防止策を含めた安全計画書を立案することとした。
40	2010-083	製造事業所(一般)	酸化エチレン反応器からの火災	2010/4/14	神奈川県	0	0	0	0	酸化エチレン	火災	一般化学	反応器、配管	<通常運転中>	<製作不良>	静電気	化学工場において、加圧反応釜で、硬化ひまし油に酸化エチレンを反応させるための準備工程を終え、本格的な反応を開始したところ、加圧反応釜内圧力が突然上昇し安全弁が作動するとともに、2箇所あるルッキンググラス付近から出火した。原因は、加圧反応釜内に液化酸化エチレンを供給する配管が反応釜下部の固定部から外れ、固定部と配管が衝突を繰り返すとともに、配管の動きにより配管上部のフランチ部が緩んだため、金属の衝突によるスパークが、フランチ部からのガス噴出による静電気により酸化エチレンに着火したものと推定される。今後は、液化酸化エチレン供給管の交換、及び固定方法の改善を行う他、加圧反応釜の非破壊検査を行うこととした。また、内部開放検査頻度を年1回から3回とすることとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
41	2010-120	製造事業所(一般)	セラミックのコーティング実験中の逆火による爆発防止装置からの出火	2010/5/6	群馬県	0	0	0	0	アセチレン	火災	機械	配管	<通常運転中>	<その他調査中>	火花(電気)、裸火(逆火)	平成22年5月6日18:20頃、A事業所内のAブース内で、従業員4名がθガン装置でセラミックのコーティング実験中に粉末供給機にガス配線がショートし、近くのプラスチック配管が溶け、漏れたアセチレンとアルコールに引火した。ホースの溶損でアセチレンガスは逆火し、容器倉庫(アセチレン7kg容器10本、酸素7m3容器20本、窒素7m3容器5本)の危険性があったため屋外に退避した。18:22、119番通報し、その後消火が始まり19:14に鎮火した。なお、常用圧力が0.4MPaであり、逆火防止器が使える0.2MPaを超えているため、逆火防止装置の代替として、逆止弁、緊急遮断弁、爆発防止器を設置していた。原因は、粉末供給機からアセチレンガス、酸素、材料(セラミック+アルコール)がプラスチックホースでガンに繋がっていたが、粉末供給機の電気配線がショートした結果、プラスチックホースを溶かし、アルコールとアセチレンガスに引火し、アセチレンガスが逆火したためと推定される。また、逆火を防止する緊急遮断弁は設置されていたが、感知器と操作盤との配線が未接続であったため、作動しなかった。配線工事については、A事業所から請け負った電気工事業者が工事前に倒産したために、配線が未接続の状態となった。なお、緊急遮断装置を設置したガス供給設備設置業者は、配線工事を請け負わなかったため、感知器と操作盤との配線確認を行っていないかった。さらに、A事業所では、緊急遮断装置の電源が入ること、緊急遮断装置の操作説明がなかったことから、操作盤のエラー表示(配線未接続)の意味が分からず、配線の未接続の状態が放置された。今後は、緊急遮断装置の配線を繋げ、ガス逆火防止栓を設置することとした。また、ステンレス配管(巻きフレキチューブ)の中に現状のプラスチックホースを通すこととした。
42	2010-163	製造事業所(一般)	水素カードル解体中の火災	2010/6/29	埼玉県	0	0	1	1	水素	火災	容器検査所	容器本体	<その他>	<誤判断>	火花(グライNDER)	6月28日夕方、作業員が、大気圧下で水素カードル(140m3)を解体していたが、容器とカードルを固定している金属固定リング20本中の1本が取れなかったため、上司に相談した。上司は、容器のネッキングと金属固定リングが供回りして外せないと推定し、ネッキングを固定するため、ボンチによるカシメを指示した。翌朝、作業員はカシメ作業を行うが、金属固定リングが取れないため、再度上司に相談した。上司が、容器のバルブを外してから、再度カシメを行うよう作業員に指示したため、9時頃、作業員はバルブを外し、再度カシメ作業を実施した。しかし、金属固定リングを取り外すことができなかったため、再度上司に相談して作業内容を検討した結果、金属固定リングをグライNDERで切り取り、容器を取り外すこととなった。グライNDER作業に詳しい熟練作業員が、金属固定リングを切り離すため、グライNDERを近づけたところ、刃がリングに触れた直後、火は確認できなかったが、「ポオ」と音をたてた後に軍手は焼け、左手甲に火傷を負った。原因は、バルブを外した時、水または不活性ガスで置換しなかったことから、容器内(水素100%)に空気が進入し、濃度が燃焼範囲になったためと推定される。その後、金属固定リングとグライNDERの刃が接触して火花が飛び、容器内のガスに引火したと考えられる。再発防止策として、可燃性ガス容器に火気を伴う作業が必要な場合、窒素ガス等または水で容器内のガスを置換するよう、作業手順書を見直すとともに、社員教育を実施した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱い状態	事故原因	着火源	事故概要
43	2010-249	製造事業所(一般)	モノシランガス容器からの漏えい、火災	2010/9/21	兵庫県	0	0	1	1	モノシラン	火災	充填所	容器本体、バルブ	<通常運転中>	<認知確認ミス>	自然発火	充てん所で、モノシランガス47L容器の出荷前検査を実施するため、アウトレットキャップを外し、容器弁ハンドルの上に置き、リークチェックを実施した。リークチェック完了後、透明テープを貼って、容器バルブキャップを取り付け、一晩置いた後、再確認を実施した。その際、容器バルブキャップを外していたところ、モノシランガス47L容器1本のバルブから漏えいした。モノシランは自然発火性であるため発火、さらに、この燃焼熱の影響により隣接する2本の容器の可溶栓が溶融し、モノシランガスが噴出、着火した。漏えいを止めることが不可能な状態であることから、約7.6m3×3本が全量燃焼漏えいした。原因は、容器出荷検査(漏えい検査)のために、容器弁ハンドル上に置いたアウトレットキャップの固定が不十分であったことから落ち落ちて、容器バルブキャップとハンドルの間に挟まった。この際、作業者が容器バルブキャップを緩める力が容器弁ハンドルに伝わり、容器弁が開いたためであった。今後は、作業方法を見直すこととした。
44	2010-004	製造事業所(冷凍)	氷蓄熱設備空冷コンデンサー内の配管から冷媒漏えい	2010/1/11	広島県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(ビル業)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>(摩耗)	無	1月10日22:00に、ビル屋上に設置してある氷蓄熱設備を、夜間の蓄熱運転を開始した。1月11日2時29分に、氷蓄熱設備「低圧カット」エラー発生表示等により、異常停止したことを1階防災センターにて覚知した。屋上の氷蓄熱設備を点検するも原因判明せず、停止処置を実施した。同日17時30分まで、各部目視点検するも原因判明せず、1月12日9時00分に、保守委託会社による調査を実施した。11時00分に屋上空冷コンデンサーの入口側ヘッダー上部にあるキャップ部の破損により冷媒が漏れたことを確認し、空冷コンデンサーの出入バルブの閉止処置を実施した。原因は、長期にわたる圧力変動による応力が、ヘッダーキャップ曲げ部に集中したことにより金属疲労を生じて、円周部の強度が弱くなり破損したものと推定される。
45	2010-010	製造事業所(冷凍)	冷凍機の熱交換器の配管ろう付け部からの冷媒漏えい	2010/1/18	京都府	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(役所)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	管理事業者が冷媒配管の保温工事中に、微小なオイル飛散を発見し、ガス漏えいを発見した。事業者からの冷凍機異常の連絡を受け、メーカーが調査したところ、熱交換器配管のろう付け部から冷媒が漏れ始めていることを確認した。原因は、熱交換器ヘッダー一部と接続されている配管のろう付け部が腐食により微小な穴が開いたためと推定される。使用を開始して19年を経過し腐食が進行していたが、断熱材で被覆されており、目視確認が出来ていなかった。
46	2010-025	製造事業所(冷凍)	冷凍機の膨張弁出口配管からの冷媒漏えい	2010/1/26	福岡県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(ビル業)	冷凍設備、配管	<定修中>(点検)	<劣化>(腐食)	無	冷凍設備の定期点検で、ガス漏えいの有無を検査していたところ、ガス検出器が作動した。断熱材を取り外し、内部を確認したところ、配管が腐食し、その一部からガスが漏れ始めている。原因は、事故発生箇所は膨張弁の出口配管であり、冷媒温度が度々変化するため配管表面に結露が発生しやすい環境にあった。配管を断熱材で覆う対策は行っていたが、圧縮機の振動、断熱材の経年劣化等により、配管と断熱材の間に隙間が生じていた。そのため配管表面に結露が発生、腐食したと推定される。今後は、日常点検時にユニット内部の点検を強化することとした。
47	2010-022	製造事業所(冷凍)	冷凍機の圧縮機メカニカルシール部からの漏えい	2010/1/29	静岡県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	自動車	冷凍設備、メカニカルシール	<通常運転中>	<劣化>(摩耗)	無	冷凍機運転中に、圧縮機シャフトメカニカルシール部より冷媒が漏れているのを発見し、冷凍機を停止した。冷媒漏れ量は約90kgであった。メカニカルシールの分解調査をした結果、設備停止中のシール部の油切れ、油劣化等を原因とする樹脂シール材の一部破損と、カーボンシール部の摩耗により漏れたものと推定された。そのため、メカニカルシールを交換し、油交換と冷媒充填を行った。今後は、休日前後の設備停止、起動時のシール部への給油などを実施することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
48	2010-023	製造事業所(冷凍)	冷凍機の熱交換器からの冷媒漏えい	2010/1/29	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(役所)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	2月1日19:50ごろ、屋上設置の冷凍設備が、圧縮機の吸入圧力低下のため稼働を停止した。2月3日、メンテナンス事業者が点検を行ったところ、空気側熱交換器の配管からガスが漏えいしていたことが判明した。機械設備日報から、圧力低下が生じた平成22年1月29日に、ガスが漏えいしていたと推定される。冷凍設備に残っていたガスを回収したところ、回収量が1.1kgであったため、充てんガス量30kgからの差28.9kgが漏えいしたと推定される。原因は、冷媒配管の経年劣化と推定される。
49	2010-024	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の配管からの冷媒漏えい	2010/1/31	宮崎県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(しゃしゃー)	冷凍設備	<通常運転中>	<劣化>(摩耗)	無	1月31日13:00、配管内の圧力低下のため、設備が自動停止した。自主点検の結果、配管からフルオロカーボン(R-22)の漏えいが判明した。2月1日に県消防保安課に通報した。漏えい量は18kg程度であると推測される。原因は、振動により分岐管同士が擦れ、接触部が摩耗したことにより穴が開いたと推定される。今後は、分岐管は振れ止めとして結束してあるが、不十分であるので結束箇所を増やして擦れないようにすることとした。
50	2010-029	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の配管からの冷媒漏えい	2010/2/10	千葉県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	機械	冷凍設備、配管	<その他>(調査中)	<その他>(調査中)	無	事業所内の冷凍設備(第二種製造)から冷媒が漏えいした。前日16:00頃の点検で異常はなく、2月10日の朝にゲージ圧が0MPaになっていることから、漏えいが判明した。冷媒は、ほぼ全量である約240kgが漏えいしたと推定される。調査の結果、漏えいは空冷熱交換器付近の配管に滲みが見られ、現在メーカーで詳しい漏えい箇所、原因を調査している。
51	2010-030	製造事業所(冷凍)	室外熱交換器の冷媒配管からの漏えい	2010/2/10	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(会社事務所)	冷凍設備、配管、熱交換器	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	平成21年12月11日、室外熱交換ユニットの圧縮機が、油高温警報で停止したため保守業者に調査を依頼した。その結果、油冷却用膨張弁が不良との報告があった。12月22日定期点検と共に、油冷却用膨張弁の交換修理を行い運転をしたら、良好だったのでも一旦停止する。平成22年1月4日修理完了後初運転をしたところ、同じく油高温警報がなったため、運転停止した。1月9日と15日に保守業者による点検調査を実施したところ、漏えい箇所は不明だが300kgの冷媒補充が必要であることが判明した。2月はじめ、念のため冷媒漏れ調査を依頼する。2月10日保守業者が保温材を取り外し点検したところ凝縮器からの往復配管が腐食して数箇所ピンホールが空いていた。原因は、配管保温ラッキング内に水分が混入し、経過年数と共に腐食が進行したものと推定される。
52	2010-068	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の冷媒配管の液封による漏えい	2010/2/10	千葉県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(研究所)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	2月9日16時00分、冷凍設備の日常点検を実施したが異常なかった。2月10日、朝にゲージ圧が0MPaになっていたことから、漏えいが判明した。冷媒は、全量である約240kg漏えいしていた。原因は、冷媒回収用の電磁弁コイルの断線によって、弁が常時閉状態になったことにより、電磁弁と逆止弁の冷媒配管内が液封となった。このことにより、内圧が上昇し配管にき裂が発生したと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
53	2010-033	製造事業所(冷凍)	改修工事中の冷凍機の配管仮溶接部からのアンモニア漏れ	2010/2/13	埼玉県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	冷凍設備、配管	<停止中>	<操作基準の不備>	無	アンモニア冷凍設備の改修工事に伴い、フリーザー用油溜りの更新を行っており、2月12日(金)に既設配管との接続変更を行う予定で、既設配管(口径25A)の内部ガスを処理後、新規の配管系統に配管を接続した。12日の工事作業は、新規の配管を点付け溶接(仮溶接)で終了し、接続面には隙間のある状態である状態で終了した。翌日、工事内容を受け継いでいない係員が、通常作業である低圧受液器内の油抜き作業で弁を開いたため、新規の配管の仮溶接部分よりアンモニアガスが漏れ出した。監視室内のガス漏れ警報が発報したため、係員は機械室を確認し、臭気があるため関係者に連絡し対応指示を仰ぎ、空気呼吸器を装着後、操作した弁を閉止し、アンモニア漏れ部位に散水を行い中和処置を施し漏れを止めた。なお、漏れ量は、約1000ccであった。原因は、工事担当者が当日当番の係員に工事内容を連絡しなかったことと、弁に操作禁止の表示をしてなかったためであった。今後は、係員にも工事内容を密に説明し、場合によっては通常作業を中止する。また、高圧ガス関連の非定常時の工事は、係員も工事の立会いを行う。さらに、協力工事業者との工事内容を始業前、終了後は必ず進捗状況と安全確認を行い、連絡ミスや操作ミスによる事故防止を図ることとした。
54	2010-034	製造事業所(冷凍)	冷凍設備からの冷媒漏れ	2010/2/14	三重県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	一般化学	冷凍設備	<通常運転中>	<劣化>	無	6号冷凍機に切り替えたところ異常停止した。その後も圧力は徐々に低下した。原因は、経年劣化によりピンホールが発生したと推定される。
55	2010-040	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の熱交換器分岐管からの漏れ	2010/2/25	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン410A	漏洩等	機械	冷凍設備、配管、熱交換器	<通常運転中>	<製作不良>	無	2月24日10時頃、冷凍設備で油タンク温度高異常が発生し、13時頃、原因調査を開始した。17時に、原因が特定出来ず設定値(冷却冷媒流量)を変更(増へ)し運転再開した。2月25日8時頃に、油タンク温度高異常が再発したため、10時に、異常原因調査を開始した。14時に、空気熱交換器(4系統)分岐管の管板貫通部近傍からの冷媒漏れを確認した。15時25分頃に、工業保安課へ電話連絡し、18時45分に冷媒回収の準備を完了し、冷媒回収を開始した。2月26日0時30分に、冷媒回収完了した。冷媒回収量が、34kgであったことから、冷媒漏れ量は、206kgと推定される。原因は、空気熱交換器の製作時不良により分岐管厚さが薄くなり、熱収縮による繰返し荷重により破断したと考えられる。なお、熱収縮による繰返し応力により、5年で疲労破壊すると推定された。
56	2010-069	製造事業所(一般)	CEの配管からの液化酸素の漏れ	2010/9/28	三重県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	電気	コールド、エバポレータ、配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	平成22年9月28日7時30分頃、事業所内の液化酸素設備で、日常点検中に液面計に針の振れがあることを発見した。直ちに、周辺を調べたところ、配管ろう付け部からガスが漏れ出ていることを確認した。液化酸素の漏れ量は、近づかないと確認出来ない程度(少量)であり、事業所外への漏れ及び二次被害はなかった。漏れ箇所は、ろう付け部の銀ろうと母材との界面であった。また、銀ろう部分を剥がしたところ、母材に直径0.1mm程度の貫通穴が確認された。したがって、原因は、ろう付け部において銀ろうと母材の間に隙間が生じ、その隙間に水分が入り込み、母材に孔食が発生したためと推定される。
57	2010-041	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の配管サポート設置箇所からの冷媒漏れ	2010/2/26	京都府	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	冷凍設備の配管付近において、オイルが少量漏れていることが発見され、被覆材をはがして調査したところ、配管のサポート(固定用器具)設置箇所から漏れ出ていることを確認した。漏れ量は、5kgと推定される。原因は、配管のサポート設置箇所において、劣化腐食によりピンホールが発生したためと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
58	2010-355	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のフレア部からの冷媒漏えい	2010/2/27	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン410A	漏洩等	その他(会社事務所)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<製作不良>	無	ビル内の改修工事を行っている際に、作業員が冷凍機の冷媒配管に触れたところ、冷媒ガスが吹き出した。原因は、フレア加工時のフレア寸法が不足したまま過大トルクで増し締めしたため、フレアの先端部分が引っ張られて延びた。通常の運転には問題なかったが、作業員に引っ張られて肉厚の薄くなった部分が、ちぎれたためと推定された。今後は、フレアの締め付けをトルクレンチでトルク管理することとした。
59	2010-048	製造事業所(冷凍)	冷凍機の安全弁元弁取付部からの冷媒漏えい	2010/3/5	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	機械	冷凍設備、継手	<定修中>(点検)	<点検不良>	無	3月5日10時に、工場内で、2月25日に発生した事故の水平展開として、類似機である2号冷凍機の点検開始した。14時頃に、安全弁の元弁本体合わせ面より冷媒が漏えいしていることを発見した。15時30分頃に、工業保安課へ電話連絡し、18時に冷媒回収準備を完了し冷媒回収開始。3月6日20時に、冷媒回収完了した。回収量は、128.2kgであったため、漏えい量は、8.35kgであった。原因は、据付後の気密試験で漏れは確認されていないことから、点検、保守作業時に弁本体接合面に対して緩み方向の力が付加されたことにより、弁本体接合面に緩みが発生したためと推定される。今後は、保守、点検時に、安全弁の元弁本体に緩みの力が加わらないよう、安全弁配管を支持するためサポートを追加する。また、安全弁元弁の点検・保守作業要領の見直しを実施することとする。
60	2010-070	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のバルブキャップ部及び冷却チューブからの冷媒漏えい	2010/3/12	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、弁	<通常運転中>	<その他>(調査中)	無	平成22年3月12日、冷凍事業所において、冷凍機チラー1号機が「低圧異常」の為、停止した。現場確認したところ、停止時の低圧圧力が0.2MPa(通常0.4～0.5MPa)であった。冷媒漏れの調査を実施したところ、液ラインのストレーナチェックバルブのキャップ部より微量漏えいがあつたので増締めし、冷媒を60kg補充した。運転可能であるが、まだ冷媒不足のため運転禁止措置とした。3月19日、再度詳細点検したところ、低圧圧力が0MPaを示していた。但し、凝縮器には、液冷媒が通常レベル残っていた。水冷却器の冷媒補充口を開けると水が出てきたので、水冷却器(シェル側)冷媒ガス、チューブ側(水)内のチューブ等から破損によると判断された。5月11日、来庁にて漏えい事故の連絡が行った。メーカーに持ち込み、漏えい箇所の特定、原因調査を行い、水冷却器の過冷却により凍結のために、伝熱管にき裂が発生したと推定された。また、冷却された水出口にある温度センサーの動作確認を実施したところ、インターロックじょうけんとなっている設定値(0℃)以下の-6℃で作動した。
61	2010-116	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の伝熱管溶接部からのアンモニア漏えい	2010/3/15	茨城県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	配管	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年3月15日、事業所内のユニットクーラーのブラインラインにて、アンモニア臭があつた。直ちに、冷凍設備を停止し、点検を行ったところ伝熱管の溶接部にピンホールを発見した。アンモニアはブラインラインに漏えいしており、事故時ブラインのpHは10.05まであがっていた。原因は、摩耗によりピンホールが発生したためと推定される。今後は、ブラインにpH計を設置しpH管理することとした。
62	2010-153	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の温度計取付部からの冷媒漏えい	2010/3/21	兵庫県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(ビル業)	冷凍設備	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内の冷凍機運転中に、油タンク液面低下により冷凍機が自動停止した。漏えい箇所を調査したところ、圧縮機出口の温度センサー部分からの冷媒(フルオロカーボン134a)の漏えいが認められた。冷凍機内の冷媒を回収し、その量を測定したところ、平成21年12月の点検時と比較して約200kgの冷媒の減少が認められた。温度センサー取り付け部を詳細調査(浸透探傷試験)した結果、センサー取り付けねじ込み部分の外周にき裂があり、この部分から、冷媒及び油が漏えいしていることが判明した。原因は、振動、衝撃による金属の劣化と推定される。
63	2010-058	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の膨張弁グラインドパッキン部からの冷媒漏えい	2010/3/24	千葉県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(ビル業)	弁、グラインドパッキン	<通常運転中>	<劣化>	無	3月24日、冷凍機を運転中に冷媒の戻りが少ないので、使用を停止してメンテナンスマスターと連絡をした。3月25日、メンテナンスマスターが点検したところ、膨張弁付近から漏えいしていることが判明したのでシール処理をして漏えいを止めた。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
64	2010-059	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の受液器からのアンモニア漏えい	2010/3/25	福島県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	冷蔵	冷凍設備、受液器	<通常運転中>	<劣化> (腐食)	無	平成22年3月25日、作業員がアンモニア臭を感じ、調査をしたが漏えい箇所は特定できなかった。翌日の26日も、アンモニア臭が気になったため調査したが、発見できなかった。27日にメーカーに依頼し調査したところ、受液器の鏡板上部のピンホールからの漏えいを確認した。受液器内は常時30%程度の液レベルであり、受液器の鏡板上部より漏れたことから、ガスは液相ではなく気相であったと想定されている。処置時の液レベルも30%程度であり機械室内の警報器も作動していなかったことから、漏れたガス量は微量であったと想定される。受液器内のガスを低圧側に圧送した後、受液器内の残ガスを外部放出し、中和処理した。原因は、受液器(S46年製)の老朽化、経年劣化により内部からき裂が入ったものと推定されるが、材料強度の低下や応力腐食も考えられるため、メーカーで調査を実施している。
65	2010-074	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のフレキシブルホースからの冷媒漏えい	2010/4/4	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(役所)	冷凍設備、フレキシブルホース	<通常運転中>	<劣化> (腐食)	無	冷凍事業所において、スクリーヒーポトポンプの通常運転中に、急激に冷媒ガス量が低下したため、中央監視室で警報が発報した。操作バルブを閉止して点検したところ、屋上室外機に繋がる液配管のフレキシブルチューブ(可とう管(断熱材にステンレスカバーを施工))の廻りに霜がついていた箇所が見つかったので、当該箇所から漏えいしたものと推定した。断熱材を剥がしたところ、フレキシブルチューブの下部金腐部分に直径5mm程度の穴が開いているのが見つかったので、漏えい箇所と確定した。原因は、ステンレスカバー内に水分が溜まり、フレキシブルチューブが外面腐食により穴が開いたものと推定される。なお、ガスの漏えい量は、約800kgである。
66	2010-076	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の温水コイルからの冷媒漏えい	2010/4/7	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(ビル業)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年4月6日21時～22時頃、冷凍事業所において、建物の空調運転を暖房から暑熱冷房に切換えたとところ、冷凍機が油圧異常により停止した。翌日、確認のため再度運転したところ冷媒の液面低下のアラームが発報し、冷媒が不足していることを賞知したため、緊急ガス漏れ検査を実施し、温水コイル下部の配管接続部分からの漏えいを確認した。設備を停止し、同部位の冷媒配管の取り替えを行った。正常運転のために冷媒約278kgの補充を要したことから、同等量の冷媒が漏えいしたと考えられた。原因は、冷凍機内の温水コイル下部の冷媒配管接続部分(フレアナットで接続)の配管フレア加工部が経年劣化により変形し、シール不良となったためガス漏えいに至ったものと考えられる。また、修理点検を実施中に、配管に過剰な力を加えたことにより別部位(圧縮機吐出配管)の接続部から漏えいを生じたと推定される。今後は、漏えいのあった配管の取り替え及びフレアナットの緩み防止措置を実施することとした。
67	2010-118	製造事業所(冷凍)	冷凍機の継手3ヶ所からの冷媒漏えい	2010/4/8	茨城県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(商店)	冷凍設備、継手、ユニオン	<通常運転中>	<製作不良>	無	平成22年4月8日、事業所内の冷凍機の点検中に、モーター冷却の冷媒出口のユニオンねじ込み部、サブクーラー冷媒の出口のフランジ部、及び安全弁元ねじ込み部からの冷媒の漏えいを確認した。原因は、ねじ込み部のシール不良と、フランジのガスケット取り付け不良と推定される。
68	2010-154	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の冷水器伝熱管からの冷媒漏えい	2010/4/19	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他	冷凍設備、配管、冷水器	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内の冷凍設備における定期点検後の試運転時に、R-1号機の冷水器水側ドレン口から冷媒反応が確認された。冷水器出入口バルブを閉止し、冷媒を回収の上、冷水器の気密試験を実施したところ、冷水器内の伝熱管3本の管板面の隙間から、冷媒の漏えいを確認された。なお、冷媒の漏えい量は不明(推定200kg以下)である。原因は、冷凍機の自動制御運転時に冷媒循環量のバランスが崩れたため、冷水器内が過度に冷却される現象が生じた(バランスが崩れた原因は調査中である)。このため、冷水器内の水が凍結し、伝熱管に変形が生じて、冷媒が漏えいしたものと推定される。今後は、冷水器内の凍結の発生を防止できるように自動制御運転方法を改善する。また、毎月の点検時に漏えい検知器を用いて、漏えいの有無を点検することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
69	2010-088	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の配管から冷媒漏えい	2010/4/20	長崎県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	冷蔵	冷凍設備、配管	＜通常運転中＞	＜劣化＞ (腐食)	無	事業所内の冷凍設備で、低圧受液器のフロートスイッチ作動不良のため、ガスリークテストで点検を実施した結果、漏えいを見つけた。漏えい箇所は、中間冷却器～油溜間の冷媒ガス給液配管であった。原因は、給液配管の表面と断熱材の内部との間に結露による水分が溜まり、腐食が進行したものと推定される。今後は、点検整備時の点検箇所要領について、再教育を実施することとした。
70	2010-119	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の安全弁元弁からの冷媒漏えい	2010/4/27	茨城県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	一般化学	継手、弁	＜停止中＞	＜製作不良＞	無	事業所内で、冷凍機の冬季から夏季への切替のため、使用前の整備を実施していたところ、5台設置中の同型冷凍機のうち3台より、凝縮器安全弁の元バルブからの冷媒漏れを見つけた。原因は、安全弁元バルブの緩み、及びシール剤の気泡混入によるシール不足と推定される。緩みについては保守整備時に緩みの起こる可能性がある作業は存在するが、発生時点の特定はできなかった。また、シール剤の気泡混入は施工不良によるものと特定した。
71	2010-099	製造事業所(冷凍)	冷凍機の熱交換器の配管溶接部から冷媒が漏えい	2010/4/28	京都府	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(役所)	冷凍設備、配管、熱交換器、ろう付	＜通常運転中＞	＜劣化＞ (腐食)	無	平成22年4月28日に、設備管理事業者が冷凍設備の日常点検中に微小なオイル飛散を見つけ、ガス漏えいを見つけた。事業者から冷凍機異常の連絡を受け、調査を実施したところ、熱交換器の配管のろう付け部から冷媒が漏えいしていることを確認した。原因は、熱交換器ヘッド一部と接続されている配管のろう付け部が腐食により微小な穴が開いたためと推定される。なお、漏えい箇所は、使用を開始して19年が経過し腐食が進行していたが、断熱材で被覆されており、目視確認が出来ていなかった。
72	2010-105	製造事業所(冷凍)	アンモニア冷凍設備の配管からの漏えい	2010/5/8	熊本県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	冷蔵	冷凍設備、配管	＜通常運転中＞	＜劣化＞	無	平成22年5月8日午後7:30頃、冷凍設備でガス検知器が作動したため、冷凍保安責任者が現場確認を行ったところ、1階冷凍倉庫前の作業スペース上部の液送配管(20A)曲がり部より、冷媒が漏えいしていることを確認した。そのため、即時に冷凍設備を停止し、配管内部のアンモニアを回収のうえ、設備事業者へ今後の対策について検討依頼を行った。その後、5月10日に県へ状況報告を行い、県より漏えい原因の特定が完了するまで冷凍設備を停止するよう指示を受けた。同日午後、設備メーカーによる調査の結果、配管外部に腐食が認められず、配管内部の異常によると推測されたとの結論が出たため、変更許可により当該配管部の取替を行い、内部状況を確認することとなった。その後、5月19日に変更許可申請を行い、漏えい配管を切断し内部状況を確認したところ、配管曲がり部の内部にエロージョンによる減肉箇所が発見された。今回の漏えいの原因となった配管の減肉については、減肉箇所が配管曲がり部分であることから、長年の使用過程における液流による負荷(液圧)が積み重なったことと推定される。今後は、配管全体による腐朽化が進んでいることから、配管各所の外観検査や肉厚測定等を実施し、危険性がある配管については早急に取替えを行うこととし、平行して全体的な設備改修計画を立案し段階的に設備更新を実施することとした。
73	2010-121	製造事業所(冷凍)	冷凍機の冷却管ドライヤー部からの冷媒漏えい	2010/5/11	茨城県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(商店)	冷凍設備、継手	＜通常運転中＞	＜製作不良＞	無	平成22年4月8日、A事業所の冷媒漏えい事故を受けて、B事業所の冷凍機の点検を行ったところ、モーター冷却管のドライヤーねじ部から冷媒の漏えいを確認した。原因は、ドライヤー交換時にフレアナットの締め付けが不足していたためと推定される。
74	2010-145	製造事業所(冷凍)	冷凍機の圧縮機フランジ接続部からの冷媒漏えい	2010/5/11	兵庫県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	機械	冷凍設備、継手、圧縮機	＜スタートアップ中＞	＜劣化＞	無	事業所内で、ユニット型冷凍機の試運転時、3台設置されているうちの1台が、圧力異常により自動停止した。調査の結果、冷凍機内に充てんされている冷媒(フルオロカーボン22)48kgのうち、28kgが漏えいしていた。漏えい箇所を調査した結果、圧縮機本体のフランジ接続部分からであることが判明した。原因は、シール用ガスケットの劣化によるものと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
75	2010-106	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のバルブグラント部からの冷媒漏えい	2010/5/17	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(ビル業)	冷凍設備、弁	＜スター トアップ 中＞	＜点検不良＞	無	平成22年5月17日10時頃、事業所内の空調用チャユニットで、冷房運転を再開するために凝縮器の出口配管のバルブを開く操作をしたところ、バルブのグラント部に緩みがあることを確認したため、増し締めを行った。その後、冷凍設備の点検をしたところ、内圧が0Mpaであったことから、冷媒が漏えいと判断した。冷媒加圧により漏えい検査を実施したが、漏えい箇所を見つづけることができなかったことから、緩みのあった凝縮器の出口配管のバルブグラント部から冷媒ガスが漏えいしたものと判断した(同日14時30分頃)。正常運転のために冷媒約35kgの補充を要したことから、同等量の冷媒が漏えいしたと考えられる。平成21年11月に事業所における空調を暖房に切り替えた後、冷房運転再開までの間は当該冷凍設備を停止しており、停止時点検及び停止後の日常点検が不十分であったことから算知が遅れた。原因は、凝縮器の主液ライン(凝縮器から膨張弁への配管)の操作バルブのグラント部の締め付けが、何らかの理由で緩んだためと推定される。今後は、設備の停止時、開始時のバルブ操作時のガス漏えい検査を徹底する。また、操作バルブのグラント部について、定期的に漏えい検査を行うこととした。
76	2010-156	製造事業所(冷凍)	冷凍機の配管溶接部からの冷媒漏えい	2010/5/25	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン12	漏洩等	その他(役所)	冷凍設備、配管	＜定修 中＞(点 検)	＜劣化＞	無	事業所内の冷凍機の保守点検中に、漏えいが発見された。漏えい量は微量であった。原因は、配管上の応力による溶接部の経年劣化と推定される。
77	2010-111	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のねじ込み配管部からの冷媒ガス漏えい	2010/5/27	富山県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(医療品製造)	冷凍設備、配管、継手	＜通常 運転中 ＞	＜製作不良＞	無	平成22年5月27日、冷凍設備の日常点検を行っていたところ、圧縮機配管の断熱材から油漏れを発見した。冷媒の漏えいが疑われたため、断熱材を剥がし確認したところ、配管の継手部分から、かに泡程度の冷媒ガスの漏えいを確認した。設備を停止し、冷媒を回収したところ、フルオロカーボン134a(充てん量700kg)が5kg漏えいしていたことが判明した。5月31日からメーカーによる分解調査を行ったところ、継手のねじ込みが緩んでいたことから、漏えいの原因は、製作時におけるユニオン継手のねじ込み不足と推定される。なお、この事業所には同機種の冷凍設備が他に2基設置されているが、配管のねじ込みは正常で、漏えいは確認されなかった。
78	2010-127	製造事業所(冷凍)	冷凍機の冷却器フィンの冷媒配管からの漏えい	2010/6/4	茨城県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	一般化学	冷凍設備、配管	＜通常 運転中 ＞	＜劣化＞	無	平成22年6月4日10時頃、事業所内で、エアコン屋外機の冷却器フィンの冷媒配管に穴が開き、冷媒(R22)が漏えいた。直ちに、屋外機の運転を停止し、室外機、室内機間の冷媒配管のバルブを閉じた。屋外機内の冷媒は全量放出された状態であった。原因は、経年劣化により冷却器フィンの冷媒配管に穴が開いたためと推定される。
79	2010-148	製造事業所(冷凍)	チャユニットの冷水熱交換器からの冷媒漏えい	2010/6/4	宮城県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	一般化学	冷凍設備	＜通常 運転中 ＞	＜その他 (調査 中)	無	事業所内の冷凍施設の点検を行っていたところ、フルオロカーボンガス(R-134a)の漏えいが判明した。直ちに県消防保安課に通報するとともに、警察、消防本部、延岡市に通報した。漏えい量は18.0kg程度であると推定される。原因は、伝熱管とパツフルのフレッティングにより開口したもの。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
80	2010-132	製造事業所(冷凍)	冷凍機の圧力計接続部のフレアナット漏えい	2010/6/10	北海道	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	ごみ処理施設	冷凍設備、継手	<定修中>(点検)	<劣化>(疲労)	無	事業所の屋上に設置された冷凍設備(チャユニット1号機・2号機・3号機)を使用するため、設備事業者が年1回の使用前の設備点検を委託しており、その委託を受けた同設備事業者が点検を開始したところ、圧力計の表示(通常値7.5kg/cm2～8.0kg/cm2)が2.1kg/cm2に低下していたことから、ガス漏れ検知器により漏えい点検を実施した。その結果、同設備3号機の圧力計と配管(導管)を接続しているフレアナット部分から冷媒ガス(フロン22)が漏えいしていることを発見した。ただちに、同設備3号機のバルブを閉止し、使用を中止した。漏えい量は、約23kgと推定される。原因は、冷凍設備(チャユニット:平成10年設置)3号機の圧力計と配管(導管)を接続しているフレアナット部分にき裂があったことから、経年劣化により同部分から冷媒ガスが漏えいしたものと推定される。ただし、フレアナットを過度に締め付けたことにより、同ナットがき裂した可能性も考えられるなど、き裂した原因について、製造メーカーに調査を依頼している。今後は、経年劣化による不具合が懸念されることから、早いサイクルでの点検・交換等について、事業所内で検討する。
81	2010-160	製造事業所(冷凍)	冷凍機のデフューザーコントロール装置からの冷媒漏えい	2010/6/17	埼玉県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(研究所)	冷凍設備	<通常運転中>	<劣化>	無	研究所内で、ターボ冷凍機の蒸発器の圧力が低下し、異常停止したため原因調査をしたところ、デフューザーコントロール装置の駆動軸から、冷媒ガスが漏えいしていることを発見した。冷媒回収作業を行ったところ、推定約603.7kgのフルオロカーボン134aが漏えいしたことが確認された。デフューザーコントロール装置の駆動軸シール部を分解点検したところ、シャフトに取付けられている4つのOリングのうち、上部側2つのOリングに劣化摩耗が見られたことから、Oリングの劣化が原因と考えられる。今後は、日常巡回点検でガス検知器による漏えいをチェック、及びガス漏えい警報装置、低所排気設備の設置を検討することとした。
82	2010-139	製造事業所(冷凍)	冷凍機の吸入配管からのアンモニア漏えい	2010/6/18	北海道	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	冷凍設備	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	事業所内で、AM7:00頃、冷凍保安責任者が冷凍機監視室に戻ったところ、アンモニア漏えい検知警報装置が作動していた。機械室内を確認したところ、ローレシーバー上部付近でアンモニア冷媒が漏えいしているのが確認された。漏えい箇所は特定出来ず、高圧受液器の送液元弁を閉鎖し、除害水槽ポンプを作動、ホース3本で散水を開始し冷凍機の運転を停止すると共に、消防署、警察署に通報した。AM7:30頃消防署員が到着し、事業所の保護具は機械室内に配置され使用できなかったため、消防の空気呼吸器を借用装着し漏えい箇所を調べた結果、オイルドラムから低圧側吸入配管に接続されている15Aの連絡配管がサポート部で外面腐食し、漏えいしているのが確認された。直ちに、当該配管に接続する各止め弁を閉鎖し、漏えいを止めた。AM9:00頃に、機械室内の除害措置を終了した。なお、漏えいしたアンモニアは少量と考えられる。原因は、オイルドラムから冷蔵庫クーラー側吸入配管に接続されている15A連絡配管が、経年劣化による断熱材下腐食が発生したためと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
83	2010-201	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のニードル弁がグラランド部からの冷媒漏えい	2010/6/18	新潟県	0	0	0	0	フルオロカーボン407E	漏洩等	電気	冷凍設備、弁	<停止中>	<劣化>	無	事業所内で、外気温が下がってきたため、運転をしていた冷凍機(3HR-1)を停止させた。その数分後に、フロンガス検知警報器が作動した。現場に駆けつけ確認したところ、冷凍機(3HR-1)の弁付近から冷媒ガスが漏えいしていたため、屋内の扉を開放しガスを外に出した。その後、前後の主要バルブを閉じ、漏えい弁のグラランド部を増し締めを行った。しかし、グラランド部からの漏えいは止まらず、約5kgのフロンガスが漏えいした。漏えいした弁は、モーター冷却用配管のニードル弁であった。原因は、メーカー調査の結果、弁棒シール部のOリングが固化変形していたため、シール性能を失い漏えいしたものと判明した。Oリングが、約9年間という長期間使用されていたため、劣化したことによるものであるが、メーカーがOリングの適切な交換時期を示さず、定期点検で漏えいがあった時点で修理等の対応をするという体制であったことも大きな原因である。また、通常作業員がグラランド漏れを発見した時に行う増し締めが効かない、Oリング式バルブを安易に使用していたことも原因の一つと考えられる。(メーカーはOリングが劣化する期間を把握しておらず、また、製作時に増し絞めの効くグラランドパッキンを使用することを十分検討していなかった。)今後は、ニードル弁をOリング使用品からテフロングラランドパッキン式のニードル弁に交換することとした。また、冷凍機の冷媒漏れ点検を1回/年から1回/6ヶ月に変更することとした。
84	2010-346	製造事業所(冷凍)	冷凍機の圧縮機と熱交換器間の冷媒配管からの漏えい	2010/6/24	大阪府	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	電気	冷凍設備、継手	<停止中>	<製作不良>	無	事業所内の冷凍設備で、従業員が圧縮機と熱交換器間の冷媒配管の連絡管(2階パイプシャフト内)の保温材継目部の一部に、油にじみを発見した。直ちに保温を剥離し内部点検を実施した結果、配管継手の溶接部から微細な気泡発生を確認した。原因は、冷媒配管部材と継手ソケット部材との溶接部に、溶接施工時の何らかの不具合が、長期(18年経過)にわたる冷凍機の運転、停止の繰返し等により、ピンホールが発生したためと推定される。
85	2010-228	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のプレート熱交換器からの冷媒漏えい	2010/6/28	大阪府	0	0	0	0	フルオロカーボン407C	漏洩等	食品	冷凍設備、熱交換器	<通常運転中>	<製作不良>	無	平成22年6月28日、事業所内の冷凍設備で、圧縮機の吐出温度異常が発生した。現地を調査した結果、エコノマイザ一用のプレート熱交換器の下部より、冷媒(フルオロカーボン407C)が漏えいしていることを確認した。冷媒15kgを追加充てんし、運転を継続した。6月29日に、さらに冷媒45kgを追加充てんした。7月9日に、プレート熱交換器の交換のため、冷媒回収を実施した。プレート熱交換器は、SUS材と銅箔を交互に積層した後、真空炉内で銅ろう付けし、耐圧試験及び気密試験を全数実施しメーカーから出荷するが、今回の漏えいは製造工場の気密試験でも検出されていないことから、製造当初からあった銅ろう付け部の内部欠陥が、通常の運転で外部まで繋がり、漏えいに至った単品不良と推定される。銅ろう付け部に欠陥が発生した原因は、プレート熱交換器の製造工程中に変形が生じたチャンネルプレートを使用したことにより、チャンネルプレート間の隙間拡大に伴う密着力不足が発生し、銅ろう材が剥離したものと考えられる。
86	2010-180	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の凝縮器チューブからの冷媒漏えい	2010/7/2	宮崎県	0	0	0	0	フルオロカーボン407C	漏洩等	一般化学	冷凍設備、凝縮器	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	事業所内の冷凍設備の点検を行っていたところ、凝縮器からフロンガス(R-407C)が漏えいしていることが判明した。直ちに県消防保安課に通報するとともに、警察、消防本部、市に通報した。漏えい量は2.8kg程度であると推測される。原因は、振動によりチューブとチューブ支持板がフレッティングを起こしたためと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
87	2010-323	製造事業所(冷凍)	冷凍設備からの冷媒漏えい	2010/7/5	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	金融	冷凍設備、安全弁	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年7月5日、信用金庫のビルで、冷凍設備の日常のガス漏えい点検を行ったところ、ガス検知器に微量の反応があった。設備全体の調査を行ったところ、冷媒の反応があるように思われたため、凝縮器の安全弁を交換した。安全弁取替え前に冷媒を25kg回収し、取替え後30kg補充したため5kgの冷媒が漏えいしたと考えられる。凝縮器安全弁からの漏えいが疑われたが、外した安全弁を調査したところ冷媒漏れは確認できなかった。また、安全弁交換後、設備全体も調査したところ冷媒漏れが確認出来なかったために、原因は不明である。今後は、冷媒液レベルの管理強化、及び日常点検での漏れ確認を強化することとした。
88	2010-186	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の冷媒配管からの漏えい	2010/7/8	鹿児島県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(研究所)	冷凍設備、配管	<停止中>	<劣化>	無	事業所内の冷凍施設の巡視点検で、運転停止中(均圧時)の高圧圧力、低圧圧力が共に低い値であることに気付いた。その後、冷媒回収を行い漏れ箇所の調査を実施したところ、冷媒配管のピンホール部からフルオロカーボン(R-22)が48.4kg(正規充填量:50kg)漏れていることが判明した。原因は、冷媒配管を支持している金物が腐食により底板から外れ、その底板が近接する当該冷媒配管に接触したためと推定される。
89	2010-202	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の水蓄熱槽内のコイルから冷媒漏えい	2010/7/12	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内の冷凍設備で、朝の巡回点検中、水蓄熱槽内に油膜を確認したため、水蓄熱槽の漏えい調査を実施したところ、コイルヘッドの一部箇所からカニ泡程度の漏えいを確認した。冷媒の漏えい量は、微量と推定されるが具体的な量は不明である。原因は、経年的劣化により、ろう付部から冷媒が漏えいしたと推定される。
90	2010-255	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の圧縮機の電磁弁からの漏えい	2010/7/15	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(会社事務所)	冷凍設備、弁	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年7月15日午前に、ビル入居者から空調不良の連絡があり、チラーユニットの冷媒系統の圧力表示が0MPaであることを確認した。機器メンテナンス業者と共にビル内の設備を点検調査したところ、同日16時頃、冷媒設備の圧縮機の容量制御用電磁弁本体のガイドチューブが折損していることを発見した。本冷凍機には、冷媒(フルオロカーボン22)約38kgが充てられていたが、全量が漏えいしたと考えられる。原因は、圧縮機の容量制御用の電磁弁が長期間にわたる作動を繰り返した結果、ブランドジャーのガイドチューブが疲労破壊したためと推定される。
91	2010-167	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の配管のうち付け部からの冷媒漏えい	2010/7/20	埼玉県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	冷凍設備	<通常運転中>	<製作不良>	無	事業所内で、冷凍設備の変更作業を実施していたところ、空気熱源ヒートポンプユニットNo.1号機のガス漏れ警報機が作動したため、作業員が点検したところ、空気熱交換器の液分配器周辺で、アンモニアガスが漏れ始めていることを確認した。冷凍機を停止し、冷媒経路のバルブを閉止するとともに、空気熱交換器内部のアンモニア全量を回収し、中和処理した。空気熱交換器内の残圧が無いことを確認し、空気熱交換器に窒素ガスを加圧し、漏えい箇所の確認を行ったところ、分配器から分配される配管のろう付け部に、き裂が確認された。なお、漏えい量は微量であった。原因は、配管のろう付け不良、又は配管の固定が不十分であったために、圧縮機の振動によりき裂が生じたと推定される。今後は、配管の固定方法について見直しを実施することとした。
92	2010-203	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の給液分配用の配管からの冷媒漏えい	2010/7/21	茨城県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年7月21日、事業所内の冷凍機において、冷凍能力が落ち始めたため点検したところ、冷凍機の給液分配用の配管付け根部分からの漏えいを確認した。原因は、経年劣化による腐食と推定される。
93	2010-256	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の発信機元弁からの漏えい	2010/7/23	茨城県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、弁	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内の冷凍設備で、冷媒量が通常時より少ないため、平成22年7月23日15時30分に点検調査したところ、アイスバンク上部の低圧戻り配管の発信機元弁からの漏えいを確認した。原因は、経年劣化による腐食と推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
94	2010-205	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の凝縮器付近の配管からの冷媒漏えい	2010/7/29	熊本県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	その他(タバコ)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化> (摩耗)	無	平成22年7月29日午前10時00分頃、事業所内の空調の冷えが悪いため保守管理会社へ点検依頼し、各空調設備を点検したところ、空調機の凝縮器付近の配管が氷結していることを発見したため、直ちに空調設備の運転を停止した。平成22年7月31日に再度、詳細な調査を行ったところ、氷結した配管部にピンホールを確認したことから、冷凍機の冷媒液を回収した。なお、回収した冷媒量から今回の配管破損により漏えいした冷媒は、約28.6kgと推定された。その後、平成22年8月6日に真危機管理、防災消防総室に事故報告を行った上で、8月7日に配管の補修工事を行い、工事終了後、気密試験等を行い漏えいがないことを確認した。更に、同事業所には今回漏えいした冷凍機と同型の冷凍機2台を含め、複数の冷凍機があることから、他の冷凍機についても配管等の総点検を行った。原因は、設備メーカーによる調査の結果、複数の配管を固定していたバンドが経年の振動により緩み、配管同士が接触、摩耗を繰り返したことによりピンホールが発生したと推定される。
95	2010-207	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のフィルタドライヤからの冷媒漏えい	2010/8/4	千葉県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(スーパー)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<製作不良>	無	事業所内の冷凍機の巡回点検で、熱源機械室内の冷凍機の運転状態及び運転データ分析より、冷媒漏れが疑われたため、冷凍機運転停止後、冷媒の漏えい点検を実施した。この結果、電動機冷却用の冷媒フィルタドライヤ周辺で強い冷媒反応を検知したため、保温材を取り外したところ、フィルタドライヤに接続する銅管(φ19)フレア部からの漏えいを確認した。応急処置として、フィルタドライヤの新規交換及び銅管フレア部の再加工を行い、冷媒漏えいがないことを確認した。恒久対策として、8月12日に銅管類の交換を実施した。原因は、銅管フレア部の広がり寸法がJIS基準φ22.9mm～23.3mmに対し、φ22.6mm～22.7mmと小さかったためと推定される。
96	2010-210	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の工事中、誤って冷媒配管を切断し漏えい	2010/8/7	静岡県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、配管	<工事中>	<情報提供の不備>	無	事業所内の屋上に仮設冷凍機を設置し、冷凍システムの切替工事中に、冷凍倉庫1階の一時仮置き庫内で配管工事をしていたところ、誤って既存冷媒配管を切断しようとして(配管に傷をつけ)、冷媒フルオロカーボン(R-22)を約120kgを放出させた。原因は、工事監督者に確認しないで切ってしまったこと、当日の作業予定にないことを実施したこと、冷媒ガスは回収処理されていて、配管内にガスが無い、と思い込んでいたためであった。今後は、全体朝礼後、監督、作業員が実際の施工現場でKYミーティングを行い、作業手順を確認する。また、切断可、不可の配管、配線、操作禁止の弁類を周知するよう表示、掲示を行うこととする。
97	2010-211	製造事業所(冷凍)	瞬停による冷凍設備の冷媒圧力が上昇し安全弁作動	2010/8/7	香川県	0	0	2	2	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	無	平成22年8月7日16時00分頃、工場内の電力が雷により瞬停を発生し、冷却塔ファンのインバーターが停止した。これにより冷却水の水温は上昇し、その結果、冷凍機内部のフロンの圧力が上昇した。2台のうち1台は圧力スイッチが作動し停止したが、もう1台は圧力スイッチが作動せず運転を継続した。その結果、安全弁が作動し、フロングラス(R-22)約100kgが噴出漏えいした。原因は、冷凍機の圧力スイッチが老朽化により適切に作動しなかったためであった。また、冷却塔ファンが瞬停で停止する設定となっていたことも一因と考えられる。今後は、圧力スイッチの交換、及び冷却塔ファンが瞬停で停止しないよう、設定を変更することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
98	2010-257	製造事業所(冷凍)	アンモニア冷凍機の圧縮機ヘッドカバー部からの冷媒漏えい	2010/8/16	埼玉県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	冷凍設備	＜通常運転中＞	＜劣化＞ (摩耗)	無	平成22年8月16日、冷凍機のアンモニア漏えい警報が作動したため、冷凍機の運転を停止した。除雪装置が作動し、冷凍機の外部にまで臭気がでいていないことを確認した。平成22年8月24日、破損部の修理を行った。平成22年8月25日、冷媒を30kg補充し再立ち上げし、現在は通常運転している。原因は、液相部と気相部の分離部分に設置された電磁弁の弁座のリークにより、運転停止中に液が圧縮機内に流入し凝縮した。このため、圧縮機の起動時に一時的に過大な圧力がヘッドカバー部にかかり、ガスケットが損傷したためと推定される。
99	2010-258	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の熱交換器からの冷媒漏えい	2010/8/19	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン407C	漏洩等	その他(空調設備)	冷凍設備、熱交換器	＜通常運転中＞	＜設計・構造上の不良＞	無	平成22年8月19日午前、事業所内で、ブラインを結合した、冷凍能力が2333冷凍トンの冷凍設備2基のうち1基において、異常停止したため調査実施したところ、冷媒系統の圧力低下が確認された。冷媒漏えい検査の結果、水側熱交換器において冷媒が漏えいしていることを確認した。冷凍機には、冷媒(フルオロカーボン407C)約85kgが充てられていたが、全量が漏えいしたと考えられる。原因は、プレート式熱交換器の内部で冷水が凍結したことによりプレートが変形したためと推定される。
100	2010-259	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の銅配管フレアナット部からの冷媒漏えい	2010/8/19	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	電気	冷凍設備	＜通常運転中＞	＜その他＞ (調査中)	無	事業所内の冷凍設備で、保守契約に基づく巡回点検中に、2系統あるモータ冷却用ドライヤのうち、未使用の系統に設置された銅配管フレア部2箇所、冷媒検知器に反応が確認された。フレアナットの増し締めを実施し、1箇所は漏えいが止まったが1箇所はカニ泡状の漏えいが続いた。冷凍機には、予備のバックアップ機がなく停止できないので、応急措置として、未使用の系統にあるメンテナス用の止め弁を閉止して、漏えいを止めた。10月に予定されている定期整備時に分解点検を実施し、事故原因を特定するうえ、必要な対策を講ずることとした。なお、冷媒ガスの漏えい量は確定できていないが、約40kgと推定される。
101	2010-216	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の四方弁からの冷媒漏えい	2010/8/20	千葉県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	電気	冷凍設備、配管	＜通常運転中＞	＜その他＞ (調査中)	無	事業所内の屋上に設置された、空冷ヒートポンプ製氷チラーの定期点検時に、四路切換弁のバイロット電磁弁(弁体根元)の溶接部からガスが漏えいしていることを発見した。漏えい量は、約20kgであった。原因は、四路切換弁のバイロット弁体内にスライド応力及び熱膨張、収縮の影響による経年的な劣化によりき裂が発生したためと推定される。
102	2010-200	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の蒸発器及び配管からの冷媒漏えい	2010/8/28	広島県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備	＜通常運転中＞	＜劣化＞	無	事業所内の冷凍設備で、蒸発器の一部及び、膨張弁から蒸発器までの8系統の冷媒配管のうち2系統が破損し、冷媒(フルオロカーボン22)が約200kg漏えいした。原因は、金属疲労及び外部衝撃と推定される。
103	2010-005	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の蒸発器ドレン抜き配管からの冷媒漏えい	2010/8/29	千葉県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	一般化学	冷凍設備、配管	＜通常運転中＞	＜劣化＞ (腐食)	無	8月29日10時00分頃、事業所内の冷凍設備で、アンモニア漏えいガス検知器が作動しガス漏れを検知したため作業員が現場を確認したところ、ガス漏れを発見した。直ちに運転を停止し、メーカーへ点検依頼したところ、蒸発器のオイルドレン抜き配管のピンホール1箇所からの漏えいを確認した。原因は、外部凝縮水が保温材内部に溜り、配管が外部より腐食したためと推定される。今後は、ドレン抜き配管の必要性、材質、保温材のあり方等をメーカーと検討することとした。
104	2010-262	製造事業所(冷凍)	空調設備の四方弁溶接部からの冷媒漏えい	2010/8/30	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン407C	漏洩等	その他(農業)	冷凍設備、弁	＜通常運転中＞	＜製作不良＞	無	事業所内で、空調設備の冷房スイッチ(タイマーによりON、OFFが入った)が、冷房が効かなかった。メーカーで調査したところ、真縮機から吐出ガスを冷房、暖房回路に分岐する四路切換弁のうち、真縮機である分岐弁の銀ろう付け部にき裂が生じ、フルオロカーボン407Cが漏えいしていた。原因は、銀ろう付け部に気泡などがあり、そこを起源として運転時の吐出ガスの熱、及び振動によりき裂を誘引したものと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
105	2010-298	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の膨張弁出口配管からの冷媒漏えい	2010/9/1	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(会社事務所)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内の空冷チラー-冷凍機3台のうち、1台が異常停止した。設備業者に点検を依頼したところ、低圧安全装置が作動して停止したものと判明した。原因は、膨張弁の出口配管と高圧圧力計取り出し配管の交差部が運転中の振動で接触し、配管が摩耗したため、取り出し配管に約3mmの穴が開いたためと推定される。接触した配管は、結束バンドで固定されていたが、経年劣化によりパントの一部が硬化して破損したことで、配管同士が接触したものと考えられる。冷媒の漏えい量は、約26kgであった。今後は、配管の交差箇所にはクッション材を取り付けることとした。
106	2010-292	製造事業所(冷凍)	急冷凍設備の天井裏配管からの冷媒漏えい	2010/9/2	鹿児島県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	事業所内の冷凍設備の通常設備点検において、冷媒受液器の変化に気付いたため、重点的に冷媒漏えい調査を実施した。調査の結果、均気重の天井裏の給液配管防熱施工部から、冷媒漏えいの反応があったため、防熱を撤去し配管を検査したところ、配管の腐食による冷媒漏えいが箇所発見された。漏えい箇所が天井裏の隠蔽部であり、配管も防熱を施工された配管であったため、通常の設備点検においては、発見が困難であったためガス漏れ発見に時間を要した。
107	2010-288	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の圧縮機ターミナル端子からの冷媒漏えい	2010/9/8	広島県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(病院)	冷凍設備、圧縮機	<通常運転中>	<劣化>	無	9月8日19時頃、病院の屋上に設置してある、冷凍設備の運転が停止したとの警報が出た。メーカーを呼び、停止原因の調査を行いながら復旧を試みていたが、9月9日に、冷媒の漏えいが判明した。原因は、圧縮機内部の電動機への電気取り入口であるターミナル端子に、機器の老朽化に伴う電動機コイルの絶縁不良により、異常な温度変化をもたらした。端子と圧縮機の繋ぎ目のパッキンが緩んだためと推定される。消防への報告は、9月10日18時頃であった。消防機関への報告が遅れた原因は、復旧作業を試みていたため漏えいの発見が遅れたこと、及び届出不要の設備であったため、事故届が必要との認識が薄かったためであった。
108	2010-299	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の熱交換器からの漏えい	2010/9/8	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(学校)	冷凍設備、熱交換器	<通常運転中>	<劣化>	無	学校内の冷凍設備で、圧縮機系統の水側熱交換器から冷媒ガスが漏れたため、低圧保護装置が作動し、異常停止した。原因は、機器老朽化によるものと推定される。圧縮機低圧異常によるトリップ水側の熱交換器チューブ側の冷媒がシェル側の温水側にリークしたものと考えられる。
109	2010-244	製造事業所(冷凍)	冷凍機の2台の凝縮器からの冷媒漏えい	2010/9/9	富山県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	一般化学	冷凍設備、凝縮器	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	平成22年9月9日6時頃、事業所内で作業員が冷凍設備の巡視点検を行っていたところ、NO.1冷凍機のNO.2凝縮器(シェル側)冷媒、チューブ側)冷却水に液面レベル警報が出ていたが、冷媒圧力に異常がなかったため、そのまま運転を継続した。同日8時の勤務交替の際に、液面レベル警報の報告を受けた冷凍取扱責任者は、メーカーによる点検が必要と判断し、直ちにメーカーに依頼した。9時30分からメーカーが点検を行った結果、NO.2凝縮器からの冷媒(フルオロカーボン22)が漏えいしていると考えられたため、10時40分にNO.1冷凍機の運転を停止した。冷媒回収の結果、漏えい量は約40kgであると推定される。(冷媒規定量65kg)に対し、冷媒回収量25kg)翌日から詳細調査を実施した結果、NO.2凝縮器のチューブ15本、及びNO.1凝縮器のチューブ3本に気密漏れが認められたことから、シェル側の高圧の冷媒ガスがチューブ内部に入り、冷却水を通じて外部に漏えいたものと推定される。原因は、凝縮器の冷却水の水質検査を実施したところ、遊離炭酸値が37mgCO ₂ /Lとメーカー推奨値4mgCO ₂ /Lを超えていたことから、冷却水の水質の影響によりチューブの内面で腐食が進行したためと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
110	2010-324	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の凝縮器チューブからの冷媒漏えい	2010/9/12	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	機械	冷凍設備、凝縮器	＜通常運転中＞	＜劣化＞、＜点検不良＞	無	平成22年9月12日の午前中、事業所内の冷凍設備の低圧カット保護回路が作動し、異常停止した。冷媒漏れが予想されたため、設備事業者にて冷媒回収を実施したところ約12kgの冷媒漏えいが判明した。また、壁素による気密検査を実施したところ、凝縮器内部の冷却チューブ2本からガスが漏えいしていることが判明した。原因は、設備の経年劣化により、凝縮器内部の冷却チューブが腐食したためと推定される。
111	2010-247	製造事業所(冷凍)	冷凍機のヘッドー配管からの冷媒漏えい	2010/9/13	三重県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	一般化学	冷凍設備、配管	＜通常運転中＞	＜劣化＞(腐食)	無	9月13日7時30分頃、冷凍設備の巡回点検中に、冷凍機ヘッドー配管から冷媒ガス(フルオロカーボン22)が漏えいしていることを発見した。7時45分に冷凍機の運転を停止し、電磁弁の閉操作により、冷媒ガス漏えいは停止した。なお、ガスの推定漏えい量は23.8kgと考えられる。原因は、ピンホールが発生したヘッドーの上部には膨張弁があり、そこで結露が発生するため、冷凍機運転中、ヘッドーは常に濡れた状態で外面腐食が発生しやすい状況となっていた。また、ヘッドー材質が炭素鋼であるのに対し、前後の配管材質は銅であり、電位差腐食が発生しやすい状況であったためと推定される。設備の点検としては、毎年定修時にオーバーホールを委託して実施しており、ガス漏れ検査は行っていたが、設備外面の腐食状況(塗装等の防食措置の状況)の検査は項目に入っていないかった。また、運転時の日常点検は製造グループが実施していたが、ガス漏えい等の異常状態が発生していないかの確認が中心であり、腐食状況の点検に関しては不十分であった。今後は、点検方法の見直しを実施することとする。
112	2010-294	製造事業所(冷凍)	ヒートポンプの熱交換器入口配管からの冷媒漏えい	2010/9/13	福岡県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(不動産)	冷凍設備、配管、熱交換器	＜通常運転中＞	＜劣化＞(腐食)	無	9月13日、事業所内のヒートポンプユニットを運転中、機器が異常停止した。調査の結果、冷媒ガス漏えいによる、低圧トリップと判明した。原因は、水側熱交換器の冷媒配管が腐食しピンホールが発生したためと推定される。なお、漏えい量は、約20kgと推定される。
113	2010-238	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の蒸発式凝縮器からのアンモニア漏えい	2010/9/16	北海道	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	冷凍設備、凝縮器	＜停止中＞	＜劣化＞	無	平成22年9月16日17時40分頃、工場内の原料場(冷凍室)より刺激臭が発生した。原料場内にいた従業員が刺激臭を確認し、原料場横に設置してある、蒸発式凝縮器(以下エバコン)からの漏えいの可能性が高かったため、18時30分頃よりエバコン周辺のバルブを開めた。また、同時刻頃、隣接している別事業者の工場から「刺激臭がする。」とのことで、消防へ通報が入った。19時頃、工場に消防が到着し冷凍機の作業者とともに現場確認を行い、3台あるエバコンのうち、1号機からのアンモニア漏えいを特定した。直ちに、バルブを閉止し、経過を観察した。翌17日4時、アンモニア臭が完全に無くなったので、市消防署通信係へ連絡した。原因は、漏えいのあったエバコン1号機は、設置後32年経過しており、エバコン内のコンデンサーコイル部分が老朽化による腐食で、穴が空いたためであった。
114	2010-280	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の凝縮器チューブからの冷媒漏えい	2010/9/30	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、凝縮器	＜通常運転中＞	＜その他＞(調査中)	無	事業所内で、冷凍設備の13時の点検において、冷凍機受液器の液面を点検していたところ液面が低下気味であった。ほどなくして製造現場からアイスクリーマーフリーザーで製品の漏えいがあったという報告があり、原因の調査に入った。冷媒の漏えいと考えて、装置の総点検に入り、15時30分ごろNO14、NO15コンプレッサーにつながるコンデンサー(凝縮器、温度27℃)の冷却ドレン口からフロンが出るのが確認でき、コンデンサーチューブからの漏えいと判断してコンプレッサーを停止、コンデンサー前後バルブの閉止を行った。翌日の検査により、穴の開いたチューブが1本あることが判明した。原因は、調査中である。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
115	2010-314	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の電磁弁及び配管からの漏れ	2010/10/3	兵庫県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(ビル業)	容器本体	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内で、冷凍機が運転中に熱交換器の圧力低下により自動停止した。漏えい箇所を調査したところ、電磁弁部分、及び配管ピンホールからの冷媒(フルオロカーボン134a)の漏えいが認められた。特に、配管ピンホールからの著しい冷媒の漏えいが認められた。冷凍機内の冷媒を回収し、その量を測定したところ、前回冷媒充填時と比較して約89kgの冷媒の減少が認められた。原因は、電磁弁作動時の振動、及び配管溶接時の欠陥によるものと推定される。
116	2010-335	製造事業所(冷凍)	冷凍機の熱交換器ヘッド・コイルからの冷媒漏れ	2010/10/6	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(公施設)	冷凍設備、熱交換器	<停止中>	<劣化>	無	平成22年10月4日、巡視点検で冷凍機のNo.1液面計内の冷媒が少なくなっていたので、メーカーに点検を依頼した。10月5、6日、冷媒の漏えい点検を実施したところ、空気熱交換器のコイルヘッド部分からの漏えいが確認された。冷凍機を気房モードから暖房モードに切り替え、冷媒をレシーバー(受液器)に回収し、レシーバーの入口、出口のバルブを閉止した。原因は、空気熱交換器コイルヘッドのろう付け部が、経年劣化による減肉のためと推定される。今後は、シーズン中、及びシーズンオフ期間の停止機器の点検を徹底。劣化状況の監視と早期交換、更新を検討。液面計に異常監視レベルを表示。ガス漏れ検査の頻度をあげる。漏えい箇所に応じた措置、対応手順の確認を行う。これらについて保安教育等での周知と責任者による監督を徹底することとした。
117	2010-317	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の配管ろう付け部からの漏れ	2010/10/14	大阪府	0	0	0	0	フルオロカーボン407C	漏洩等	その他(研究所)	冷凍設備、配管	<通常運転中>	<製作不良>	無	10月14日9時00分頃、事業所内の屋上に設置されていた冷凍機において、朝の起動時に高圧圧力センサー異常の警報が出たため、現場を確認した。確認の結果、吐出圧力、吸入圧力共に0MPaを表示していたため、主電源切断して停止させた。14時00分頃、メーカーによる現場確認を実施した結果、冷媒(フルオロカーボン407C)が全量69kg漏えいしたことを確認したため、塞素加圧による漏れ箇所の特定を実施し、四路切替弁操作の配管接続部にき裂が発生していた。原因は、メーカー現場調査によると、何らかの振動要因により応力集中が加わり、配管溶接部にき裂が発生したものと推定しているが、過去、本製品のこの部位からの冷媒漏れの不具合情報はなく、極めて稀な事象であった。10月22日、メーカーサービスマンによりメーカーの工場にて製造された圧縮機吐出配管(フランジ継手)を取り外し、工場にて原因調査を行った。調査の結果、逆止弁付きゲージ継手本体と配管のろう付け時に、母体の過度の加熱等による組成変化と運動振動、冷媒脈動振動等が相俟って、き裂発生箇所に応力集中が経年的に発生して、き裂、ガス漏れに至ったものと推定された。今後は、今回の事故をメーカー製造部門に連絡し、ろう付け作業時の過熱防止に対する指導を行い、再発防止に対する再徹底を実施した。
118	2010-282	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の蒸発器からの冷媒漏れ	2010/10/15	北海道	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(市場)	冷凍設備、蒸発器	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年10月15日午前1時43分、事業所内の冷凍設備で、警報器が作動したため現場を確認したところ、フラインクレーン(蒸発器)より冷媒ガスが漏れていることが判明した。直ちに、冷凍機の運転を止め、修理事業者者に修理を依頼した。原因は、冷凍機本体が30年以上経過しており、劣化によるものと推定される。
119	2010-359	製造事業所(冷凍)	圧縮機のカニカルシール部からの冷媒漏れ	2010/10/15	東京都	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	機械	冷凍設備、カニカルシール	<通常運転中>	<その他(調査中)>	無	事業所内の冷凍設備で、圧縮機の潤滑油の油温が上昇するとともに、冷媒(アンモニア)量不足の傾向等がみられたため、冷媒を補充するまで冷凍機を停止した。その後、圧縮機のカニカルシール部でオイル垂れ量が急激に増加したため、圧縮機前後のバルブを閉止し、メカニカルシールの交換を予定していたところ、交換前にガス漏えい検知警報が発報し、除害設備が作動した。圧縮機のカニカルシール部からの漏えいであることを確認したため、メカニカルシールの交換により漏えいは停止した。シールメーカーの調査では、シールのしゅう動面に多少の異物の噛み込み跡が認められるが、漏えいを起こした直接的な原因は特定できなかったため、継続して調査を実施することにした。なお、冷媒ガスの漏えい量は、約0.5kgと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
120	2010-307	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のフレア継手部からの漏えい	2010/10/15	神奈川県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	その他(公園)	冷凍設備、配管、継手	＜通常運転中＞	＜劣化＞ (疲労)	無	10月15日10時25分頃、事業所内に設置された冷凍機設備で、プールからスケート場への切り換え作業中の製氷作業において、機械室の点検をしていたところ、2基あるうちの1基の冷凍機で漏えい音と油煙がしたので、冷媒が漏えいしたと思い、周辺のバルブを開めた。メーカーが点検したところ、圧縮機上部に設置されている直径10mm程度の銅製配管が、バルブの結合部(フレア継手)から脱落し、フレア継手部から冷媒ガス(フルオロカーボン22)、及び冷凍機油が噴出漏えいしていた。原因は、材料破断面の調査の結果、ストライエーション模様が見られたため、冷凍機の圧縮機等の振動により、フレア継手部が疲労破壊したと推定される。
121	2010-285	製造事業所(冷凍)	アンモニア冷凍設備のバルブからの漏えい	2010/10/18	北海道	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	その他(ジャ)	冷凍設備、バルブ	＜停止中＞	＜劣化＞	無	10月18日8時30分頃、スポーツセンターで、出勤した職員がガス漏れ警報器が鳴っていることに気が付き漏えいを察知した。調査の結果、油分離器、及び油溜から下に伸びる配管のバルブが老朽化し、冷凍機内のアンモニアガスが漏えいしていた。17日の17時00分頃に見回した時点で、異常はなかったものでガスが漏えいし始めた時間は、17日17時00分～18日8時30分の間と考えられる。
122	2010-310	製造事業所(冷凍)	冷凍機の冷媒配管フレア部からの漏えい	2010/10/31	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン404A	漏洩等	運送	冷凍設備、配管、継手	＜通常運転中＞	＜製作不良＞	無	事業所内で、冷凍機が異常停止し警報が発報されたため、メンテナンズ会社が点検したところ、冷媒タンク(アキムレータ)下部の冷媒配管(油戻し配管)のフレア接続部から、冷媒が漏えいしていることを発見した。原因は、冷媒配管のフレア加工部の締付け不良によるものと推定された。このため、漏えいのあった冷媒配管を取替え、フレア再加工を実施した後、ガス漏れ検査で漏えいのないことを確認した。本冷凍機で、過去に取外し作業を行ったフレア接続部については、規定トルクでの締付け確認とガス漏れ検査を実施した。本事業所に設置された他の冷凍機についても、同様に締付け確認とガス漏れ検査を実施する予定である。なお、冷媒の推定漏えい量は63.4kgであった。
123	2010-339	製造事業所(冷凍)	冷凍機のモーター冷却用ドライヤーのフレア部からの冷媒漏えい	2010/11/12	千葉県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(会社事務所)	冷凍設備	＜通常運転中＞	＜劣化＞	無	11月12日に、事業所内に設置されている、空調用冷凍機の定期点検を行っていたところ、モーター冷却用ドライヤー1次側フレア部(パイプ接続部)からの冷媒の漏えいが確認された。冷媒(フルオロカーボン134a)の漏えい量は、55.1kgであった。原因は、モータードライヤー脱着の繰り返しによるフレアの経年劣化により、気密維持能力が低下したものと推定される。
124	2010-347	製造事業所(冷凍)	冷凍機の凝縮器コイルからの冷媒漏えい	2010/11/17	滋賀県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	食品	冷凍設備、凝縮器、配管	＜通常運転中＞	＜劣化＞	無	事業所内の4基(1090.3冷凍トン)の冷凍機の内、No.4アンモニア冷凍機(308.1t 納入:2000年12月)の凝縮器コイル(材質:STPG370E)に外面腐食によるピンホールが生じ、アンモニアガスが漏えいした。人的被害無く、工場外へのガスの拡散はなかった。原因は、凝縮器部の散水配管の末端シャワーノズルに循環水の飛散防止材が詰まったことにより、凝縮器コイルのベント管部に散水が十分行われていない状態であった。これにより湿潤、乾燥を繰り返したことで表面防錆処理である亜鉛が溶出し、外面腐食したと推定される。(ピンホールは3箇所)今後は、点検項目の見直しを実施することとした。
125	2010-342	製造事業所(冷凍)	冷凍機の油回収用配管からの冷媒漏えい	2010/11/20	東京都	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(空調設備)	冷凍設備、配管、継手	＜定修中＞(点検)	＜その他＞(調査中)	無	事業所内の冷凍機の定期点検中に、ガス漏えい検知器で漏えい検査を実施したところ、蒸発器から圧縮機への油回収用配管の銅管継手から、冷媒の漏えいを発見した。直ちに、増し締めしたが止まらなかったため、バルブで閉塞処理した後、冷媒を回収した。漏えいのあった継手部を開放して検査したところ、継手のフロントリングに割れを発見したため、この継手部一式を新品に交換した。継手に割れが生じた原因については、調査中である。なお、冷媒ガスの漏えい量は、約554.18kgと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
126	2010-344	製造事業所(冷凍)	冷凍設備のバルブグラント部からの冷媒漏えい	2010/11/29	長野県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	食品	冷凍設備、弁	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	平成22年11月29日11時00分頃に、事業所内でメーカーの従業員が、冷凍設備の定期点検をしていたところ、バルブのグラント部より微少な漏えいを発見した。この対処として同日11時30分には、グラント部の増締めにより漏えいを止めた。今回の漏えいに伴う人的、物的な被害は無かった。また、今回は非常に微少な漏えいだったため、担当者が保安法上の事故と判断せず、県への報告が遅れた。原因は、漏えいしたバルブが腐食していたためと推定された。対処として今回漏えいを起こしたバルブ以外にも、老朽化の進んだ部品の交換の準備を進めている。
127	2010-353	製造事業所(冷凍)	冷凍機のサブクーラーからの冷媒漏えい	2010/12/2	福岡県	0	0	0	0	フルオロカーボン134a	漏洩等	その他(空調設備)	冷凍設備、熱交換器	<通常運転中>	<その他>(調査中)	無	12月2日1時5分、事業所内の冷凍機(認定指定設備)に、重故障警報(蒸発圧力低異常)が作動したため、直ちに運転を停止した。高圧膨張弁を調査したところ、高圧膨張弁には異常はなかった。原因究明のため、蓄熱運転にて運転を再開したところ、明らかに冷媒不足運転であったため、再び機器を停止した。12月3日漏えい検知試験を行ったところ、凝縮機出口側に設置してあるサブクーラーからのガス漏えいを確認した。原因は、機器メーカーが調査中である。
128	2010-365	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の銀ろう付け部からの冷媒漏えい	2010/12/6	大阪府	0	0	0	0	フルオロカーボン407E	漏洩等	電気	冷凍設備、配管、ろう付け	<停止中>	<劣化>(疲労)	無	事業所内の冷凍機で、圧縮機と蒸発器の間の冷媒配管の保温材継目部の一部に、油にじみを見つけた。直ちに保温を剥離し、冷媒ガス検知器でリークチェックを実施したところ、冷媒の反応があったので、石鹸水により詳細点検を実施した結果、冷媒配管の継手ろう付け部から微細な気泡が発生していることを確認した。原因は、冷媒配管部材と継手部材との銀ろう付け時に、溶け込み不良(銀ろうが継手の板厚の全域にわたって溶け込まない部分が生じるろう付け欠陥)があり、経年の配管の振動等によりろう付け部の接着強度が弱くなったためと推定される。
129	2010-370	製造事業所(冷凍)	冷凍設備の油圧計取り付け用キャブライリーチューブからの冷媒漏えい	2010/12/9	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン22	漏洩等	機械	配管、キャブライリーチューブ	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	事業所内の冷凍設備で、平成22年12月9日10時頃の目視時には異常がなかったが、同日16時頃に冷凍機からの油漏れを発見した。直ちに、冷凍機の外板を外して調べたところ、4号機No.3系統の油圧計取り付け用キャブライリーチューブが破損し、油漏れが起きていることを確認したため、応急措置として冷凍機を停止した。本冷凍機には冷媒(フルオロカーボン22)33kgが充てられていたが、回収された冷媒が24.1kgであったことから8.9kgが漏えいしたと考えられる。原因は、キャブライリーチューブが疲労によりき裂を生じたためであった。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱い	事故原因	着火源	事故概要
130	2010-017	製造事業所(コ)	液化アンモニア導管からの漏えい	2010/1/27	神奈川県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	一般化学	配管	<通常運転中>	<その他>(調査中)	無	アンモニア製造設備で製造された液化アンモニアは、一旦、貯槽に貯蔵後、送液ポンプにて昇圧され、液化アンモニア導管によって近隣のコンビナート事業所に供給されている。10時00分頃、近隣会社社員が運河上の配管ラックから何かが漏れているのを発見した。13時45分、同会社社員より当該事業所に、運河上の配管ラックから何か漏れているので確認されたい旨の連絡があった。14時から15時、当該事業所製造課課員が現場状況の確認を行い、配管ラック配置図と照合した結果、アンモニア導管からのアンモニア漏えいであると確認した。製造課CCR(中央制御室)へ戻り、15時23分、公設消防へ通報、以降、関係官庁へ通報を実施した。15時30分、液化アンモニアの搬送を停止した。15時41分、公設消防隊現地到着。16時00分、アンモニア供給先の事業所より、窒素加圧による導管内の液化アンモニアのバージ処理を開始した。17時30分17時40分頃、漏えい部直上(2m)およびガス管橋の両端敷地境界の計3箇所ですでに発生していた水分が配管下面に集まったこと、公設消防隊が現場から引き上げた。漏えい量は推定17L(10kg)。原因は、設備管理上の問題として、運河上の潮風が当たったこと、環境の中で、結露等により発生した水分が配管下面に集まったこと、溶接線の周辺部が導管設置時及び1989年の再塗装時に、錆落とし等の下地処理を十分に行わなかったこと、さらに、錆等で浮いた塗装膜の残りが他の部位に比べて早まってしまい、孔食により漏えいに至ったもの側により水分が浸入して外面腐食が進み、孔食により漏えいしたものと考えられる。また、検査管理上の問題として、当該導管がガス管橋の歩道から離れた橋の外側に設置されているため、目視点検が十分に行われなかった。腐食環境が厳しいにも関わらず、定期自主検査のポイントに選定されておらず、日常及び定期自主検査時には地上から確認する程度であった。今後は、設備管理として、塗装施工基準を見直し、下地処理(素地調整)の対象物に配管溶接部を加え、当該部分の塗装の施工品質を確保することとした。また、ガス管橋上の導管については、日常点検及び定期自主検査を容易に行えるよう、歩廊近くに引替える。さらに、検査管理としてガス管橋上の当該導管を日常点検及び定期自主検査のポイントに加えると共に、目視点検の視点としてプラントの運転中、運転員が現地ハットロープを実施していた時、循環廃ガスのラインの圧縮機吐出側にあるシクロヘキサン凝縮用コンデンサーの出口配管において、滲み漏れらしき跡を発見したため、ガス検知を実施したが検知せず、臭気もなかった。念のため、当該設備を停止し、配管を取り外して常用圧力以上の気密試験を実施した結果、微量漏れを確認した。原因は、特殊グレードのステンレスエルボの製作上の不具合による。材質劣化(鋭敏化)と振動による繰返し引張り応力によるものと推定される。
131	2010-019	製造事業所(コ)	シクロヘキサン凝縮用コンデンサー出口配管からの漏えい	2010/1/28	福岡県	0	0	0	0	窒素、シクロヘキサン	漏洩等	一般化学	配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	製油所の水素分解装置のスタートアップ作業中、水素配管の流量計付近から、水素ガスが漏れ始めていることを運転員が発見し、直ちに装置の緊急停止を実施した。漏えいは、オリフィスフランジの導圧管取り出し配管のソケット溶接部の割れから発生していた。割れ発生の原因は、当該隅肉溶接部の強度計算の結果、溶接部に必要な「のど厚」に満たない箇所があり、耐圧試験時に降伏点を超える応力がかかり、内部割れが発生したと推定される。その後、試運転(昇圧、降圧)による負荷変動により、割れが拡大したと考えられる。また、施工管理の問題として、施工会社の溶接士及び検査員は、溶接線の外観検査を目視及び触診で実施し、許容範囲と判断したが、発災装置が高圧装置(当該部の常用圧力:18.35MPa)という認識が薄く、溶接線の検査が不十分であったと考えられる。今後は、耐圧気密試験に立ち会う場合は、溶接部の形状についても確認することとした。
132	2010-079	製造事業所(コ)	水素化分解装置からの水素漏えい	2010/4/8	大阪府	0	0	0	0	水素	漏洩等	石油精製	配管	<スタートアップ中>	<製作不良>(溶接欠陥)	無	製油所の水素分解装置のスタートアップ作業中、水素配管の流量計付近から、水素ガスが漏れ始めていることを運転員が発見し、直ちに装置の緊急停止を実施した。漏えいは、オリフィスフランジの導圧管取り出し配管のソケット溶接部の割れから発生していた。割れ発生の原因は、当該隅肉溶接部の強度計算の結果、溶接部に必要な「のど厚」に満たない箇所があり、耐圧試験時に降伏点を超える応力がかかり、内部割れが発生したと推定される。その後、試運転(昇圧、降圧)による負荷変動により、割れが拡大したと考えられる。また、施工管理の問題として、施工会社の溶接士及び検査員は、溶接線の外観検査を目視及び触診で実施し、許容範囲と判断したが、発災装置が高圧装置(当該部の常用圧力:18.35MPa)という認識が薄く、溶接線の検査が不十分であったと考えられる。今後は、耐圧気密試験に立ち会う場合は、溶接部の形状についても確認することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
133	2010-092	製造事業所(コ)	LNG蒸発器の元弁からの漏えい	2010/4/22	神奈川県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	一般化学	弁	<スタートアップ中>	<点検不良>	無	4月22日、液化酸素、液化窒素、液化アルゴン製造設備で、スタートアップ過程でLNG熱交換器、及び窒素循環系の温度コントロール不可のため、圧縮機が停止した。温度コントロールの不調は、熱交換器から圧縮機への冷熱窒素の戻しが適正でなかったと判断し、再スタートの準備に入った。スタートアップ用LNG蒸発器の元弁を開状態から閉止しようとした時に、元弁のグラント部からLNGが漏えいた。漏えいの発生したバルブを分解、整備、耐圧試験を実施し、4月26日に3回目のスタートアップを行った。LNG熱交換ボックスの内圧が上昇するも、警報設定値を高く設定していたため、アラームは発報しなかった。また、当該場所のガス検知器は、スイッチがOFFの状態とされていた。4月27日の運転員パトロールで、LNG熱交換ボックスのブリーザー弁からの漏えいを確認し、LNG受入を停止し、ラインの脱圧、窒素バージを実施した。熱交換器の元弁グラント部からの漏えいの原因は、当該弁のグラント締付ナットの片締め(数年前と推定)により、弁棒とパッキン押さえ輪が接触した状態となり、グラント部のシール性に偏りが生じ、この状態のまま使用したためシール性が維持できなくなったと考えられる。当該弁は、通常時閉止であり2次側に圧力が無かったため、日常点検ではグラント漏れが発見しにくい所であった。また、LNG熱交換ボックスのブリーザー弁からの漏えいの原因は、1回目のスタートアップ過程で、LNGと循環窒素の熱交換設備で通常スタートよりも大きな温度変化を与えたために、ボックス内のアルミ製熱交換器のろう付け部にクラックが発生したためと推定される。今後は、使用前点検時に2次側の圧力を張った状態でグラント漏れ有無の確認を追加することとした。また、運転マニュアルにスタート直後の操作重要項目として、今回トラブルの再発防止ポイントを付記することとした。
134	2010-101	製造事業所(コ)	脱プロパン塔の入口配管からの漏えい	2010/5/3	山口県	0	0	0	0	ブタン、プロテン	漏洩等	石油化学	配管	<通常運転中>	<劣化> (腐食)	無	平成22年5月3日10時15分頃、分解系留分原料のマルチ生産システムの研究用装置の脱プロパン塔付近で、ガス検知器が発報したため調査したところ、脱プロパン塔の入口配管より少量のBBR(ブタン、ブテン)留分が漏えいしていることを確認した。直ちに当該装置の緊急停止を行い、装置停止後に脱圧を実施し、漏えいを停止させた。漏えい量は、約20Lと推定される。人身被害はなく、周辺環境への影響はなかった。原因は、脱プロパン塔入口の配管垂直部の保温板金の不良箇所より浸入した雨水が、水平部の保温材に滞留して、配管の外周腐食を進行させて漏えいに至ったと推定される。浸入した雨水には塩化物イオンが含まれており、その濃縮により、腐食環境が激しくなり、通常より高い速度で腐食が進行したと考えられる。今後は、保温板金の改良等の雨水浸入防止対策、及び静機器検査要領の改訂を実施することとした。
135	2010-149	製造事業所(コ)	天然ガス受入基地のコンプレッサー出口のドレン弁からの漏えい	2010/6/7	福岡県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	貯蔵基地	配管、継手、弁、圧縮機	<通常運転中>	<劣化> (腐食)	無	6月7日20時頃、事業所内をパトロール中に、No.1ターボコンプレッサー出口のドレン弁(弁箱)より、ガスの微少リークを発見した。直ちに、コンプレッサーを停止し、内圧降下を確認後に隔離した。原因は、ドレン弁(弁箱)の製作時の鋭敏化、及び環境(海塩粒子)の影響による応力腐食割れと推定される。今後は、ドレン管の振動を抑制するためのリブ補強を行う。また、塩化物応力腐食割れ、及び腐食物付着の対策として、コンプレッサー出口配管系の取替え、及びSSCシヤット塗装を実施することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
136	2010-135	製造事業所(コ)	水素ステーションの吸入、吐出弁取付部からの水素漏えい	2010/6/15	神奈川県	0	0	0	0	水素	漏洩等	スタンド	継手、弁	＜スター トアップ 中＞	＜その他 ＞(調査 中)	無	水素ステーション内で、燃料電池自動車へ水素を充てんするための準備作業として、N0.1蓄圧器(20MPa)からN0.2蓄圧器(40MPa)へ水素の移送を行うために、N0.2圧縮機を起動した際、水素漏えい検知警報器が発報し、圧縮機が自動停止した。原因は、No.2圧縮機の吐出、吸込み方のバルブはメタルタッチであり、この表面において研磨処理が長手方向に行われていた。この長手方向の研磨と運転中の温度と振動も影響して、バルブの中心から外側のシール部にかけてワークスを形成し、水素漏えいにつながると推定される。また、事故発生原因は、設計不良としているが、このバルブは摺り合せ部の基準である粗度基準値等は合格しており、メーカーでは、今後、より気密性の高い形状の研磨方法を採用すること。
137	2010-115	製造事業所(コ)	メタキシレンジアミン製造施設の加熱器からのアンモニア漏えい	2010/6/28	新潟県	0	0	0	0	アンモニア、水素	漏洩等	一般化学	メタキシレンジアミン製造施設、加熱器	＜通常 運転中＞	＜劣化＞	無	メタキシレンジアミン製造施設で、加熱用スチームの水質管理用の電気伝導度計に異常値が確認された。装置内の熱交換器からの漏えいを疑い、スチームドレインのpHを測定したところ、水蒸気凝縮の入口加熱器(シエル側:スチーム、チューブ側:アンモニア)及び水素を含む合成ガス(pHが高い)ことが判った。また、成分分析を行った結果、アンモニアとIPN(イソブタジオリブ)を検出した。これらのことから、加熱器チューブ内の合成ガスがシエル側に漏えいしたと判断し、装置を停止し、加熱器の脱圧、縁切りを行った。なお、加熱用スチームは閉鎖系であり外部への漏えいはなかった。加熱器の開放検査を行ったところ、加熱器のチューブ内を流れている合成ガスに含まれている成分(IPN)が、チューブの外側に付着していることが確認され、チューブ側からの水圧試験(115.2MPa)で4本のチューブで5箇所から水のしみ漏れを確認した。また、チューブ内部からの過流探傷試験で内面傷指示が10本、外面指示が11本確認された。チューブを詳細に調査した結果、チューブ外面から発生した応力腐食割れ(SCC)であることが判明した。なお、割れ発生箇所塩素が検出されたことから、塩化物応力腐食割れと推定されたので、塩素の流入経路について調べたが、特定は出来なかった。しかし、この熱交換器は伝熱面積が過大であり、伝熱はスチーム入口ノズル付近のみで行われ、SCCが発生した管板面に近いチューブは伝熱に寄与しなかったこと。また、シエル側のエア抜きが不十分であったことから、SCCが発生した部分はスチームの凝縮が少なく、付着物が洗い流されにくい条件であった。このことが、SCC発生の要因となった可能性があるとして推定される。今後は、ボイラー供給水の伝導度管理、凝縮水の定期的な塩素分析、シエル内部の液面生成を防ぐためのドレン抜き出し配管を設置することとした。
138	2010-185	製造事業所(コ)	プロピレンガス圧縮コンプレッサの Packing 箱からの漏えい	2010/7/7	大分県	0	0	0	0	プロピレン	漏洩等	石油化学	圧縮機	＜スター トアップ 中＞	＜点検不良＞	無	事業所内で、E1プラント運転開始準備中に、別設備からフレアー行きラインにプロピレンを放出したところ、フレアー行きラインから背圧が生じたため、フレアーと接続しているプロピレンガスを圧縮するコンプレッサの Packing 箱の窓の亚克力板が破損し、逆流したプロピレンガスが漏えいした。原因は、E1プラントから、フレアースタックへガスを排出するラインに設置されている固気分離装置内部に、ポリマーと水が溜まっていた。このため、固気分離装置からフレアースタックへのガスの流れが阻害され、別設備からのフレアープロピレンガス量の増加に伴って同装置の上流側の圧力が上昇、圧縮機 Packing 箱の窓の亚克力板が破損に至ったものと推定される。固気分離装置内を“空”の状態に保つため、捕集されたポリマー等は系外へ抜き出さなければならぬ。また、ドレンタンクのレベル計不動作により、同装置内部にポリマー等が溜まっていることを検出できなかった。今後は、圧縮機の Packing 箱の排出先をフレアースタックから、大気バント化することとした。また、固気分離装置の定期的な空確認を実施するため、バトリール(1回/日)で抜出しを行う運用をすることとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
139	2010-189	製造事業所(コ)	LPガス回収装置のLPガス回収装置からの漏えい	2010/7/14	沖縄県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	石油精製	LPガス回収装置、配管	<通常運転中>	<劣化> (腐食)	無	7月14日12時45分頃、LPガス回収装置のリフラックス配管のダミーパイプサポートのドレンホール付近が、水で濡れていることをオペレーターが発見した。確認のためガス検知器で調べたところ、炭化水素の反応があった。ただちに、当該箇所の前後のバルブを閉止し、ラインをバイパスさせ、減圧し炭化水素の漏れがないことを確認した。水で濡れていたのは、プロパンの漏えい時、気化熱で周辺が冷えて、結露していたものによると推測される。原因は、ダミーパイプサポート内部から、配管外面への腐食により減肉部が貫通したと推定される。本年1月に当該箇所の検査を実施し減肉傾向を確認していたため、補修計画を立案中であった。今後は、サポート型式を本管が外面腐食の起こらないものに変更することとした。
140	2010-191	製造事業所(コ)	LPガス移送ポンプの吐出フランジ部からの漏えい	2010/7/17	愛知県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	充填所	配管、継手	<通常運転中>	<製作不良>、<劣化>	無	7月17日13時30分に、事業所内で定期検査の漏えい検査を実施している際、LPガス移送ポンプの吐出側のフランジ部分でガス検知器が反応したため、発泡液により漏えい箇所を確認したが特定できなかった。そのため、8月1日にパッキンの点検を決定した。8月1日13時00分に、パッキン取替え後、発泡液による漏えい検査したところ、フランジボルト穴からの微少漏えいを確認し、14時30分にLPガス移送ポンプを停止した。8月2日17時00分に、県に報告した。原因は、フランジ部と配管との溶接部に経年劣化等により微小の穴が発生し、そこから漏えいしたLPガスが、フランジ母材の劣化、または製作上の欠陥等により発生した内部の通り道(ラミネーション等)を通して、外部に漏えいしたものと推定される。
141	2010-230	製造事業所(コ)	CEの弁溶接部からの窒素漏えい	2010/8/6	大阪府	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	コントロール・エバポレータ、弁	<通常運転中>	<劣化>	無	7月30日、事業所内で、窒素CEの府保安対策課の保安検査を実施したが、気密検査での漏えいは認められなかったため、8月2日、設備を再稼動した。8月6日、日常点検時に、職長が保安検査時に指摘を受けた設備腐食箇所に石炭水を塗布した際、液取弁の上流側溶接箇所にかたまり程度の漏れを確認したため、係長に報告した。この設備は、他社の所有のため、事業所と所有者が本件の対応を協議した。所有者の見解では、過去の類似の事例では変更許可(肉盛溶接)で処理しており、事故届の提出の必要は無いとの判断であったため、事故届を提出しなかった。8月26日、漏えい箇所を肉盛溶接するための、変更許可申請の申請方法について、府保安対策課に相談したところ、漏えいが発覚した。原因は、このCEは、昭和60年5月に許可を受け、使用開始から25年が経過しており、経年劣化と推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
142	2010-199	製造事業所(コ)	塩化炉設備の熱交換器から四塩化ケイ素の漏えい	2010/8/26	福島県	0	0	0	0	水素、四塩化ケイ素、三塩化ケイ素	漏洩等	一般化学	熱交換器	＜通常運転中＞	＜その他＞ (調査中)	無	8月26日5時6分、熱交換器2E-505Bより白煙が発生したことを現場作業員が発見した。調査の結果、漏れ等の異常が発見できなかったため、運転を継続し、次の日に増し締めを行うこととした。しかし、17時5分、0.5vol%で水素ガス漏れ反応があり、その後白煙も確認された。19時30分、大量の水素ガス漏えいに備え、ガス希釈のためのバージ用鉄板を容器上部の周囲を取り囲むように設置した。20時10分には、別の熱交換器2E-505Aより断続的に白煙が発生し、近くのHClガス検知器が発報した。局所排気により対応したが、処理しきれないため、放水を開始した。20時58分に緊急停止を開始し、警察、消防への通報がなされた。その後付近住民への避難要請、道路封鎖がなされた。翌日27日2時45分、HClガス検知器によりガスの漏えいが停止したことを確認し、通行止めは解除された。推定漏えい量は、四塩化ケイ素24kg、水素2kgであった。また、四塩化ケイ素が加水分解して発生した塩化水素は22kgと推定された。漏えいした熱交換器の本体フランジ部分は、オクタゴナル(断面八角形)形のリングジョイントガスケットが用いられていた。このガスケットをはめ込むための溝が、製作時に設計書通りに削られていなかったため、製作後の水圧試験時に当たり面から漏えいが発生した。このため、溝の摺り合わせが再度実施された。事故後に設備の寸法を実測したところ、リングジョイント内輪はフランジ面に接しているが、外輪の当たり面は著しく小さかった、または接していなかったと推定される。そのため、昇温による金属の膨張で当たり面がずれることにより、気密性が著しく低下し、ガスの漏えいにつながったと考えられる。また、バージ用鉄板が熱交換器周囲に取り付けられたため、断熱効果によりフランジ、ボルトの温度が上昇し、ガスケットの気密性が低下した可能性もある。さらに、当熱交換器は500℃以上のプロセスガスが流れる設備であるが、その昇温過程において、適切な締め付け管理、緩み確認が行われていなかったことが、ガスケットの部分的必要面圧の低下を招いたことも否定できないと考えられる。再発防止策として、設備受け入れ時のチェック強化、緊急時対応の強化、ホットボルトテイングを実施することとした。
143	2010-263	製造事業所(コ)	LPガス出荷用配管のケレン作業中に漏えい	2010/9/1	新潟県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	貯蔵基地	配管	＜通常運転中＞	＜その他＞ (調査中)	無	LPガス貯蔵基地で、外部腐食の進んでいるLPガス配管(ローリー出荷用配管のガス戻りライン)の肉厚測定を実施するため、配管のケレン作業を実施したところ、ケレン実施箇所からガスが漏えいした。直ちに、関連バルブを閉止し、脱圧作業を実施した後、漏えい箇所を鉢セメントで固着処理した。原因は、外部腐食により肉厚が薄くなった箇所をケレンしたことにより、孔が開いたためであった。腐食の原因は、漏えい箇所が架台や振れ止めとの接触部であり、雨水が溜まりやすく乾きにくく、腐食しやすい環境であったためと推定される。また、腐食を見逃した原因としては、日常点検では、高所に登り点検することばなく、架台の下から点検していたこと。一年前の配管定期検査で腐食を確認していたが、軽度のもとの考えていたこと。配管定期検査を外部に委託していた。今後は、配管の腐食点検回数を増やすこととした。また、腐食発見時の対処方法を明確化することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
144	2010-264	製造事業所(コ)	アルコール製造施設の閉止フランジ部からのオキソガス漏えい	2010/9/3	千葉県	0	0	1	1	水素、一酸化炭素	漏洩等	石油化学	継手、弁	<スター トアップ 中>	<認知確 認ミス>	無	高級アルコール製造施設内で、4段圧縮機の3段自動ドレン元弁で内漏れが発生したため、ドレン弁を取外して閉止フランジ部を取付けた。9月3日、4段圧縮機を起動し、圧縮機で閉止フランジ部を2MPaまで昇圧確認後、実ガスにて昇圧している段階でフランジからオキソガス(水素、一酸化炭素)が漏えい、作業していた作業員2人の内1人がガスを吸引したため病院に搬送した(軽度のCO中毒で当日退院)。直ちに系内を窒素で置換し、4段圧縮機を停止した。原因は、工事担当課から工事会社、工事監督から施工者への工事内容の伝達不足、閉止フランジ取付時のボルト締付け力不足、閉止フランジ取付後の気密性能確認不足、運転部門の引継ぎ申し送り等に関する情報(気密試験未実施)等の認知が不足していたためと推定される。今後は、気密テストに関する基準書の見直しを行い、管理強化を図ることとした。また、工事管理に関する規程、基準類を見直すこととした。
145	2010-364	製造事業所(コ)	常減圧蒸留装置からのプロパンガス漏えい	2010/12/2	香川県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	石油精製	常減圧蒸留装置、熱交換器	<通常 運転中>	<劣化>	無	平成22年12月2日18時25分頃、事業所内で、循環冷却水冷却塔の可燃性ガス検知器アラームが発報した。19時20分頃、常減圧蒸留装置の熱交換器の内部で、冷却水にプロパンが漏えいしていることを確認したため、熱交換器の気密試験を実施したところ、フローティングヘッドカバー下部、及びチューブ1本からの漏えいを確認した。プロパンの漏えい量は、漏えい箇所の面積及び差圧が不明であるため推定困難であるが、圧力変化による検知が出来なかったことから、微量であると考えられる。原因は、フローティングヘッドカバーのボルト4本が緩んでいたことと、チューブの腐食により開孔したためであった。今後は、チューブの検査方法の見直しを実施することとした。
146	2010-026	製造事業所(LP)	貯槽受入配管の緊急遮断弁からのLPガス漏えい	2010/2/1	愛知県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	充填所	弁	<通常 運転中>	<点検不良>	無	事業所に設置されている3基のLPガス貯槽(N0.130t、N0.210t、N0.310t)のうち、N0.1貯槽に受入作業を開始したところ、N0.2貯槽下のガス漏えい検知器が漏えいを検知した。調べたところ、N0.1貯槽と受入配管が繋がっている、N0.2貯槽の受入配管に設置してある、緊急遮断弁のボンネット締め付けねじ部分から、液状のLPガスが漏えいしていることを確認した。原因は、緊急遮断弁の弁検査の結果、ボンネットカバーの締め付けによるボンネットパッキンの潰れ変形が少なかったこと、及び分解点検前に比べて点検、組み立て後のカバーの締め付け位置が深くなったことから、前回の貯槽開放点検時に行った緊急遮断弁の分解点検(平成19年10月実施)後の組み立て時に、ボンネットカバーの締め付けが十分ではなかったと推定される。
147	2010-027	製造事業所(LP)	再検査容器的溶接部からのLPガス漏えい	2010/2/1	奈良県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	充填所	容器本体	<通常 運転中>	<劣化>	無	再検査仕上がり容器に初充てんしたところ、容器下部溶接部分からのガス漏れが発生した。原因は、容器溶接時のピンホールと推定される。耐圧試験、気密試験時には、ピンホールが容器の表面にまで達していなかった。しかし、容器再検査時や流通時に、容器表面の金属皮膜が摩耗することによりピンホールが容器表面に達し、ガス漏れに至ったと推定される。再発防止対策として、充てん所においては、容器の取扱に注意するよう再度指導した。容器メーカーに対しては、容器製造マニュアルに基づく作業の再徹底を指示した。容器検査所に対しては、容器検査マニュアルに基づく作業の再徹底を指示した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
148	2010-032	製造事業所(LP)	デイスペンサーの引っ張りによる配管損傷、漏えい	2010/2/13	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	配管、継手、デイスペンサー	＜通常運転中＞	＜認知確認ミス＞	無	スタンド内で、従業員がタクシーに充てん中、別の車の面が充てんのため、タクシーから一旦離れ、別の車の面が充てん作業に対応した。その後、タクシーの充てんが終了した音を同従業員が聞いたため、再度、タクシーに戻り、充てんノズルを車面と鍵を渡した。タンクの運転手は、充てんが完了したと思い車面を進ませたため、デイスペンサーの充てんホースが引っ張られ、セーフティカブリングが外れたが、負荷がかかり車面充てん口と車体の一部及びデイスペンサー内の継手、配管が損傷したことにより、同継手、配管部分からLPガスが漏えいした。なお、同事故発生後、直ちにデイスペンサーのバルブを閉止し、同デイスペンサーの使用を中止した。原因は、従業員の、作業手順ミスである。今後は、ガス充てん手順を見直し、新しいマニュアル作り及びその周知徹底を図ることとした。
149	2010-073	製造事業所(LP)	計量器の銅管継手部からのLPガス漏えい	2010/4/1	神奈川県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	デイスペンサー、継手	＜通常運転中＞	＜点検不良＞	無	平成22年4月1日、19時40分頃、スタンド内でガス警報器が鳴り出し、デイスペンサー裏の感知器が反応していた。調査をしたところ、デイスペンサー裏の銅パイプぐいこみ部からのガス漏えいを発見したので、元弁を閉止し、遮断弁を閉とした。また、ガスが漏れていたの増し締めをしたところ、さらにガスが漏えいした。原因は、均圧ラインの銅管継手のスリーブが圧縮機の振動によって緩くなったものと推定される。また、発見時に銅パイプ食い込み部分が凍結していたため、増し締めしたことから、き裂が生じたものと考えられる。
150	2010-078	製造事業所(LP)	LPガス受入用配管からのガス漏えい	2010/4/7	栃木県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	一般化学	配管	＜定修中＞(点検)	＜劣化＞(腐食)、＜その他＞(調査中)	無	4月7日14時頃、事業所において、保安検査で気密試験を実施したところ、保温材で被覆されている配管からの漏えいを発見した。被覆をはがしてみると、配管が外面腐食しておりピンホールが空き、漏えいしていた。原因は、被覆配管の保温材の隙間から雨水が浸入し、腐食が発生したと推定される。今後は、再発防止策として、点検項目に保温材の破損、変形の有無を確認することに加えすることとした。さらに、被覆配管については定期的に非破壊検査(放射線透過試験)を実施することとした。
151	2010-095	製造事業所(LP)	スタンド内液送ポンプ入口の圧力計取付配管からのLPガス漏えい	2010/4/25	大阪府	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	配管	＜通常運転中＞	＜劣化＞(疲労)	無	LPガスオートガストラススタンドにおいて、地下室内のNo.1液送ポンプの入口圧力計取付部の銅管が割れ、LPガスが噴出漏えいした。原因は、銅管がポンプの振動等により、割れたためと推定される。今後は、銅管部分をより強度のあるSUS管等に変更することを検討することとした。
152	2010-123	製造事業所(LP)	車面の誤発進によりローディングアームが破損しLPガス漏えい	2010/5/13	岐阜県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	充填所	配管、ローディングアーム	＜通常運転中＞	＜認知確認ミス＞	無	5月13日に、充てん所内のLPガスタンクローリー受入口付近において、LPガスタンクローリー車からLPガス充てん後、安全確認を行わずに液相ローディングアームを接続したまま発車し、ローディングアームが外れ破損した。その破損箇所から液状LPガス約30kg(推定)が噴出し、ガス漏れ警報器が作動した。警報音に作業員が気づいて、緊急遮断弁を作動させガスの噴出を止めた。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
153	2010-107	製造事業所(LP)	デイスベンサー内のフレキシブルホースからのLPガス漏えい	2010/5/17	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	フレキシブルホース	<通常運転中>	<劣化> (疲労)	無	平成22年5月17日に、スタンド内の各設備の自主点検を午前11時からLPガス貯槽、配管、デイスベンサー(No.3・No.4)という順番で、ガス検知器を使用して実施し、最後にデイスベンサー(No.1、No.2)を実施したところ、同デイスベンサー(No.1、No.2)内部の2番ホースにつながるフレキシブルホースの中間部分から、LPガスの漏えいを発見した。ただちに、デイスベンサー(No.1、No.2)の元バルブを閉止し、使用中止した。さらに、他の部分について異常のないことを確認し、デイスベンサー(No.1、No.2)の使用中止については、異状がないのを確認済みであったため、平常通り使用した。漏えい量は、微量と推定される。(始業時点検の時は、メーターが振れていないのを確認している。)原因は、デイスベンサー内のフレキシブルホースの疲労によるものと推定される。今後は、日常点検(始業時、17時)で、デイスベンサー内部のガス漏れ等の確認を行うよう徹底することとした。また、定期自主検査等の方法について、親会社及び委託先指定保安検査機関と検討することとした。
154	2010-178	製造事業所(LP)	スタンド内のLPガス500kg容器的液面計からの漏えい	2010/6/1	滋賀県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	容器本体、液面計	<停止中>	<劣化>	無	平成22年6月1日19時00分、タクシー会社の営業所内に設置されているガス漏れ警報器が作動した。製造施設を点検したところ、LPガス500kg容器6本のうち1本の液面計部分から、ガスが漏えいしていることが確認された。原因は、LPガス500kg容器液面計の流量点検バルブに取り付けられているゴム部品が劣化変形し、抑えが効かなくなりガスが漏えいしたと推定される。また、このゴムは経年による劣化の他、残量確認の際のガス放出によって凍結し変形することもありえるため、残量確認操作時の確認不足も考えられる。今後は、容器再検査において、当該ゴム部品を交換することとした。また、従業員に今回の事故について、周知徹底を行うこととした。
155	2010-356	製造事業所(LP)	スタンドの保安検査中、3箇所からの漏えい	2010/6/14	山梨県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	スタンド	配管	<定修中>(点検)	<劣化>	無	スタンド内で、保安検査の気密試験(N2加圧、1.77MPa)を実施している際に、N2ガスが漏えいた。漏えいは3箇所を確認され、それぞれ、No.1デイスベンサー液ライン25Aフランジ部、No.2デイスベンサー液ライン25Aグラッド部、戻りガスライン25Aスライズバルブジョイント部であった。なお、漏えい量は極微量であった。原因は、気密試験時に設計圧力1.77MPa(常用圧力0.4MPa～0.5MPaの4倍)に加圧したためと推定される。
156	2010-151	製造事業所(LP)	LPガス製造施設の蒸発器からのLPガス漏えい	2010/6/22	愛媛県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	製鉄所	蒸発器	<通常運転中>	<劣化> (腐食)	無	6月22日17時、事業所内で日常点検を行った保安係員が、蒸気ドレンヒット周辺よりLPガス臭がすることに気が付いた。発生箇所、原因を特定できなかったが、ハンディガス濃度検知器で測定したところ、30～300ppm程、かつ屋外で火気も付近にないことから、原因究明は翌日に持ち越した。翌日、検査会社が点検したところ、No.2蒸発器内部の気化筒からLPガスが漏えいし、蒸気に混ざってドレンヒットに排出されていたことが分かった。No.2蒸発器の使用を停止した。調査の結果、アウターチューブ(外側)はLPガスと接触し、内部は蒸気が通る)の下部及びインナーチューブ(内部は蒸気の入口側で外側は蒸気の出口側)は、蒸発に著しい減肉が発生していた。原因は、インナーチューブ根元は、蒸発器の運転停止時に常時水が溜まっている状態になるため、腐食が発生し減肉したと思われる。また、アウターチューブ内面下部は、液化した水蒸気が通るためエロージョンによる減肉が発生したものと推定される。なお、検査会社は、平成21年8月に開放検査を行い、アウター及びインナーチューブの腐食を確認したが、必要肉厚はあったので、早期交換の報告に留めていた。(事業所は検査報告を受け、平成22年9月に交換予定であった)

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状状態	事故原因	着火源	事故概要
157	2010-114	製造事業所(LP)	タンクローリーの溶接部からの漏えい	2010/6/26	栃木県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	運送	タンクローリー、配管、継手	<定修中>(点検)	<劣化>	無	タンクローリーで、保安検査で気密試験を実施している際に、弁箱内のガス配管接続部の溶接部に約0.3mm程度のピンホールがあり、漏えいしていることを発見した。溶接補修し、その箇所に染色浸透探傷試験により漏えいがないことを確認した。
158	2010-181	製造事業所(LP)	ディスプレイセンサ内部のフレキシブルホースからのLPガス漏えい	2010/7/5	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	ディスプレイセンサ、フレキシブルホース	<定修中>(点検)	<劣化>(疲労)	無	平成22年7月5日13時30分、LPガススタンドが、指定保安検査機関による高圧ガス製造設備の保安検査を受けた。保安検査の気密試験実施中に、指定検査機関検査員がディスプレイセンサ内部のフレキシブルチューブからの微少漏えいを発見し、直ちに製造設備を停止した。漏えい箇所は、フレキシブルチューブとロングエルボ(90度)の接合部分で、石鹸水による気密試験の際にカニ泡の発生が認められた。原因は、前回交換(平成10年)から12年経過していることから、金属疲労による経年劣化と推定される。
159	2010-164	製造事業所(LP)	LPガス残ガス回収用容器の安全弁からの漏えい	2010/7/15	兵庫県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	充填所	安全弁	<停止中>	<認知確認ミス>	無	LPガス充てん所内で、深夜、貯槽下のガス検知警報装置が作動したため、宿直者及び近くに滞在する保安係員が現場へ駆けつけ、調査したところ、残ガス回収用容器の安全弁の水抜き用の穴から、ガスが漏えいしていることを発見した。宿直者及び保安係員が、残ガス回収用容器から貯槽へのバイパスラインを開け、容器内のガスを貯槽へ送り、容器の内圧を下げて漏えいを止めた。なお、第三者からの通報により、市消防本部が出動したが、現場到着時には既に漏えいは止まっており、安全を確認して引き揚げた。原因は、残ガス回収用容器には、20トン貯槽への戻りラインが付属しているが、当日は貯槽がほぼ満杯状態であったため、終業時に戻りラインのバルブを閉止していた。容器にもほぼ満杯状態のLPガスが入っており、終業時(雨天)から漏えい時(曇天)にかけての気温の上昇により、容器内の圧力が上昇し、安全弁が吹き始めたものと推定される。今後は、終業時の残ガス回収容器内のLPガス量を、50%以下とすることとした。
160	2010-192	製造事業所(LP)	LPガス受入設備の液相配管の安全弁からの漏えい	2010/8/6	秋田県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	食品	容器本体、安全弁	<荷役中>	<劣化>	無	8月6日14時50分に、移動式製造設備からLPガス2,900kg容器へ充てんを開始し、14時55分に容器側の液相配管の安全弁が作動した。2名の充てん作業員は直ちに充てんを終了し、移動式製造設備の移動と安全弁の対応にあたった。容器の圧力を下げる対応(放水)したが放出が止まらず、安全弁元弁を閉止した(放出時間は約10分)。翌8月7日に安全弁の点検動作検査を検査事業者が実施した結果、安全弁が正規の圧力での動作をしていないことを確認したため、後日交換することとした。原因は、分解確認した結果、吹き出しに関しては、スプリングの腐食による強度劣化により、設定圧力に狂いが生じたと推定される。また、吹き止まりに関しては、シートパッキンの劣化硬直(溝が出来ていて)により、圧力低下時に戻った時と同じ位置に戻れなかったため、弁座、シートパッキンに気密性が失われ、漏えいが継続したと考えられる。
161	2010-237	製造事業所(LP)	荷役中のバルクローリー車の誤発進によるLPガス漏えい	2010/9/16	山形県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	ローリー	<荷役中>	<認知確認ミス>	無	充てん所内で、バルクローリー車にLPガスを受入れ終了後、運転手が受入ホースを取り外さずに、バルクローリー車を発進させたため、受入ホースが破断した。直ちに、バルクローリー車の緊急停止装置を起動したが、作動しなかったため受入バルブを手動で閉止したが、LPガスが漏えいした。
162	2010-240	製造事業所(LP)	ディスプレイセンサのフレキシブルホース接続部からのLPガス漏えい	2010/9/29	岩手県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	スタンド	ディスプレイセンサ、フレキシブルホース	<通常運転中>	<製作不良>	無	平成22年9月29日、県防災室職員が、スタンドの立入検査で漏えい検査を実施したところ、ディスプレイセンサのガスセパレーターと金属フレキシブルホースの接続部分から、LPガスが漏えいしていることを確認した。原因は、平成22年8月24日に実施したディスプレイセンサの開放検査終了後の組立時において、ガスセパレーターに接続する金属フレキシブルホースの接続箇所を誤った上下逆に接続したため、適正なパッキンが使用されなかったためと推定される。なお、このフレキシブルホースは、上下でフランジのレイティングが異なっていた。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
163	2010-279	製造事業所(一般)	LPガス移動式製造設備の配管溶接部からの漏えい	2010/9/30	宮城県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	運送	タンクローリー、配管	<定修中>(点検)	<劣化>	無	平成22年9月30日、タンクローリーの保安検査受検中に、窒素で気密試験を実施したところ、配管溶接部からの微少漏えいが確認された。原因は、稼働状態における振動、及び凍結防止剤の跳ね上がり等により、配管溶接部が劣化腐食したためと推定される。
164	2010-283	製造事業所(一般)	LPガス貯蔵基地の配管溶接部からの漏えい	2010/10/15	石川県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	貯蔵基地	配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	10月15日14時00分、事業所内で、配管腐食箇所のケレン作業を実施していた工事業者より配管溶接線部からガス漏れの音がするとの通報を受け、保安係員が確認したところ、配管溶接線の腐食箇所ピンホールを発見した。14時1分、ガス漏えい箇所を確認後、漏えい配管部の切り離し、並びに脱圧作業実施した。14時3分、社内関係部署へ事故を報告した。14時30分、漏えい配管を切り離し、脱圧作業を終了した。14時35分、石川県危機管理監室消防保安課へ事故を報告し、15時45分に、漏えい配管の更新工事を依頼した。
165	2010-287	製造事業所(一般)	LPガス容器の転倒の衝撃によりバルブがゆるみ漏えい	2010/10/24	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	充填所	容器本体	<通常運転中>	<その他>(外部衝撃)	無	充てん所において、LPガス50kg容器13本が置かれていたブラットホームが折損し、LPガス50kg容器13本が転倒した。うち、1本について、転倒の衝撃でバルブがゆるみ、LPガスが漏えいした。近隣住民からガス臭の通報が事業所、警察、消防にあり、事業所職員が直ちにバルブを閉め、漏えいを停止させた。なお、漏えい量は110kgと推定される。原因は、ブラットホームの老朽化による腐食と推定される。
166	2010-001	製造事業所(一般)	天然ガススタンド内の圧縮機からの漏えい	2010/1/6	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	配管、熱交換機	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	圧縮天然ガススタンドにおいて、圧縮機ユニットから天然ガスが漏えいした。原因は、2段クーラー入口継手と伝熱管溶接部に、経年使用による振動や熱による繰り返し応力が加わり、疲労破壊したと推定される。今後は、振動及び熱応力に対応した新型クーラーと交換することとした。
167	2010-066	製造事業所(一般)	圧縮機出口側の油分分離器からのガス漏えい	2010/1/11	栃木県	0	0	0	0	窒素、炭酸ガス	漏洩等	一般化学	圧縮機、油分分離器	<通常運転中>	<劣化>(腐食)、<その他>(調査中)	無	11月14時30分頃、従業員が事業所内の巡回点検中に、窒素圧縮機出口側の油分分離器からガスが漏れているのを発見した。当該機器を停止した。原因は、ガスに含まれる水分で油分分離器の本体が腐食したためと推定される。なお、当該箇所は、保安検査等で異常は確認できなかった。事故箇所周辺について、肉厚測定や放射線透過試験を実施したところ、減肉は確認できなかった。また、構造が複雑なため放射線透過試験では一部判定できない箇所もあった。同じラインが2ラインあるが、もう一方のラインについても肉厚測定、放射線透過試験を実施したが、減肉は確認できなかった。
168	2010-008	製造事業所(一般)	OEの送ガス蒸発器からの液化窒素漏えい	2010/1/15	山形県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	機械	コントロール、エバポレーター、蒸発器	<通常運転中>	<その他>(外部衝撃)	無	液化窒素製造設備の送ガス蒸発器に付着した霜を、取り払うために行った打撃により本体が破裂した。
169	2010-009	製造事業所(一般)	移動式液化窒素製造設備の加圧蒸発器からの漏えい	2010/1/18	宮城県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	運送	タンクローリー、加圧蒸発器	<定修中>(点検)	<製作不良>	無	移動式液化窒素製造設備の保安検査の事前検査で、気密試験を実施していたところ、加圧蒸発器フィン管部からガスの漏えいが確認された。原因は、フィン管の押さえ部が管に接触した状態で長期間運行することにより、振動で管が摩耗し漏えいに至ったと推定される。
170	2010-142	製造事業所(一般)	液化炭酸ガス製造施設の圧縮機吐出のフレキシブルホースからの漏えい	2010/1/22	福岡県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	食品	フレキシブルホース	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	液化炭酸ガス製造施設内で、巡視点検中、No1コンプレッサー吐出インのフレキシブルホースからの微少漏えいを確認した。ただちに、保管していた予備品と取替を行った。(前回交換は平成19年11月15日)原因は、コンプレッサーの振動による金属疲労と推定されるが、フレキシブルホースは破棄しているため、詳細については不明であり、現在メーカーに見解を求めている。
171	2010-067	製造事業所(一般)	窒素充てん作業中のブロー弁からの漏えい	2010/1/28	茨城県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	弁、パッキン	<通常運転中>	<劣化>	無	1月28日10時頃、事業所において、充てん作業中に充てんラインの置換用ブロー弁が閉め切らず、液体窒素がブロー弁から漏えいた。原因は、ブロー弁パッキン、ソフトシートの消耗劣化によるものと推定される。今後は、日常点検項目を見直し、パッキン類の寿命と増し締め周期を記録することとする。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
172	2010-031	製造事業所(一般)	CEの配管継手部からの酸素漏えい	2010/2/12	秋田県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	その他(病院)	コールド・エバポレータ、配管、継手	<通常運転中>	<劣化>	無	CEの日常点検で、石鹸水で漏えいを確認したところ、三岐弁の配管接続継手部からカニ泡微少漏えいを見つけたため、管理会社と連絡した。袋ナットを増し締めするが漏えいが止まらなかった。原因は、ねじ部の経年劣化等が推測できるが、原因特定に至っていない。継ぎ手箇所にも異常はなかった。
173	2010-035	製造事業所(一般)	希硝酸プラントの配管からのアンモニア漏えい	2010/2/17	福岡県	0	0	0	0	アンモニア	漏洩等	一般化学	配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	希硝酸プラント運転時、パトリール中にアンモニアフィルタ周辺でアンモニア臭を感じた。付近の配管の断熱材を取り外し点検した結果、直にアンモニアガスSUS配管より微漏れしているのを石鹸水で確認した。直ちにプラントを停止し、脱圧処置を行った。設備周辺への臭気等の環境影響は無く、人的被害も無かった。原因は、断熱材の雨仕舞い不良箇所から進入した雨水と断熱材により、塩素分含有の付着物を生成したため、トレース管近傍の温度の比較的高い部位において応力腐食割れが発生したと推定される。
174	2010-354	製造事業所(一般)	圧縮機の温度計取付ボスの溶接部からの漏えい	2010/2/24	山梨県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	配管	<定修中>(点検)	<劣化>(疲労)	無	平成22年2月24日10時頃、スタンド内で、バスの整備員からガス臭の連絡を受け、設備点検を実施したところ、圧縮機室のガス臭及び停止中である1号天然ガス圧縮機の圧力低下を確認した。(通常0.5MPaが0.3MPaを指示)また、ガス警報検知器の濃度も800ppmを表示していた。なお、圧力低下よりガス漏えい量は、約1.2m3と推測される。人的、物的被害はなく、周囲への影響もなかった。調査の結果、1号天然ガス圧縮機の4段吐出配管の温度計取付ボス溶接部から漏えいしていた。(温度計取付ボスを取り外し、両端配管をプラグ止めて、N2養生を実施)このボス溶接部の漏えい箇所をPT試験した結果、ボス入側の溶接部分(下側に約半周)にき裂が確認され、起点部外径表面にはグラインダー擦傷が観察された。また、SEM観察により、破面の大半にストライエーションが観察された。このことより、原因は、疲労破壊によるものと推定される。破損部には、擦傷跡が確認され、そこが起点となり、圧縮機の振動で、温度計取付ボスと配管の溶接部分に応力が集中し、疲労破壊したと考えられる。
175	2010-046	製造事業所(一般)	液化酸素ローリーの加圧蒸発器のマンホールからの漏えい	2010/3/5	宮城県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	その他(病院)	タンクローリー、配管、蒸発器	<定修中>(点検)	<劣化>(腐食)	無	液化酸素ローリーの加圧蒸発器で、入口側マンホールからの漏えいが発見された。発見後、加圧器入口弁及び加圧器出口弁を閉め、加圧蒸発器にガスが回らないように措置した。原因は、加圧蒸発器の外枠とマンホールをUボルトで固定している部分で、マンホールと外枠が接触しないように板材を挟んでいたが、冬期間の走行により、マンホール(アルミ)と板材との間に融雪剤が付着し、部分的な腐食が発生したと推定される。
176	2010-049	製造事業所(一般)	天然ガススタンドの充てんホースからの漏えい	2010/3/5	福岡県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	ディスプレイサ、ホース	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	平成22年3月5日17時50分頃、スタンド内で、作業員がNo.2ディスプレイサを使用し天然ガス自動車へガスを充てんしていた。その際、No.2ディスプレイサのホースよりガスが霧状に噴出、ホースに霜がついていることを発見したため充てんを中止した。原因は、充てんによるコアチューブ内面に生じる張力によって、円周方向に引き伸ばされた痕が確認されており、更に充てんを続けることにより圧力が繰り返し加わることで、成長してクラックに至ったと推定される。今後は、5年使用充てんホースは交換することとした。
177	2010-072	製造事業所(一般)	CE設備の銅配管ろう付部からの窒素ガス漏えい	2010/3/19	福島県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	機械	コールド・エバポレータ、配管、ろう付	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年3月19日9時10分頃、事業所において、ローリー車での液化窒素納入時に立ち会っていた際、ローリー運転手がCEと蒸発器の間の銅配管エールボウ付け部から、微少の窒素が漏れているのを発見した。原因は、銅配管の経年劣化によるものと推定される。今後は、恒久的対策としてSUS配管で施工することとした。また、再発防止対策として日常点検の強化を再徹底することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
178	2010-061	製造事業所(一般)	OEの受入配管ろう付部からの酸素漏えい	2010/3/26	埼玉県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	鉄工所	コールド・エバポレータ	<荷役中>	<劣化>	無	ローリーでの液化酸素充てん中に、受入配管からのガス漏れを発見した。ただちに充てんを中止し、漏えい箇所を特定するために受入配管が常温に戻った後、発泡検査を実施した。その結果、フロー管接続部のT継手と、配管のろう付接続部の割れからの漏れが確認された。原因は、充てん毎に行われるフロー作業において発生する振動により、溶接部に繰り返し加重がかかり、疲労が発生したと推定される。今後は、協力会社及びローリー納入事業者には、充てん時の漏えい確認で従来の充填フレキ接続フランジ部に止まらず、フロー弁ラインも漏えい確認してから作業開始する様、周知徹底することとした。
179	2010-075	製造事業所(一般)	圧縮機ユニットからの天然ガス漏えい	2010/4/5	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	圧縮機	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	無	圧縮天然ガススタンドにおいて、圧縮機ユニットから天然ガスが漏えいした。一段クーラーを取り替える上、圧縮機メーカーにて調査中である。今後は、作業員に対し日常点検の内容を再教育することとした。
180	2010-082	製造事業所(一般)	OEのバイパス配管からの液化酸素漏えい	2010/4/13	愛知県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	その他(病院)	コールド・エバポレータ、配管	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	無	平成22年4月13日、病院において、日常点検時(13:50頃)、緊急遮断弁周りについた霜の隙間から白煙が発生しているのを発見した。周囲に付着した霜を水で溶かしたところ、緊急遮断弁ラインとバイパスラインの合流部分の溶接箇所下側から、液化酸素が漏えいしていたため、消防及びガス供給事業者と連絡した。消防が出勤し、半径20mを立ち禁止とした。18:30頃、病棟への酸素供給のためのバックアップ容器に切替えて元弁を閉じた後漏えい箇所を確認したところ、溶接部分下部にき裂を発見した。原因は、緊急遮断弁のバイパスライン増設時の溶接箇所なき裂が発見されていることから、施工時の溶接に問題があった可能性が推定される。また、配管の霜を除去するため木槌で衝撃を与えた際の衝撃の可能性も考えられる。今後は、日常点検において、月1回発泡試験液による漏えい検査を実施することとした。
181	2010-084	製造事業所(一般)	アキュムレーターの空気側配管付属ドレン抜きバルブからの漏えい	2010/4/15	大阪府	0	0	0	0	空気	漏洩等	製鉄所	弁	<定修中>(点検)	<劣化>	無	製鉄所のアキュムレーター据え付け完了後の気密テストにおいて、差圧発信器行きの空気側配管の付属ドレン抜きバルブより極小量の空気が漏れが検出された。原因は、当該バルブを解体点検した結果、長期使用により、バルブの“オリング”部のシーリングが低下したこと、アキュムレーター更新工事において、ドレン抜きバルブを含む配管の取り外し、取り付け作業でコンタミ混入したためと推定される。今後は、ドレン抜きバルブは、高圧圧縮空気中の水分を除去するために設置されたものだが、高圧圧縮空気中の水分が少ないこと(圧縮機側でドレンが排出されている)及び差圧発信器側でドレン抜きを行うことから閉止フランジを取付けることとした。また、付属バルブ類の管理として、①開放検査(1回/3年)、自主検査(1回/年)時、外観検査と気密試験を実施する際に、気密検査範囲の明確化とバルブ単位での記録を取ることとした。②高圧ガス設備更新時に、流用するバルブ類は、解体・点検を実施することとした。
182	2010-086	製造事業所(一般)	酸素製造設備の配管から酸素漏えい	2010/4/18	愛知県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	製鉄所	配管	<通常運転中>	<劣化>	無	他事業所から、導管供給を受けている酸素の製造設備の巡視点検中に、ガスの漏えい音がしたため付近を確認すると、流量発信器への取出口配管(15A)の継手部分が折損し、酸素ガスが漏えいしていることを発見した。供給先の設備を全停止し、主配管のバルブを閉止し、プラグを打って応急処置を行った。原因は、流量発信器への取り出し配管は口径が15Aと小さく、また配管のサポート間隔が長かったため、周辺の機器(圧縮機、減圧弁の開閉)の振動が伝わり、当該配管の継手部分を支持点とした片持ち梁となり継手部分に応力が集中したため疲労破壊が進行し、ついに継手部分が折損に至ったと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
183	2010-090	製造事業所(一般)	圧縮機ユニット内の熱交換器出口配管からの天然ガス漏えい	2010/4/21	宮城県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	圧縮機、配管	<定修中>(点検)	<劣化>(摩耗)	無	平成22年4月21日午前10時30分頃、スタンド内で、定期自主検査及び保安検査を実施している際に、圧縮機ユニット内からガス臭を感じたため、漏えい箇所の調査をした結果、圧縮機熱交換器の1段吐出配管入口側の上から3番目の配管からの漏えいを発見した。指定保安検査機関、及び居合わせた市消防局に漏えいの状況を報告し、使用停止の措置を行った。原因は、老朽化によるものと推定される。
184	2010-102	製造事業所(一般)	圧縮機の冷却器入口配管のろう付部漏えい	2010/5/6	神奈川県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	配管、継手、ろう付	<停止中>	<設計・構造上の不良>	無	5月6日8時10分頃、天然ガススタンドで、始業点検のため圧縮機室内に入ったところ、ガス臭がしたので、ガスラインを遮断し、充てん作業は行わないこととした。11時40分ごろ、メーカーが到着し調査したところ、一段目冷却器の入口配管のソケット継手ろう付部付近から漏えいしていることが判明した。前日5日17時半に終業時点検を行っているが、この時漏えいは確認されていなかった。漏えい量は、前日終業時から当日始業時までの圧力変化(4.18～2.96kg/cm3)から、0.495m3と推定される。なお、圧縮機室内のガス漏えい検知警報器は、目盛り0.8を指示していたが、目盛りは対数目盛で検出限界以下の数値であった。事故原因の調査は、第三者機関に依頼しているが、昨年東京都内で発生した同メーカー施設の漏えい事故の原因と同様と考えられる。一段目冷却器の入口配管は、銅合金でソケット継手はろう付されているが、配管本体のろう付け境界部分の円周方向に割れが発生していた。割れは配管表面のろう付け境界部分を起点として発生し、破面は疲労破壊特有のストライエーションが見られ、き裂の原因は、熱応力と振動による金属疲労と推定される。なお、メーカーは、東京都での事故の後、順次応力吸収等の改善済みの機器と交換を進めているが、当該事業所は、漏えい事例を知られていなかった。
185	2010-122	製造事業所(一般)	充てん作業中に充てんホースから水素漏えい	2010/5/12	愛知県	0	0	0	0	水素	漏洩等	その他(研究所)	ホース	<通常運転中>	<劣化>(疲労)、<その他>(調査中)	無	水素ステーションで、試験充てん容器に水素を充てん中、ディスプレイ内部に設置した水素ガス漏えい検知警報設備が発報した。ただちに、充てんを中止し脱圧を行った。その後、脱圧状態でディスプレイサー付近の充てんホースに石けん水を塗布したところ、ディスプレイサーホースの途中から、力ニ泡程度の漏えいを確認した。漏えいがあった充てんホースを製作メーカーで調査したところ、ホースの内面のナイロン層に貫通き裂を確認した。このき裂から補強層、外面層を経て外部に漏えいしたものと考えられ、原因は、き裂箇所の付近にはストライエーションがあったため、疲労であると推定される。
186	2010-109	製造事業所(一般)	CEの充てん配管と弁のろう付部からの漏えい	2010/5/19	神奈川県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	電気	コールド・エバポレータ、配管、ろう付	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	事業所内で、CEのプロロー弁の締りが悪くなったので、プロロー弁のバッキング交換を行い、工事終了後、石鹸水で漏えいテストを行ったが、ついでに当該プロロー弁以外の部分に石鹸水をかけたところ、充てん配管と弁の接続部のろう付け部から、かに泡程度の漏れがあることを発見した。原因は、ガス漏えい箇所は、SUS304の配管と銅合金弁との接続部のろう付け部であり、液化窒素受け入れ時の超低温と常温の大きな温度差による熱応力(膨張収縮による応力)が繰り返しかかる場所であり、設置後20年経過していることから、ろう付け部が疲労により損傷したものと推定される。
187	2010-110	製造事業所(一般)	圧縮機吐出配管とアフタークーラーとの溶接部より天然ガス漏えい	2010/5/20	石川県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	圧縮機、配管	<通常運転中>	<その他>(調査中)	無	5月20日に、天然ガススタンドで、ガス検知警報装置の指示値が上昇(警報は作動前)したため、各所の点検を実施した。21日に、メーカーがCNG圧縮機4段吐出管とアフタークーラー伝熱管との溶接部から、力ニ泡程度のガス漏れを確認した。26日に、3、4段クーラーを交換し、27日に、県へ事故届書提出した。
188	2010-124	製造事業所(一般)	CEバルブ取付部の溶接箇所からの漏えい	2010/5/22	茨城県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	コールド・エバポレータ	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年5月22日、事業所内で、液化窒素製造施設の整備点検中に、保安係員が貯槽直近にあるバルブの貯槽側溶接部から、微少の漏えいを発見した。原因は、設備の老朽化によるものと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
189	2010-147	製造事業所(一般)	圧縮機ユニットの3段アフタークーラー入口の配管溶接部からのCNG漏えい	2010/5/22	兵庫県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	配管、継手	<通常運転中>	<製作不良>(溶接欠陥)、<劣化>(疲労)	無	事業所内で、圧縮機ユニット内のガス漏えい検知警報装置が作動した。作業員が確認したところ、3段アフタークーラー入口の配管差込溶接部で漏えいしていた。原因は、溶接不良か、振動又は熱応力による疲労によるものと推定される。
190	2010-129	製造事業所(一般)	水素カードルのバルブろう付部からの漏えい	2010/6/5	福島県	0	0	0	0	水素	漏洩等	一般化学	容器本体、継手	<定修中>(点検)	<劣化>	無	事業所内の定期自主点検(年2回予定)で、水素カードルの気密試験を実施(石けん水での漏えい確認)したところ、安全弁につながるバルブの継ぎ手(ろう付け部)から、発泡を確認した。ただちに、バルブを全閉し水素ガスを遮断し、当該ガス系統を使用停止とした。(当該設備は、2系統で4基の水素カードルを使用)。バルブを新しいものと更新する予定であるが、それまでは当該ガス系統を使用停止とする。原因は、平成3年に設置されたもので、19年が経過しており、設備の劣化によりろう付け部が割れたと推定される。毎年2回の定期自主点検、日常点検は行っていた。
191	2010-157	製造事業所(一般)	炭酸ガス設備の気化器からの漏えい	2010/6/7	群馬県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	一般化学	気化器	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年6月7日、炭酸ガス製造設備で、気化器水面計が上下しているため確認したところ、2本あるコイルのうち、1本のコイル底部に穴が開き、ガスが漏えいしていることが判明した。また、応急処置としてコイルを抜き取り、仕切栓の取付を行おうとしたところ、気化器の出口継手部分にもカニ泡程度の漏れが確認された。原因は、永年使用による劣化により、気化器コイルにピンホール程度の穴が開いたと推定される。
192	2010-158	製造事業所(一般)	スタンド内のフレキシブルホースからの漏えい	2010/6/8	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	継手、フレキシブルホース	<通常運転中>	<劣化>	無	スタンド内のガス圧縮機のエンクロージャー内で、ガス圧縮機が停止している際に、若干のガス臭気(ガス漏れ警報器の作動には至らず)があり、点検を行った結果、ガス圧縮機吐出口側と蓄ガス器間のフレキシブルホースのくしめ部より少量のガス漏れを発見した。原因は、フレキシブルホースの経年劣化によるものと推定される。今後は、作業員に對し運転標準と日常点検の重要ポイントを再徹底、及び月例点検での点検項目にフレキシブルホースくしめ部を追加することとした。
193	2010-134	製造事業所(一般)	車面の誤発進によりデイスベンサーを引張り漏えい	2010/6/11	東京都	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	継手、ホース	<停止中>	<認知確認ミス>	無	平成22年6月11日12時55分頃、スタンド内で、フォークリフト6台を順次充てん中、電話があったため充てん場所を離れた。電話が終わって戻った際、充てん作業が完了し充てんホースを外してあるものと勘違いをして、フォークリフトを発進させた。緊急離脱ガブラが外れずに充てんホース上部ねじ込み部から折断した。なお、事故発生当時、充てんサイクルが完了しており、デイスベンサー本体の電磁弁が閉じていたため、充てんホース内に残っていたガスしか漏れなかった。原因は、エンジンキーの抜き忘れと充てん作業中に現場を離れたことであつた。今後は、エンジンキーの預かり置き、及び充てん終了後の指差し確認を徹底することとした。
194	2010-159	製造事業所(一般)	天然ガス充てん施設のバルブ溶接部からの漏えい	2010/6/14	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	弁	<停止中>	<劣化>(疲労)	無	天然ガススタンド内で、充てんしようとした社員から、充てんできないとの報告があり、異常等調べましたが原因がわからず、保守事業者に点検を依頼した結果、バルブ溶接部分からのガス漏れを発見した。原因は、バルブ溶接部分の劣化によるものと推定される。
195	2010-162	製造事業所(一般)	CEの蒸発器ヘッダーとコイル接続部からの漏えい	2010/6/28	宮城県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	鉄工所	コールド・エバポレータ、配管、蒸発器	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内のCE設備の日常巡回点検時、液化酸素温水式蒸発器の水槽の上部水面に気泡を発見した。後日水槽内の水位を下げ、接続部に石鹼水を塗布したところ、蒸発器下部の入口用ボス(C1220T-H)とコイル接続部(C1220t-H)1箇所(ヘッダーとコイル用ボスのTig溶接部)より微量の漏れを確認した。蒸発器については、平成9年に設置されて以来、1年に1回の定期自主点検においては、水槽の水は抜かずに、気泡の有無により外観検査、水槽水面より上部の気密検査及び入口管、出口管の肉厚測定を行ってきた。原因は、腐食または施工時の溶接欠陥と推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
196	2010-168	製造事業所(一般)	CEの温水気化器からの炭酸ガス漏えい	2010/7/22	千葉県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	建設	コールド・エバポレータ、気化器	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	7月22日8時00分頃、事業所内の液化炭酸ガス製造設備の点検を行なったところ、温水式気化器から炭酸ガスが漏れていることを発見した。メーカーに連絡し、応急措置を行なって漏えいを止めた。後日、気化器は新品(認定品)と交換した。原因は、経年劣化による肉厚の減少と推定される。今後は、定期検査で劣化が見られた設備については、早めに補修、取替えを行うこととした。
197	2010-169	製造事業所(一般)	CEの検液弁と配管接続のろう付け部から酸素漏えい	2010/7/22	愛知県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	その他(病院)	コールド・エバポレータ、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年7月22日9時30頃、事業所内の定期自主検査実施時に、酸素CEの検液弁と一次側配管との接続部分(差込ろう付け部)に、気泡液を塗布して漏えい試験を実施したところ、30分経過後にカニ泡を発見した。原因は、経年劣化、及び長年に亘る液化酸素受入時の検液弁操作による振動で、ろう付け部分に亀裂が生じたためと推定される。今後は、日常点検において、1日1回発泡試験液による漏えい検査を実施し、漏えい状況を監視することとした。
198	2010-174	製造事業所(一般)	液化酸素CEの配管溶接部からの漏えい	2010/7/27	埼玉県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	紙・パルプ	コールド・エバポレータ、配管、弁	<通常運転中>	<劣化>、<その他>(外部衝撃)	無	タンクローリーの運転手が、液化酸素CEタンクに液化酸素の充てんが終了した後、充てんホースを外す際、充てん口と逆止弁間の配管溶接部からの漏えいの疑いを持ち、事業所及び配送本社に連絡した。翌日、検査会社が窒素ガスで気密試験を行ったところ、配管溶接部からの微少漏えいが発見された。原因は、充てん口が充てんホースの脱着時にハンマーを利用するハンドクラッチ方式であるため、充てんの都度、充てん口には長年ハンマーによる衝撃が加わり、経年劣化と併せて溶接部に亀裂が生じたためと推定される。
199	2010-190	製造事業所(一般)	窒素CEに付属する加圧蒸発器からの漏えい	2010/7/15	福島県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	電気	コールド・エバポレータ、蒸発器	<定修中>(点検)	<劣化>	無	7月15日に事業所内で、窒素ガス製造設備の定期点検中に事前検査(気密試験)を実施した際、液化酸素CEに付属する加圧蒸発器の溶接部2箇所より、微量の漏えいを確認した。原因は、長期間の使用による溶接部の劣化によるものと推定される。
200	2010-204	製造事業所(一般)	天然ガスをスタンド内で車両の誤発進によるカブラの作動	2010/7/28	静岡県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	ディスプレイ、センサー、カブラ	<充填中>	<認知確認ミス>	無	天然ガスをスタンド内で、伝票発行機が故障したため、従業員が手書き伝票を発行して対応していた。車両2台が同時に充てんを完了した際、うち1台の充てんカブラーを接続したまま手書き伝票を運転手に手渡しただため、充てん作業が完了したものと思い込んだ運転手が車両を発進させ、ディスプレイの充てんホースが破損した。これにより、充てんホース内の残ガス(約0.2L)が漏えいた。原因は、従業員に対する通常、及び非常状態における充てん作業方法についての教育が不足していたためと推定される。また、従業員と運転手の意思の疎通が不十分で、充てん作業中に「作業中」と表示されたパイロンを設置して誤発進を防止することとした。また、通常の充てん作業、及び非常状態での充てん作業について、従業員に再教育を実施することとした。
201	2010-214	製造事業所(一般)	反応器の出口配管ドレンノズルからの水素漏えい	2010/8/14	千葉県	0	0	0	0	水素、油	漏洩等	一般化学	反応器、配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	事業所内で、製油部の運転員が第2潤滑油水素化精製装置の反応器(FC-131)の周りを定期巡視中、8時50分に反応器の出口配管付近から油滴が落ちていたことを発見した。保温材を解体し確認したところ、反応器の出口配管のドレンノズルから、ガス化した油と水素が漏えいしていることを確認した。11時33分にシャットダウンを開始し、18時30分に系内窒素置換を完了した。漏えい箇所は、反応器(FC-131)の出口配管に設置された、三方弁のパイプスリーブの出口近傍のドレンノズルで、2箇所が割れが発生していた。なお、人的、物的被害はなかった。原因は、ドレンノズルの塩化物物応力腐食割れと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
202	2010-195	製造事業所(一般)	液化アンモニア蒸発器の気密試験中の窒素漏えい	2010/8/17	福島県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	蒸発器	<定修中>(点検)	<劣化>(腐食)	無	事業所内で、液化アンモニア蒸発器の開放検査を行うため、8月4日に系内の液化アンモニアを窒素に置換して気密試験を実施したところ漏えいは無かった。開放検査を実施し、8月17日に設備を復旧するため気密検査を実施したところ、蒸発器下部ブローノズルからガスが噴出した。8月4日に、ガスをアンモニアから窒素に置換してあるので漏えいしたガスは窒素であり被害等はなかった。ブローノズルは、常に保温材が巻かれており、外部目視ができない状況であった。当該設備の同一系統の他部で定点を定めて肉厚測定を実施していたが、保温材で巻いてある部位については非破壊検査は未実施であった。そのため、外部腐食による減肉の発見ができなかった。
203	2010-217	製造事業所(一般)	食品製造設備の配管から水素漏えい	2010/8/20	静岡県	0	0	0	0	水素	漏洩等	食品	配管	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所内で、食品原料を仕込槽から反応器へ送る仕込ラインの派動が大きかったため、仕込ラインに設置された仕込ポンプのノイズダンパーに水素ガスを供給して安定化を試みたところ、ノイズダンパー上部の水素配管から水素ガスが漏えいしているのを目視で確認したため、手動で設備を停止し、系内を窒素ガス置換した。原因は、設備の設置から30年以上が経過しており、経年劣化が進行したものと推定される。また、仕込みラインの配管の固定が簡素であり、派動によって漏えい箇所が割れが生じたものと考えられる。今後は、定期自主検査時の外見検査を強化することとした。また、配管のサポートを補強することとした。
204	2010-219	製造事業所(一般)	消防設備の保守点検中の二酸化炭素漏えい	2010/8/23	東京都	0	0	0	0	二酸化炭素	漏洩等	その他	消防設備、弁、容器本体	<定修中>(点検)	<誤操作>	無	事業所内で、消防設備保守点検業者が、二酸化炭素消火設備の保守点検を実施した際に、誤操作で二酸化炭素45kg容器17本中16本を発電機室内に放出させてしまった。作業員は発電機室内におらず、人的被害はなかった。その後すぐに発電機室内を立ち入り禁止とし、排気ファンにより強制排気を行い、消防署に連絡をした。原因は、二酸化炭素消火設備の手動モードによる機能確認試験を実施する前に、貯蔵容器ソレノイド(電磁開閉装置)2箇のうち、1個を取り外し忘れたためと推定される。これにより、起動確認試験時に二酸化炭素が放出された。今後は、作業手順の書面記載、作業前ミーティング、作業手順チェックリストの作成と活用、2人での操作手順の確認の徹底を行うこととする。
205	2010-223	製造事業所(一般)	CEの配管溶接部2箇所からの窒素漏えい	2010/8/25	山梨県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	機械	コールド・エバポレータ、配管	<通常運転中>	<劣化>	無	事業所に設置されている窒素CE(2基)の定期自主検査中に、配管、継手部等を漏えい検知液による確認を行った際、A貯槽では自動放出弁の入口配管溶接部、B貯槽では蒸発器の出口配管溶接部より漏えいが確認された。なお、漏えい量は極微量であった。原因は、経年劣化等により、溶接部にピンホールが発生したためと推定される。
206	2010-224	製造事業所(一般)	CEの気化器コイルからの二酸化炭素漏えい	2010/8/25	千葉県	0	0	0	0	二酸化炭素	漏洩等	機械	コールド・エバポレータ、配管、気化器	<消費中>(停止)	<劣化>	無	事業所内に設置されているCE設備で、社員が昼間点検時に、気化器よりガスが漏えいしているのを発見した。直ちに、気化器内部を確認したところ、水槽が凍結し配管が破裂していたため、送ガスを停止した。原因は、腐食箇所がコイルの底部、管の下側に集中し、破裂部分も最も底部であったこと、また腐食の仕方がクレータ状になっていたことからも、電食が発生し局部腐食を起こしたと推定される。電食は、気化器コイルの材質が銅、水槽及び水槽内サポートはSUS材であったため、異種金属が接触した状態で経年使用、及び水質の状態により気化器ヒーターより発生する極微量の電流、または他の電流の流入によるものであったと考えられる。
207	2010-260	製造事業所(一般)	CEの充填ラインのブローバルブ溶接部からの漏えい	2010/8/25	神奈川県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	コールド・エバポレータ、配管	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	事業所内で、ローリーからCE設備へ液化窒素を充填中、充填ラインのブローバルブ1次側の配管溶接部から、ごく微量の漏えいを発見した。原因は、ブローバルブの開閉操作による疲労と推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
208	2010-226	製造事業所(一般)	低温液化炭酸ガス容器からの漏えい	2010/8/27	千葉県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	充填所	容器本体	<その他>(保管中)	<認知確認ミス>	無	8月27日、5時10分頃、充てん所の前を通りかかった通行人が、構内の容器から白煙が発生していることを発見し、110番通報した。5時20分頃、近くの交番の警察が出勤し、現場を確認。同時に消防署へ連絡し消防車1台が到着した。警察が現場へ到着した時、LGC(低温液化炭酸ガス)からのガス漏れを発見し、漏れ箇所が付属しているバルブ(液取出弁)を閉め、漏えいを止めた。漏えい量は、約30～40kgであった。昨日11時頃に充てんしたLGC容器の内の1本が、バルブの締付け不足によりガス漏れを起こしたと推定される。LGC容器はバルブが3個(均圧弁、液取出し弁、放出弁)付属しており、この内、液取出し弁から漏れが発生した。充てんは、均圧弁から行い同バルブ、及び他の2個のバルブについても締め付けを確認しなければならぬが、それを怠ったことが原因であった。今後は、LGC容器の充てん終了後は、ガス漏えい検査と付属している3箇所のバルブの締め付けが、充分であるかの確認を徹底することとした。
209	2010-334	製造事業所(一般)	水素カードルに接続したフレキシブルホースからの漏えい	2010/8/30	長野県	0	0	0	0	水素	漏洩等	機械	容器本体、フレキシブルホース	<停止中>	<劣化>(腐食)	無	平成22年8月30日13時00分頃、事業所内でカードル容器を交換した後、自主検査を実施したところ微少な圧力低下を確認した。気密検査を行ったところ、3つあるカードルの一つに接続したフレキシブルホースの一部で微少漏えいを発見した。カードル交換時の不具合のため、当初事故との認識がなく、11月16日に管理会社から県現地機関へ報告があった。原因は、老朽化によるものと推定される。なお、今回漏えいが確認されたフレキシブルホースは、10年以上使用されていたが、2週間前の定期検査では異常がなかったため、使用を継続していた。
210	2010-241	製造事業所(一般)	脱脂高圧焼結炉からのアルゴンガス漏えい	2010/9/2	岐阜県	0	0	0	0	アルゴン	漏洩等	機械	炉	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	無	9月2日17時00分頃に、事業所の従業員が、高圧炉の安全弁より、ガスが漏れていることを発見した。直ちに装置を停止し、漏えいは止まった。漏えい量は不明であり、人的、物的被害はなかった。原因は、事故発生前日に記録計を取り付けたことにより圧力信号発信器から見た負荷インピーダンスが増加したため、高い出力電流の領域(高圧領域)で電流信号の減衰が起こり、真値より低い圧力を示した。このため、所定圧力5.90MPaまで加圧する自動制御の過程において、実際の圧力が5.90MPaを超えたにもかかわらず、電氣的には所定圧力にまだ達していないことになり、ガス導入が停止せず、またガス放散弁も開かなかったため、炉内圧が安全弁作動圧6.28MPaに達したためであった。
211	2010-267	製造事業所(一般)	CEの配管ろう付部からの酸素漏えい	2010/9/8	栃木県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	販売店	コールド・エバポレータ、配管、継手	<定修中>(点検)	<劣化>	無	平成22年9月8日17時頃、事業所内で、液化酸素CEの定期自主検査を実施中に、配管のろう付け部からの漏えいを見つけた。通常運転中では、低温の液化酸素が流れているため配管は凍結しており、日常点検では漏えいを見逃すことができなかった。原因は、設置から20年以上経過していたため、配管の経年劣化によるものと推定される。
212	2010-245	製造事業所(一般)	デイスペンサーの緊急離脱カブラからの天然ガス漏えい	2010/9/9	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	デイスペンサー、カブラ	<定修中>(点検)	<劣化>(腐食)	無	スタンドで、デイスペンサーから天然ガスが漏えいした。原因は、緊急離脱カブラ内部のOリングが劣化したためと推定される。
213	2010-234	製造事業所(一般)	CEの液供給枝管取出し部のフランジからの窒素漏えい	2010/9/11	秋田県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	電気	コールド・エバポレータ、配管、継手	<通常運転中>	<劣化>	無	半導体工場内で、N2液供給枝管の取出し口付近のフランジ部より、微少なガス漏えいを見つけた。直ちに、元弁を閉止し、パージ後に分解したところ、内部パッキンにき裂を発見した。原因は、パッキンのき裂部内側に汚れが付着していたことから、以前から発生していたき裂が、温度変化により収縮と膨張を繰り返す熱サイクルにより成長したと推定される。また、施工後の配管ストレス等により微少なき裂が発生し、その後進行したと考えられる。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
214	2010-246	製造事業所(一般)	LNG気化器のコイルからの漏えい	2010/9/12	島根県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	窯業	気化器	<通常運転中>	<劣化>	無	9月12日、事業所内のLNG製造施設で、気化器側のガス漏れ警報器が作動したため、関係事業者等で調査した。気化器は2つあり、調査の結果、NO.2のコイル溶接部分より漏えいが生じたことを確認した。その後メーカーで検査及び補修を受け、現在は復旧している。原因は、溶接部に熱疲労による割れが発生したためと推定される。今後は、温水温度を低下させて、熱応力を緩和させることとした。
215	2010-268	製造事業所(一般)	CEの受入れ弁溶接部からの漏えい	2010/9/13	愛知県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	窯業	コールド・エバポレータ、配管、弁	<定修中>(点検)	<劣化>	無	9月13日11時頃、事業所内の液化酸素CEの定期自主検査で、気密検査を実施している際、受入配管のバルブの溶接部から微小漏えいを確認した。直ちに、上流側、及び下流側の弁を閉止し漏えいを止めた。11月1日16時頃、県に報告して事故と認識した。原因は、溶接部の経年劣化、及び配管に付着した霜を取る際の木槌の衝撃の影響により、微小欠陥が発生したと推定される。
216	2010-269	製造事業所(一般)	CEの充てんラインの溶接部からの漏えい	2010/9/14	福島県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	コールド・エバポレータ、配管	<充填中>	<劣化>	無	事業所内の液化窒素CEで、充てん中、充てん口から貯槽の間に取付けられたブロー弁へのチーゼ溶接部から、微少なリークが確認された。原因は、設置から12年経過しており、経年劣化によるものと推定される。
217	2010-272	製造事業所(一般)	LNGサテライトの弁パッキン部からの漏えい	2010/9/17	静岡県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	その他(医薬品製造)	継手、ガスケット	<通常運転中>	<認知確認ミス>	無	ローリーから、事業所内のLNGサテライトにLNGを充てんした際、ガスラインの切り替えバルブを開めたことにより、BOGライン(貯槽内で気化して発生したガスを、後段に逃がすライン)に低温の液化ガスが流入し、このラインに設置されたバルブのパッキンが熱収縮したことにより、LNG約300kgが漏えいた。原因は、切り替えバルブを開め忘れたことにより、通常気相しか流れないBOGラインに低温の液化ガスが流入し、BOGラインのバルブパッキンが熱収縮し、バルブに間隙が生じたためと推定される。
218	2010-300	製造事業所(一般)	LNG気化器からの漏えい	2010/9/21	埼玉県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	ごみ処理施設	気化器	<通常運転中>	<劣化>	無	廃棄物処理設備内のLNG気化器付近で、ガス検知が作動したため、気化器を停止し、製作メーカーの工場で検査したところ、LNG入口付近の溶接部から微少漏えいを発見した。原因は、気化器能力の3分1程度の低負荷運転を実施していたため、2層流を伴うLNG/NG混合ガス部が気化器溶接部にかかり、管方向の過剰な温度差等によって、熱応力が発生し割れが発生したためと推定される。今後は、溶接部に保温を行い、熱変形がおきにくい構造とすることとした。
219	2010-295	製造事業所(一般)	充てん所の配管サポート部からの漏えい	2010/9/25	福岡県	0	0	0	0	アセチレン	漏洩等	充填所	配管	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	アセチレンの充てん所で、充てん中容器のガス漏えいチェックを実施している際、シューという音がしたので、充てん場の充てん主管のNO.10充てん枝管に石鹸水をかけたところ、漏えいが確認された。なお、漏えい箇所は、架台の上の位置で、腐食のため昨年防水テープを巻いた箇所であった。原因は、昨年、金属間接触防止のために充てん主管に防水テープを巻いたが、その際の錆落としによる肉厚減少、及び防水テープとの隙間に散水時の水がたまってきたに腐食が進行したためと推定される。
220	2010-277	製造事業所(一般)	CEの送ガス蒸発器のコイルから炭酸ガス漏えい	2010/9/27	栃木県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	自動車	コールド・エバポレータ、蒸発器	<スタートアップ中>	<劣化>	無	平成22年9月27日午前8時頃、液化炭酸CEの製造開始時点検において、送ガス蒸発器から異音が生じた。ポコポコという音だったため、温水槽内でガスが抜けているとの判断をして、製造を直ちに中止した。コイルを外したところ、コイルの根元部分付近で約2mm程度のピンホールを発見した。原因は、製造開始から20年以上経過しており、経年劣化によると推定される。温水槽の材質がSUS304、コイル材質が銅(C1220T-O)を使用しており、永年使用するとコイルが腐食しやすい環境にある。そのため、鉄のアンゲルの切れっぱしを温水槽内にいれることで、コイルの腐食を防ぐ等、今後は定期的に温水槽内の交換を実施することを検討する。また、3年に1度のコイル開放検査時においても、特に外観気密試験に重点を置き、腐食の有無、進行度を観察し、状況によっては早期交換していくこととする。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
221	2010-278	製造事業所(一般)	CEの三岐弁の継手部からの窒素が漏れい	2010/9/28	宮城県	0	0	0	0	0	漏洩等	電気	コールド・エバポレータ、継手	<定修中>(点検)	<劣化>	無	9月28日午後3時に、液化窒素CE設備で、定期自主検査の気密試験中、液面計及び圧力計への三岐弁の上継手部のき裂部から、微量のガス漏えいを確認した。CEタンク本体から三岐弁及び液面計、圧力計への配管材質は、SUS3041P-1となっており、配管と三岐弁の接続は、ねじ込み方式にて接続されていた。原因は、設置後25年が経過しており、経年劣化によるものと推定される。また、き裂が発生した原因は、継手の閉めすぎ等の補修不良も考えられる。
222	2010-289	製造事業所(一般)	LNGサテライト施設の液化器からの漏れい	2010/9/29	広島県	0	0	0	0	0	漏洩等	一般化学	LNGサテライト施設、液化器	<通常運転中>	<その他>(調査中)	無	9月29日0時30分頃、LNGサテライト施設の通常運転中、日常点検パトロールを行っていたところ、液化器内のLNG入口ホッパ一部にて漏えいを検知した。検知後直ちに、温水式LNG液化器の運転を停止した。漏えい箇所を確認したところ、液化器ヘッド一部にき裂を発見した。なお、き裂発生の詳細原因については、調査中である。
223	2010-301	製造事業所(一般)	高圧試験設備からの水素漏えい	2010/9/29	千葉県	0	0	0	0	0	漏洩等	製鉄所	圧力計	<停止中>	<劣化>	無	9月28日16時42分、事業所内の高圧試験設備を停止して、水素ガスの元弁及び圧力計前後のバルブを閉止した。翌日9時45分に、装置を立ち上げるために容器室に入ったところ、圧力計のゲージ前面のガラス窓が破損していることを発見した。圧力計前後のバルブが閉じられていることから、配管内に残留していた水素が圧力計内に漏えいしてガラス窓を破損したものと考えられる。なお、圧力計の直上にガス検知器が設置してあるが、今回の漏えいでは作動しなかった。原因は、この圧力計は約32年使用しており、長期使用による劣化等からブルドン管溶接部にき裂が発生して、スローリークしていたと推定される。この結果、圧力計内に漏えいしていた水素が溜まり、ゲージ前面のガラスが破損したと考えられる。
224	2010-281	製造事業所(一般)	炭酸ガス製造設備の蒸発器コイル溶接部からの漏えい	2010/10/2	宮城県	0	0	0	0	0	漏洩等	食品	コールド・エバポレータ、蒸発器	<通常運転中>	<劣化>(腐食)	無	平成22年10月2日午前7時、事業所内の炭酸ガスNo.2気化器で、2ヵ月に1回実施している気化器内コイルの漏えい検査を実施したところ、温水式蒸発器の上部水面上に気泡を発見した。同日午後1時に設備を停止し、翌日午前9時、設備納入メーカーが調査したところ、コイルの下部溶接部からの漏えいを発見した。原因は、経過年数が9年であることから、製作時の溶接不良、又は、経年劣化によるものと推定される。
225	2010-302	製造事業所(一般)	ONGスタン드의熱交換器からの漏えい	2010/10/2	埼玉県	0	0	0	0	0	漏洩等	スタンド	熱交換器	<停止中>	<劣化>(疲労)	無	ONGスタンズの始業点検時に、圧縮機のケーシング内でガス着臭剤の臭気がしたため、機器製造事業者に連絡をして確認をしたところ、1段目熱交換器からの微量漏えいを見つけた。原因は、圧縮機の振動の繰返加重が熱交換器の配管接続部にかかり、疲労破損したと推定される。
226	2010-303	製造事業所(一般)	AOD炉のスイベルジョイントからの酸素漏えい	2010/10/4	埼玉県	0	0	0	0	0	漏洩等	その他(金属加工)	炉、スイベルジョイント	<通常運転中>	<劣化>(摩耗)	無	AOD炉(脱炭設備)でガス漏れ音に気がつき、調査したところ、酸素ガスの漏えいを見つけた。原因は、スイベルジョイントの経年劣化によるものと推定される。
227	2010-316	製造事業所(一般)	CEの蒸発器行きの配管溶接部からの漏えい	2010/10/8	大阪府	0	0	0	0	0	漏洩等	鉄工所	コールド・エバポレータ、配管	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	事業所内の液化窒素CEで、CEと蒸発器の間の配管溶接部から、微量の漏れを確認した。原因は、経年劣化による疲労と推定される。
228	2010-306	製造事業所(一般)	液化炭酸ガス製造設備の気化器入口配管からの漏えい	2010/10/12	群馬県	0	0	0	0	0	漏洩等	食品	液化炭酸ガス製造設備、気化器	<定修中>(点検)	<劣化>	無	炭酸ガス供給設備の気化器開放検査(気密検査)で、気化器入口配管のノズル部にピンホールを発見した。日常点検では、3回/日の巡回点検の中で漏えい状況の確認を行っていたが、ピンホールが発見された部位は、液化炭酸ガスのラインであり保温材内部であったため、日常点検では発見が来ない箇所であった。原因は、配管表面の結露による外面腐食と推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
229	2010-357	製造事業所(一般)	スタンドの保安検査中、配管くい込み継手からの天然ガス漏えい	2010/10/14	山梨県	0	0	0	0	0	天然ガス	スタンド	配管	＜定修中＞(点検)	＜劣化＞	無	スタンドで、指定保安検査機関による保安検査、及び定期自主検査を実施している際、2号設備のラインブロックパージ作業後、2号設備の気密試験を行ったところ、着ガス器の配管くい込み継手部からの漏えいを確認した。漏えい量は、極微量であった。原因は、ネジ部のシールが劣化したため推定される。
230	2010-319	製造事業所(一般)	CEの弁ボンネット部及びグランド部からの窒素漏えい	2010/10/20	滋賀県	0	0	0	0	0	窒素	一般化学	コールド・エバポレータ、配管	＜定修中＞(点検)	＜劣化＞	無	平成22年10月20日、CE設備の保安検査を受検したところ、液化炭酸ガスCE貯槽の液体取り出し弁(CE貯槽第一弁)のボンネット部、グランド部、及びバランス弁(CE貯槽第一弁)のグランド部よりガスの漏えいが発見された(微少漏れ)。漏えい箇所が貯槽第一弁であること、貯槽には液化炭酸ガスが残存していたことにより、埒し締め等の措置を実施せず、後日、液化ガスを抜き取り後、確認、処置を行うこととした。通常運転時は、この弁の漏えい箇所は凍結しており、日常点検での漏えいが見えづらく、運転停止中の保安検査時に発見されたものと推定される。原因は、グランド、及びガスケットの経年劣化による気密性能の低下によるものと推定される。なお、このガスケットは、設備設置後、1度も交換していなかった。
231	2010-320	製造事業所(一般)	天然ガス充てん設備のフレキシブルホースからの漏えい	2010/10/22	大阪府	0	0	0	0	0	天然ガス	スタンド	フレキシブルホース	＜定修中＞(点検)	＜劣化＞	無	スタンド内の圧縮機の整備完了後、試運転をしたところガス圧縮機内で若干のガス臭気がした(整備前まではガス臭気なし)。点検をおこなった結果、圧縮機吐出口から蓄ガス器間のフレキシブルホースのかしめ部分より少量なガス漏れを確認した。原因は、ホースかしめ部の劣化によるものと推定される。
232	2010-308	製造事業所(一般)	液化アンモニア製造施設のバルブグランド部からの漏えい	2010/10/28	千葉県	0	0	0	0	0	アンモニア	電気	弁、グランド	＜通常運転中＞	＜認知確認ミス＞	無	平成22年10月28日4時30分、事業所内の作業員が、パトロール中に液化アンモニア製造施設周りで異臭に気付いた。4時45分、漏えい箇所が、アンモニア貯槽の出口遮断弁のグランド部であることを確認した。直ちにこの遮断弁を閉止し、拡散防止のため貯槽に散水を実施した。その後、遮断弁の前後手動弁を閉止し、漏えいは止まった。原因は、前回の定期自主検査時に、この遮断弁の分解点検を行ったが、その際メーカー推奨以外のガスケットを使用していた。ガスケットのサイズは同じであったが、シール部構造が異なっていたために漏えいしたと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
233	2010-336	製造事業所(一般)	HIP装置の上蓋部からの漏えい	2010/10/31	神奈川県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	一般化学	HIP装置	<通常運転中>	<製作不良>	無	10月31日15時20分頃、HIP装置(熱間等方圧加圧装置)の運転を開始した。17時20分に加温による昇圧工程に入り、17時50分頃加温による昇圧が通常に比べて低いに気づいた。20時20分頃、HIP上蓋に酸素濃度が低い箇所を発見した。(HIP上蓋接合部を携帯型酸素濃度計で確認した。)11月1日1時20分、加温による昇圧作業を中止(運転停止)し、2時50分頃再度ガス漏れチェックを行ったところ同一箇所からガスが漏れていることを確認した。11月9日メーカーによる分解点検を実施したところ、上蓋内のオリング押え固定用ボルト(M16×14)が16本の内2本が切断、他の14本が緩んでいた。また、オリングがやや膨張し、断面が四角く変形し、一部が内周側に喰われた跡が目視された。オリング押えは、ボルトが切断された箇所が変形し、上蓋とオリング押えの間にオリングの破片が挟まっていた。この装置は、平成22年9月に自社で上蓋のオリングの交換を実施してから、19バッチ目の運転であった。この装置の運転状況では、オリングは超高压下では内部に浸透したガスが減圧時に膨張し、オリングを膨らませる現象がある。今回のガス漏れは、オリング押えのボルトが緩み、上蓋とオリング押えとの間に隙間が生じていたと推定されることから、減圧時に膨れたオリングが隙間にはみ出し、隙間に喰われたため、ガス漏れが発生したものと推定される。オリング押えボルトが緩んでいた原因については、①オリング交換時のボルトの締め付けが弱かった、②設備の運転で加圧減圧の繰返しに伴う、オリングの膨張と縮小によるボルトの緩み、が考えられるが、分解点検時の状況、及び残ったオリング押えのボルトに伸びが見られないことから推定し、①の可能性が高いと考えられる。今後は、オリング交換マニュアルの作成を検討する。
234	2010-361	製造事業所(一般)	OEの安全弁取付部のろう付け箇所から窒素漏えい	2010/11/1	埼玉県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	電気	コールド・エバポレータ、配管、ろう付け	<通常運転中>	<製作不良>	無	11月1日13時30分頃、液化窒素貯槽の日常点検時、点検者が安全弁取付け配管のろう付け部から、窒素が漏れていることを発見した。原因は、ろう付け不良によるものと推定される。
235	2010-328	製造事業所(一般)	デイスペンサーのホースから天然ガス漏えい	2010/11/9	福岡県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	デイスペンサー	<通常運転中>	<劣化>	無	平成22年11月9日8時3分頃、スタンド内で、デイスペンサーホースにて燃料用天然ガスを車両へ充てんした際、終了直後に上の方でブシュという音がした。調査したところ、デイスペンサーからセーフティキャップリングまでの短いホースからガスが煙状に噴出しており、ホース周辺に白く霜が付いていた。直ちにデイスペンサーの使用を停止した。原因は、ホースの劣化によるものと推定される。現在、設備会社で劣化要因の調査を行っている。今後、操業開始から8年で漏えいしたことを受け、同社が所有する他のCNGスタンドを含め、5年周期でホースの取替を行う自主基準を策定した。
236	2010-338	製造事業所(一般)	ヘリウムガスカードルへ充てん中に漏えい	2010/11/11	神奈川県	0	0	2	2	ヘリウム	漏洩等	一般化学	容器本体、配管、継手	<通常運転中>	<誤判断>	無	事業所内の充てん設備で、30本組ヘリウムガスカードル(19.6MPa仕様)への充てん作業中に、カードル接続部よりガス漏れがあることを作業員が発見し、スバレンチにて増締めを実施しようとしたところ、フレキシブルホースの接続アダプター部分より外れてしまい、外れたフレキシブルホースが気蓋器に当り跳ね返ったものが増締め作業者に当り打撲した。また、別の作業者がヘリウムガスカードルの弁を閉止しようとした際に、噴出しているガスにあおられて転倒し、ガスタンクの脚部にあたった左側頭部を裂傷(5針縫合)した。原因は、カードル、ローダーなどの容器へのヘリウムガス充てんには容器の形状(ねじの種類)により、種類のアダプターを使い分けられている。本来使用するべきウィット34-12山のアダプターを装着しようとしたところ、装着ができず(容器のねじ山の一部つぶれていた)選定を誤ったと思い、別のアダプター(ウィット36-20山)を使用したためであった。アダプターが異なっていたため、微量のガスが漏れ、増締めしようとした時に、アダプター部分より充てんホースが抜け、ガスが噴出した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
237	2010-349	製造事業所(一般)	CEの送液配管溶接部からの酸素漏えい	2010/11/11	石川県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	その他(病院)	コーバル・エバポレータ、配管	<通常運転中>	<その他>(原因不明)	無	平成22年11月11日、メーカーによる市内の酸素OE施設の巡回時、病院のタンクヤード内の送液配管(元弁、蒸発器間)に少し異常が見られたので、配管の水を溶かし調査した結果、溶接部より少量の液漏れを発見した。原因は、不明である。
238	2010-340	製造事業所(一般)	液体塩素貯槽のフラインジ溶接部からの漏えい	2010/11/16	新潟県	0	0	0	0	塩素	漏洩等	一般化学	貯槽、配管	<通常運転中>	<その他>(調査中)	無	液体塩素製造設備で、定立上げ後間もないため、担当者が計器全般の動作確認をしていたが、塩素ガス検知器に指示が出ている(0.5ppm)以下で発報には至らずため、詳細に調査したところ、液体塩素貯槽の温度計の鞘管フラインジ下から、微量の塩素漏れを発見した。局所排気にて除害工程へガスを吸引し、その後、漏えい箇所へ金属補修剤とゴムチューブを巻き漏えいを止めた後、液体塩素を他の貯槽に移送した。原因は、温度計の鞘管の底部、及び取り付けフラインジ双方の溶接部にピンホールが発生したためであった。溶接部のピンホール発生については、経年劣化と推定されるが詳細は現在調査中である。
239	2010-341	製造事業所(一般)	圧縮機の1段シリンダー出口からのCNG漏えい	2010/11/16	千葉県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	圧縮機、継手	<定修中>(点検)	<製作不良>	無	CNGスタンドで、完成検査後の実ガスでの試運転調整中に、圧縮機の1段シリンダー出口のSUS配管継手部からガスが漏えいした。配管を取り外し、メーカーにて検査したところ、配管にクラックが発生していることを確認した。原因は、現地での作業不良(過剰締め付け)によるものと推定される。
240	2010-348	製造事業所(一般)	スタンドの蓄ガス器からの天然ガス漏えい	2010/11/21	大阪府	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	蓄ガス器、配管	<通常運転中>	<劣化>(摩耗)	無	スタンド内で、ガス警報器が作動したため確認したところ、蓄ガス器ユニット内部の配管溶接部からの漏えいを確認した。蓄ガス器の元バルブを閉にし、配管内部のガスを大気放出した。原因は、圧縮機と蓄ガス器をつなぐラインで、圧縮機の振動を受けたことにより、配管溶接部に割れが発生したためと推定される。今後は、サポートを増やし、振動を防止する。また、定期的に配管溶接部の非破壊検査を実施することとした。
241	2010-343	製造事業所(一般)	圧縮機の1段クーラーの配管溶接部からのCNG漏えい	2010/11/22	東京都	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	配管	<停止中>	<その他>(調査中)	無	スタンドで、11月14日の作業点検時に圧力計がおりであることを確認した。ガス検知器を使い漏えい検査をするが、確認できなかったためメーカーに点検を依頼した。22日にメーカーが点検した結果、1段クーラーの溶接配管部付近から漏えいを確認した。原因は、現在調査中である。
242	2010-362	製造事業所(一般)	スタンドの圧縮機配管からの天然ガス漏えい	2010/11/25	埼玉県	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	圧縮機、配管	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	無	平成22年11月25日15時頃、スタンド内の圧縮機が、ガス警報器の発報により運転を停止した。機器の点検を行ったところ、圧縮機の配管部でのガス漏えいを確認した。直ちにバルブの閉止等を行い、残留しているガスを拡散させた。これらの措置によりガスの漏えいは止まり、安全を確保した。翌11月26日、圧縮機製造メーカーが破損した配管の交換等を実施し、午前11時頃、復旧完了した。漏えいは、3段昇圧式の圧縮機ユニット内において、2段目の圧力計導管(ステンレス配管、φ6mm)の損傷箇所からであった。原因は、配管とサポートアングルが摩擦により、摩耗損傷したと推定される。この配管をアングルに固定するビスが、外れていたとの報告があり、配管の固定がゆるんだまま運転し、アングルとの接触部が振動により摩耗し、減肉の結果、配管に穴が開いた。今後は、点検時に配管支持状況を徹底して確認することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
243	2010-369	製造事業所(一般)	付属冷凍設備の膨張弁からの冷媒漏えい	2010/12/9	富山県	0	0	0	0	フルオロカーボン404	漏洩等	一般化学	冷凍設備、膨張弁	<通常運転中>	<その他(調査中)>	無	平成22年12月9日午前7時頃、液化ホスゲン製造施設の付属冷凍設備が、低圧異常により自動停止した。現場作業員が原因を調査したところ、サブクーラーとブライン冷却器の間で冷媒(フルオロカーボン404A)漏れの可能性があることが分かったため、直ちに冷媒配管の止め弁を閉止して漏えいを止め、メーカーへ点検を依頼した。同日10時40分からメーカーが点検を実施したところ、サブクーラーとブライン冷却器の間にある電子膨張弁6基のうち1基より冷媒が漏えいしていたことを確認した。漏えい量は、約18kgと推定される。漏えいがあった電子膨張弁は、目視検査では内外面の損傷、腐食が認められなかったため、現在、メーカーにおいて事故原因の詳細調査を実施中である。
244	2010-373	製造事業所(一般)	圧縮機のフレキシブルホース加締め部からの天然ガス漏えい	2010/12/17	東京都	0	0	0	0	天然ガス	漏洩等	スタンド	圧縮機、フレキシブルホース	<通常運転中>	<劣化>(疲労)	無	天然ガススタンドで、圧縮機室内のガス検知警報装置の検知レベルが上昇したため、保安管理会社に連絡した。漏えい部位の特定調査を行ったところ、圧縮機最終段のフレキシブルホースの加締め部より微量のガス漏れを確認した。そのため、圧縮機のパルプを閉鎖し、ブロック化と圧縮機用電源ブレーカーの切断を行なった。原因は、振動によるものと推定される。
245	2010-270	製造事業所(コ)	CEからの窒素供給配管の破損	2010/9/16	神奈川県	0	0	0	0	窒素	破裂等	一般化学	コールド・エバポレータ、配管	<通常運転中>	<設計・構造上の不良>	無	事業所では、近隣各社へ地区間を結ぶ構外配管にて窒素を供給している。また、各社での窒素の大量使用に備えて、バックアップ用の液化窒素気化設備を備え、必要時に液化窒素の気化運転を行っている。事故は、液化窒素の気化設備からループ配管につながる配管が、気化ガス温度の低下から低温脆化により破損し、窒素ガスが漏えいしたものであった。9月15日13時10分に、1000Nm ³ /hで窒素の気化送気を開始し、13時30分に、空温式→温浴式に切り替えた(温浴槽温度セット40℃)。14時20分に、気化送気量を増し1,000→2,000Nm ³ /h、21時56分に、気化設備の出口ガス温度が0℃まで低下した。23時40分に、気化量を更に増したため(2,000→3,000Nm ³ /h)、9月16日0時12分に、気化設備の出口ガス温度が-50℃まで降下した。4時00分に、0.8MPa窒素ヘッダーの降圧が確認された(0.35MPa)。この時点で最初の配管破損が発生したと考えられる。4時10分、運河沿いの窒素配管埋設部が破損し窒素ガスが漏えいしていることを確認した。4時45分、気化設備と窒素ヘッダーを切り離すため弁を閉止し、運河沿いの窒素の漏えいが止まった。4時55分、気化設備安全弁が作動し、4時57分、温浴式気化器の出口配管が破損し、再度窒素が漏えいした。壊れた配管により蒸発器のアルミ製フィンが変形した。5時30分に、気化器への液体窒素を送り弁閉止し、窒素の漏えいが止まった。5時48分に、消防へ通報し、5時49分に、工業保安課へ通報し、5時53分に、公設消防入所した。設備的な原因は、温浴式気化器にて液化窒素を気化していたが、加温用蒸気の調節弁作動に不具合があり、蒸気供給が不足であった。このため、通常気化窒素ガス温度よりも遙かに低い温度(-50℃以下)までガス温度が低下し、非高圧ガス設備配管の埋設部で、低温保温状態が保持されて低温脆化が起こり、設計耐圧(0.97MPa)未満の圧力で破損した。管理的な原因としては、気化器出口窒素ガスの温度低下を見過した。また、低温脆化の危険性に対する周知が不足していたためであった。

番号	事故code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
																	今後は、設備改善として①気化設備出口ガス温度低下で窒素気化を自動停止するよう計装を変更する。②気化器温浴槽の温度が遠隔監視出来るようにし、気化温度低下を早期察知する。③温浴槽養気調節自動弁の作動を確認し再調整する。④設備自体の安全確保のため、CE設備の自動調整弁類は駆動窒素停止時に気化放出を停止する方向の動作(フェイルクローズ)に計装変更する。また、運転管理の改善として、①ガス温度と配管強度を含めた、液化窒素気化設備の取り扱いについての再教育。②アラームの見過しが無いように、その重要性和対応についての再教育。③再度異常現象と通報の重要性、緊急性についての再教育を実施することとした。
246	2010-171	製造事業所(LP)	車両の運転ミスによるデイスベンサー移充電ん弁の破損	2010/7/23	神奈川県	0	0	0	0	液化石油ガス	破裂等	スタンド	デイスベンサー、弁	＜通常運転中＞	＜誤操作＞		平成22年7月23日16時頃、充電ん所内で、タクシーがLPガスを充てんするため、デイスベンサーの1番ホース前にバックで進入する際、誘導していた係員が、停止の合図を動作と共に大声で発し続けたが、そのまま後退を続け、デイスベンサーの防護柵に衝突した。被害状況は、移充電ん弁が、後部バンパーと防護柵の間に挟まれ、左に約2mm曲がった。(先端カップリングを外して確認すると、ノズル先端がわずかに歪んでいた。)また、車両によって押された防護柵が一瞬デイスベンサーのカバーの取っ手に接触した。(翌日行った気密検査により、デイスベンサー本体は正常であることを確認。)原因は、タクシー運転手が、ブレーキとアクセルを踏み間違えたことと、充電んホースを防護柵に掛けていたためであった。
247	2010-002	製造事業所(一般)	オートクレーブの爆発による高圧ガス容器の破損	2010/1/7	神奈川県	0	0	0	0	水素、窒素、アルゴン	破裂等	一般化学	容器本体	＜停止中＞	＜その他＞ (外部衝撃)		1500Lのオートクレーブが何らかの原因で爆発し、この影響で有機製造室内にあった水素、窒素、アルゴン容器が損傷し、充てんされていたガスが漏れ出した。原因は、オートクレーブ内の未反応物ノルボルナジエンが余熱により反応を続け、暴走反応となり圧力が上昇したためと推定される。
248	2010-037	製造事業所(一般)	多段圧縮機のクローラー入口前継手部からの天然ガス漏れ	2010/2/18	愛知県	0	0	0	0	天然ガス	破裂等	スタンド	配管、継手	＜定修中＞ (点検)	＜その他＞ (調査中)		天然ガススタンドへのガス供給社である事業者が、定期点検中に、ガスの臭いがするのので圧縮機付近を点検したところ、多段圧縮機の3～4段目のクローラー入口前の継手から、天然ガスが漏れ出ていることを発見した。原因は、調査中である。
249	2010-330	製造事業所(一般)	アルゴンガス容器の圧力調整器が破裂	2010/9/29	宮城県	0	1	0	1	アルゴン	破裂等	電気	容器本体、調整器	＜スタートアップ中＞	＜誤判断＞		金属薄帯製造試作の準備段階で、アルゴンガス7m3容器の元弁を開けた際に突然、調整器の圧力調整ハンドル部が破裂し、破損部が容器正面に立っていた被災者の頸に飛来、激突し裂傷した(容器と被災者の操作距離:約40cm)。アルゴンガスは、設備駆動と金属薄帯の剥離の目的で使用していた。当初、アルゴンガス容器には、適正な調整器を取り付けていたが、金属薄帯の剥離においてガス流量不足が問題となり、その解決策として調整器を低圧用調整器へ変更した。なお、使用圧力が0.4MPaで使用しており、低圧用調整器が使用可能と判断した。被災者は上司へ変更する旨を報告したが、上司は実物を確認せず使用良否を本人に委ねた。また、調整器に「10kg/cm2以上の高圧ガスには接続禁止」と表示はされていたが、専門知識を有する者へ相談をなかったため、被災者は壊れる想定が出来なかった。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
250	2010-322	製造事業所(コ)	バルブに残留していた薬液が飛沫	2010/10/24	大阪府	0	0	1	1	フルオロカーボン21、フルオロカーボン22、フッ化水素	その他	一般化学	弁	＜定修中＞	＜認知確認ミス＞	無	事業所内のフルオロカーボン22製造施設の整備中、施設より取り外していた自動バルブ(ボールバルブ)の内部洗浄のため、バルブを開とした際に工事業者の1名に、残存していた酸性の薬液(フッ酸等を含む)が飛沫し、右腕などにかかり薬傷した。原因は、この自動バルブは、過去一年間は閉止状態(自動バルブの為、DCSに開閉の記録がない。これまでバルブ本体は閉止状態で開放されておらず、バルブのボール部に薬液が浸透し、バルブの中に蓄積されていたものと判断(バルブボールの容量100ml:50φ×50mm)推定される。また、手順書に基づき、施設からの自動バルブ取り外し前に、「バルブ開を確認し残留物がないことを確認する手順」になっていたが、バルブ取り外し後に確認することとし、その作業を急いでいたためであった。今後は、工事の確認体制を強化し工事全数を再チェック、安全性の確認を取ってから着工することとした。更に、設備引渡し時の安全確認について再徹底(バルブは開放状態で渡す)するとともに、専門家による安全作業確認のレポート強化を実施することとした。
251	2010-015	製造事業所(LP)	移動車両にノズルが引っかけりセーフティカップリングが離脱	2010/1/26	東京都	0	0	0	0	液化石油ガス	その他	スタンド	セーフティカップリング	＜停止中＞	＜認知確認ミス＞	無	LPガススタンドで業務終了後、廃棄物の処理委託をしている産業廃棄物収集車が構内へ進入した。ゴミ回収後に車両のゴミ投入口のゲートを空けたまま構外に出ようとしたため、ゲートの上端が計量機のノズルに引っかかり充てんホースごと引つ張られた。しかし、セーフティカップリングが正常にはたらいだため、ガスの漏えいはなかった。今後は、ゴミ収集業者に対し、スタンド営業時間外の収集作業禁止と火気規制区域への進入禁止を徹底することとした。また、委託であるの収集事業者の選定に際しては、LPガススタンドという環境に留意して正しく対応できる事業者を選定することとした。
252	2010-275	製造事業所(LP)	スタンド内で充てん中の車が発進しセーフティカップリングが作動	2010/9/21	東京都	0	0	0	0	液化石油ガス	その他	スタンド	セーフティカップリング	＜通常運転中＞	＜認知確認ミス＞	無	LPガススタンドで、車両への充てん終了時に充てんノズルを外したと勘違いし、充てん伝票とエンジンキーを運転者に渡したため、運転者が車を発進させ、充てんホースを引っ張り、セーフティカップリングが外れた。充てんホース、及び計量器の配管等からのガス漏えいはなかった。原因は、新人を含めた3名で充てん作業を行っていたが、新人が充てん終了に気づき、新人が充てんノズルを外さず、充てんバルブとリンクを開めた。この時、充てんに当たっていた作業員が、充てんノズルが外されているものと勘違いしたためであった。
253	2010-065	製造事業所(LP)	充てんホースが引つ張られセーフティカップリングが作動	2010/12/25	東京都	0	0	0	0	液化石油ガス	その他	スタンド	セーフティカップリング	＜通常運転中＞	＜誤判断＞	無	スタンド内で、アルバイの従業員がタグシーへの充てんを終了し、エンジンキーを返却したものの、充てんホースの離脱を忘れ車両を発進させたことから、充てんホースが引つ張られセーフティカップリングが作動した。原因は、従業員が一連の動作を中断し、かつ、他車両に気をとられたため、鍵を渡す前に充てんホースが外されているかの確認をしなかったためであった。
254	2010-081	製造事業所(一般)	スタンド内の充てんホースの引つ張り事故	2010/4/8	東京都	0	0	0	0	天然ガス	その他	スタンド	ホース	＜充填中＞	＜誤判断＞	無	天然ガススタンドにおいて、トラックにONGを充てん中に、運転手がトラックを発進させ、充てんホースの引つ張り、破損事故が発生した。緊急離脱カブラの作動により、ガスの漏えいはほとんどなかった。原因は、本来、ONGの充てん前にスタンド職員がドライバーから車のキーとカードを預かる事になっていたがドライバーがキーを預けず、休憩室に入ってしまった。その後、次の車が待機したため、ドライバーは充てんが終了したと誤判断し、車を発進させたためであった。今後は、鍵は必ず預かることとした。また、鍵を預かると同時に車止めも行うこととした。

番号	事故 code	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状 態	事故原因	着火 源	事故概要
255	製造 事業 所(一 般) 2010 -128	スタンド内の車両 による充電ホー ス引張り事故	2010/6/4	東京都	0	0	0	0	天然ガス	その他	スタ ンド	ホース	<通常 運転中 >	<認知確 認ミス>	無	天然ガススタンドで、給油係員が1名でCNG充電機A、Bの2台と軽油給油機1台の作業を行っていた。CNGのA号機と軽油給油機が同時に終了し、作業員が先にCNGのA号機の輪止めを外し、鍵、カードを返却した際、充電ホースを外すのを忘れて、発進を指示した。次の軽油車両に対応のため、その場を離れたときに、CNG車両が発進してホースを引っ張り、破損事故となった。原因は、充電ホースの脱着を確認せずに車両を発進させたこと、及び給油が2台同時に終わり、慌てて対応したことであった。
256	製造 事業 所(一 般) 2010 -182	車両の誤発進によ る充電ホースの 引張り事故	2010/7/5	東京都	0	0	0	0	天然ガス	その他	スタ ンド	カブラ	<通常 運転中 >	<誤操作 >	無	天然ガススタンド内で、天然ガスを車両に充電完了した後、充電ホースを外し忘れて、車両を誤発進させた。これにより、充電ホースの緊急離脱カブラが外れる事故となった。充電完了後であったため、ガスの漏えいはなかった。原因は、充電ホースの脱着を確認せずに車両を発進させたことであった。また、充電ホースを取り外した後、伝票と一緒に鍵を渡すことにしているが、車両の鍵を先に渡してしまったためであった。
257	製造 事業 所(一 般) 2010 -265	スタンド内で車の誤 発進による緊急離 脱カブラの作動	2010/9/8	東京都	0	0	0	0	天然ガス	その他	スタ ンド	カブラ	<通常 運転中 >	<誤操作 >	無	CNGスタンド内で、充電ホースを取り外す前に、車両が誤発進したため、緊急離脱カブラが破損した。原因は、通常では充電完了後、車両のカギを渡すことになっていたが、充電完了前に車両のカギを渡してしまい、運転手が車両を前に進めたためであった。
258	製造 事業 所(一 般) 2010 -266	スタンド内で車の誤 発進による緊急離 脱カブラの作動	2010/9/8	東京都	0	0	0	0	天然ガス	その他	スタ ンド	カブラ	<通常 運転中 >	<誤操作 >	無	CNGスタンド内で、大雨により、ディスプレイの外部プリンタが紙詰まりで使用できなくなったため、伝票を手書きで作成し、運転手に渡していた。通常の作業の流れと異なる不慣れた作業だったため、充電完了時に、伝票にサインをもらい、伝票と車両のカギを渡す際、充電ホースを外し忘れて、そのまま運転手が車両を発進してしまった。これにより、緊急離脱カブラが外れて、破損した。原因は、通常と異なる作業手順であったので、手順が前後したためであった。
259	製造 事業 所(一 般) 2010 -360	車輛による充電ノ ズルの引張り事故	2010/10/28	東京都	0	0	0	0	天然ガス	その他	スタ ンド	充電ノ ズル	<通常 運転中 >	<誤操作 >	無	スタンド内で、顧客充電カードが読み取れなかったため、カードを運転手に返却した。しばらく待つよう伝えたが、勘違いして運転手が車を発進させたため、充電ノズルを引っ張ってしまった。ノズルが遮断弁から外れなかったため、ディスプレイが傾いた。危険と判断し、その場で使用を禁止し、圧縮機の電源を切り、容器のバルブを開めた。なお、ガス漏れはなかった。

平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表

(2)災害事故：移動中の事故

番号	事故 code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備区 分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
2010-1126	移動	車両の荷台に積載していたLPガス容器からの出火	2010/6/2	北海道	0	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	建設	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	裸火（バーナー）	道路舗装事業者が、道路でのアスファルト舗装作業を終え、使用資機材等（LPガスバーナー、LPガス10kg容器10本等）をトラック（2トン）の荷台に積載して、次の作業現場に向かうため移動中、中央区円山西町付近路上において、荷台積載物から出火したことに気づき、路肩に停車し積載していた粉末消火器（1本）により初期消火を行ったが火勢が強く鎮火しなかったため、直ちに119番通報を行った。さらに別の粉末消火器×6本を持参し再度消火を試みたが、鎮火しなかったことから、消防隊の到着までの間、現場に待機した。なお、この火災はLPガスバーナーとホースにより接続されていたLPガス容器10kg×1本から出火したもので、その輻射熱により他の2本のLPガス容器（10kg）の容器バルブが溶け安全弁からガスが噴出し、さらにもう1本のLPガス容器（10kg）については、容器バルブが溶け安全弁からガスが噴出していたが、燃焼までには至らなかった。原因は、道路舗装作業終了後、使用していたガスバーナーの火が完全に消えたことを確認せずトラックの荷台に積み込んだため、消えていなかったバーナー火が徐々にLPガス容器（バルブ開放状態）に接続されていたホースを加熱し燃焼したことにより、そこから漏えいしたLPガスに引火し火災状態となり、その輻射熱により他の積載されていたLPガス容器へ延焼したものと推定される。今後は、社内ミーティングを実施し、安全管理について、改めて周知徹底を行うこととした。
2010-2242	移動	路面区画表示作業車の火災によるLPガス漏えい、火災	2010/9/4	愛知県	0	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	建設	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	裸火	平成22年9月4日15時00分頃、路面区画標示作業車が走行中、荷台の施工機のスウィッチを消し忘れたことにより、荷台及び機材が火災となり、積載していたLPガス容器を加熱して噴出したLPガスに引火した。この火災で、積載していたLPガス10kg容器3本、LPガス50kg容器2本、施工機等が焼損するとともに車両が全焼した。
2010-3003	移動	LPガス容器配送車両が横転しガスが漏えい	2010/1/8	大分県	0	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	無	LPガス販売事業者の従業員が、中学校内において、LPガス50kg容器3本、20kg容器9本、10kg容器8本など計32本を積載した配送車両を勾配のある場所に駐車し、容器交換作業のため車両から離れたところ、無人の車両が動き出し、側溝に転落、横転した。容器は荷締機で固定されていたが、車両横転の際、数本の容器が建物のコンクリート外壁等に接触し、このうちLPガス50kg容器1本が破損し、容器内のLPガス約50kgが漏えいした。同従業員は、消防署及び自社に通報するとともに、同校に報告し、生徒の避難を要請した。また、事故現場付近のボイラー室の火気を除去し、消防士立会いの下、当該容器を校庭中央に移動させ、校庭の四隅に従業員を配置して監視する中、自然拡散させた。14時過ぎに、残ガスがなくなっことを確認して容器を撤去、回収した。15時頃、校庭及び側溝周辺の残ガスの拡散確認を終了し、消防士立会いの下に給食調理室の使用を再開した。原因は、従業員が配送車両を駐車させた際に、駐車箇所が勾配のある場所にもかかわらず、①車輪止めを使用しなかった、②ギアをバック等に入れなかった、③サイドブレーキの掛け方が不十分であったことなど、当該車両が停止状態を保つために必要な措置を怠ったためと推定される。今後は、事業所内で勉強会を行い、事故再発防止に向け、業務全般にわたって「呼称確認」等を全社員に徹底することとした。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死 者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備区 分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
4	2010-013	移動	LPガス容器的移動中の転落、漏えい	2010/1/26	和歌山県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	建設	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	無	道路舗装事業者が、道路舗装作業のために購入したLPガス20kg容器を、建設設備リース会社に建設機器と併せて運搬するように依頼したところ、移動中、道路の急カーブの地点で容器が荷台から転落し、落下の衝撃により、LPガスが漏えいした。しばらく後にまたま通りかかった、県内のLPガス販売事業者の車が容器に気づき、確認したところ、調整器が破損し、LPガスが噴出していたため、元栓を閉め漏えいを止め、消防及び警察に通報した。容器に記載された販売店名より、販売店に連絡が入り、消費者及び事故行為者が判明した。原因は、高圧ガス保安法に係る販売契約は販売店と道路舗装事業者で交わされており、道路舗装事業者は法で規定する消費者となる。消費者は、法第24条の5、及び法第23条に準じた消費及び移動をしなければならない。それに対して、当該事業者は法第49条第5号及び4号の基準違反（容器を車輛に固定せず、元栓を開いたまま調整器で閉栓した状態で移動させたため）をしていて、事故が発生したと考えられる。
5	2010-018	移動	車両の転倒による液化酸素容器からの漏えい	2010/1/28	広島県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<その他>（交通事故）	無	4t積みトラックに高圧ガス容器50本を積載し、芦田川右岸を北上中に運転操作を誤り堤防西側の側道まで斜面を転落し、車両が裏返しの状態となった。それに伴い積載していた容器のうち液化酸素容器（LGC）1本の液面計及び配管が損傷し、液化酸素が漏えいした。その他の容器についてはキャップや付属品（バルブ）等に、変形や損傷があったがガス漏えいは無かった。積載していた容器（液化酸素168kg容器－1本、圧縮酸素7m3容器－16本、液化炭酸ガス30kg容器－20本、圧縮酸素1.5m3容器－2本、LPガス50kg容器－9本、アセチレン7kg容器－1本、アセチレン0.5kg容器－1本）合計50本であった。
6	2010-051	移動	バルクローリーのバルブ接続部からの漏えい	2010/3/10	鹿児島県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	ローリー	<移動中>	<点検不良>（締付不良）	無	平成22年3月10日8時40分、バルクローリーで配送中に、車載のガス警報灯が表示された。付近に火気、その他の車輛が無いことを確認して停車し、漏えい箇所を調査、確認したところ、液出しラインのバルブ接続部分からわずかな漏えいが確認された。直ちにナットを増締めして充填所へ引き返し、ガスを貯蔵タンクへ移した後、漏えい箇所を分解、点検し再組立した結果、漏えいは完全に止まった。原因は、悪路走行等による強い振動で、ナットが緩んだためであると推測される。なお、漏えい量はごくわずかであった。
7	2010-054	移動	移動式液化酸素製造設備のホース接続部からの漏えい	2010/3/18	愛知県	0	0	2	2	窒素	漏洩等	運送	ローリー、ホース、継手	<荷役中>	<誤判断>	無	移動式製造設備（窒素ローリー）から、事業所の定置式製造設備である窒素CEに液化窒素を充てんしようとして準備をしていたところ、窒素ローリー側のフランジとホースを接続した箇所から液化窒素が噴出し、これを止めようとした窒素ローリーの運転手、及び事業所の従業員が凍傷を負った。原因は、最初に液化窒素を卸した後に、液化窒素を払い出すフランジが空気中の水分により凍結した。次の事業所までの移動時間が短く、凍結した部分が大気温により溶けなかった。次の事業所において、ホースとフランジの接続が上手に出来なかったと判断したため、その間に樹脂製バックギンを1枚挿入した。また、ホースとフランジを接続する際、固定するためのナットの山部が相当程度削れていたことを認識していたにも関わらず、作業を急ぐあまり交換しなかった。液面を加圧し、送液準備をしていたところ、バックギンが低温脆性により破壊、またナットも液圧により緩んだためと推定される。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死 者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備区 分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
8	2010-057	移動	LNG受入ローリー のフランジ溶接部から の漏えい	2010/3/23	栃木 県	0	0	0	0	天然ガ ス	漏洩 等	食品	継手、 ローリー	<荷役 中>	<誤判 断>	無	3月23日8時頃、LNG受入のためローリー車が到着し、同8時30分頃配管 管つなぎ等の受入準備をし、受入を開始した。受入を開始してすぐに、 ローリー側の受入に係る可とう管のフランジ溶接部から液漏れを目視 により確認したため、ただちに受け入れ作業を停止した。可とう管の メーカーの調査結果によると、漏えいの直接の原因は、可とう管の設計 上の曲げ半径が700mmであるのに対して、可とう管とローリー車の接 続時に無理な曲げを繰り返して生じたため、設計よりも短い時間で 疲労破壊にいたったとの見解であり、使用方法に問題があるとの考 えであった。一方、保守委託事業者は、使用方法に問題はないとしてお り、他の何らかの原因があるのではないかと考えているため、再度、メー カー側に原因調査を依頼している。
9	2010-062	移動	液化アルゴン ローリーのマ ニホールドか らの漏えい	2010/3/27	宮城 県	0	0	0	0	アルゴ ン	漏洩 等	運送	ローリー、 蒸発器	<定修 中>	<劣化 >(腐 食)	無	平成22年3月27日に、事業所ローリー置場にて、液化アルゴンローリー の高圧ガス製造後の終業点検を行ったところ、音による漏えいが認め られ、確認したところ、加圧蒸発器の入口側マニホールドより漏えいが 発見された。発見後、加圧器入口弁及び加圧器出口弁を閉め、加圧蒸 発器にガスが回らないように措置し、当該ローリーの使用を停止した。 原因は、漏えい箇所は、加圧蒸発器の外枠とマニホールドをシボルトに て固定している部分で、マニホールドと外枠が接触しないように板材を 挟んでおり、冬期間の走行により、マニホールド(アルミ)と板材との間 に融雪剤が付着し、部分的な腐食が発生したものと推定される。
10	2010-089	移動	LPガス容器配 送車両の横転 によるガス漏 えい	2010/4/20	京都 府	0	0	4	4	液化石 油ガス	漏洩 等	運送	容器本 体	<移動 中>	<その 他> (交通 事故)、 <その 他> (調査 中)	無	物流会社の配送員が、配送車両(4tトラック)に充てん済みLPガス50kg 容器33本を積載し、現場交差点を左折しようとした際に、配送車が横転 し容器が落下、信号待ちをしていた乗用車2台に衝突した。容器は散乱 し、12本の容器のバルブが落下の衝撃で緩み、ガスが漏えいした。連 絡を受けた地域防災協議会委員事業所と物流会社の関連会社の従業 員が現場に急行し、容器元弁を閉止し処置を行った。その後、容器は 関連会社の工場へ回収された。また、現場付近の京都縦貫道が30分、 国道は1時間40分だけ通行止めとなった。原因は、運転手は、事 故当時の記憶が薄く、詳細は明らかにならないが、高速道路から一般 道に降りる際に、減速が不十分のまま交差点に進入し、ハンドルを切っ たためと推定される。現在、京都府警において車両横転の原因を調査 中である。今後は、全支店に対して注意喚起文書を発出し、社内にて 事故対策会議を行い、再発防止策について検討を実施することとした。 また、京都支店の全配送員に対して、交通安全についての注意喚起を 行い、安全運行のためのマニュアルを作成することとした。
11	2010-108	移動	配送車の交通 事故による容 器飛散、漏え い	2010/5/19	神奈 川県	0	0	0	0	窒素	漏洩 等	運送	容器本 体	<移動 中>	<その 他> (交通 事故)	無	5月19日8時30分に、配送業者が営業所を出発し、A社にアルゴン10本 を納入した。二番目の納入先のB社に向い、現場の交差点を、時速 40km位で通過(青信号)しようとした際、信号の左から来た車と衝突し た。側面衝突で斜め右に走り、電柱とブロック壁に二台で衝突し、その 弾みで左側に横転したため、荷台の架台に固定してあった容器が架台 と共に路上に放り出された。幸い双方の運転手に怪我はなかった。運 転手は救急車で病院に運ばれた為、容器の後始末が出来ず、低圧液 体窒素1本(LGC)からガスが漏れ出し通報された。100Lの液体窒素の 内20L位が放出したと推定される。なお、他の容器に異常はなかった。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
12	2010-125	移動	LPガス容器配送車の交通事故による漏えい	2010/6/1	福島県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<その他> (交通事故)	無	県道の交差点で、LPガス20kg容器12本を積載した配送車(軽トラック)とミニバンタイプの乗車が衝突した。軽トラックは、進行方向斜め左側にそのまま低速で進み、県道南側の側溝に右前輪を落として停車した。衝突時に荷台の右側あたりが破損していたため、停車のショックでLPガス20kg容器が落下し、その衝撃でバルブが緩み、容器の本体からLPガスが漏えいした。(LPガス容器の破損はなし。)事故現場近くの運送会社の社員がすぐに駆けつけ、バルブを閉めて漏えいを停止させた。
13	2010-131	移動	LPガス容器の調整器を変形させたことによる漏えい	2010/6/8	岡山県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(廃品解体)	容器本体、調整器	<移動中>	<誤判断>	無	解体業者の知人が、残ガス容器(LPガス20kg容器×3本と酸素容器5本)を運搬する為に車面に積み込む際、LPガス容器1本のプロテクターを誤って取り外し、調整器部分を変形させ、それに気づかず軽トラックの荷台に積載したところガス臭がした。漏えい量は、微量であった。残ガス容器が置いてあった岡山市から販売店まで返却する為、運搬しようとしていた。容器は、2年間屋外に放置されていた物であった。
14	2010-152	移動	配送車の交通事故によるLPガス容器の飛散、漏えい	2010/6/25	大分県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<その他> (交通事故)	無	6月25日15時5分頃、A社の従業員が、車面に残LPガス50kg容器26本を積載し、事業所へ帰社中、路上の下り左カーブにて、雨によりスリップし、左路肩の縁石に接触し、助手席を下にして横転した。その後、通行車線より対向車線側へ10mほど斜めに滑りながら両車線の中央付近で停止した。荷締機により固定していた容器26本が道路に散乱し、そのうち6本が対向車線側の道路下へ落下した。落下した残LPガス容器を調べると、開閉バルブが緩み、数本からガスが漏えいしていたため、バルブを閉め、漏えいのないことを確認した。その後、全ての容器を回収し、近隣のLPガス販売店に一時保管後、自社の別車両にて事務所内の容器置場に収納した。なお、この事故による負傷者は発生しなかった。原因は、雨中のぬれた路面をLPガス容器を積載したトラックで走行する際の、安全意識不足によるものと推定される。
15	2010-213	移動	LPガス容器を移動中に、容器が転倒し漏えい	2010/8/12	栃木県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<誤操作>	無	平成22年8月12日、LPガス50kg容器7本とLPガス20kg容器9本をトラックでバラ積みして移動中、大田原市富池付近の公道において、対向車を避けた際にハンドル操作を誤り用水路の土手にトラックを転落させ、その衝撃でLPガス50kg容器1本のバルブが緩み、ガスが噴出漏えいした。
16	2010-196	移動	LPガス運搬車の交通事故による漏えい	2010/8/17	広島県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<誤操作>	無	関係者が、会社の容器運搬車両(2t)の荷台にLPガス50kg容器29本と、LPガス10kg容器1本を積載し、現場付近を戸山方面から五日市方面に向け走行中、電柱に接触したことによりハンドル操作を誤り、車道から約5メートル下の水田に転落し、積載していたLPガス容器30本が散乱した。うち、LPガス50kg容器1本から残ガスが漏えいしたが、速やかに関係者が閉弁した。また、関係者は軽傷を負ったが、周辺住民への被害はなかった。
17	2010-225	移動	移動式製造設備の配管継手部からの酸素漏えい	2010/8/25	北海道	0	0	0	0	酸素	漏洩等	一般化学	ローリー、配管	<停止中>	<劣化> (疲労)	無	平成22年8月25日、タンクローリー(酸素)の保安検査に備え、事前点検をしたところ、安全弁の元弁入口配管と加圧戻り配管、並びに放出ラインの放出弁の上流側配管に合流するチーズ継手に、き裂による漏えい(カニ洩程度)を発見した。当該設備は、平成22年4月6日に定期自主検査を実施しているが、その時点では異常は認められておらず、発生時期については不明であり、漏えい量についても不明である。原因は、漏えいのあった配管は、放出ライン、安全弁ライン及び加圧戻りラインとユニットとなっており、配管支持形態については、放出ライン及び安全弁ラインは容器側に固定されているが、加圧戻りラインは車両下部側に固定されているため、振動が各々に伝わることとなり、長期間の輸送における振動等による負荷がチーズ継手にかかり、経年疲労に至ったものと推定される。今後は、配管系等について、部分的に負荷のかからないように加工しサポートすることとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
18	2010-227	移動	LPガス容器を配送中にバルブが緩み漏えい	2010/8/27	山梨県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	運送	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	無	LPガス販売業者から、配送業務を委託されている会社の配送員が、富士河口湖町の消費者から回収したLPガス50kg容器21本を積載して帰社途中、笛吹市の国道137号線御坂トンネル内で容器からガスが漏れていることに気づき、トンネル出口の待避場所へ漏えいしていた容器3本のバルブを締めた。その後、トンネル内でガス臭がするとの通報で駆けつけた警察及び消防に呼び止められ、現地で事情聴取が行われた。警察及び消防でトンネル内、付近の状況を確認したところ、既に臭いはなく、人的、物的被害はなかった。なお、この事故による道路の通行止めはなかった。原因は、回収した容器バルブの締め付けが甘く、ベルトによる荷台の緊縛も不十分な状態で、曲がりくねった峠道を走行したためにバルブが緩み、ガスが漏えいたものと推定される。なお、当該配送員の業務経験は1年弱であった。
19	2010-261	移動	移動式炭酸ガス製造設備の銅配管が破断	2010/8/27	神奈川県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	運送	配管	<移動中>	<その他> (外部衝撃)	無	運送事業者が、静岡県内の2箇所への充電を終え、引取り充電のため、炭酸ガス製造事業者へ向かう際、左車線の走行車線を80km/hで走行中、後方から小型トラックに追突された。ローリー後方右(運転席側)に当たったためバンパー、サイドバンパーが破損した。これにより、充電用ポンプにつながるパージ用ラインの銅配管10ミリが破断され、ガスが放出された。
20	2010-232	移動	LPガス燃料自動車との接触によるLPガス漏えい	2010/9/6	山口県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<その他> (交通事故)	無	平成22年9月6日10時55分頃、LPガス販売事業者のLPガス燃料自動車(兼用車)が、消費者宅の後針に向かう際、消費者宅の敷地と道路の段差を見誤り車面底部を接触させ、車面に固定されたLPガス容器の供給配管が破損し、LPガスが漏えいた。エンジンを停止させた後、容器側のバルブを閉止し、漏えいを止めた。なお、漏えい量は約10kgであった。
21	2010-233	移動	液化窒素ローリーのフレキシブルホースジョイントからの漏えい	2010/9/8	秋田県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	運送	ローリー、フレキシブルホース	<消費中> (停止)	<劣化> (疲労)	無	平成22年9月8日午前10時頃、事業所内で、液化窒素ローリーから窒素を受け入れ中、ポンプ吐出側のフレキシブルジョイントからの漏えいを発見したため、ローリーの運転を停止した。直ちに、ローリーを営業所に戻らせ、フレキシブルホース部分に発泡水をかけたところ、気泡が発生した。原因は、運行時の振動による疲労と推定される。今後は、ペロース部の振動防止のため、アングルを配管に取り付け補強することとした。
22	2010-248	移動	LPガス容器の配送車からの容器転落、漏えい	2010/9/16	滋賀県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	運送	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	無	販売店から配送を受託している配送事業者が、配送車にLPガス50kg容器36本を積載し移動していた際に、左カーブで急ブレーキをかけたはずみで、車両荷台の右フェンス留め金が破損し、LPガス50kg容器30本が落下した。内3本のバルブが緩み、LPガスが漏えいた。原因は、車両荷台の横フェンス留め金が劣化していたことと、容器固定のため荷締めベルトを荷台本体ではなく横フェンスに緊縛していたことにより、容器36本の重量に横フェンスが耐えきれず、変形破損したと推定される。また、落下後に容器バルブが緩んだことは、容器キャップの締め付けが不足していたと考えられる。
23	2010-253	移動	LPガス50kg容器の荷下し作業中の転倒、漏えい	2010/9/30	香川県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	運送	容器本体	<移動中>	<誤操作>	無	平成22年9月30日10時5分頃、簡易ガス事業者が、ガス集積場において、トラックからLPガス50kg容器を荷下しする中、作業員が誤って手を滑らせ容器1本が転倒した。この容器は、静電気板の固定ボルト上に落下し、胴部に直径1cm程度穴が開き、10分程度でLPガスが周辺に50kg全量漏えいた。作業員にけがはなく、周辺民家からの通報も確認されていない。原因は、事故発生時の天候は雨であり、作業員は革手袋を着用して作業していたが、手が滑りやすい状態にあったためと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
24	2010-297	移動	液化炭酸ガス5kg容 器の移動中にバルブ から漏えい	2010/10/3	福岡県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	その他(商店)	容器本体	<移動中>	<操作基準の不備>	無	酒店の従業員が、自動車でビールサーバー用の液化炭酸ガス5kg容器1本を移送中、容器からガスが漏えいした。従業員は近隣の駐車場内に車を停止させ、直ちに消防署に連絡した。容器のバルブを開けるとガスの漏えいは止まった。原因は、配達員が事故後に退職しているため詳細は不明であるが、プロテクター付容器であったこと、及び横積みになされ充分に固定されていたこと等の状況から、移動中の何らかの要因によりバルブが緩んだものと推定される。今後は、容器を移動する際は、ロープ等で緊縛するとともに、確実にバルブが閉止しているか確認することとした。
25	2010-315	移動	搬送車両の横転によるLOG容器からの漏えい	2010/10/4	滋賀県	0	0	0	0	窒素	漏洩等	運送	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	無	高圧ガス容器(LCG容器・液化窒素×1、継目なし47L容器・窒素×6、酸素×2、成酸×3)を積載した配送車が、高速道路上り線を走行中に、乗用車2台による割り込みがあり、急ブレーキをかけられたところ、車体が左側に振られ路側帯に車両が横転した。横転の衝撃で高圧ガス容器1本が荷台から放り出され道路緑地帯に落下した。このとき横向きになった車体に固定されたままになっていたLOG100L容器(液化窒素)1本からガスが漏えいした。原因は、配送出発時に乗務員がこのLOG100L容器のバルブを閉止したものの、放出自の閉止が不十分であったためと推定される。
26	2010-309	移動	LPガス容器が転落し、バルブが破損し漏えい	2010/10/30	東京都	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<誤操作>	無	埼玉県北葛飾郡より神奈川県厚木市に移動中の車両が、トンネルを通行中にトンネルに接触し、右側アオリを破損し、積載していたLPガス50kg容器×77本、30kg容器×2本、20kg容器×28本の内、LPガス50kg容器×22本、30kg容器×2本、20kg容器×5本を落下させた。落下した容器の内、1本のバルブが破損して少量のガスが漏えいした。原因は、車両走行中に、運転手が車内の書類に気を取られ、ハンドル操作を誤ったためであった。
27	2010-367	移動	交通事故による液化炭酸ガスローリーからの漏えい	2010/12/8	大阪府	0	0	1	1	炭酸ガス	漏洩等	運送	ローリー	<移動中>	<その他>(交通事故)	無	液化炭酸ガスローリーが積込みのため、出荷基地付近の交差点を右折中、対向車線のダンブカーが脇見運転で赤信号にもかかわらず交差点に進入したため、衝突し大破した。このため、破損した配管から残ガスが噴き出した。
28	2010-368	移動	車両の横転によりLPガス容器から漏えい	2010/12/8	栃木県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	販売店	容器本体	<移動中>	<誤判断>	無	平成22年12月8日午前11時頃、栃木県の県道28号線において、LPガス容器37本をバラ積みしていたトラックが横転し、LPガス容器が散乱し、4本の容器のバルブが緩んでLPガスが漏えいした。直接の原因は小動物が飛び出し、急ブレーキ及び急ハンドル操作をしたためであった。時速40km程度で法定速度内であり、車輪が浮き出し、ゆっくり横転したとのこと。なお、運転手は入社して1年未満であった。この運転手は、LPガス容器が散乱しバルブが緩んだことによりLPガスが漏えいしたのでバルブをしめる作業をしていたが、気分が悪くなってしまった。通行人が警察や消防に連絡して、二次的な被害はなかった。
29	2010-143	移動	移動式液化炭酸ガス製造施設からの漏えい	2010/12/29	新潟県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	運送	ローリー、配管	<停止中>	<その他>(調査中)	無	液化炭酸ガスをローリー車で輸送し、納入先でローリー車の操作箱を開けたところ、バイパス配管部の断熱ケーシング部からボコボコという音がしており、ケーシング部に霜が発生していた。荷下ろしを終え、事業所に戻った後、ケーシング部の断熱材を外して確認したところバイパス配管からの漏えいを確認した。漏えい箇所は、ローリー車の充てん配管とローリー車からの抜出し配管のバイパス配管であり、配管サポート(フラットバー)容器に接続されているが配管と溶接されている部分であった。事業者は漏えい箇所確認後、ガスを放出して圧を抜いた。原因は、メーカーにて調査中である。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死 者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備区 分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
30	2010-063	移動	交通事故によるLPガス容器の安全弁、バルブの破損、漏えい	2010/3/28	愛知県	0	0	1	1	液化石油ガス	破裂等	運送	容器本体	<移動中>	<その他> (交通事故)	無	対向車線の右折車面が、飛び出したため急ハンドルにて回避したところ、トラックが傾き、LPガス450kg容器1本が緊結ベルトをすり抜けて落下した。容器は別の右折待ち車面に直撃し、当該車面は破損した。また、容器落下時に容器附属の安全弁及び気相バルブが損傷し、LPガス200kg程度が交差点内で漏えいした。原因は、対向車線の右折車両の急な飛び出し、及びLPガス運搬車両の制限速度超過(約10km/h超過)によるものであった。今後は、法定速度の遵守、交差点進入の際の安全確認を徹底することとした。また、たて型容器の固定ロープを2本にするなどの改善を検討することとした。
31	2010-014	移動	LPガスローリーの移動中における交通事故	2010/1/26	京都府	0	0	0	0	液化石油ガス	その他	運送	タンクローリー	<移動中>	<誤操作>	無	運送員がLPガスローリーにてガスを運搬中、橋を通った際に路面が凍結しており、減速が不十分であったためスリップした。車両は反対車線のガーレール等を破損させ、ローリーの先頭が道路からはみ出し下方に落ちかかり路肩の途中で止まった(路肩は、道路面から下方へ向かう斜面となっていた)。原因は、路面凍結の可能性がある場所において、減速が不十分であったためと推定される。今後は、従業員に対して安全教育を実施し、事故発生時の連絡先についても整理し連絡先表をローリーに搭載した。
32	2010-042	移動	移動中の車両から容器転落	2010/2/27	大阪府	0	0	0	0	液化石油ガス	その他(転落)	機械	容器本体	<移動中>	<認知確認ミス>	無	消費事業所で、輸送していたLPガス10kg容器1本が転落し、後方車両と衝突した。なお、容器からの漏えいはいはなかった。原因は、車両への容器の固定が不十分だったためと推定される。今後は、安全対策の周知を徹底することとした。
33	2010-150	移動	配送車の交通事故によるLPガス容器の飛散	2010/6/14	熊本県	0	0	0	0	炭酸ガス	その他	運送	容器本体	<移動中>	<その他> (交通事故)	無	平成22年6月14日午後13:30頃、販売店の配送委託先の運送事業者トラックが、配送先から残ガス容器38本(合計1,500kg程度、酸素及び炭酸ガス容器)を積載し走行中、対向車線を走行していた普通自動車(道路中央線を越えて配送車の正面へ衝突した。この衝撃で積載していた容器のうち、21本が道路へ散乱し破損(うち廃棄処分14本)した。この事故のため、現場付近の道路が2時間半程度片側通行止めとなった。なお、散乱した容器からガス漏れはなかったとの事であった。また、容器の積載方法についても確認を行ったところ、ベルト固定等は十分行われており、問題はなかったと考える。原因は、当該道路は見通しの良い片側1車線の直線道路であり、衝突した普通乗用車の運転手の脇見運転と推定される。

平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表

(3)災害事故:消費中の事故

番 号	事故 code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備区 分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
2010 1-296	消費	LPガス容器 切断中の爆 発、火災	2010/11/4	埼玉県	1	0	0	0	1	液化石 油ガス	爆発	その他 (個人)	容器本 体	<その他>(く ず化)	<誤判 断>	裸火	自宅母屋に隣接する離れの一室で、拾ったLPガス10kg容器を電動工 具で切断中、火花が残留ガスに引火して爆発、火災が発生し、作業 者が火傷を負い、5日後に死亡した。爆発は、戸口のガラス戸にひびが 入った程度の小規模のものであり、火災は作業者が消火で消し止め たため、室内が煤けた程度で大きな物損にはならなかった。現場に は、事故容器の他、LPガス容器が3本(10kg容器2本、2kg容器1本)が 置かれていたが、事故後に回収された。なお、事故容器を含め、い ずれの容器も入手経路については不明である。
2010 2-333	消費	飲食店で漏 えいていた LPガスに引 火し爆発	2010/11/20	青森県	1	2	8	11	1	液化石 油ガス	爆発	その他 (飲食 店)	容器本 体	<消費 中> (停止)	<その他>(調 査中)	調査 中	飲食店の厨房付近で漏れた可燃性ガスに、なんらかの火源により引 火、爆発したものと推定される。事故発生場所が都市ガスを使用していたが、 食店2軒がLPガス、二階の建物所有者が都市ガスを使用していたが、 引火したのはLPガスの可能性が高い。被害状況は、物的被害が火災、 発生場所である飲食店のほか、隣接する一般住宅など3棟が全焼、 3棟がぼや被害となり、人的被害は、死亡者1名(事故の発生した建物 の二階に住居していた建物所有者)、病院に搬送された負傷者8名(重 傷2名、軽症6名)のほか、現場処置を行った負傷者2名(軽症)となっ ている。発災した飲食店では、隣接する飲食店と共同でLPガス20kg容器 3本を使用しており、そのうちの1本にはき裂が入っていた(LPガス3本と も空の状態)。ただし、消防署の調査では、爆発は店内からの可能性 が高く、容器置場付近から爆発した可能性は低い。なお、鎮火後の現 場検証で出火場付近から、乗用車用とみられるLPガス容器1本、及び 一般消費者用とみられる調整器(5kg/h)1個が発見されているが、これ らと事故との関連は現在のところ明らかになっていない。発災した飲食 店の店主(中等症)及びその妻(重症)は、事故による肉体的、精神的 ダメージが大きく、現在は長時間の事情聴取が行えないことから、警 察署が店主の回復を待って、乗用車用とみられるLPガス容器と事故 の関連性、及びその入手先などについて調査することとしている。
2010 3-176	消費	配管表面を バーナーで 乾燥作業中 の火災	2010/8/5	神奈川県	0	4	0	4	4	液化石 油ガス	火災	その他 (ガス事 業)	容器本 体、 バー ナー	<工事 中>	<誤判 断>、 <認知 確認ミ ス>	裸火 (バー ナー)	工場内で、供給ガス埋設配管工事改造中の配管で内部は不活性ガス にて置換済)に熱収縮シートによる防食を施工するため、作業員4名が 掘削溝(幅約2.8m×長さ約3.7m×深さ約2.3m)に入り、防食の下処理と して、配管外面をLPガスバーナー(4本)で炙り、予熱、乾燥させていた。 作業開始から約5分後、掘削溝内で使用していたLPガスに何らかの原 因で漏えい引火し、火災が発生したものと思われる。その火災により、 作業員4名が火傷を負ったが、自力で昇降梯子などから避難した。直ち に負傷者への対応及び、掘削溝内の消火を、水消火栓、消火器で行う とともに、事業者を結出し、消防署、警察署、労働基準監督署への通報 を行った。原因は、バーナー燃料であるLPガス5kg容器を作業箇所近 傍の配管上に配置していたが、作業員がホースの長さに気付かず 移動したため、LPガス5kg容器がホースにより引っ張られて、配管上か ら落下した。この際、容器と調節弁を接続していた金属製の継手が落 下の衝撃で破損し、LPガスが漏えい、バーナーが着火源となり火災に 至ったと推定される。

番号	事故 code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備区 分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
4	2010 -311	消費	ガスブルー ダーによる養 豚場の火災	2010/11/3	栃木 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	火災	その他 (畜産)	容器本 体	<消費 中>	<劣化 >(腐 食)	不明	平成22年11月3日5時40分頃、農場の子豚舎で火災が発生し、子豚舎3棟と子豚約1万2千頭を焼失した。火災は9時20分頃に鎮火し、消防本部の現場検証が行われたが、直接的な原因は特定することができなかった。ただし、消防では、不審火やタバコの不始末等ではないこと、火災当初には焼失した子豚舎が通電していたことから、ガスブルーダー(ガスの畜産用の消費施設以外には考えられないとの見解であり、ガスブルーダー2個が、鎖が外れ落下していた。ガス暖房(ガスブルーダー)は、分娩舎と子豚舎で使用しており、8月下旬頃から早朝と夜間に使用し、冬季は一日中使用していた。子豚舎3棟は全焼し、LPガス980kg/バルク貯槽6基の安全弁が作動した(合計でLPガス980kg/バルク容器13基、うち第2種貯蔵所該当は980kg×4基)。なお、LPガス販売業者は、バルク貯槽、供給配管や豚舎内配管の漏れ試験を年1回実施していた。
5	2010 -113	消費	不活性ガス 消火設備の 誤操作によ るCO2漏えい	2010/6/8	東京 都	0	2	2	4	炭酸ガ ス	漏洩等	その他	消火設 備	<定修 中> (点検)	<誤操 作>	無	機械式駐車場で、消防用設備である「不活性ガス消火設備」(二酸化炭素)の点検中に、誤って二酸化炭素消火ガスを機械式駐車場区画内に放出させてしまい、人的被害が発生した。原因は、地下1階に設置されている二酸化炭素87L容器14本の存在を確知せず、安全措置をとらないまま、点検作業を行った。その際に、容器弁が運動解放し機械式駐車場内部に二酸化炭素が放出されたと推定される。今後は、消火ガス系統図、設置状況、作業手順書、設置本数、注意事項を容器室1階、地下1階に掲示することとした。
6	2010 -187	消費	土砂崩れに よりLPガス 20kg容器か ら漏えい、爆 発	2010/7/9	福島 県	0	2	0	2	液化石 油ガス	漏洩等	その他 (個人)	容器本 体	<消費 中> (停止)	<その 他>(自 然災害)	不明	大雨により、LPガス消費者宅の裏山が幅約15m高さ約7m程度の土砂崩れを起こし、LPガス20kg容器2本がホースから外れて巻き込まれた。2本の容器のうち1本は、消費者がバルブを閉止したが、1本は土砂に埋もれたため、ガスの流出が止められず漏えいが継続し付近に滞留、何らかの原因で引火し、爆発、火災に至った。調整器入口は2口あり、一方がホースにより容器と接続され、もう一方は直接容器に接続されていた。直接容器に接続していた側は、調整器の入口金具のねじ込み部で破断していた。また、ホースにより接続されていた側は、ホース口金部を残して焼損していた。(口金部でゴムが破断した後焼けたのか、接続されたままゴム部が焼失したのか不明)容器2本の出口部分の状況は、一方が前記の通り調整器入口金具のねじ込み部が破断して残存していた。もう一方は、ホース口金部を残して焼失している。(口金部でゴムが破断したこと、土砂崩れにより容器と自動切替式調整器の間でホースが破断等してガスが漏えい、付近に滞留し何らかの原因で着火、火災に至ったと推定される。なお、容器は販売店が管理しているが、調整器及びメーターは、火災ガラとともに処分されているために、これ以上の詳細は不明である。

番号	事故code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
7	2010-326	消費	加工工場のコンロを使用中のCO中毒	2010/7/14	高知県	1	0	0	1	液化石油ガス	その他(中毒)	食品	コンロ	<消費中>	<認知確認ミス>	無	精肉加工工場で、肉片を真空パックし、それを熱湯に10秒程度浸けることで、肉とパック(ビニール)を密着させる作業を、従業員が実施していた。この作業手順は、湯沸器の熱湯を鍋物コンロにかけた寸胴鍋(60cm程度)に補充しながら行い、常にある一定の熱湯を維持する。作業中は、牛の解体時の騒音(電動ノコギリで切断)や異物(虫等)混入を防ぐため、密閉された空間(窓及びシャッターも締め切れ、完全に閉め切った状態)で換気扇も使用せず、エアコンのみを使用していた。このことから、密閉された空間で、多量のCOを吸引したことによるCO中毒により死亡したものと推定される。湯沸器、鍋物コンロの両方真について、CO発生濃度を測定したが、湯沸器は正常で、ほとんどCOは検出されなかった。鍋物コンロについては、鍋を載せない状態では正常に燃焼しており、極微量のCOは検出されたが、人体への影響はない正常な値(10ppm)であった。しかし、鍋を載せ数分後にCO濃度を測定すると、CO検知器の検知範囲の上限(1250ppm)のCOを確認した。
8	2010-012	消費	漏えいしていたLPガスに引火	2010/1/25	宮崎県	0	0	1	1	液化石油ガス	爆発	建設	容器本体	<消費中>	<作業環境の不適>	裸火	販売店が工業用として販売していたLPガス20kg容器に、消費者が、調理器、ホース及びコンロに接続して、作業小屋(約20m ²)でガスを使用していた。1月25日朝6時50分ごろ、石油ストーブにマッチで点火しようとしたところ爆発した。原因は、警察署、消防署、販売店立会いのもと、現場検証したところ、ゴムホースにねずみが噛んだような傷跡があり、そこからLPガスが漏えいと推定された。
9	2010-044	消費	瓦製造工程にある炉の爆発	2010/2/28	兵庫県	0	0	0	0	液化石油ガス	爆発	窯業	炉、バーナー	<消費中>	<認知確認ミス>	裸火(バーナー)	瓦の製造工程において、2日間焼成炉内で寝かせた瓦を焼成するため、アフターバーナー(炉内に空気の流れを生成するため、メインバーナー点火前に点火するバーナー)に点火後、しばらく炉内で爆発が起き、瓦投入口の扉が吹き飛んだ。作業者は既に現場を離れていたため、怪我はなかった。原因は、コミライン(焼成した瓦の表面に炭素の膜を生成させる目的で、生のLPガスを吹き付ける工程に使用するライン)の元ハルレの閉め忘れ又はコミラインからのガスの漏えいにより、炉内に高濃度のLPガスが充填し、アフターバーナーの点火に伴い、空気に混合したため、爆発したものと推定される。
10	2010-064	消費	歯科での爆発事故	2010/3/29	大阪府	0	1	2	3	液化石油ガス	爆発	その他(病院)		<消費中>(停止)	<その他>(原因不明)	不明	歯科医で、LPガス5kg容器よりエア混合して使用していたところ、ホースとバーナーのつなぎ目から火が付いたため、消火器で火を消したのち掃除機を使用して、空中の消火薬剤などの浮遊物を吸い込ませた。掃除機のスイッチを切ってから少しして、作業場からダクト途中にて爆発し、診察室天井、表のガラスを吹き飛ばした。なお、LPガス容器のバルブは閉栓され、バーナーのコックも閉止されていた。原因は、調査中である。
11	2010-138	消費	アセチレン容器を油圧カッターではさみ爆発	2010/6/17	栃木県	0	0	0	0	アセチレン	爆発	建設	容器本体	<消費中>(溶断)	<誤操作>	不明	A社が住宅解体工事を請負い、その下請けであるB社が解体作業を行った。溶断のためアセチレン50kg容器2本、酸液50kg容器1本を解体現場に置いていたが、重機の油圧カッターでアセチレン容器1本をさそうとした際に、容器を破壊した。容器の縦方向に高さ3～4mの火柱が出たので、急に作業員が土をかぶせたが完全には鎮火できなかった。最終的には、消防が完全に鎮火させた。原因は、B社作業員、元請のA社ともに高圧ガス容器の取扱いに関する注意認識が不足していた。アセチレン容器を油圧カッターではさんだ経緯は不明であるが、わずかな残ガスであっても危険性が高いことを理解していなかったと推定される。
12	2010-206	消費	排ガス処理設備にLPガスが充填し爆発	2010/8/3	千葉県	0	0	0	0	液化石油ガス、モノシリン	爆発	その他(ガラス加工)	容器本体	<消費中>	<設計・構造上の不良>	高温ガス	事業所内のCVD(化学蒸着)物質の薄膜を形成する蒸着法装置の排ガス処理設備で、制御盤の温度コントロールをしている盤内にある台のアコンの内、1台のアコンの電源ケーブルが抜かれていたために制御盤内の温度が上昇した。温度上昇により、アラームが鳴動したため、排ガス処理設備の各所の排気弁を閉止したところ、排ガス処理設備内にブタンガスが充填したため、爆発が発生した。

番号	事故code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
13	2010-218	消費	陶芸窯への点火作業中の爆発	2010/8/21	栃木県	0	0	0	0	液化石油ガス	爆発	窯業	容器本体、窯	<消費中>	<認知確認ミス>	裸火	陶芸工房内で、陶芸窯の自動切換器がうまく作動せずガスが出なくなったため、販売店従業員が平成22年8月21日21時15分頃、現地に到着しパイパスを開放してガスを流したが、点火する際に窯内部の残留ガスを空気で、置換を十分に行なわなかったため、爆発し陶芸窯を破壊した。原因は、販売店従業員が屋外の供給装置を確認している間、消費者がガスが流れている音を聞いて種火を付けたためであった。
14	2010-351	消費	漏えいしていたLPガスに炊飯器の火が引火し爆発	2010/11/21	広島県	0	0	0	0	液化石油ガス	爆発	食品	容器本体	<消費中>	<誤操作>	裸火	11月21日午前11時38分頃、農産物加工センターの惣菜製造室で、漏えいしたLPガスに炊飯器の火が引火し、爆発が発生した。屋根、天井、壁等を破損したが、爆発当時、従業員は製造室内におらず、人的被害はなかった。原因は、農産加工品を製造中に、所用により消費機器(フライヤー)を持ち出すため、接続配管を取り外していたが、そのことに気づかず、配管元栓を開けた。その後、ガス炊飯器のスイッチを入れて外出したためと推定される。元栓を開けた直後、マイコンメーターの安全装置が作動し、漏えいは遮断された。爆発は、メータから元栓の間のガス管に残っていたガスに引火し発生したものと考えられる。
15	2010-371	消費	酸素容器の元弁を開放し、圧力調整器が破裂	2010/12/10	和歌山県	0	1	0	1	酸素	爆発	鉄工所	容器本体	<その他>	<点検不良>	温度上昇(断熱圧縮)	鉄工所内で、作業員がガス溶接作業をするため酸素7m3容器の容器弁を開けたところ、圧力調整器が破裂した。原因は、容器弁を開放したところ、圧力調整器の不良により、断熱圧縮が起こり圧力調整器内の酸素が高温となり、取り付けネジに巻かれていたシールテープに着火し、膨張した酸素と火炎が一気に噴出したため、圧力調整器が破裂したものと推定される(古い調整器を使用、メンテナンスタについては無し)。
16	2010-038	消費	溶断作業中の逆火による容器の火災	2010/2/19	北海道	0	0	0	0	アセチレン	火災	運送	容器本体、安全弁	<消費中>(溶断)	<設計・構造上の不良>	裸火(ライター)	事業所構内で、アセチレン、酸素により溶断を行うためトーチに市販の着火用ライターで着火を試みるが着火せず、同様の着火動作を数回繰り返したところ、アセチレン容器の安全弁(溶栓)より炎が噴出した。作業員が粉末消火器を使用したため炎が小さくならず、119番通報により消防が出動した。屋外に容器を移動させ、水を張ったドラム缶に火炎を噴出中の容器を収め、周囲の雪等により容器の低温を保ちながら残ガスの消耗まで待機した。事故発生から約6時間が経過し、下火になったところで溶栓部分を木枠で塞ぎ鎮火させた。原因は、逆火防止器が未装着であったことから、数回にわたる着火動作によって、容器に逆火したものと推定される。なお、焼損したホースを確認したところ、非焼損部位のゴムが硬化していると感じ取れたため、ハーナー先端部に限らずホース中間部分の劣化(微少漏えい)箇所から着火した可能性もあると推定される。今後は、高圧ガス保安法の貯蔵・消費等技術基準について、販売店から配布された周知文書を参考に、社内KY教育を実施することとした。
17	2010-039	消費	酸素配管の流量調節弁付近からの火災	2010/2/20	広島県	0	0	0	0	酸素	火災	製鉄所	配管、ストレーナー	<消費中>	<点検不良>	摩擦熱	製鉄所で製造するスラグ(縦5,000×横700×厚さ300mmの鉄の)の表面を、酸素と天然ガスを燃焼させて吹き付けて滑らかにする工場で、配管工事を2009年8月から2010年1月にかけて実施していた。事故当時、流量調整弁のデータ取りのため酸素のパージテストを行っていたところ、2月20日17時頃、ドーンという音が発生し、酸素配管の流量調整弁付近から火柱が上がった。これにより、高熱を受けた電線ケーブルが着火、燃焼し、さらに電気室にも延焼した。この火災で冷却ヤード60m2を焼損した。原因は、Y型ストレーナーのスクリーンに工事等で発生した鉄粉等が滞留していたところへ、圧縮酸素ガスを流したことで発熱し、ストレーナー下部の閉止フランジが焼損したものと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
18	2010-043	消費	溶射作業中の高圧ホースからの火災	2010/2/28	北海道	0	0	0	1	酸素	火災	ごみ処理施設	弁、ホース	＜消費中＞	＜誤操作＞（バルブ操作）	温度上昇	清掃工場の焼却炉の修理を委託された事業者の作業員4名が、同工場の1階（1名）、3階（1名）、4階（20名）にそれぞれ分かれ、1階に設置していたカードル（酸素7m3容器×2本）×2基に接続されている高圧ホース2本を圧力調整器と一体型の二又状接続器具（バルブ2箇所付）に接続し、さらに同圧力調整器から高圧ホースにより3階に設置していた移動式溶射設備へと接続され、その溶射設備で圧縮酸素と灯油の気化ガスを混合させて溶射作業を4階で行っていた。最初はカードル1基の出口バルブと二又状接続器具のバルブを1方向のみ開放して（1ライン）使用していた。ところが、1階で作業をしていた作業員が、使用側の酸素の残量が微量となったことから、切換えのためもう一方のカードルの出口バルブと接続器具のバルブを新たに開放したところ、なお、その時3階で作業をしていた作業員が、破裂音と炎を確認したことから、付近に設置してあった消火器を持って1階に至り、1階にいた作業員とともに消火器と水バケツで初期消火を行っている。本事故により1階で作業をしていた作業員1名が負傷（軽症：左手背部第1度及び第Ⅱ度熱傷）している。本事故の発生について、3月2日に当該事業者から県に電話連絡があり判明した。当該事業者は、札幌市内に限りず修理作業を受託した場合、全国各地に使用機材を持ち込み同様の作業を行っているとのことであった。なお、圧縮酸素容器及びカードルについては、現地のガス販売業者から購入及び借用していた。原因は、作業員が酸素の切換えの際に使用側のバルブを閉止しないで、新たにもう一方のカードルの出口バルブを開放後、二又状接続器具のもう一方のバルブを急激に開放したことで、カードルに接続されていた両方の高圧ホース内の圧力が急激に上昇するとともに断熱圧縮熱も上昇したためと推定される。さらに使用していた高圧ホース、バルブ等の器具に油、グリース、ごみ等の何らかの異物が付着していたことも考えられ、発火、燃焼したものと推定される。なお、同作業員は二又状接続器具のバルブを開放する際に、十分な抵抗があったため、それ相応の力を入れて開放していた。今後は、法令遵守及び保安対策について、社内で検討することとした。
19	2010-055	消費	トーチバーナーへの点火時に漏えいしていたガスに引火	2010/3/20	新潟県	0	0	0	2	液化石油ガス	火災	その他（個人）	容器本体	＜消費中＞	＜劣化＞	裸火	自宅敷地内の枯れ草等を焼却するため、LPガス10kg容器にトーチバーナーを取り付け、点火しようとした火の付いた新聞紙を近づけたところ、ホースから漏れたガスに引火した。そばにいた使用者の妻が容器ごと、そばの川に投げ込み消火した（バルブは閉めていない）。この事故により使用者とその妻が軽度の火傷を負った。使用者はバニックになつていたためか、どこから火が出たのか分からないと言っている。接続ホースのバーナーへの接続金具付け根付近のホースの焼損が激しいため、その部分から漏えいしていると推定される。トーチバーナーは、錆びており、メーカー名、型式、製造年月の特定は難しく、使用者も何年前に購入したのか覚えていないとのことであった。錆の状況からみれば、購入後、相当の年月が経っていると思われる。接続ホースが劣化したことが原因と推定される。また、販売事業者は、LPガスを納入した際に、トーチバーナーを見えており、古い物だと思っただけで、昨年の秋も使用しているとの消費者の説明もあり、特に点検などは行っていないかった。
20	2010-080	消費	溶断作業中の火災	2010/4/8	愛知県	0	0	0	0	アセチレン、酸素	火災	建設	容器本体	＜消費中＞（溶断）	＜認知確認ミス＞	火花（溶断）	生産設備の建設工事中の建物の屋根部から出火した。原因は、溶断に伴う火花が、屋根の隙間に溜まったほこり（塩化ビニルパウダー）に引火したためと推定される。今後は、工事着工前のほこり等の確認を徹底することとした。また、切断には、引火性のないセーバーソーを使用することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
21	2010-087	消費	アセチレン溶接機 の溶接動作による火災	2010/4/19	滋賀県	0	0	0	0	アセチレン	火災	その他 (工事現場)	容器本体	<消費中> (溶接)	<点検不良> <その他> (調査中)	調査中	事故発生日の午後4時過ぎに、建築工事現場で鉄筋圧着用に使用されていたアセチレンが、漏えいし着火した。火災は、足場、養生シート、現場配電盤等を焼損させた。鎮火後、ガスの漏えいは停止した。なお、救急搬送をともなうような人的被害はなかった。原因は、調整器締め付け不良により、その部分から漏えいし、静電気等により着火したと考えられ、溶接作動によりアセチレンが噴出したと推定される。今後は、使用前の点検実施、及び配電盤等を容器の近くには配置しないように徹底することとした。
22	2010-091	消費	溶断作業中の逆火によるアセチレン容器の火災	2010/4/21	愛媛県	0	0	0	0	アセチレン	火災	鉄工所	容器本体	<消費中> (溶断)	<誤判断>	裸火(逆火)	平成22年4月21日13時30分から、3名でガス切断機を使用して倉庫内の鉄骨の撤去作業を行った。(作業内容は倉庫内に、新たにクレーン設置したことに伴う既存鉄骨の一部切断で、車輛荷台上に酸素7m3容器2本(1本は予備)とアセチレン7kg容器1本を積載し、ホースを伸ばして、高所で切断していた。なお、逆火防止措置は講じていなかった。また、荷台には容器の他に電気溶接機を積載していた。)切断作業を行っていたところ、しばらくして火力が下がったので、車に居た他の作業員にアセチレンのガス圧を上げるよう指示し、調整器の圧力を上げた瞬間に逆火現象が起った。「ボン」という音とともに調整器に接続していたホースが、調整器根元で切れて一瞬火と黒い煙が少出した。慌ててアセチレン容器の元弁を閉め、調整器を外すと容器元弁の内部も黒く煤けていた。その後、アセチレン容器元弁を開放し、ガスを放出してみたところ、白い煙状で煙たため、放出したまま、15m程離れた様子を見た。しばらくしたら白い煙から黒い煙に変わり、開放した元弁側ではなく安全弁側(容器溶接機が安全弁かは不明)から炎を上げて燃え出したため、消火器4本で消火を試みたが消火できなかった。消防に通報した。消防の記録によると14時18分消防に入電、14時30分現地に到着、14時39分鎮圧、14時54分鎮火した。原因は、アセチレンを使用する際のその他の消費に係る技術上の基準を認識しておらず、一般則第60条第1項第13号で定める逆火防止措置を講じていなかったため、逆火現象が起こり、事故に繋がったと推定される。また、アセチレンガスを安全な場所以外で、消火の措置を取らずに放出したために、火災になった。
23	2010-104	消費	亜鉛鑄造機からのLPガス漏えいによる火災	2010/5/7	長野県	0	0	1	1	液化石油ガス	火災	機械	バーナー	<スタートアップ中>	<認知確認ミス>	裸火	11:50頃、従業員2名で亜鉛鑄造機の金型交換作業を行っていた。金型交換が完了し、うち1名が「亜鉛供給ノズル保温用ガスバーナー」に点火する為に、トーチを近づけたところ突然炎が上がり、近くにいたもう1名の従業員が顔面を火傷した。被災した従業員は当初、患部を水で冷やしていたが、しばらく経っても痛みがひかない為、13時頃、消防に通報し病院に搬送され、5日間の入院後、自宅にて療養した。原因は、「亜鉛供給ノズル保温用ガスバーナー」のガス元弁、及び空気元弁を閉めてから金型交換を行ったが、作業中に不意にガス元弁に触れ、少量のガスが漏えい、ノズル付近に充填していたと推定される。「点火用バーナー」に着火し、「亜鉛供給ノズル保温用ガスバーナー」へ点火しようとしたところ、漏えいしていたと推定されるガスに引火し、瞬間的に大きな炎が上がったものと考えられる。本事故に関し事業者は、発火時に高圧事故との認識がなく、5月25日に消防署からの連絡により事故が判明した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
24	2010-112	消費	アセチレン容器の残ガス処理中の火災	2010/5/31	愛媛県	0	0	1	1	アセチレン	火災	その他(個人)	容器本体	＜その他＞(不慮)	＜誤判＞ ＜断＞、 ＜その他＞(調査中)	火花	平成22年5月31日14時頃、A氏から使用済アセチレン7kg容器を譲り受けたB氏が、容器内に残っているアセチレンを抜こうと、倉庫外にて電動ドリルを使用しアセチレン容器側面に穴を開けたところ、容器内に残っていたガスに引火した。A氏が、引火したアセチレン容器を倉庫近くの水路に落としたことにより鎮火した。消防署到着時にはすでに鎮火しており、消防署職員により鎮火状況の確認がなされ、二次出火の危険性はなしと判断された。その後、容器は水路より引き上げられ、倉庫屋外に置かれた。翌日、警察からの連絡があり、県が現場の状況を確認に行ったところ、当該容器が倉庫屋外にそのままの状態で見捨てられていたため、保安の確保上、当該容器の保管をアセチレン取扱い事業所に依頼し、同日、同事業所に保管した。原因は、アセチレンガスが残っている容器に対し、電動ドリルで穴をあけたため、火花が残ガスに引火したと推定される。
25	2010-140	消費	溶断作業中のアセチレン容器圧力計付近からの出火	2010/6/19	岡山県	0	0	0	0	アセチレン	火災	ごみ処理施設	容器本体	＜消費中＞(溶断)	＜劣化＞	調査中	事業所内で、アセチレンガス溶断器で直径3cmの鉄製の丸棒を切断していたところ、3m後方に置いていたアセチレンガス7kg容器の圧力計付近から炎が上がっていた。アセチレンガス容器上部のバルブ、及びその付近を焼損し、近くにあった酸素7m3容器の上部が受熱変形したが、それ以外への被害はなかった。原因は、調査中である。
26	2010-141	消費	車両に積載したLPガスによりLPガス容器のホース破損、出火	2010/6/19	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	建設	容器本体	＜消費中＞	＜認知確認ミス＞	裸火	道路補修作業を行っていたところ、車両に積載していたバーナー付きLPガス10kg容器に、同じく車両に積載していたカンテキの炎が引火し出火した。直ちに消防署へ連絡し、消火器による消火作業を行おうとしたが、火の廻りが早く消火作業はできず、14時51分消防車が到着し、15時07分に鎮火した。車両には7本の10kg容器が積載しており、全て安全弁が開放された状態であった。原因は、車両に積載していたバーナー付き容器のホースが容器バルブではなくバーナー側で閉止していたので、同じく車両に積載されていたカンテキの炎により暖められホースが破損、引火し、容器からの炎により車両に炎が燃え移り、次々と積載していた容器の安全弁が作動したものと推定される。
27	2010-212	消費	会社事務所で火災により高圧ガス容器の損傷	2010/8/8	愛媛県	0	0	0	0	アセチレン、酸素	火災	建設	容器本体	＜その他＞(保管中)	＜その他＞(調査中)	調査中	平成22年8月8日3時頃、会社事務所で火災があり、プレハブ2階建て事務所約180平方メートルと、東隣の空家約110平方メートルが全焼し、同日6時頃鎮火した。焼け跡にアセチレンガス7kg容器6本、酸素7m3容器3本が焼け残っていたため、警察から高圧ガス販売業者に回収の指示があり、同日同販売業者が回収を行った。火災の原因は、高圧ガスが原因かを含めて警察が検証中であり、現時点では特定できていない。また、会社事務所によると、事故までの1ヶ月程度は高圧ガスの消費を行っておらず、容器も火気の近くには置いていなかった、とのことであった。
28	2010-231	消費	溶断作業中の火花による火災	2010/9/1	宮城県	0	0	0	0	アセチレン	火災	建設	容器本体	＜消費中＞(溶断)	＜作業環境の不適合＞	火花(溶断)	8月10日22時00分、建設工事現場で、工事業者が酸素7m3容器1本、アセチレン7kg容器1本、及び関係資材を搬入した。9月1日3時50分に、工事元請事業者の作業員が2階でガス溶断作業を実施していた際、1階で作業していた工事業者が、容器に火がついているのを確認した。3時51分、工事業者が消火器にて消火活動を開始した。また、二次災害防止のため、関係者以外への避難誘導を行った。3時55分、工事元請事業者が、消防局に通報した。4時00分頃、消防にて消火活動を実施した。9時00分、工事業者へ容器の移動を行い、容器所有者と一緒に被害状況の確認を行った。9時30分、消防局保安係へ高圧ガス事故報告を実施した。原因は、2階部分で実施していたガス切断作業のドロス(鉄が溶けた塊)が1階のホース付近に落下し、ホースを焼き引火した。また、切断の火花が容器付近に飛び散り、調整器付近から漏れていたガスに引火したと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
29	2010-312	消費	溶接作業中の容器にフオーグリアフトが接触し火災が発生	2010/9/14	兵庫県	0	0	0	0	アセチレン、酸素	火災	その他(会社事務所)	容器本体	<消費中>(溶断)	<誤操作>	不明	建物の改修作業中、工事業者が酸素ガス7m3容器1本、及びアセチレンガス7kg容器1本を台車に固定して建物事業所の作業場から約20m離れた場所で、切断作業を実施していた。この際、建物事業所の社員が操作するフオーグリアフトが容器台車に接触し、台車ごと転倒、アセチレン容器から出火し、酸素ガス7m3容器1本、アセチレンガス7kg容器1本、調整器等を焼損させた。
30	2010-251	消費	LPガス消費中に炊飯器から火災	2010/9/24	香川県	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	その他(個人)	容器本体	<消費中>	<その他>(調査中)	裸火	7時30分頃、消費者が炊飯器を使用しようとしたところ、普段使用しているLPガス8kg容器のガスがなくなっていたため、メーカーに接続されていた、LPガス20kg容器2本のうち1本を炊飯器に接続して炊飯を行った。約11時間後に、消費者が炊飯器のところへ行くと、炊飯器から炎が発生していたため、慌てて容器のバルブを閉めようとしたが、炎が燃え広がったため、消防へ通報し(8時44分消防通知)、9時05分に消防により鎮火された。なお、消費者は、LPガス販売事業者の代表者の親戚であり、LPガスは無償譲渡されていた。原因は、漏えいしたLPガスに、炊飯器の炎、もしくは種火が引火したものと推定される。なお、炊飯器の漏えい試験を実施したが、漏えいは確認できなかった。
31	2010-305	消費	アセチレン溶断中の逆火による爆発	2010/10/8	埼玉県	0	0	0	0	アセチレン、酸素	火災	機械	容器本体、バーナー	<消費中>(溶断)	<点検不良>	裸火(逆火)	平成22年10月8日午前11時00分頃、消費者が溶断バーナーに点火したところ、小爆発が発生した。事故発生直後、消費者より連絡を受け、販売店従業員が現場へ急行した。近隣からの通報により、消防、警察も出動したが、消防の到着時には、消費者自身が消火をほぼ終えていた。消火後も、アセチレン7kg容器1本の熔栓からガスの漏出しが続き、駆けつけた販売店従業員が消防とともに漏出を止めた(放水による容器冷却後、漏えい部に木栓を打ち込んだ)。なお、酸素7m3容器1本からのガスの漏えいは確認されなかった。漏出防止等の措置後、損傷したアセチレン容器、酸素容器は販売店が直ちに回収、工場へ運んだ。原因は、事故後の検証では、アセチレン逆火防止装置のホースバンド締め付け部にひび割れが見られた。ここからエアークレブが混入、混合ガスが生成され、点火時にホース内で逆火が発生したと推定される。劣化したホースが逆火の衝撃に耐えられず、爆発に至った可能性が高い。アセチレンの逆火防止装置については、温度感知式遮断弁(補助機能)が作動した形跡があり、同防止装置から調整器内への火炎の侵入は、くい止められていた。バーナーと同防止装置を接続するホースは、中間部が約15cm分焼失していた。アセチレン容器の熔栓が溶けた主因は、ホース燃焼による火災とみられる。ホースのひび割れの原因は不明である。平成22年2月、販売店から消費者に対し、機器の整備不良を指摘していたが、ホースについての劣化は、確認されなかった。整備不良のまま機器は使用され続け、使用時点検等は十分に行われていなかった。
32	2010-284	消費	火災によるLPガス容器の焼失	2010/10/17	宮城県	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	その他(個人)	容器本体	<消費中>(停止)	<その他>(火災)	火災	平成22年10月17日午後1時頃、消防よりコールセンターに連絡があったことにより発覚した。消費者宅の自宅兼作業場が火災となり、消火が間に合わずに燃え広がって建物全焼し、LPガス50kg容器2本も燃焼し喪失した。出火した原因については、LPガスによるものではなく、電気炉を使用中に電気配線がショートしたことによるものであった。販売事業所は消防署の指導により、LPガス容器を回収した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
33	2010-286	消費	アセチレン容器の安全弁が破損し、漏えい火災が発生	2010/10/22	北海道	0	0	0	1	アセチレン	火災	建設	容器本体、安全弁	<消費中>(溶接)	<誤操作>	静電気	高架レール溶接工事現場で、溶接作業に使用しているアセチレンガス7kg容器からガスが漏えいし、そのガスに引火して作業員1名が顔面に軽度のやけど(検査入院1日、翌日より現場作業に復帰)を負った。なお、アセチレンガス7kg容器は、安全弁が破損(溶接)しており、取扱事業者が残ガス回収し、空容器を保管した。原因は、現場において、作業員がアセチレンガス容器の保温のため、容器にビニールシートをかぶせており、そのビニールシート上には投光器が3台置かれていた。投光器の温度上昇により、アセチレンガス容器の安全弁が破損(溶接)し、アセチレンガスが漏れ出すこととなり、作業員がビニールシートをめぐった際の静電気により引火したと推定される。
34	2010-321	消費	溶接中にベニア板に引火し火災	2010/10/22	福岡県	0	0	0	0	アセチレン、酸素	火災	その他	容器本体	<消費中>(溶接)	<誤操作>	火花(溶接)	平成22年10月22日13時30分頃、プレハブ小屋の解体作業において、C型鋼を溶接中(酸素、アセチレン使用)にトタンの中のベニア板に引火し、火災が発生した。作業者は、すぐに作業を中止し、酸素、アセチレン容器を安全な場所に移動した。直ちに消防署に通報し、14時8分に鎮火した。
35	2010-366	消費	LPガス容器を加熱し、安全弁が作動して火災が発生	2010/12/6	富山県	0	0	0	0	液化石油ガス	火災	鉄工所	容器本体、安全弁	<消費中>(停止)	<設計・構造上の不良>	静電気	平成22年12月6日3時25分頃、鉄工所の社員が、工場内の溶射装置で使用しているLPガス50kg容器の安全弁から火が出ていることを発見し、消防に通報、到着した消防が約15分後に消火した。この火災により、LPガス50kg容器2本、容器の加熱設備(水を張ったプラスチック製コトナ)にLPガス容器を入れ、ヒーター(サーモスタット付き)で水を加熱して、LPガス容器を温めるもの、コンセントボックス等電気設備、LPガス調整器、ホース等が焼損した。なお、LPガスの漏えい量は不明である。原因は、鉄工所の工場内で請負作業を行っている事業者が、溶射作業のためLPガス消費していた。冬期に入り、LPガスの気化量を確保するため、LPガス容器を加熱設備(サーモスタットは40℃に設定)に入れ、温湯(通常約32℃)で加熱していた。事故当日は、夕方の作業終了後、請負業者の作業員はLPガス容器のバルブは閉止したものの、翌朝の加熱装置のスタートアップ時間を短縮するため、加熱設備のヒーターを切らず、LPガス容器を加熱状態にして帰宅していた。その後、何らかの原因によりサーモスタットが作動せず、LPガス容器が40℃以上の温湯で加熱されたため、内圧の上昇で安全弁が作動してLPガスが噴き出し、加熱装置近傍(50cm程度)の電源ボックスの電気火花で着火したものと推定される。今後は、LPガス気化装置の設置を検討する。
36	2010-376	消費	アセチレン容器の調整器とホース接続部からの火災	2010/12/23	鳥取県	0	0	0	0	アセチレン	火災	その他(個人)	容器本体、調整器、ホース	<消費中>(溶断)	<その他>(原因不明)	不明	空地に設置してあった鉄骨製看板支柱の撤去のために、アセチレン容器及び酸素容器を用いた溶断作業を行っていたところ(ガス溶接の講習を受けていない者による取扱い)、何らかの原因でガスの漏えい箇所から火が付き、アセチレンガス容器調整器とホース接続部分付近が燃えているを発見し、消防へ通報した。
37	2010-016	消費	LPガス供給設備のバルブからの漏えい	2010/1/27	千葉県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	食品	継手、ガスケット	<消費中>	<劣化>	無	消費先の食品会社から、給湯室付近でガス臭がすると連絡が入り、販売店社員が消費設備の漏えい検査を実施したが、漏えいを確認できなかった。その後、供給設備の点検を開始すると、ベーパーライザー内に霜状のものを発見した。メーカーに連絡し、保守会社の社員が確認したところ、ベーパーライザーのサーモバルブのパッキンが老朽化し、LPガス(液)が漏れいていた。すぐにパッキンを交換し、漏えい試験の結果も異常が無かった。原因は、ベーパーライザー内のサーモバルブのパッキンが劣化していたためと推定される。
38	2010-045	消費	高圧反応装置のフランジ部からの水素漏えい	2010/3/5	埼玉県	0	0	0	0	水素	漏洩等	その他(研究所)	継手、ガスケット	<消費中>	<認知確認ミス>	無	高圧水素ガスを利用して石油反応を実施する装置において、水素ガスが漏れていた。原因は、メンテナンス作業を実施するためにフランジ部を外したあと、再組み立てする際に、交換した新品のフランジパッキンの保護フィルムを剥がし忘れて取り付けたため、運転時間が経過するにつれてフィルムの軟化、溶融が進行し隙間が生じたためと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
39	2010-071	消費	火災によるアルゴンガスの焼失	2010/3/14	宮城県	0	0	0	0	アルゴン	漏洩等	運送	容器本体	<停止中>	<その他>(火災)	裸火	平成22年3月14日に、事業所の西側資材倉庫付近より出火し、倉庫建屋及び保管物資、保管設備が全焼し、本社西側コンプレッサ室内に保管してあった金型修理の溶接用のアルゴンガス7m3容器1本(0.5m3程度の残量)が焼失した。漏えいの有無については確認できず、容器は原形を保っていたものの、表面は焼けただれ、製造番号、刻印等は読み取れない状態であった。資材倉庫での火災の原因は、警察が現場検証を行った結果、電気分電盤の損傷が激しいことから、漏電による火災と断定された。
40	2010-053	消費	炭酸ガス容器からの漏えい	2010/3/17	神奈川県	0	0	1	1	炭酸ガス	漏洩等	その他(飲食店)	容器本体	<消費中>(停止)	<その他>(原因不明)	無	コーラのディスプレイ用として使用する液化炭酸ガス5kg容器1本を、14時に消費者へ納品した。17時半、容器から中身が噴出しているとの連絡を受け、18時頃、発生場所に到着した。当該容器を回収し、製造元に点検調査の依頼を連絡した。翌日、製造元が容器を回収した。なお、出荷時の点検として、外面支障が無い事、ガス漏れの無い事、40℃以下である事、キャップの有無の確認を実施していた。出荷から店舗へ納品する際の保管状態は、専用車両の荷室に手積みにて横積みし、横転防止措置を講じて運搬していた。店舗への納品は、火気がなく、保管場所が40℃以下である事を確認し、転倒防止措置を講じて納品完了していた。原因は、製造元が外部検査機関に検査を依頼したが、不明であった。今後は、消費先に対する容器の取り扱いの再指導、及び充てん会社に耐圧検査時に安全板の全数交換を実施させることとした。
41	2010-291	消費	資格を持たない人がLPガス供給設備を施工しガス漏えい	2010/5/2	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(個人)	容器本体、配管	<消費中>	<製作不良>	無	消費者は、自宅で使用するガストープ、及びガステーブルの燃料として、自動車用のLPガス40kg容器(残ガス容器)を自宅の別棟車庫内に設置し、自ら車庫と自宅内消費機器までの配管、及びガスメーター調整器等を施工し、平成21年12月から事故が発生した平成22年5月2日まで使用していた。自動車用の残ガス容器は、自ら経営する自動車解体業で回収したものを使用していた。漏えいは、車庫内に設置された調整器切替レバー軸と本体接合部、及びビス固定部からのもので、現場した石狩地区LPガス保安センターの職員が確認している。なお、漏えい量については不明である。原因は、販売業者による保安業務が行われていない状況での調整器の使用等、安全基準が満たされていない供給設備の使用によりLPガスが漏えいしたと考えられる。消費者が販売業者からのLPガスの供給を受けず、自ら経営する事業所(自動車解体業)から自動車用残ガス容器を自宅車庫に持ち込み、液化石油ガス設備士の資格を有しないにも関わらず配管の施工を行ったことなど、適切な保安管理が行われていなかったことによる。
42	2010-133	消費	火災によるLPガス容器元弁からの漏えい	2010/6/10	埼玉県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(個人)	容器本体、バルブ	<消費中>	<その他>(火災)	無	平成22年6月10日午前10時20分頃、LPガス消費者宅で発生した火災の鎮火確認の際、消防隊員が供給設備を確認したところ、LPガス30kg容器の元弁からLPガスが漏えいしており、炎にさらされた影響で容器元弁に不具合が生じ、閉まらなくなっていた。このため消防から、火災元隣家の容器連絡先であるA社に連絡した。A社から現場近くのLPガス販売事業者であるB社へ連絡し、現場に駆けつけたB社社員が元弁に流出防止キャップを取り付け、漏えいを止めた。同日午前10時45分頃、B社から当該消費者へ供給していたC社へ連絡し、現場に駆けつけたC社社員が現場にて容器内の残ガスを廃棄した。原因は、容器元弁が住宅火災による炎にさらされ、不具合が生じたためと推定される。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
43	2010-137	消費	保管中の容器の安全弁作動により漏えい	2010/6/17	埼玉県	0	0	0	0	酸素	漏洩等	建設	容器本体、バルブ	<消費中> (停止)	<情報提供の不備>	無	平成22年6月17日午後3時頃、A社駐車場に横倒して置いていた酸素7m3容器2本とアセチレン7kg容器1本の内、酸素容器1本の安全弁から酸素が噴出・漏えいした。通行人が110番通報し、警察から連絡を受けた消防が現場に急行した。消防が現場に到着した時点で、ガスの噴出、漏えいは止まっていた。噴出、漏えい時間は5分程度であったと思われる。原因は、直射日光により容器の内圧が上昇し、安全弁が作動したためであった。
44	2010-144	消費	土砂崩れによるLPガス供給消費設備からの漏えい	2010/6/30	宮城県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(畜産)	容器本体	<消費中> (停止)	<その他> (自然災害)	無	6月30日午前11時頃、大雨の影響で、都城市の養鶏場の裏山が高さ60m幅30mにわたり、土砂崩れを起こし、鶏舎2棟が全壊、1棟が半壊した。消費中のLPガスバルク50kg貯槽2基の内、1基がぐくられた土砂で基礎部分から倒壊するなど、供給設備、消費設備とも大破し、配管等から一部LPガスが漏えいした。直ちに県消防保安課に通報するとともに、警察、消防本部に通報した。なお、漏えい量は少量であると推定される。LPガス販売事業者の方で、土砂で一部埋もれたバルク貯槽を安全な場所に移設し、翌日、市内の充てん所まで移送した。
45	2010-184	消費	油圧ジャベルがバルク貯槽の配管に接触し漏えい	2010/7/6	宮城県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(畜産)	容器本体、配管	<消費中>	<誤操作>	無	養鶏場の従業員が、鶏糞置場設置のため、鶏舎横の畑を油圧ジャベルにて造成中に、鶏舎横に設置されていたLPガス498kg貯槽1基の配管に誤って接触した。油圧ジャベルの接触により、ガス取り出し口(高圧)とプロテクター内の中圧配管を折損し、ガス漏れが発生した。ガス取り出し口の配管を増し締めするもガス漏れは止まらず、また過流防止弁が働くほどのガス漏れではなかった。ガス販売事業者、及び容器配送センターの社員で、LPガス容器によるガスの抜き取りを行い、LPガス50kg容器およそ60本使用し、午後11時30分頃、回収を完了し、LPガスの回収量は451.9kgであり、漏れたガス量は、48.1kgと推測された。事故後は、バルク貯槽を交換した。また事故を起こしたLPガスバルク貯槽を安全な場所に移設した。翌日、ガス販売事業者は、県及び宮崎県エルピーガス協会に通報した。
46	2010-165	消費	空家に設置されていたLPガス50kg容器からの漏えい	2010/7/19	埼玉県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(空家)	容器本体	<停止中>	<誤判断>	無	平成22年7月19日午後3時50分頃、販売事業者及び消防に、空家の隣家住民からガス臭がするとの連絡が入った。同日午後4時頃、消防が現場に到着し、空家の供給設備を確認したところ、LPガス50kg容器2本のうち1本の安全弁からガスが漏えいしていた。消防は漏えいを止めるため容器に水をかけ、内圧を下げることで漏えいを止めた。同日午後4時20分頃、販売事業者の社員が現場に到着し、容器の安全確認、及び撤去作業を行った。平成21年9月4日に空家に容器を取り付けたが、閉栓された平成22年1月25日までの間にLPガスは一度も使用されていなかった。原因は、外気温などの影響でLPガスの液移動が発生し、事故発生当時の気温上昇に伴い容器内圧力が上昇し、安全弁が作動したためと推定される。なお、空家に取り付けけた容器を計量したところ、安全弁が作動した容器が45kg、もう一方が55kgであり、漏えいしたLPガスは微量であったと考えられる。
47	2010-173	消費	屋外に設置された炭酸ガス容器の安全弁作動	2010/7/25	広島県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	鉄工所	容器本体	<消費中> (停止)	<認知確認ミス>	無	事業所の休日に、工場屋外に設置してある、溶接用の液化炭酸ガス30kg容器に加熱防止の日よけ等の処置がなされていなかったため、10本のうち1本の容器の安全弁から、炭酸ガスが噴出した。原因は、使用時には、液化炭酸ガス容器は冷たくなり容器内の圧力が膨張することはないが、事故当日は休日であったため使用しておらず屋外気温も31℃を超えており、加熱防止の日よけ等の処置がなされていなかったため、容器内のガスが膨張し安全弁から噴出したと推定される。
48	2010-175	消費	保管していた酸素容器からの漏えい	2010/7/29	大阪府	0	0	0	0	酸素	漏洩等	その他(消防署)	容器本体	<消費中> (停止)	<その他> (原因不明)	無	消費事業所で、貯蔵している酸素ガス2L容器1本から、何らかの原因で酸素が噴出漏えいした。

番号	事故code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
49	2010-208	消費	屋外に保管していた炭酸ガス容器的安全装置作動	2010/8/5	千葉県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	その他(飲食店)	容器本体	＜その他＞ （保管中）	＜認知確認ミス＞	無	8月5日14時頃、飲料水の販売店が、消費先に炭酸水のディスプレイ一用に液化炭酸ガス5kg容器を1本納品した。納品状態は未接続で未使用であった。同日16時頃に、販売店が、消費先から容器より炭酸ガスが噴出しているとの連絡を受けた。直ちに販売店従業員が確認したところ、直射日光を受け屋外駐車場に置かれていた状態の容器から、全ての炭酸ガスが噴出していった。同日18時頃、販売店が容器的製造元に故障有無等の調査を依頼した。原因は、液化炭酸ガス容器を屋外に保管していたため、容器が直射日光を受け高温となり、圧力が上昇し安全装置(破裂板)が作動し、ガスが噴き出したものと推定される。
50	2010-209	消費	溶接機の炭酸ガス容器的安全装置作動	2010/8/6	福岡県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	鉄工所	容器本体	＜消費中＞ （停止）	＜認知確認ミス＞	無	事業者は、炭酸ガスアーク溶接機(シールドガス)として炭酸ガス30kg容器2本を使用を、屋外の作業場に設置した。容器は機器に接続され、転倒防止措置を施されていたが、屋根などは設けられていなかった。作業後、収納するのを忘れ、炎天下に放置されたことにより容器内圧力が上昇し、一つの容器的破裂板式安全装置が作動、約10分に渡り噴出した。長時間に渡り噴出するガスによる音と白煙(空気中の水分が結露したもの)に驚いた周辺住民の通報により、出動した警察、消防立ち会いの下、残ガス全てが放出された。
51	2010-193	消費	空家に設置されたLPガス10kg容器からの漏えい	2010/8/11	秋田県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(空家)	容器本体	＜その他＞ （放置容器）	＜劣化＞	無	平成22年8月11日4時10分頃、空家の隣家よりガス臭がすると消防署へ通報があった。消防車2台、7名で出動し、放水により漏えいガスを拡散した。5時10分頃、販売店の業務資格者が現場に到着した。調査の結果、放置されたLPガス10kg容器2本の内1本からガスが漏えいしており、底部にピンホールを確認し、容器を回収した。漏えいしていた容器的残ガスは5.5kg、一方の容器的残ガスは0kgであった。現場の家は、20年以上空家であり、販売店の顧客であった記録はなかった。容器について、当時の容器授受簿が現存せず、容器管理台帳にも登録されてなく、2001年以前の社名が書かれていた。容器販売か、貸し出し容器かも記録が無く不明である。容器は長期間放置により、底部に腐食によるピンホールが7箇所確認された。
52	2010-215	消費	バルク貯槽の気化装置のドレンバルブからの漏えい	2010/8/17	千葉県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	食品	バルク貯槽	＜消費中＞ （停止）	＜劣化＞	無	平成22年8月17日19時30分頃、食品加工会社の近隣から消防署へ、ガス臭がすると連絡が入り、消防隊員が現地へ行く、気化装置のドレン抜きからガス臭がしたので、ドレンバルブを閉めたところ、ガス臭が止まった。20時15分頃、消防隊員がLPガスの販売店へ状況を連絡し、21時20分頃、販売店社員が現地に到着した。供給設備を点検した結果、漏えいは認められなかった。事故当時、食品加工会社の社員は不在で、翌日、バルブの操作について確認したところ、操作した者は分からなかった。原因は、ベーパーライザーに付属するドレン抜きバルブに、外部より何らかの力が作用しバルブが緩んだと推定される。今後は、ドレンバルブのハンドルを外し、容易に操作できないようにすることとした。また、ドレンバルブを二重に設置し、常時閉の札を設置することとを検討している。
53	2010-222	消費	ハンディバーナー使用中に漏えいしていたLPガスに引火	2010/8/25	鹿児島県	0	0	1	1	液化石油ガス	漏洩等	食品	容器本体	＜消費中＞	＜劣化＞	裸火(バーナー)	食品工場内の加工行程で、使用するハンディバーナーが、以前よりバーナー本体と高圧ホースとの接合ネジ部が、老朽化して不具合が生じていたため、ネジ部を締め直し使用を続けていた。発災当日、ハンディバーナーを使用したところ、接合ネジ部よりガスが漏えいし引火し、従業員が1名火傷(唇)に軽い火傷を負った。原因は、始業前点検を実施しなかったことと、以前から不具合が生じていたにも拘らず、そのまま使用していたためであった。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
54	2010-239	消費	雨により地盤がくずれLPガス漏えい	2010/9/17	福島県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他	容器本体、配管	<消費中> (停止)	<その他> (自然災害)	無	13時頃、消費者が自宅の地盤状況を不審に思い、大工に修繕を依頼した。17時頃、大工が地盤が崩れたことにより、LPガス容器が外れガ스가漏れしていることを発見し、販売店にガス漏れの通報を行った。家屋敷地の基礎であるコンクリート部分が経年劣化でもなくないたところ、大雨が降りそのコンクリート部分が崩壊し、チェーンをかけて設置してあったLPガス20kg容器3本のうち2本が倒れ、高圧ホース、調整器部分が外れたことにより、ガス漏れが発生したと推定される。17時13分、販売店の担当者が3本のバルブを閉め、LPガス20kg容器2本を回収、残りの容器も、後日回収した。なお、容器本体に異常はなかった。
55	2010-276	消費	火災によるLPガス容器から漏えい	2010/9/25	埼玉県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(個人)	容器本体	<消費中> (停止)	<その他> (火災)	火災	平成22年9月25日午前5時10分頃、消費者宅から出火した。同日、火災鎮火後、消防から管理事業者へ連絡があり、管理事業者が販売事業者へ連絡した。現場に駆けつけた販売事業者社員が供給設備を確認したところ、設置されていたLPガス30kg容器2本の元弁が焼損し、容器内のガスが全量漏えいしていることを確認した。
56	2010-331	消費	LPガス容器の調整器が破損し、漏えい	2010/10/16	宮城県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(農業)	容器本体、調整器	<消費中>	<その他> (原因不明)	無	平成22年10月16日、ガス鉄砲(LPガス5kg容器1本、電磁弁付調整器)の電子基盤と電磁弁が破壊されているのを発見した。翌日、交番に被害届を提出した。
57	2010-332	消費	LPガス容器の調整器が破損し、漏えい	2010/10/26	宮城県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他(農業)	容器本体、調整器	<消費中>	<その他> (原因不明)	無	平成22年10月26日、ガス鉄砲(LPガス5kg容器1本、電磁弁付調整器)の調整器が破壊され、それに伴いLPガス2kgが漏えいしていたのを発見した。当日、交番に被害届を提出した。
58	2010-337	消費	建設現場の火災により、アセチレン容器から漏えい	2010/11/8	東京都	0	0	0	0	アセチレン	漏洩等	建設	容器本体	<消費中>	<その他> (調査中)	調査中	建設現場の2階詰め所から、何らかの理由で火災が発生し火が燃え広がった。1階にあったアセチレン7kg容器1本の溶接が溶けてガスが漏れ出し、火災の火が燃え移った。火災の原因は、7階と8階の間の階段部分での切断工事中に、2階壁の養生シートに火花が着火し、火が1階天井の防護ネットに伝わり、1階まで燃え広がったと推定されるが、現在のところ、断定はできない。容器には直接火種が落ちたか、火災による温度上昇で溶接が溶けたかは、不明である。なお、事故後のアセチレン容器の中身は空になっていた。
59	2010-363	消費	酸素容器の調整器からの漏えい	2010/11/29	埼玉県	0	0	1	1	酸素	漏洩等	その他(病院)	容器本体、調整器	<消費中>	<劣化>	無	平成22年11月29日午前11時30分頃、病院において、介護福祉士が患者に酸素投与を行うため、酸素容器のバルブを開けた際、介護福祉士が調整器付近からの漏えい音を確認したため、バルブを閉止しようとしたところ、調整器に指が接触した。調整器は過熱しており、介護福祉士は右手人差し指に軽度の火傷を負った。バルブを閉止したことによりガスの漏えいは止まったが、病院側は酸素容器等を通気性のよい場所に移動した。併せて病院事務部が直ちに納入業者に連絡し、同日夕刻、調整器入口接続部のパッキンが焼損し、ガスが漏えいしたものと推定される。パッキンに付着していたホコリ、油等がガスの流動による摩擦で発熱し、パッキンの焼損に至った可能性が高く、調整器過熱も、これに起因すると考えられる。事故後に行った調査では、調整器の内部部品に目立った異常はなかった。また、調整器入口接続部の焼損跡のほか、圧力計の破損が確認された。なお、圧力計の破損については、パッキン焼損時のガスの突出によるものとみられる。

番号	事故code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
60	2010-183	消費	ビールサーバー用炭酸ガス容器からの漏えい	2010/12/11	神奈川県	0	0	0	0	炭酸ガス	漏洩等	その他 (飲食店)	容器本体	<消費中>	<情報提供の不備>	無	飲食店で、開店後、店長がビールサーバーに炭酸ガス5kg容器を取り付け、容器弁を開けたところ流量が多かったので、容器弁を閉めようとしたら動かない状態になってしまった。販売店に電話を対処法を聞いたところ、調整器をとるよう指示されたため、調整器を外したところ、大音響とともに炭酸ガスが噴出した。直ちに、店の裏口に容器を運び出し、噴出が終わるまで放置した。原因は、バルブメーカーのH22年7月の資料によると、バルブの全開状態でバルブハンドルのかみこみでロックして、しまらなことが指摘されていたため、同じ現象が発生したのか、さらに調査を継続している。
61	2010-374	消費	LPガス容器の調整器からの漏えい	2010/12/18	群馬県	0	0	0	0	液化石油ガス	漏洩等	その他 (個人)	容器本体、調整器	<消費中>	<設計・構造上の不良>	無	12月18日、消費先である集合住宅から、ガス不着火の連絡が供給会社に入ったので確認したところ、供給設備(LPガス50kg4本設置)のうち、調整器本体から漏えいしていることが分かった。漏えい箇所は接続部分ではなく、一次側弁体の弁ゴムからであった。なお、群馬県消防保安課に供給会社から連絡が入ったのは、12月20日16時30分頃であった。調整器メーカーの調査によると、容器交換時にホースから砂粒物が入り、異物を除去する役割の金属メッシュをもぐり抜けて調整器内部に異物が堆積したことが漏えいの原因であった。なお、金属メッシュよりもさらに編み目の細かい樹脂製のフィルターを採用した改良型調整器もあるが、改良型調整器にモデルチェンジがあったのは平成16年7月のことであり、漏えいのあった調整器は平成14年5月の製造であった。
62	2010-011	消費	気密試験中の熱交換器の破裂	2010/1/20	埼玉県	0	1	0	1	酸素	破裂等	その他 (研究所)	熱交換器	<消費中>	<誤操作>	無	現場で作業を行っていた作業員が水槽に付属するチタン製フレキシブル熱交換器の修理を終え、酸素を使用して機器の気密試験を行ったところ、熱交換器が破裂し、作業員1名が破片などを受けて重傷を負った。原因は、普段は窒素を使用して機器の気密試験を行っていたが、当日は窒素を切らしており、代わりに酸素を使用したためと推定される。今後は、保安教育を徹底することとした。
63	2010-020	消費	超低温容器のフレキシブルホースの破損	2010/1/28	福島県	0	0	1	1	酸素	破裂等	鉄工所	容器本体、ホース	<消費中> (停止)	<誤操作>	無	LPガスと酸素を使用して鉄板の溶断加工等を行っている事業所で、1月28日の作業終了後、作業員が酸素が超低温容器付近から漏えいしていることに気づき、近くに寄ったところ、超低温容器に接続されている金属フレキシブル管の根本が破損して暴れ、管が作業員の胸に当たり、また、破裂音で一時的な難聴になり病院に救急搬送された。被害者は、胸の打撲は特に問題なかったが、耳へのダメージにより頭痛等で運転等を控えており、静養中である。原因は、作業終了時に作業員がバルブ操作の手順を間違えたものとみられる。金属フレキシブル管内のガスをバージせずに両端のバルブを作業員が閉めてしまったため、フレキシブルの内部に液体酸素が封じ込まれた状態になり液封が発生したものと推定される。通常は作業責任者が最終確認を行いバルブを閉めた状態のため、通常閉めないバルブをなぜ閉めたのか、作業責任者自身が閉めたのかについては、不明のままである。今後は、酸化器側のバルブを閉められないよう固定した。また、残ガスを必ず放出するなど、操作手順書の作成を実施した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
64	2010-036	消費	混合ガス消費設備の流量計が破裂	2010/2/18	埼玉県	0	1	0	1	炭酸ガス、アルゴン	破裂等	鉄工所	容器本体、流量計	<消費中>	<誤判断>	無	溶接用のアルゴン+炭酸ガスの混合ガス消費設備で、集合装置バルブ部分から漏えいがあった。消費者から高圧ガス販売事業者と連絡が入り、現場に向かった。販売事業者社員が消費設備を確認したところ、漏れを確認したので集合装置からのガスの供給を中止した。消費者並びに販売事業者社員は、漏えい部分の修理を行うまでの間、消費設備を使用できるよう工場内に混合ガス容器を運び、直接消費設備に容器を交付する作業を行い容器バルブを開いたところ、流量計のフロート管が破裂し消費者が左目を負傷した。原因は、容器に付属機器の取り付け作業を行った際に、圧力調整器を付け忘れ、容器バルブを開いたためと推定される。今後は、販売事業者従業員に対して、保安教育を実施した。
65	2010-047	消費	圧縮空気による消防用ホースの破裂	2010/3/5	埼玉県	0	0	3	3	空気	破裂等	その他(消防署)	容器本体、ホース	<消費中>	<認知確認ミス>	無	消防署2階の廊下で、中学生を対象とした職場体験の火災訓練体験を実施するため、水の代替として空気を消防用ホースから放出しようと、呼吸器用空気容器と職員が自作した空気充てん装置、及び消防用ホースと媒介金具(二又分岐)を接続し減圧装置を用いないで加圧したところ、消防ホースが破裂した。原因は、圧力調整器や安全弁等を取り付けしていなかったため、許容圧力以上の高圧空気が消防用ホースに流れたためと推定される。
66	2010-060	消費	火災によるLPガス容器の破裂	2010/3/25	神奈川県	0	0	0	0	液化石油ガス	破裂等	食品	容器本体	<消費中>	<その他>(火災)	裸火	和菓子の製造施設で、LPガス50kg容器4本を設置し供給していた。事故当日、店舗厨房で料理中、油に火が入り火災となり、燃焼の熱により1本の容器が破裂、3本の容器の安全弁が吹き、そのうち1本の容器が吹き止まらず、鎮火後に防災キヤップを施した。原因は、破裂した容器の直近に灯油タンクがあり、灯油燃焼の急速な加熱により安全弁の吹き出し量が不足したことと、加熱による容器鋼材の劣化により破裂したものと推定される。容器の破断は容器長手方向と、容器上部の気相部に円形に見られ、容器の一部が吹き飛んでなくなっていた。また、容器バルブと容器上部とで見られる破片が、容器内に落下していた。
67	2010-077	消費	冷熱衝撃装置のリーフタンクの破裂事故	2010/4/7	徳島県	0	0	1	1	窒素	破裂等	電気	タンク	<消費中>	<劣化>(腐食)	無	工場内で、製品の耐久性を確認するための冷熱衝撃装置に不具合が生じたため、販売代理店を通じて製造メーカーに連絡をとったところ、製造メーカーから2名の技術者が派遣された。技術者2名は、午前10時頃に到着し、不具合の内容から冷媒ガスの漏えいの可能性があると考え、漏れ箇所調査のため、装置内の冷媒ガスを抜き取り、窒素ガスを送り込んで段階的に加圧していた。加圧が1.5MPaまでは漏れ音が確認できなかったが、1.7MPa時に漏れ音がしたため、その箇所を確認するために検査機器であるリークデテクタの先をリーフタンク付近に近づけた直後にタンクが破裂した。その際、リークデテクタの先を左手で持っていたため、手のひらを裂傷した。原因は、冷凍回路からの冷媒ガス漏れ(低圧側)による冷凍回路への水分(大気中)の吸込みが推察され、①水分による冷凍機オイルの加水分解、②冷凍回路内に腐食物(アンモニア)発生、③リーフタンクの材質である銅合金が、圧力による応力、アンモニアに反応、④内部から応力腐食割れ発生、⑤リーフタンク鏡板の強度低下、⑥漏えい調査のための窒素ガス(1.7MPa)加圧による鏡板へのき裂発生に至ったものと推定される。今後は、高圧ガスの安全な消費について教育を徹底することとした。
68	2010-103	消費	溶断作業中にアセチレン容器から火災が発生し、隣接の酸素容器が破裂	2010/5/6	宮崎県	0	0	0	0	アセチレン、酸素	破裂等	建設	容器本体	<消費中>(溶断)	<誤操作>、<その他>(調査中)	裸火	5月6日に、A社の従業員がB社加工場でガス溶断作業を実施しようとしたところ、アセチレン容器から火があがった。アセチレン容器からあがった火が酸素容器にあたり、その影響で、酸素容器が破裂し、10m程度飛翔した。アセチレン容器からあがった火を消火しようとして、A社の従業員1名が負傷(顔の右半分と右手を火傷し)、病院に搬送された。この火災により、B社加工場の建屋の一部がわずかに燃焼した。原因は、警察及び消防で調査中である。

番号	事故code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
69	2010-179	消費	LPガス20kg容 器の車両衝突し、配 管破損	2010/6/9	沖縄県	0	0	0	0	液化石油ガス	破裂等	その他 (会社事務所)	容器本体、配 管	<消費中>	<その他>(交通事 故)	無	事業所所有のLPガス20kg容器に、乗用車がバックしようとしてぶつか り、同時にLPガス20kg容器が引きずられた際にガス配管が破損した。 原因は、運転手の後方不注意であった。
70	2010-172	消費	長年放置され ていた酸素容器が破 裂	2010/7/24	長崎県	0	0	0	0	酸素	破裂等	その他 ()	容器本体	<その他> (放置容器)	<劣化> >(腐食)	無	A社が過去に販売した可能性のある、長年放置されていた酸素ガス 47L容器1本が、不明のタイミングで破裂しており、腐食がひどく容器番号が判別 できないであった。原因は、腐食により減肉したためと推定される。また、 被害の状況より、かなりの圧力が残っていたと考えられる。
71	2010-243	消費	保管されていた酸 素容器の破裂	2010/9/5	和歌山県	0	0	0	0	酸素	破裂等	漁業	容器本体	<消費中> (停止)	<劣化> >(腐食)	無	漁業協同組合で、荷捌場南側のコンクリート柱の傍に置かれていた酸 素7kg容器1本が、平成22年9月5日の15時頃、破裂した。容器は高さ 9mの天井に当たり、置かれていた場所から19m程離れた場所に落下 していた。原因は、海の直ぐ傍であったため、容器下部の外面腐食(破 断面の肉厚約2ミリ)が進行し、かつ午後からの太陽熱により、容器内 圧が上昇したため破裂したものと推定される。漁業関係者は、放置さ れた酸素容器の状況把握や危険性の認識が全くなかったため、酸素 容器の腐食等について、特段注意を払っていなかった。
72	2010-271	消費	火災による 医療用酸素 容器の破損	2010/9/16	神奈川県	0	0	0	0	酸素	破裂等	その他 (個人)	容器本体	<消費中> (停止)	<その他>(火 災)	不明	在宅酸素療法を適用している患者宅において、午後8時頃火災が発生 し、設置されていた酸素濃縮器が骨組みを残し焼失し、2本所持されて いた酸素0.2kg容のうちの1本は破裂し跡形はなくなっていた。もう1本 はガスが抜け、酷く焦げた状態で原形はあった(消防署で回収した)。な お、火災の原因は、不明である。
73	2010-274	消費	保管されてい た窒素容器 の破裂	2010/9/17	栃木県	0	0	0	0	窒素	破裂等	その他 (学校)	容器本体	<その他> (保管中)	<劣化> >(腐食)	無	学校内の研究室内の流し台の下に、窒素10L容器1本(ガス量不明)を 床に直置きしていた。9月17日11時頃、突然、容器が破裂し、容器が縦 方向に破損し、容器の破片が研究室の天井に突き刺さった。この窒素 10L容器1本は、販売事業者から納品してから、既に17年を経過したも のであった。研究室の教授以下、教官や学生もこの容器の存在を意 識してはなかった。前任の教授が実験で窒素を使用していたが、後 任の教授は炭酸ガスを使用しており、引継ぎ等も行われていなかった ため長年の間、放置されていた状態であった。流しの下で横倒した状 態であったため、床と容器の設置面で腐食(錆び)していた。販売事業 者も長期間の停滞容器について、特に消費者等への連絡、あるいは 状況等の現場確認は実施していなかった。
74	2010-007	消費	製菓店にお ける一酸化 炭素中毒	2010/1/15	山口県	0	0	4	4	液化石油ガス	その他 (中毒)	食品	バー ナー	<消費中>	<認知 確認ミス >	無	小型換気扇2台を運転しながら従業員4名で餅米を蒸す作業をしてい たが、給気もなく長時間蒸し器バーナーを燃焼したことにより一酸化炭 素が発生し、中毒を起こしたものと推定される。事故後、燃焼器のCO 濃度測定を行ったが、異常はなかった。今後は、CO警報器を設置する こととした。
75	2010-056	消費	焼結炉への火 点火時の火 傷	2010/3/21	愛知県	0	0	1	1	液化石油ガス	その他	自動車	バー ナー	<スタート アップ中>	<誤操 作>	裸火 (ライ ター)	作業者が焼結炉に点火する際、パイロットバーナーではなく、カーテン バーナーの元バルブを開け着火したところ、大きな炎となり火傷を負っ た。今後は、着火及び送気の自動化を実施することとした。
76	2010-188	消費	食品会社で の調味料加 熱中のCO中 毒	2010/7/13	山形県	0	0	3	3	液化石油ガス	その他 (中毒)	食品	燃焼器	<消費中>	<誤判 断>	無	食品工場で、玉こんにゃくのためを製造するため、従業員1名が揚げ 鍋で調味料を加熱していたところ、急に気分が悪くなり、一酸化炭素中 毒状態となった。さらに、助けにきた従業員2名も、一酸化炭素中毒状 態となった。原因は、換気扇を使用していなかったため、室内の酸素 量が減少し、揚げ鍋の燃焼器が不完全燃焼し、一酸化炭素が発生し たためであった。今後は、一酸化炭素検知器の設置、及び保安教育を 徹底することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
77	2010-235	消費	LPガス容器の撤去	2010/9/13	福島県	0	0	0	0	液化石油ガス	その他	その他（飲食店）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞	無	消費先である飲食店は、倒産のため平成21年11月17日からガス供給設備であるLPガス980kg容器1基を閉栓していたが、土地所有者が別店舗を建築するため、ガス供給事業者が無断で店舗、及びガス供給設備を撤去した。土地所有者及び建築会社へ問い合わせたが返答が得られず、所在不明となった。その後、解体業者が保管していることが判明したため、供給事業者が設備（貯槽内のLPガス含む）を回収する予定である。
78	2010-313	消費	火災による酸素容器の焼損	2010/9/28	大阪府	0	0	0	0	酸素	その他	その他（個人）	容器本体	＜その他＞（不明）	＜その他＞（火災）	火災	在宅酸素療法を実施していた消費先で、冷蔵庫が漏電したことで火事が発生し、圧縮酸素2.1L容器2本が焼失した。
79	2010-352	消費	食品加工場での一酸化炭素中毒	2010/12/1	福岡県	0	0	4	4	液化石油ガス	その他（中毒）	食品	燃焼器	＜通常運転中＞	＜点検不良＞	無	平成22年12月1日16時00分頃から、食品工場内でシューマイを蒸すために、蒸し器を使用していた。16時30分頃、作業員4名が体調不良を感じ、内1名が蒸し器を停止し、従業員全員が屋外に退避した。その後、工場関係者が消防に通報し、体調不良を訴えた従業員4名は病院に救急搬送され、一酸化炭素中毒と診断された。原因は、蒸し器上部の換気扇の故障による換気不良と推定された。

平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表

(4)災害事故:その他の事故

番 号	事故区 分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質 名	現象	業種	設備区 分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
1	2010 -085 その他	自動車用 LPガス容器 交換中の爆 発	2010/4/16	新潟 県	0	2	1	3	液化 石油 ガス	爆発	自動車	容器本 体	＜その 他＞(容 器交換 中)	＜その 他＞(調 査中)	調査 中	車検で、貨物自動車に設置されている燃料用LPガス容器の再検査を依頼するため、自動車から取り外し、検査済みの容器に交換する作業をしていた。容器を、車から取り外す作業をしているときに、容器からガスが漏えいし、爆発、火災となり、作業をしていた本人と、近くで作業をしていた2人が火傷を負った。火災は駆けつけた消防により鎮火されたが、容器からガスが漏えいを続けた。ガスの漏えいを止めることが困難であったため、警戒区域を設定し、すべて放出、拡散させた。原因は、漏えいした容器は、液面計本体を取り付けるボルトが外れており、そこからガスが漏えいしていた。容器の交換作業で、そのボルトを外すことはないのに、液面計の指示器(目盛り計)を取り外す際に、そのすぐそばにある液面計本体の取り付けボルトを誤って外したため、漏えいし、何らかの着火源により、引火、爆発したものと推定されるが、詳細は調査中である。
2	2010 -052 その他	アセチレン 容器くず化 中の爆発	2010/3/12	北海 道	0	0	0	0	アセ チレ ン	爆発	廃品回 収	容器本 体	＜その 他＞(く ず化)	＜認知 確認ミ ス＞	無	受け入れたスクラップいつ、どこからは不明に混入していたアセチレン容器に気付かず、プレッシャーに投入したところ、9時に爆発が発生した。爆発後の9時1分、従業員4名で消火器による初期消火活動を実施し、9時5分至蘭市消防本部の消防車2台、隊員6名による放水消火活動の結果、9時16分鎮火した。爆発した容器は腐食が激しく、所有者名、刻印番号等の判読は不能であった。今後は、スクラップ受入時、プレッシャー投入時に高圧ガス容器がないことを確認することとした。また、顧客に対し高圧ガス容器受入不可の旨を周知徹底することとした。
3	2010 -155 その他	建設工事中 の土中に あった塩素 ガス容器か らの漏えい	2010/5/13	滋賀 県	0	0	0	0	塩素	漏洩等	電気	容器本 体	＜その 他＞(放 置容器)	＜劣化 (腐 食)	無	平成22年5月13日、A社の工場建設工事の整地作業中に、土中より異臭のするガスが発生した。調査の結果、塩素系ガスと判明したがガス発生原因は不明であった。原因を究明するため、ガス拡散防止の措置をとる。1つ、掘削、掘削作業を行った。平成22年6月29日、この作業中に、土中より塩素系容器2本が発見された(発見時残ガスなし)。容器の状態、その他ガスの発生源になるものも未発見なことから、この容器からガスが漏えいしたと考えられた。なお、人的被害はなかった。容器は腐食により刻印が不鮮明であるが、1950年代製造と思われる、製造者、所有者は不明である。1本は底部に腐食による穴、もう1本は元弁部分が根本より折れている。原因は、工場建設用地に過去不法投棄されていた当該容器が腐食、整地作業の外力により元弁が破断、漏えいに至ったと推定される。5月13日ガス発生時、黄色のガスが土中から噴出立ち上る目撃情報からも、液化状態の塩素ガスが元弁破断により一気に噴出したと考えられる。
4	2010 -161 その他	簡易水道施 設に放置さ れた塩素ガ ス容器から の漏えい	2010/6/24	岐阜 県	0	0	2	2	塩素	漏洩等	その他 (空家)	容器本 体	＜その 他＞(放 置容器)	＜劣化 (腐 食)	無	住民より、異臭がして農作物が枯れている旨の通報があり調査したところ、小屋(S34年頃廃止された簡易水道施設)に放置された、塩素ガス容器から漏えいしたものと推定された。原因は、50年以上前から廃止された簡易水道施設(小屋)に放置されていた塩素ガス容器が腐食したためと推定される。
5	2010 -350 その他	不法投棄さ れたLPガス 容器からの 漏えい	2010/11/19	三重 県	0	0	0	0	液化 石油 ガス	漏洩等	電気	容器本 体	＜その 他＞(放 置容器)	＜劣化 (腐 食)	無	事業所では、夏頃の大雨で崩壊した場所の復旧工事を行っていた。平成22年11月19日17時00分頃、土中からLPガス20kg容器1本が見つかり、引き上げたところ、噴出音はしないが着臭剤の臭気が周辺に漂った。容器はほぼ空の状態であり、腐食が進みバルブハンドル等が脱落していた。水に入れたところ漏えい箇所が判明し、ガス検知器で確認した結果、残ガスが漏えいしているが漏えい量は微量であり着火爆発等の危険性はないと判断されたため、販売店の敷地内で安全を確保し大気放出させることとした。なお、容器は過去に何者かによって不法投棄されたものとみられるが、番号等の確認はできなかった。また、この事業所では現在LPガスは使用しておらず、以前に取引のあった販売店に連絡したものである。

平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表

(5)盗難・紛失事故:製造事業所

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
1	2010-731	製造事業所(一般)	亜酸化窒素ガス容器の盗難	2010/4/30	東京都	0	0	0	0	亜酸化窒素	その他(盗難)	スタンド	容器本体	<消費中>(停止)	<その他>(盗難)	無	貯蔵所内で、容器置場に置いてあった医療用亜酸化窒素ガス2.5kg容器7本が喪失した。月に1回、月末に棚卸しをしており、4月30日に帳簿と実数とが合わないことが判明した。その後、伝票を再確認したが原因は解明されなかった。よって、盗難の可能性が高いと判断し、5月18日に、警察署に連絡し、被害届を提出した。今後は、容器置場を常時監視し、監視カメラを設置することとした。
2	2010-551	製造事業所(コ)	LPガス容器の紛失	2010/1/28	北海道	0	0	0	0	液化石油ガス	その他(紛失)	石油精製	容器本体	<消費中>(停止)	<その他>(紛失)	無	平成22年1月22日の点検で、事業所内で使用しているLPガス組成分析用のサンプリング用1.5kg容器が見当たらず、27日までの間、事業所敷地内を一斉点検するも発見されず、28日に事業所は容器の喪失として確定し、警察署に届け出た。空容器であったため高圧ガスの喪失はない。
3	2010-658	製造事業所(LP)	LPガス容器の盗難	2010/3/10	新潟県	0	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	充填所	容器本体	<その他>(保管中)	<その他>(盗難)	無	3月10日に、質量販売の消費者から預かっていたLPガス8kg容器を配送しようとしたところ、容器がなかった。この容器は2月9日に回収し、残ガス計測、充てん及び伝票処理をしており、その後、A社の充てん所内容器置場に保管していた。容器の誤配送等も考えられることから、調査をしたが見つからなかった。盗難の可能性が大きいいため警察に届出をしたが、引き続き容器の捜索も行っている。容器がないことに長期間気づかなかったのは、日常点検で容器置場の容器の確認までは実施していなかったなど管理体制が十分でなかった。
4	2010-787	製造事業所(一般)	フルオロカーボン容器の盗難	2010/7/8	愛知県	0	0	0	0	フルオロカーボン	その他(盗難)	販売店	容器本体	<消費中>(停止)	<その他>(盗難)	無	販売店従業員が業務終了後、フルオロカーボン10kg容器7本を車両に積載したまま、月極駐車場に車両を駐車していたところ、車両ごと盗難にあった。

平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表
(6)盗難・紛失事故:移動中

番号	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	重傷	物質計	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
2010-1981	移動	酸素容器の紛失	2010/10/29	滋賀県	0	0	0	0	その他(紛失)	運送	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(紛失)	無	在宅医療の滋賀営業所の販売店から運送依頼した、医療用酸素容器(23L)に充てん容器等ではないが紛失した。荷受人である同社金沢営業所から容器が到着していないとの連絡で発覚した。運送事業者での容器荷下ろし記録はあるが、その後の出荷記録はなかった。

平成22年に発生した高圧ガス保安法事故一覧表
(7)盗難・紛失事故・消費中

番号	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状状況	事故原因	着火源	事故概要
2010-1554	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/30	群馬 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月30日8時半頃、LPガス20kg容器2本が不在に消費者が気づき、販売店に通報した。販売店従業員が現場に急行したところ、容器の盗難であることが判明した。警察署に通報し、現場立ち会いのもと、盗難届けを提出した。
2010-2885	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/1	鳥根 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	7月1日、検針員が、消費先に検針に行った際、設置していたLPガス20kg容器1本が違うことを確認した。6月1日の検針時には異変がなく、6月1日の検針後から7月1日の検針の間に盗難にあったものと推定される。
2010-3912	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/19	三重 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先は、LPガス20kg容器2本の供給設備を使用していたが、盗難防止用チェーン、及び転倒防止用チェーンが切断され、LPガス20kg容器1本が盗難された。平成22年4月にも同様の盗難に遭っており、管理を強化し、盗難発見の2日前の16時頃にも近隣の自治会長が巡回し、容器の所在を確認していた。なお、今回の盗難では平成21年10月に盗難された容器が、ガスを使用し空になった状態で現場に放置されていた。
2010-4947	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/25	和歌 山県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (病院)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	10月25日午前9時半頃、販売店の検針員が消費先を訪問したところ、LPガス10kg容器のバルブが閉められていた。消費者に確認したところ、閉めた覚えがないとのことであったので、今月初めに同じ場所の容器の中身が盗難されたこともあり、気が社した。検針員から、夕方になり容器のことを聞いたので、中身だけが抜き取られていた。同日、販売店が警察に連絡した。平成22年12月1日の検針時には異常がなかったことを確認済み）その後、1月7日に販売店が、喪失容器の補充のため現地に訪れたところ、喪失した容器と同一の容器が設置（高圧ホースに接続してあり、漏えい等がない状態）してあるのを発見した。（推測で約9kg（4m3）程度使用されていた）
2010-5501	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/3	広島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月3日、販売店の従業員が検針のため訪れた際に、LPガス20kg容器2本設置のうち1本が無くなっていることを確認した。（平成21年12月1日の検針時には異常がなかったことを確認済み）その後、1月7日に販売店が、喪失容器の補充のため現地に訪れたところ、喪失した容器と同一の容器が設置（高圧ホースに接続してあり、漏えい等がない状態）してあるのを発見した。（推測で約9kg（4m3）程度使用されていた）
2010-6502	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/3	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置していたLPガス20kg容器1本が、ホースの継手から取り外されていた。
2010-7503	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/4	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月4日、販売店社員が現場前を通りかかった際に、LPガス20kg容器2本のうち1本が外されていることに気づき、配達事業者等に確認をしたところ、盗難であることを認識し、同日18時頃に警察署へ盗難届を提出した。なお、平成21年12月5日に販売店社員が現場前を通りかかった際には、問題なかったとのことであった。今後、閉栓になった容器を設置している箇所は、定期巡回の巡回頻度をアップすることとした。
2010-8504	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/5	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月5日9:30頃、事業所（一般消費先）に設置されていたため、容器は正月休み中に盗難されたと推定される。
2010-9505	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/5	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月5日午前3時30分頃、配達担当者よりLPガス20kg容器2本のうち、1本が無くなっている旨連絡があり、現地に赴き現場を確認した。予備側の20kg容器1本が無くなっていることを確認し、消費先では通常どおりガスが出ていたのでも付かなかったところと盗難と判断、1月6日に盗難届を提出した。今後は、駐在所、自治会などでの防犯対策に販売店としても協力し、地域防犯の推進に努めることとした。
2010-10506	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/5	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (造船)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成21年12月30日から平成22年1月5日まで、休日ではあったが、従業員が1月5日午後3時ごろ所用があり事務所へ出かけたところ、LPガス20kg容器1本が不在に気づき、販売店に通報があった。なお、盗難されたのは工場とは別棟の事務所に設置されていた容器であり、12月29日午後5時ごろ、給湯器を使用した覚えがあるとのことであった。
2010-11507	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/6	群馬 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月6日朝8時30分ごろ、給湯器の点火が行えないため容器置場を確認したところ、LPガス20kg容器2本の内、予備用の1本が不在の1に気づき、販売店へ通報した。同日11時ごろ販売店従業員1名が現場を確認に行ったところ、盗難であることが判明した。警察には、消費者より通報した。
2010-12508	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/6	埼玉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月5日17時頃、消費者からLPガス販売事業者へ湯沸器の修理依頼があり、翌日の10時20分頃、消費者先を販売所社員が修理のため訪問した。湯沸器を確認したところガス切れの様なので、供給設備を確認すると、LPガス20kg容器2本のうち1本（予備側）が盗まれていた。
2010-13509	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/6	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月6日13時頃、配送委託会社の社員が容器交換のため、LPガス供給先を訪問したところ、LPガス20kg容器8本のうち1本が高圧ホースから取り外され紛失しているのを発見した。平成22年1月6日、交番に盗難届、同年1月7日、消防局に事故届を提出した。今後は、喪失、盗難防止対策について、社内で協議するとともに、各LPガス供給先の巡回回期を見直すこととした。
2010-14510	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/6	福岡 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月6日15時30分頃、消費者からガス販売店にガスが点火しないとの連絡があった。ガス販売店の従業員が現場に向かったところ、20kg容器2本のうち1本の紛失を確認した。同日16時頃、交番に被害届を提出した。なお、去年12月19日午前中の検針時には、異常は見られなかった。
2010-15511	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/6	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先のLPガス20kg容器2本が、ホースを鋭利な刃物で切断され、盗難されていた。
2010-16512	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/1/6	京都 府	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月6日に、アセチレン7kg容器1本と、酸素7m3容器1本が盗難にあったことが、警察署からの連絡により判明した。（窃盗事件現場の遺留品として放置されていたとのこと。）。平成21年12月28日には異常がなく、平成21年12月28日～22年1月6日の間に盗難にあったと思われる。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死 者	軽 傷	計 画	物質名	現象	業種	設備 区分	取扱 態	事故状 況	事故原因	着 火 源	事故概要
17 513	2010- 17 513	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/7	長野 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (神社)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月7日20:00頃、神社の社務所内にて会議終了後外へ出たところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本がないことを発見した。(1月2日の10:00頃までは2本あったことを確認している模様)翌日、ガスを供給している販売店へ連絡し、担当者が周辺埋奉をする見あたらず、盗難と判断した。なお、消費設備、供給設備とも異常はなかった。また、警察署へ被害届を提出し、現場検証を行った。
18 514	2010- 18 514	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/8	京都 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務 所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月8日に、事業所に設置されていた20kg容器1本がなくなっていることを配送業者が発見し、販売店に連絡した。12月30日はガスが使用できたため、12月30日～1月8日の間に盗難にあったと思われる。(販売業者から警察署に盗難届を提出済み。)
19 515	2010- 19 515	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/8	佐賀 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月5日、公民館の利用者が、LPガス容器が設置してあることを確認している。平成22年1月8日午前9時、公民館の利用者から、転落転倒防止チェーンが切られ、LP容器が無くなったとの通報が派出所になされ、警察により現場検証が行われていたところ、ちょうど販売店の担当者が通りかかった。警察との現場検証の結果、LPガス20kg容器1本(消費先はこの20kg容器1本立て)の盗難を断定した。すぐに、警察署へ盗難届を提出した。公民館は平成21年4月5日にも容器盗難にあったおり、警戒をしている最中であつた。なお、前回平成21年12月19日のメーター検針時指針は10.7m3であり、残ガス量は86m3(約17.2kg)であつた。
20 516	2010- 20 516	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/9	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務 所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月9日10時05分頃、他のLPガス配送会社より、ひたちなか市に容器が放置されているとの連絡を受け、現場へ向かい容器を回収した。容器番号を確認したところ、消費先の事務所に設置されていたLPガス20kg容器1本と判明した。同事務所に確認したところ、高圧ホースのねじが取り外され、容器が無くなつた。
21 517	2010- 21 517	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/9	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月9日午後3時30分に、消費先からLPガス容器がないとの連絡があり、直ちに販売店担当者が現地に赴いたところ、設置していたLPガス20kg容器1本がサーキットから外され盗まれており、付近を捜索したが発見できなかった。なお、供給設備等の異常はみられなかった。平成22年1月11日、警察署に盗難届を提出した。
22 882	2010- 22 882	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/10	島根 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務 所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	検針時に検針員が、消費先に設置していたLPガス20kg容器と違ふことが判明した。盗難が判明した時点では、警察への被害届は出していないかつた。施設等の対応は考えたが、火災等発生している場合に、いち早く容器を取り外したい時に取り外しが容易でないため実施していなかった。盗難された容器は、LPガス20kg容器1本であつた。
23 518	2010- 23 518	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/11	奈良 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成21年1月11日、一般消費者宅でLPガス20kg容器1本が盗まれたのを発見した。容器があつた場所には、刻印をグライNDERで削除したと思われる空容器が接納してあつた。当該消費者宅は、LPガス20kg容器2本を自動切替器に接続していた。発見後、すぐに警察署へ被害届を提出した。
24 519	2010- 24 519	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/12	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	公民館に設置されていたLPガス20kg容器1本が、盗難にあつた。
25 520	2010- 25 520	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/12	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	消費先の事業所に設置されたLPガス20kg容器1本が、ホースの継手から取り外されていた。
26 521	2010- 26 521	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/14	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (集会所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月14日、集会所の管理責任者である区長から、LPガス20kg容器2本のうち1本が外されていると販売店に連絡があり、確認をしたところ、盗難であることを認識し、同日17時頃に警察署へ盗難届を提出した。平成21年12月22日に、販売店社員が検針をした際には、問題なかった。今後は、容器を目立つ箇所へ移設し、転倒防止チェーンに南京錠を付けることを検討することとした。
27 522	2010- 27 522	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/14	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年2月14日14時頃、配送員が供給設備点検のために空き施設に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器3本のうち2本が盗難にあつていいることが発見した。同施設は平成21年12月18日に転居したため閉鎖していたが、容器は設置されており月1回の供給設備点検を実施していた。
28 523	2010- 28 523	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/15	徳島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月15日の検針時に、LPガス10kg容器2本のうち1本が外されていることを確認した。武道館事務室に確認したところ、武道館を使用した団体が外した可能性もあるで確認することであつた。同月26日、再確認したところ、武道館に使用した団体が容器を外した団体ではないとのことで、同日、県に連絡し、27日に警察署に被害届を提出し、現場検証に立ち会つた。
29 524	2010- 29 524	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/15	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	平成22年1月15日14時頃、販売店社員が検針に行ったところ空家に設置されていたLPガス50kg容器2本、ガスメーター、調整器が無いことを確認した。所員、配送員などから聞き取りし容器撤去をしていないのを確認した。翌日、もう一度現場付近を捜索したところ、敷地内の物置よりガスメーターを発見したが、容器は盗難にあつたものと判断した。以前の入居者の連絡先は不明である。16日10時、警察署に通報し、被害届を提出した。
30 525	2010- 30 525	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/15	鳥取 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務 所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗 難)	無	無	容器配送センターより、会社事務所に設置していたLP

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状態	事故原因	着火源	事故概要
34	2010-529	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/18	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	個人住宅にて、LPガス10kg容器2本設置中のうち予備用の容器1本が、盗難された。今後は、販売事業者にて毎月の検針時だけでなく、付近を通行する際も注意を払うこととした。また、消費者にも盗難に対する注意喚起を実施することとした。
35	2010-530	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/18	岐阜 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	1月18日10時頃、販売店の検針員が、公民館に検針に行った際、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることに気が付き、容器所有者と連絡を行った。1月17日に自治会の掃除を行った際も、容器がないことを自治会に把握していたが、連絡をするのを忘れていたとのことであった。1月10日に公民館を使用した際は、容器があることを確認している。
36	2010-531	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/19	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費者宅に設置していたLPガス20kg容器1本が、盗難にあった。
37	2010-532	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/19	熊本 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	販売店の職員が、平成22年1月19日午後2時頃、保安点検のため消費先を訪れたところ、設置されているLPガス20kg容器1本が、低圧部ホースより切断され、無くなっている事を発見した。消費先の住人については、平成21年春頃より入院しており、長期間無人の状態であったとの事である。最後に容器を確認した行った平成21年3月19日の事であり、同日から発見日までの間に盗難にあったと推測される。(検針は本人が入院中であつたため実施していなかったとの事である。)なお、警察へ通報及び被害届の提出については、1月20日に行つたとの事である。
38	2010-533	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/19	奈良 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	一般化学	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年1月19日に、一般消費先でLPガス20kg容器1本が盗まれているのを発見した。容器があつた場所には、名前を灰色のペンキで消した空容器が置かれていた。発見後盗難と判断し、すぐに警察署へ盗難届出を提出した。
39	2010-534	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/20	福島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	一般消費者であつた事業者が、平成22年10月頃に倒産したため、販売店が容器の回収に訪問したところ、LPガス20kg容器1本が調整器から外されて無くなつていた。また、工業用に販売した10kg容器1本も無くなつていた。倒産の際に持ち出したものと推測されるが、消費先の倒産が分かつたときに、すぐに容器を回収に行つていなかった。
40	2010-535	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/20	京都 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (漁業)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年1月20日(配送日)に、配達業者が設置されていたLPガス20kg容器1本が、無くなっていることを発見した。平成21年12月20日(前回検針日)には容器を確認している。(販売業者から警察署に盗難届を提出済み。)
41	2010-536	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/20	富山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	LPガス販売事業者は消費者へ、LPガス50kg容器4本(自動切替調整器付き)を供給していた。平成22年1月20日午前10時30分過ぎに、容器交換しようとしたところ、LPガス50kg容器1本の紛失に気付いた。消費者に確認したが不知であつたため盗難と判断し、警察に被害届を提出した。なお、前回の容器交換は平成21年7月16日に行われており、盗難にあつたのは、当日から平成22年1月20日の間と考えられる。
42	2010-537	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/21	栃木 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	ガス販売店の従業員が、1ヶ月に1度の検針(毎月20日前後に検針を実施している。)のため、平成22年1月21日午前9時15分頃、消費先である別荘を訪問したところ(消費先は不在)、LPガス20kg容器2本、高圧ホース1本、低圧ホース1本、6kg型自動切替装置1組がなくなつていくことに気づいた。従業員が盗難と判断し、同日午前11時00分に栃木県に事故の第1報を入れ、同日午後0時、警察署に被害届を提出した。販売店は、平成21年12月19日に容器を確認しており、また、別荘の所有者は、平成22年1月3日午後8時にガスを消費している。従つて1月3日以降、発見日時までの間に盗難に遭つたと推定される。
43	2010-538	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/21	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年1月21日10時、一般消費先に設置していたLPガス20kg容器2本が無くなっているのに気がつき、従業員がLPガス販売店に通報した。前日の平成22年1月20日(水)15時30分には確認しているもので、その間に盗難にあつたと思われる。今後は、転倒防止用チェーンに鍵を設置するとともに、もう一つ盗難防止用鍵つきチェーンを設置することとした。
44	2010-539	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/21	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	1月21日16時頃、消費先の検針に行ったところLPガス20kg容器2本のうち、1本が無くなつていた。
45	2010-540	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/23	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先の事業所に設置されたLPガス20kg容器が、ホースの継手から取り外されていた。
46	2010-541	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/23	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	紙・パ ルプ	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先の事業所に設置されていたLPガス20kg容器が、ホースの継手から取り外されていた。
47	2010-542	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/23	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先で、1月23日に交換予定のLPガス20kg容器が無くなつていて、代わりに空の古い容器が取り付けられていた。
48	2010-543	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/23	佐賀 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年1月23日15時30分頃、販売店の容器配送の委託先の担当者が、消費先へ容器交換に行ったところ、LPガス20kg容器1本(消費先はこの20kg容器2本立て)が無くなつていくことを確認した。その後、コンピューター端末での確認を行い、盗難であると判断した。平成22年1月25日(月)、販売店から地元警察署へ盗難届を提出した。メーカー指針から、20kg満タンが入つていたと推定される。
49	2010-544	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/25	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	自動車	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先で保管中のLPガス20kg容器1本が、盗難にあった。
50	2010-545	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/25	沖縄 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費者宅の予備側のLPガス20kg容器1本が、盗難された。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
51	2010-546	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/26	福島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成21年4月20日、住人が引越したため空き家となった住宅で、設置してあったLPガス20kg容器2本の内、未使用状態だった容器1本が無くなっていることが、平成22年1月26日に判った。なお、無くなっていた容器の代わりに、平成20年8月に他で盗まれた容器が、空の状態置いてあった。販売所では近々を通るたびに(月に1～2回)周囲を見回している。
52	2010-547	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/26	宮城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月26日、検針のため販売店社員が消費先を訪問した際に、LPガス20kg容器2本が盗難にあったことを発見した。1月は客先でガスを使用していたために、検針時の発見となった。被害届は提出済み。
53	2010-550	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/26	愛知 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	LPガス一般消費者のLPガス50kg容器2本、高圧ホース一体型の圧力調整器、ガスメーターが平成21年12月22日から平成22年1月26日の間に喪失(盗難)した。1月28日に販売店の社員が喪失盗難を確認した。建物内部を解体中の業者に、LPガス設備について聞いて貰ったが情報がなかった。容器番号(確認中)、容器等の所在に関して知っていないか、建物の管理会社に文書で照会している。
54	2010-548	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/27	大阪 府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先のLPガス20kg容器が、ホースを鋭利な刃物で切断され、盗難されていた。
55	2010-549	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/27	京都 府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (漏業)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月27日に、設置されていたLPガス20kg容器3本のうち1本がなくなっていることに、消費者が気づいた。1月21日には異常がなく、21日～27日の間に盗難にあったものと思われる。当該消費先は、平成21年12月20日～22年1月20日の間にも容器1本が盗難にあった。 (販売業者から警察署に盗難届を提出済み。)
56	2010-552	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/28	熊本 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月28日午前7時45分頃、消費者が朝食のためガスコンロを使用したところ、火が付かなかったため、ガス切れと思い容器置場へ向かったところ、設置されているLPガス容器2本のうち1本が、高圧部ホースより切断され無くなっていることを発見し販売店へ連絡を行った。消費者の語では、前日まではガスコンロは使用できていたとのことであるため、前日の夜から当日の朝方までの間に盗難にあったと推測される。なお、警察へ通報、及び被害届の提出については、1月28日午前中に行ったとのことであった。
57	2010-553	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/29	東京 都	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	1月29日10時30分頃に、消費者からLPガス販売事業者よりLPガス20kg容器2本が盗難されたと連絡があった。11時00分頃に、販売事業者従業員が現場に到着し確認した後、配送業者に連絡し、警察署へ通報した。その後、警察の現場検証、被害届提出等の事故処理を実施した。
58	2010-555	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/30	沖縄 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者宅に設置してある、LPガス20kg容器2本のうち1本を紛失した。周辺を捜したが、見当たらなかったため、警察署へ盗難届けを提出した。
59	2010-556	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/30	静岡 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先には、LPガス20kg容器2本が配置されていた。平成22年1月30日の販売会社の巡回時に、LPガス20kg容器1本がなくなっていることに気づき、盗難と判断した。前回検針日は、平成21年12月24日であった。なお、現場には、盗難された容器の替わりに、他社から盗難されたLPガス20kg容器1本が置かれていた。今後は、再発防止措置として、容器に鎖をかけ施錠することとした。
60	2010-557	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/30	岡山 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成21年10月20日、建物所有者から依頼を受け、建物リフォーム工事後にLPガス供給設備を設置した。容器は調整器に接続し、バルブは確実閉止し、チェックにより建物へ固定し、転落転倒防止措置を実施した。設置メーターは休止して、入居連絡を待っている状態であった。保安確保のため、昨年数回確認した際には、異常はなかった。長期入居がないままの容器設置には支障があると判断し、平成22年1月30日地区担当者員が容器の一時回収に訪れたところ、容器の盗難に気づいた。
61	2010-560	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/30	静岡 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先では、LPガス20kg容器2本が配置されていたが、空家となり閉校中であった。平成22年2月1日に販売会社がLPガス20kg容器2本がなくなっていることに気づき、盗難と判断した。なお、盗難された容器のうち1本は、平成22年1月30日に、他社浜松支店の配置先(顧客)に接続されているのが発見されている。
62	2010-558	消費	LPガス容 器の盗難	2010/1/31	岡山 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	公民館の関係者が、LPガス20kg容器2本のうち、1本が無くなっているのに気づき、盗難されたことが判明した。
63	2010-559	消費	空気容器 の盗難	2010/1/31	静岡 県	0	0	0	0	空気	その他 (盗 難)	その他 (し ゃー ジャー)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月31日、リゾート施設の容器置場に保管中の圧縮空気10L容器3本が、盗まれていることが判明した。容器の在庫管理は、年1回程度、本数を確認するのみであるため、実際に盗難にあった日時は不明である。
64	2010-561	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/1	兵庫 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費宅に設置していたLPガス20kg容器2本が、盗難にあった。
65	2010-562	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/1	愛知 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (金社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年1月30日、一般消費者から閉校依頼があり、閉校指定日の平成22年2月1日に行ったところ、LPガス20kg容器1本が盗難にあった。
66	2010-563	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/1	大阪 府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (金社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先のLPガス20kg容器が、ホースを鋭利な刃物で切断され、盗難されていた。
67	2010-564	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/1	大阪 府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先のLPガス20kg容器が、ホースの継手から取り外されていた。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計 傷	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態 度	事故原 因	着火 源	事故概要
68	2010-565	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/2	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月2日9時頃、ガス配送業者が、容器交換のため公民館を訪れたところ、常時2本設置してあるLPガス20kg容 器のうち1本が無くなくなっていることに気がつき、関係事業者と連絡した。容器は、屋外に設置してあり、転倒防止の鎖も施さ れていた。なお、最後に確認されたのは、平成21年4月21日の容器交換時であった。
69	2010-566	消費 消費	アセチレ ン・酸素・ アルゴン 容器の盗 難	2010/2/3	埼玉 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素、 アルゴ ン	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月3日7時頃、消費者が車の面のある駐車場兼資材置場に向かったところ、車両が盗まれていた。車両には、当 日使用するためのアセチレン7kg容器1本、圧縮酸素7m3容器1本、圧縮アルゴン7m3容器1本及び溶接関連の器具、機材 が積載されており、車両ごと盗難にあった。警察署への盗難届は、提出済み。
70	2010-567	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/3	奈良 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月3日、一般消費先へ検針へ行つたところ、LPガス20kg容器1本が盗まれたのを発見した。容器があった場所に は、所有者を消された空容器が設置してあった。前回の検針は平成22年1月23日で、この時点で盗難に遭ったかどう かは確認してしなかった。その前の検針は平成21年11月28日で、この時は盗難に遭っていないことは確認している。発見後 盗難と判断し、すぐに警察署へ盗難届けを提出した。
71	2010-568	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/3	京都 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月3日に、配送員が容器交換のため消費者宅を訪れたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が 他社の容器に入れ替わっていた。1月8日の配送員による検針時には、異常はなかった。販売業者から、警察署に盗難届 を提出済み。
72	2010-569	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/4	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月4日10時00分頃、公民館に設置してあったLPガス20kg容器1本と調整器1つが取り外されているのを発見し た。低圧ホースが切られており、盗難されたものと思われる。
73	2010-570	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/4	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月4日午前11時00分頃に、販売店従業員が、容器配送のため消費先に赴いたところ、LPガス20kg容器2本のう ち1本が紛失していることを発見した。同日、同社において、交番へ被害届を提出した。同社において、容器設置状況の最 終確認をしたのは平成22年1月21日であった。
74	2010-571	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/4	福井 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	LPガス20kg容器1本が、不法投棄されていたとの連絡を役場から受け、確認したところ、鉄工所のもものと判明した。なお容 器の配送は平成21年5月29日以来されておらず、状況(盗難)の把握が遅れた。
75	2010-572	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/5	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月5日8時30分頃、販売店がひたちなか市役所より、同市馬渡付近に容器が不法投棄されているとの連絡を受 け、現場へ向かい容器を回収した。容器番号を確認したところ、消費先に設置されていたLPガス20kg容器1本と判明した。 現地を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器1本が無くなくなり、投棄されていた1本を含め、2本が盗難され たと判断し、警察に被害届を提出した。
76	2010-573	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/6	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置されていたLPガス20kg容器が、ホースの継手から取り外されていた。
77	2010-574	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/6	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月6日、LPガス20kg容器2本立て容 器の連結管が外され盗まれていると、販売店が消費者より連絡を受けた。 警察へ、盗難届けを提出した。
78	2010-575	消費 消費	アセチレ ン・酸素・ 酸 素容器の 盗難	2010/2/8	静岡 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	その他 (学校)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	工事業者が、平成22年2月2日から1週間の予定で、通信用アンテナ敷設工事のため、アセチレン及び酸素を使用してい た。2月6、7日の休日明けの8日7時頃、出勤した現場作業員が、車中の器具等とともに、アセチレン 2kg容器1本、及び酸素1.5m3容器1本が盗まれているのを発見した。車両はバンで、休日、夜間は、容器を車中に保管し ていた。
79	2010-576	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/8	佐賀 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月18日、販売店から容器配送の委託された担当者が、消費先AIに容器交換に行ったところ、LPガス20kg容器2 本のうち1本が、バーコードラベルが剥がされ、容器台帳番号と異なっていることに気づいた。その後、コンピューター端末 での確認を行ったところ、この容器は他の消費先BIに設置されているはずのものであり、容器の盗難であると判断した。さ らに、追加確認の結果、消費先BIには消費先CIに設置されているはずの容器、消費先CIには消費先DIに設置されているは ずの容器が設置されていた。ちなみに消費先DIには別の容器が設置されていたが、この容器も本来別の消費先に設置さ れているはずのものであった(台帳上判明せず)。同日、販売店から警察署へ盗難届を提出した。
80	2010-577	消費 消費	LPガス容 器の紛失	2010/2/9	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	鉄工所	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	消費事業所において、輸送していたLPガス50kg容器1本が喪失した。喪失した容器は、道路上で警察が発見した。原因 は、車両への固定が不十分ためであった。
81	2010-578	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/9	福岡 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月9日8時30分頃、既設LPガス供給設備の撤去を行うにあたり、販売事業者の依頼を受けた配送事業者職員 が、現場に容器回収に向かったところ、設置していたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなくなっていることを確認した。消費 先については、先の検針(同年1月15日)の際、住人の所在が不明となっていたものの情報を掴んでいたものの、消費者から 正式な契約解除の申し出がされたわけではなかったため、販売事業者は「居住者が消費先に戻り、再びLPガスを使用す る可能性もある」と判断し、容器他を存置することとした。この度、消費先の施設管理者から、その住居の電化工事を 含むリフォームを行うにあたり、LPガス供給設備の撤去が依頼されたため、容 器の回収を配送事業者者に指示、その結果、 容器盗難が発生した。同日、販売事業者が交番に盗難届を提出した。
82	2010-579	消費 消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/10	佐賀 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月10日午前9時40分頃、販売店の担当者が、公民館に2月分のメーター検針に向かい、設置されていた たLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなくなっていた。ガス担当者は、地区の配送担当者へ配送時における容器設置本数の 確認と、コンピューター端末での容器設置状況を確認し、盗難と判断した。同日中に派出所へ盗難届を提出した。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
83	2010-580	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/10	沖縄 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	2月10日13時50分頃、建物の建築業者が、LPガス20kg容器が無いか気づき、A社担当者へ電話で連絡、14時頃担当者 が現場へ到着し、高圧ホースが切断されLPガス20kg容器1本が無くなっていることを確認した。A社担当者は、供給先 であるB社へ連絡し、B社担当者が同14時5分頃警察署へ通報した。14時20分頃、現場に到着し警察の現場検証後、15時 30分に復旧完了し、現場で被害届を提出した。
84	2010-581	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/13	沖縄 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	2月13日15時00分、販売店従業員がガス配送の際に、LPガス20kg容器2本中1本が、調整器から取り外されていることを発 見した。家主に確認したところ、1月15日頃に容器が無いことに気付いたが、販売店が回収したと思っていたと回答があり、 販売店へ連絡した。16時00分に、販売店従業員が、家の周辺などを探したが、容器は確認出来なかった。16時30分に配 送履歴などから、紛失した容器を特定した。2月15日13時00分に、担当者が駐在所に通報し、16時30分に警察官2名と担 当者で、現場を確認後に容器を設置した。
85	2010-582	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/14	神奈 川県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	2月12日の検針時は異常が無かったが、2月14日に消費者が公民館でガスを使うとしたところ、ガスが出なかった。さら に2月22日にガスを使うとしたところ、ガスが出なかったため、消費者がメーターを確認したところ、LPガス20kg容器2本 が無くなっていることに気付いた。22日に、公民館長が警察署に通報した。また、23日8時30分頃に公民館長からLPガス 販売事業者へ連絡があった。販売事業者が現地確認したところ、LPガス20kg容器のみ無くなっており、新たに容器を設置 する措置を行った。盗難にあった容器は、1月27日に充てんし、28日に配送したものであった。今後は、盗難防止対策とし てチェーンと南京錠を取り付けることとした。
86	2010-583	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/15	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月15日午前7時55分頃、消費者が出動時に、自宅玄関横のLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていること に気付いた。販売店に連絡し、担当者が確認したところ、高圧ホース接続部を外されたので、深夜から未明に盗まれたものと恐 れ、盗難と判断し交番へ届け出た。14日午後9時30頃、帰宅した際には異常なかった。深夜から未明に盗まれたものと恐 われる。
87	2010-584	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/16	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月16日16時30分頃、販売事業所の担当者がガスメーターの検針のため、消費先を訪問した際、LPガス20kg容 器2本のうち1本が無くなっていることを確認した。設置容器の予備側容器は、高圧ホースの締込み部から専用工具を使用 し取り外されていた。盗難容器の残量はほぼ満タンであった。消費者は、冬期間は出稼ぎに行っており不在にしていた。1月 14日の検針では、容器2本を確認していることから、盗難時期は、1月14日から2月16日16時30分頃の容器紛失発見時の 間と推測される。
88	2010-585	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/17	徳島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	販売事業者が、平成22年2月17日の検針時に、消費先に設置されていたシャワー給湯用のLPガス10kg容器1本立の容器 が盗難され、代わりに1月15日に盗難にあった事務室用の容器(空の状態)が接続されているのを発見した(容器の整理 番号により確認)。販売事業者は、2月18日、県に連絡し、警察署に被害届を提出した。2月22日、現場検証に立会し、2月 26日、県に事故届を提出した。
89	2010-586	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/17	島根 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月17日14時00分頃、検針に出かけた販売事業所の社員が、集会所に設置してあったLPガス10kg容器2本のう ち1本が盗まれていいることを発見した。2月18日16:00から、自治会長立ち合いのもと現場付近、建物内を確認したが、発見 には至らなかった。販売事業者は、18日の内に警察及び県へ盗難の報告を行った。
90	2010-587	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/17	鹿児 島県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月17日16時00分、配送中の職員が、個人宅に設置してあるはずのLPガス20kg容器1本が無くなっていること に気付いた。付近の探索を行ったが容器は発見されず、警察へ被害届を提出した。
91	2010-588	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/19	東京 都	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (金属加 工)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	2月19日9時30分頃、販売店従業員が検針時に、消費先に設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本(予備用の容器) がなくなっていることを確認した。16時30分頃に、消費者と連絡が取れ、盗難が確認できたことから、警察署に通報した。 17時00分頃に、警察署による現場検証、被害届の提出等の事故処理を実施した。
92	2010-656	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/2/19	三重 県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月19日、採石場作業員が、酸素7m3容器1本、アセチレン41kg容器2本が盗難に遭っていることを発見した。容 器の他、欵ぐすりドラム缶3缶も盗難にあった。
93	2010-589	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/20	青森 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月16日、販売店従業員がメーター検針を行った時には、特に異常は感じられなかったが、同年2月20日10時35 分頃に容器交換に行ったところ、自社の容器ではなく、他社の容器が取り付けられていた。なお、メーター、調整器、ホー ス等の他の設備は特に異常がなかった。同日、警察署に容器の盗難届を提出し、現場検証を行った。
94	2010-590	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/20	島根 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	販売店は、集会所へLPガス5kg容器の質量販売を行っていた。平成22年2月20日に、自治委員が2月22日に設備を使用 するため、集会所に設備等の確認に行ったところ、集会所に設置していたLPガス5kg容器が所在不明と、販売事業者へ連 絡があった。現場に出動し、地区の人が使用している可能性もあったので、所在を確認したところ、全島心当たりが無く盗 難ではないかと判断し、2月22日に警察及び県へ盗難の報告を行った。なお、2月22日には新しい容器を設置したが、また 盗難にあっているわけではないので、使用後は容器を外している。今後、使用する際には再度改めて設置することとした。
95	2010-591	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/21	千葉 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月20日18時ごろに、自治会館を使用した近隣住民から、テーブルコンロの火がつかつかなかった。翌21日自治会 長へ連絡が入り、自治会長が現場にLPガス8kg容器1本が無いことを確認した。その後、販売事業者に容器を預かって いないかと確認の連絡が入ったため、21日午前8時に販売事業者が現場を確認し、高圧ホースが外れ容器が無いことを 確認し、盗難として警察署に被害届を提出した。盗難のあった自治会館は地域住民の集会所であり、人は常駐していな かった。平成21年12月20日にはテーブルコンロを使用できたとのことであった。
96	2010-592	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/22	広島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	食品	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年2月22日13時頃、販売店従業員が容器交換のため消費先を訪れた際に、LPガス20kg容器2本設置のうち1本が 他社容器のものであることを確認した。第三者による盗難と推定される。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	取 扱 態	事故原因	着火 源	事故概要
97	2010-593	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/23	広島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年2月23日11時頃、配達センターが容器交換のため消費先を訪れた際に、LPガス20kg容器2本設置のうち1本が他社容器のものであるのを確認した。第三者による盗難と推定された。
98	2010-594	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/24	石川 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	平成22年2月24日午前11時30分頃、消費先より、LPガス20kg容器1本が無いとの電話連絡があり、11時50分に販売店担当者が現地に到着した。LPガス20kg容器2本設置のうち、1本が無くなっているのを確認し、配達担当者に確認を行ったが、回収等の措置をしておらず、盗まれたものと判断した。同日午後、警察署に盗難届けを提出すると共に、事故届書を提出した。
99	2010-595	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/24	兵庫 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	消費先に設置されていたLPガス20kg容器1本が、盗難にあった。
100	2010-596	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/24	沖縄 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	24日に消費者が退去した旨の連絡を受け、17時頃、販売店従業員が現場を確認すると、LPガス20kg容器2本立ちのうち、予備側の1本が盗難されていた。現場の建物は解体の準備がすすめられており、解体業者に確認したが、分からないとのことであった。22日に入居者は退去しているが、退去時に容器が2本あるのを確認していた。
101	2010-597	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/25	大阪 府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	消費先に設置されていたLPガス20kg容器が、ホースの継手から取り外されていた。
102	2010-598	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/25	広島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	平成22年2月25日11時頃、販売店従業員が検針のため消費先を訪れた際に、LPガス20kg容器2本と調整器とメーターが無くなっていることを発見した。消費者は現在入院中であり、社内で確認したところ引き上げを行った事実も無かった。(H22/1/14:容器設置 H22/2/9:検針実施時に所在確認)
103	2010-599	消費	酸素容器 の紛失	2010/2/25	岐阜 県	0	0	0	0	酸素	その他 (紛 失)	その他	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	無	平成22年2月25日、トンネル工事における構脚工事現場において、大雨により飛驒川が急激に増水し避難するのに手一杯で、酸素ガス容器の移動ができず、酸素ガス7m3容器10本のうち1本を喪失した。
104	2010-600	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/26	石川 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	運送	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	平成22年1月13日、消費先より、事務所を移転するため1月末でLPガスの供給設備を撤去してほしいとの連絡があり、販売店の保安担当者が、1月29日に撤去しようとしたところ、もう暫くLPガス容器の撤去を待つて欲しいとの要請があり、また使用しなくなる日が決定次第直ぐ連絡するとのことと、先方からの連絡待ちの状況となっていた。平成22年2月10日の検針でも異常はなかったが、2月26日に販売店従業員が、消費先に再度確認のため赴いたところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていたため、客先に容器の確認をしたところ何処にも移動していないとのことと、事務所周辺を探索したが発見できなかったため、盗難と判断し、警察署に盗難届けを提出すると共に、事故届書を提出した。
105	2010-657	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 紛失	2010/2/26	和歌 山県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (紛 失)	運送	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	無	ガス消費先である会社が、田辺市秋津町の現場に酸素容器、及びアセチレン容器を持ち出していたところ、平成22年2月26日の夜間に大雨が降り、河川が増水し、酸素2本とアセチレン7kg容器1本が流された。
106	2010-601	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 紛失	2010/2/27	神奈 川県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (紛 失)	建設	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	無	消費者は、江ノ島、岩場の遊歩道の手すりの工事を請け負っていたが、2月26日の作業が終了し17時30分頃、アセチレンと酸素の容器をH鋼にラッシングベルト(プラスチック製の帯)で固定し帰った。翌27日朝8時頃作業員が来たところ、容器が2本ともなくなっていた。盗難、又は波にさらわれたものと考えられる。
107	2010-602	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/27	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	2月27日午前10時30分、販売所に消費者からLPガス容器を紛失したとの通報があり、現場を確認したところ、LPガス20kg容器1本が紛失していることを確認した。消費者宅では2月26日午後8時頃にLPガスを使用し、翌27日は午前10時30分頃にガスコンロに着火しようとして紛失に気づいたとのこととあり、その間に盗難があったものと思われる。警察への盗難届は、2月26日に消費者が提出した。
108	2010-603	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/27	静岡 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	別荘にLPガス20kg容器2本が配置されていたが、平成22年2月27日に現地を訪れた販売店の職員が、容器1本が盗難されていることを発見した。別荘は、住人は不在の期間が長く、盗難にあった時期は不明である。
109	2010-604	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/27	静岡 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	別荘にはLPガス20kg容器2本が配置されていたが、平成22年2月27日に現地を訪れた販売店の職員が、容器1本が盗難されていることを発見した。前回検針日の平成22年1月18日から2月27日の間に盗難にあったものと思われる。この間、別荘の住人は不在であった。
110	2010-605	消費	LPガス容 器の盗難	2010/2/27	静岡 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	別荘にはLPガス20kg容器2本が配置されていたが、平成22年2月27日に現地を訪れた販売店の職員が、当該容器2本が盗難されていることを発見した。前回検針日の平成22年1月18日から平成22年2月27日の間に盗難にあったものと思われる。この間、別荘の住人は不在であった。
111	2010-606	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/3	青森 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	平成22年2月3日午後1時頃、長期間空き家となっていた貸家から、LPガス容器を引き上げるために販売店従業員が訪問したところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が紛失していた。同日、警察に盗難届を提出し、現場検証に立ち会った。
112	2010-607	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/3	宮城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	平成22年2月3日午後4時30分ごろ、消費先に隣接した顧客宅へLPガス容器の配送に訪れた配送員が、消費先のLPガス20kg容器1本の紛失を確認した。2月24日検針時には、紛失はなかった。
113	2010-608	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/4	鳥取 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	無	平成22年2月12日のメーター検針時において、容器の所在を確認している。同3月4日14時46分ごろ、LPガス検針明細書を届けに行った際に、検査員がLPガス20kg容器1本が無くなっていることを発見し、警察に盗難届を提出した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
114	2010-609	消費	アセチレン、酸素、フルオロカーボン22容器的盗難	2010/3/5	千葉県	0	0	アセチレン、酸素、フルオロカーボン22	その他(盗難)	機械	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	A社の協力会社であるB社所有の車に、高圧ガス充てん容器(フルオロカーボン22 10L 容器3本、酸素3.4L 容器1本、アセチレン3.6L 容器1本、予備酸素容器1本)を積んだまま駐車中に駐車していたところ、車両ごと盗難に遭った。3月8日、警察がその盗難車両を捜索中に酸素3.4L 容器1本、アセチレン3.6L 容器1本を発見した。さらに翌日、発見された場所周辺をA社社員が捜索したところ、フルオロカーボン22 10L 容器3本のうち1本、及び酸素予備容器1本を発見した。自動車の売り飛ばしを目的に自動車車を盗み、自動車内の積載物を放置したものと思われる。
115	2010-610	消費	窒素容器的盗難	2010/3/5	千葉県	0	0	窒素	その他(盗難)	機械	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費先の社員が、3月5日の0時頃、自宅駐車場に窒素容器を積載した車両を駐車した。翌朝8時頃、車両ごと盗まれていたの気づけ、警察に盗難届けを提出し、販売店に連絡した。盗難に遭った容器的種類は、窒素47L 容器1本であった。
116	2010-611	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/5	青森県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	機械	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月5日午前9時頃、消費先の従業員が当社に際し、事務所に設置してあるLPガス20kg容器1本が無くなくなっていることに気が付き、同日午前9時55分頃に、販売店に連絡した。その後、9時15分には消費先から警察に通報し、同9時40分から11時20分まで、従業員が立ち会いの下で現場検証が行われ、同時に盗難届けも提出した。なお、前日4日の夕方までは、通常通りにガスは使用できていた。
117	2010-612	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/6	岡山県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	個人宅にて、LPガス10kg容器2本設置中のうち予備用の容器1本が、取り外されて盗難されていた。平成22年1月18日に無盗難に達しており、今回が2度目であった。
118	2010-613	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/6	宮城県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月6日午前10時30分頃、配送事業者の社員が供給設備の点検に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器4本のうち1本が無くなくなっていることを確認した。配送元から販売店へ聞き取りを行ったが、事情は分からないとのことであり、同日、被害届を提出した。
119	2010-614	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/6	京都府	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	配送事業者から、消費先の住宅のLPガス50kg容器が1本無くなくなっているのではないかととの連絡が入り、平成22年3月5日に配達員が訪れたところ、設置されていたLPガス50kg容器2本のうち1本が無くなくなっていることを確認した。3月1日にはガスを使用できた。販売業者から警察署に、盗難届を提出した。
120	2010-615	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/7	千葉県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公民館)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月7日に、公民館の容器が盗難にあったと、3月8日に区長から販売店へ連絡が入った。すぐに販売店従業員が現場へ向かったところ、容器チェンが外され、ホースが刃物で切断され、LPガス20kg容器1本が無いことを確認した。警察署への被害届は、区長が提出した。盗難のあった会館は地域住民の集会所であり、人は常駐していなかった。平成22年3月5日の検針時には異常はなかったとのことである。今後は、容器的チェン及び施錠を2箇所設置することとした。
121	2010-616	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/8	長崎県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公民館)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月8日午前10時頃、LPガス供給センターの担当者が、設置先へ検針のため訪問したところ、LPガス20kg容器1本が盗難されていることが判明した。平成22年3月9日現場確認後、警察署へ報告し署員と現場検証を行った。3月10日、LPガス容器的盗難届を提出した。
122	2010-617	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/9	岡山県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	運送	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月9日午前9時過ぎに、消費者より、LPガス50kg容器2本が無くなくなっていると販売店が連絡を受け、現場へ行き、紛失を確認した。消費者の話によると、3月8日夕方には使用できたが、3月9日午前2時頃にはガスが使用できず、紛失を確認したとのことであった。警察には、連絡済みである。
123	2010-618	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/9	兵庫県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公園)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費先に設置していたLPガス20kg容器2本が、盗難にあった。
124	2010-619	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/9	東京都	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(金属加工)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	3月9日15時00頃に、販売店に消費先からLPガス20kg容器2本がなくなった旨の連絡があった。15時15分頃に、販売店が現場に到着し、現状を確認し警察署に通報した。15時40分頃に、警察署による現場検証、及び被害届の提出等の事故処理を実施した。
125	2010-620	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/10	千葉県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月10日9時20分ごろ、寮の大家から販売事業者へガス臭いとの連絡が入り、販売事業者が現場にて設置されていたLPガス20kg容器2本のうち、1本が無いことを確認した(9時40分)。その後、警察署に盗難届を提出した。寮は入居の入れ替えが頻繁であり、盗難時には入居者が居なかった。
126	2010-621	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/10	北海道	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(空家)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月10日16時30分に、家屋解体のため販売店従業員が現地に赴いたところ、設置していたLPガス20kg容器2本が高圧ホースから切断(鋭利な刃物と思われる。)され、盗まれており、付近を捜索したが発見できなかった。なお、供給設備等の異常はみられなかった。平成22年3月11日に、警察署へ被害届を提出した。
127	2010-622	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/11	三重県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公民館)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	販売店従業員が、検針のため集会所を訪問した際、設置されていたLPガス20kg容器1本が、盗難されていることが確認された。ホースとハンドルは残された状態であった。
128	2010-623	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/12	北海道	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公民館)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月12日10時00分頃、消費者が区会館のコンロに火を付けようとしたが、火がつかないことからLPガス容器を確認したところ、LPガス10kg容器1本が紛失していた。直ちに、行政区代表者へ連絡し、元売り会社に通報した。その後、元売り会社から販売店に連絡し、現地確認を要請した。販売店従業員がLPガス容器的紛失を確認後、警察、支庁及びLPガス協会に電話連絡した。調整器はそのままで容器接続金具から外されていた。盗難容器的残量は、8kg程度であった。直近の検針は平成22年2月15日に行い、その後の確認はしていないことから、容器的盗難時期は2月15日から3月12日までの間と推測される。
129	2010-624	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/12	兵庫県	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	別荘に設置していた、LPガス20kg容器1本が盗難された。
130	2010-625	消費	LPガス容器的盗難	2010/3/12	大阪府	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(飲食店)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス5kg容器1本が盗難された。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状態	事故原因	着火源	事故概要
131	2010-626	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/13	福井県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(商店)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費者先に設置されていた、LPガス20kg容器1本が盗難された。
132	2010-627	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/14	兵庫県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費者先に設置されていた、LPガス20kg容器2本が盗難された。
133	2010-628	消費	アセチレン容器、酸素容器の盗難	2010/3/14	兵庫県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	建設	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	トンネル延伸工事を行っていた消費者が、平成22年3月15日の朝、現場に出動したところ、容器運搬車1台、ガス切断機1本、アセチレン6.7kg容器1本と酸素ガス7m3容器1本が盗難されていた。今後は、容器置き場を、施錠できる構造に改造することとした。
134	2010-629	消費	酸素容器の盗難	2010/3/15	広島県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(消防署)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月15日2時、消防署で保有する容器の状況を調査したところ、酸素0.5m3容器1本(溶断等の救助作業用)が紛失していることを発見した。同日、県警へ喪失容器の盗難届けを行った。平成22年4月8日現在、県警が捜査している。
135	2010-630	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/15	千葉県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月15日8時30分頃、ガスが出ないとして消費者から販売店のサービスセンターへ連絡が入った。担当者が訪問し現状を確認すると、高圧ホースが切られLPガス20kg容器1本がなくなっていた。警察署に盗難届けを提出した後、復旧した。前日の夜は、正常に使用できたので、その後、盗難にあったものと推定される。今後は、容器のチェーンに南京錠を設置することとした。
136	2010-631	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/15	埼玉県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(金庫加工)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月15日15時頃、LPガス販売事業者が検針のため消費先を訪問した際、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち、予備側の1本が取り外されていることを発見した。消費者に確認したところ、盗難されたものと判明した。翌日、警察へ盗難届を提出した。
137	2010-632	消費	酸素容器の盗難	2010/3/16	広島県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(消防署)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月15日17時頃まで使用していた、救急隊の酸素0.3m3容器1本が、救急出動した後の確認を3月16日2時24分に行った際、救急車内に無いことを発見した。同日、広島県警へ喪失容器の盗難届けを行った。平成22年4月8日現在、県警において捜査中である。
138	2010-633	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/16	山梨県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月16日8時30頃、検針員から連絡があり、販売事業者の担当者が消費者先へ行ったところ、LPガス25kg容器2本のうち1本がなく、残った1本もホースから外されているのを確認した。(前回検針時の平成22年2月8日には、容器2本があることを確認)状況から考えて、盗難にあったと判断して、3月18日に警察署へ盗難届を提出した。
139	2010-634	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/16	和歌山県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	建設	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月16日、販売店の担当者が、消費先(平成19年1月倒産)の閉栓中の容器を引き上げに行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていた。今後は、閉栓容器は、早急に撤去することとする。
140	2010-635	消費	LPガス容器の紛失	2010/3/16	新潟県	0	0	0	液化石油ガス	その他(紛失)	建設	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(紛失)	無	消費者は、LPガス8kg容器をアスファルト等の補修工事現場に持ち込み使用していたが、一時的に使用しなくなった容器を河川敷に置いていた。その日の作業を終え容器を片づけようとしたところ、無くなっていることに気がついた。現場では川の水量が増え、容器を置いてあったところも川の流れているようになっていたので、流されたものと推定される。川の下流を捜索したが、容器は見つかっていない。
141	2010-636	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/17	宮城県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他()	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月17日午後1時00分頃に、販売店において、容器配送のため現場に赴いたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が紛失していることを発見した。同日、交番へ被害届を提出した。同社において、容器設置状況の最終確認をしたのは平成22年3月10日であった。
142	2010-637	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/18	大阪府	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費先に設置されていたLPガス20kg容器が、ホースの継手から取り外されていた。
143	2010-638	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/19	兵庫県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費先に設置されていたLPガス20kg容器1本が、盗難された。
144	2010-639	消費	酸素容器の盗難	2010/3/19	茨城県	0	0	0	酸素	その他(盗難)	販売店	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月19日7時10分頃、出勤した職員が酸素カードル9本組を搭載した車両が、盗難にあったことを発見した。前日、出荷先から回収したまま車両に搭載していたカードルを車両ごと盗難された。
145	2010-639	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/21	佐賀県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公民館)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月17日～3月21日、文化会館にて、販売店の質量販売先の消費者が、屋根の防水工事のため、バーナー用としてLPガス10kg容器を使用した後、2階の中庭に道具と一緒に置いていたところ、LPガス10kg容器1本を紛失(盗難の可能性もあり)した。平成22年3月26日、消費者から地元警察署へ紛失(盗難)届を提出した。
146	2010-640	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/22	北海道	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(商店)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月22日10時30分頃、消費者から「ガスが出ない」旨の緊急時連絡が委託先保安機関に入り、その連絡を受けた同保安機関の社員が消費者にガスメーターの確認をお願いしたところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が高圧ホースから取り外され紛失しているとのことであった。同保安機関から連絡を受けた消費者の担当者が現場に行き、容器が紛失しているのを確認した。平成22年3月23日交番に盗難届、同年3月24日市消防局に事故届を提出した。
147	2010-641	消費	LPガス容器の盗難	2010/3/22	滋賀県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月22日に、消費者宅からLPガス20kg容器がなくなっていることを連絡があり、点検確認に販売店従業員が行き、LPガス20kg容器1本がなくなっているのを確認した。なお、当日、警察に届け出ており、現地検分も終了していた。
148	2010-642	消費	アセチレン容器、酸素容器の盗難	2010/3/22	静岡県	0	0	0	アセチレン、酸素	その他(盗難)	建設	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年3月22日、出社した従業員が、所定のがス容器置き場にアセチレン容器、酸素容器が無かったことから、盗難に気づいた。原因は、他の者が容易に容器置き場内に立ち入ることができる状況にあったためと推定される。今後は、容器保管場所を施錠できる工場内へ移動、必要以上のガス容器を保管しないよう徹底することとした。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
149	2010-643	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/23	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	3月23日11時30分ごろ、集会所において、集会所管理人がLPガス20kg容器が紛失していることに気付いた。管理人は当該施設設置者である町に連絡し、同日12時30分頃、町から販売店に連絡があった。販売店は現場に急行し、メーター、調整器を残し、容器のみ紛失していることを確認し、盗難と判断したため警察に連絡。14時頃警察の調査が行われ、町が盗難届を提出した。集会所の前回の検針は2月28日に行っているが、その後、集会所でLPガスを使用した時期は不明である。LPガスの残量に関しては、前回交換時のメーターから約7.5m3程度と推定される。今後は、LPガス容器が道路近くに設置されていたことが、今回の盗難の要因の一つと思われることから、盗難防止の対策として容器ボックスの設置、施錠について、施設の管理者である町に検討を依頼することとした。
150	2010-644	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/25	滋賀県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月25日に、消費先に容器の配送に行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち、供給側の容器1本が無いことに配達員が気付いた。現地の状況から盗難と判断した。なお、当日、警察に届け出ており、現地検分も終了している。
151	2010-645	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/25	福岡県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月25日11時30分頃、販売店の従業員が需要先である村を検針のため訪問したところ、LPガス20kg容器2本のうち1本の紛失を確認した。同日、警察署に現場検証を依頼し、被害届を提出した。なお、容器の配送は配送事業者が行っており、前回容器交換年月日は昨年12月1日であった。今後は、ガス使用量が少ないため、容器を2本設置から1本設置に変更することとした。
152	2010-646	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/25	宮城県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (建設)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月25日、消費先事務所に容器交換のために訪れた容器配送委託先の配達員が、同事務所裏に設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることを発見した。配達員から連絡を受け、販売店従業員が現場に出勤し消費者に確認したところ、消費者自身で容器を取外した事実を確認できなかったため、容器が盗難されたと判断し、同日中に交番へ盗難の届出をおこなった。
153	2010-647	消費	アセチレン 容器の盗	2010/3/26	兵庫県	0	0	0	0	アセチ レン	その他 (盗 難)	その他 (建設)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月25日夜から翌26日朝にかけて、消費先で、容器置き場に置いていたアセチレン7.3kg容器1本が盗難された。
154	2010-660	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/27	宮城県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月27日に、ガス供給センターにおいて、容器配送のため配達員が現場に赴いたところ、設置していたLPガス20kg容器2本のうち1本が紛失していることを発見した。同日、交番へ被害届を提出した。
155	2010-648	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/28	熊本県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月28日午前8時30分頃、公民館を利用中の付近住民より、販売店へガス切れとの電話連絡があり、販売店従業員が現場を訪れたところ、設置されていたLPガス10kg容器2本のうち1本がなくなっていることを発見した。公民館は、通常無人の施設であり、最後に容器が確認されたのは3月17日の販売店の検針作業時とのことであり、検針作業後から3月28日の早期までの間に盗難にあったと見込まれる。なお、警察への被害届の提出は3月28午前中に行われた。
156	2010-649	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/28	千葉県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (神社)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月28日に、販売事業者の検針員が神社へ検針に行ったところ、低圧ホースが切断され、設置していたLPガス20kg容器1本及び単段調整器が無いことを確認した。なお、中間ガス栓は閉められており、ガス漏れは無かった。翌29日9時半頃、駐在所に連絡した。盗難のあった神社には人は常駐しておらず、人の出入りも少なかった。
157	2010-1040	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/28	岡山県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月28日16時頃、消費先の施設で利用者がLPガスを使用しようとしたが、点火しないために容器置場を確認したところ、マイコンメーター2本立ての自動切換調整器に接続された、LPガス10kg容器2本のうち1本がなくなっていることに気づき、関係事業者に連絡した。なお、容器が最後に確認されたのは、平成22年3月23日11時頃の検針であった。
158	2010-650	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/29	宮城県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月29日午前11時30分頃、消費先よりガスが出ない、販売事業者あてに連絡があった。販売事業者が現場で確認したところ、LPガス20kg容器1本が紛失していた。原因は、販売事業者の容器管理の不備と考えられる。
159	2010-651	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/29	福島県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	容器管理者から、販売店に貸し付けていたLPガス20kg容器2本のうち、住宅(現在は空家)に設置していた1本が無くなっていた。平成22年3月29日、販売店からの連絡を受けて容器管理者が現場を確認した結果、盗難が確認された。空家には、容器2本を設置していたが、残りの1本を事故発生当日に撤去することとした。今後は、長期空家になる建物に関して、容器を撤去しておくよう容器管理者から販売店へ依頼することとした。
160	2010-652	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/29	群馬県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成21年10月16日のガスの検針時では、LPガス20kg容器は設置されていたが、平成22年3月29日、空家だった貸家に新しい人が入居することになり、販売事業者がガス開栓のため訪問した際、LPガス20kg容器2本がなく、配送事業者が容器を撤去した事実があるか確認したところ、確認できなかったため、盗難と判明した。今後は、20kg容器2本から50kg容器1本へ変更することとした。
161	2010-653	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/29	福井県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	一般住宅に設置されていた、LPガス20kg容器2本のうち1本が盗難された。
162	2010-661	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/29	千葉県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月29日17時頃、販売事業者の検針員が容器設置場所へ行ったところ、敷地が更地になっているとの報告があった。翌30日に、販売所の従業員が現場にて建物がなく、設置されていたLPガス20kg容器1本、調整器、ガスメーター、配管等のガス設備がないことを確認した。警察署へは4月1日に連絡し、4月7日に盗難届けが受理された。事故発生場所は平成18年5月が空き家となっていたが、販売事業者は引続き容器を設置し、検針(容器を含めたガス設備の確認)に訪れていたが、平成19年10月以降は確認をとっておらず、容器を含めたガス設備が放置された状態であった。警察署の話では、平成19年11月に事故発生場所に解体作業が行われた際、容器はそのまま放置され、解体事業者から販売事業者への連絡はなかった。
163	2010-662	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/29	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (農業)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月29日、消費先にてLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることに気づき、配送委託事業者へ連絡したところ、配送委託事業者では容器は撤去していたことから盗難と判断し、交番に届け出た。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	火源	事故概要
164	2010-654	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/30	山梨 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月30日19時40分頃、販売事業者が、事故発生場所に隣接する顧客宅へ集金に行った際、LPガス50kg容器2本のうち1本が、高圧ホースが切断され、なくなっていることを発見した。販売事業者では、閉栓中の供給設備も毎月確認に行っており、平成22年3月9日に容器2本があることを確認していた。状況から考えて、盗難にあったと判断して、3月30日に管轄する警察署と現場検証を行った。
165	2010-728	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/30	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月30日15時頃、検針員が、消費先である会社事務所の検針をおうとしたところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が行方不明であることを発見した。固定チャージは付け直され、残りの容器は閉じられたいため確認を取ろうと事務所責任者に連絡した。4月8日13時30分頃に事務所責任者に確認が取り、盗難と判明したため同日警察へ被害届を提出した。
166	2010-655	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/31	奈良 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月31日に、空き家の状態が続いている現場からLPガス20kg容器を引き上げに行ったら、LPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることを発見し、平成21年9月8日に一度、現場を訪れた際に、容器があることを確認しているため、この間に盗まれたものとみられる。盗難と判断し、すぐに警察署へ届出した。
167	2010-663	消費	LPガス容 器の盗難	2010/3/31	東京都	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	3月31日10時45分頃に、販売店の従業員が、集会所に設置されていたLPガス20kg容器1本が無くなっていることを発見し、警察署に通報した。11時05分頃に、警察官が現場に到着し、現場検証、被害届の提出等の事故処理を実施した。
168	2010-664	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/1	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	運送	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月1日午前2時30分頃に、消費先である物流センターの倉庫から、LPガス50kg容器2本が無くなっていると販売店が連絡を受け、現場へ行き、紛失を確認した。警察へ、盗難届けを提出した。容器には、鉄板で囲いをして、正面は南京錠で施錠をしていたが、南京錠は切断されていた。
169	2010-665	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/4/2	愛知 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月1日19時00分に、消費者が現場作業を完了してトラックで工場に戻り、酸素ガス7m3容器1本、アセチレンガス67kg容器1本、ガスホース等を車に積載し、倉庫兼駐車場に止めたまま帰宅した。翌日7時頃、工場へ来たところ、トラックがなくなっていた。ただちに、警察署へ盗難届を提出した。今後は、倉庫兼駐車場のドアとシャッターに鍵をつけ、施錠することとした。
170	2010-666	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/2	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	個人消費者宅で、LPガス10kg容器2本のうち予備用の容器1本が、バルブの接継を外されて盗難された。ただちに、警察署へ盗難届を提出した。今後は、容器チューブに南京錠を付けて、容易に外されないようにすることとした。
171	2010-667	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/4	香川 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	集会所に、販売事業者が設置していたLPガス10kg容器2本のうち1本が、ホースコックから取り外され盗まれていた。4月4日、集会所を便所としていた人が、ガスが使用できないということとでA社に連絡を入れた。A社の担当者が現地に行き、LPガス10kg容器2本立てのうち1本がないことを確認した。4月5日、A社から販売業者に連絡が入り、現地に行つて確認した。4月7日、9時に販売事業者が果色危機管理課に報告し、同日10時に警察に盗難届けを提出した。3月16日の検針時に、販売事業者が2本あることを確認した最後の日であることから、盗難を受けた日は3月16日17時頃から4月4日10時頃までの間であると推定された。
172	2010-668	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/4	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス20kg容器1本が、ホースの継手から取り外され盗難された。
173	2010-669	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/5	佐賀 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月5日午前10時頃、公民館に設置されているLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなり、残り1本はホースが外れている旨の連絡が販売店にあった。すぐに販売店担当者が見舞に到着し、確認した。その後、コンピューター端末での確認を行い、盗難であると判断した。同日、販売店から地元警察署へ盗難届を提出した。なお、この盗難容器の内容量は満タんであったと考えられる。
174	2010-670	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/5	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	4月5日10時30分頃、A社従業員が設置先の会館の検針に行った際、LPガス10kg容器1本と調整器が紛失していることを確認した。検針した社員から販売業者に一報を入れ、その後、行政局長及び周辺の関係者に状況を確認したが、容器の持ち出し等はないことから盗難と判断し、警察及び振興局に報告した。当該会館の直近の検針は、平成22年3月6日に実施しており、その時点では容器及び調整器は存在していたことから、盗難時期は3月6日から4月5日の間と推測される。盗難容器の残量は、2〜3kg程度である。当該会館は、国道に隣接しており容器も国道から確認できる場所に設置されていた。日中は交通量が多く人目に付きやすい状況であるが、夜間になると交通量は急激に減少し、人通りもほとんどない状況で周辺には街灯も設置されていなかった。以上の内容から、夜間には人目に付くことなく作業(盗難)できる状況であったと推測される。
175	2010-671	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/5	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	販売店に、警察署より拾得物としてLPガス20kg容器1本が届けられたと連絡があった。回収容器を調査した結果、一時間経過後先に設置していたLPガス20kg容器で、高圧ホース部で切断され盗難されていたことが判明した。ただちに、交番に被害届を提出した。
176	2010-672	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/5	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先において、LPガス20kg容器1本、調整器1個、低圧ホース1本が盗難にあった。4月1日18時30分頃、引越のため事業者がメーターの停止と容器バルブの閉鎖、使用料金の精算を行った際に容器等の確認をしている。4月5日、不動産事業者から別のガス事業者との契約のため、LPガス容器撤去の依頼を受け、15時頃に事業者が現地に行った際、容器等が紛失していることに気付いた。容器管理及び容器盗難防止措置の不備が原因と推定される。
177	2010-673	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/6	栃木 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	4月6日12時30分頃、消費先の従業員が、LPガスを使用しようとしたところ点火しなかったため、販売店に連絡したところ、LPガス20kg容器2本が無くなっていることに気づいた。なお、前日4月5日の12時頃にはLPガスを使用しており、4月5日〜6日の間に盗まれたと推測される。今後は、チャージを実施することとした。
178	2010-674	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/7	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていたLPガス10kg容器1本が、低圧ホースから刃物(推定)で切断され、盗難された。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
179	2010-729	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/7	神奈川県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	LPガス配送受託事業者が、消費先事業者のLPガス供給設備からLPガス20kg容器2本が取りはずされているのを発見し、ガス供給(販売)事業者と連絡し、容器が盗難されていることをガス供給事業者が確認した。当該容器2本は、いずれも高圧ホースが容器近くで切断されていた。同日、容器所有者であるLPガス配送受託事業者が、警察署に盗難届を提出した。また、併せて同社から県へ、容器盗難に係る通報があった。消費先事業者は、平成21年3月19日に閉栓処理し、容器盗難が発見されるまで容器を接続したまま放置していたものであり、これが容器盗難へと誘引されたものと推定される。なお、販売店から、配送委託事業者への容器撤去の要請はしていなかった。
180	2010-675	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/8	岡山県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月8日10時30分頃、販売店の職員が、貸出しコンロ配達のため集会所を訪れたところ、LPガス8kg容器1本が平蔵になっていることに気がついた。近所の人の話によると、最後にLPガスを使ったのは平成22年2月21日であった。この容器は平成21年10月6日に取り付けたもので、容器には転倒防止の鍵がしてあった。
181	2010-676	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/8	宮城県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月8日から同年4月8日までの間において、消費先である別荘の建物西側に設置していたLPガス20kg容器1本が、高圧ホースと一緒に盗難にあった。平成22年4月8日16時頃、販売店従業員がメーター検針に訪れた際、ガス容器が無いことに気づき、消費者に連絡するとともに、翌9日に交番に盗難届を提出した。消費者によると、当別荘には平成22年3月には一度も来ていなかったとのこと。3月8日検針後から4月8日検針前の間に盗難にあったものと思われる。
182	2010-677	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/8	三重県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月8日19時、消費者が容器設置場所をみると、LPガス20kg容器1本が無くなっていることを発見した。翌日9時00分頃、販売店へ連絡した。今後は、施設敷地の出入口を施錠、及び容器にチェーンを巻き施錠することとした。
183	2010-678	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/8	宮城県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	4月8日に、販売店がガスメーターの検針のために、消費者先に行ったところ、家屋が解体されており、LPガス20kg容器2本が無くなっている。消費者からガス利用契約の解除の申し出もなく、ガス料金也未納となっている。
184	2010-679	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/11	宮城県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月11日午前11時00分、宮城県総務部消防課より、販売事業者の容器が仙台市若林区にあると通報が入った旨の連絡があった。従業員が現場に行き付近を捜索した結果、11時57分に販売事業者のLPガス10kg容器1本を確認し回収し、同時に消防課へ報告した。今後は、全ての容器の確認を行い、紛失届の未提出のものは速やかに提出を行うこととした。また、容器の管理方法も専用の持出簿を作成し、管理の徹底に努めることとした。
185	2010-680	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/12	佐賀県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月12日午前10時過ぎ、消費先である飲食店の店員が、閉店後にLPガス20kg容器2本(消費先はLPガス20kg容器2本立て)が設置してあることを確認している。同日午後5時頃、開店準備のため同店にきた店員が、向かって左側のLPガス20kg容器1本がなくなっているのに気づき、販売店に連絡した。すぐに販売店担当者が現場に到着し、確認した。その後、コンピュータ一端未での確認を行い、盗難であると判断した。翌13日早朝、販売店から地元警察署へ盗難届を提出した。
186	2010-681	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/13	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (容器本 体)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月13日、消費先からガスの開栓の要請を受け販売事業者が現地に行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることを発見した。前入居者の退去時(平成20年8月28日)には2本設置を確認されている。関係者に聞き取りしたが、引き取った事実がないことから盗難と推測されるため、盗難届けを警察へ提出し、現場確認を要請した。なお、盗難された容器にはガスが充てられている。
187	2010-682	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/13	福岡県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先は、研修所であるため常時はガスを使用していない。販売店が月に一回メーター検針をおこなっており、4月6日に検針したときは異常はなかった。4月13日に容器の交換に行った際に、供給先のLPガス20kg容器1本の紛失を発見した。その後、12時30分頃に配達員より販売店へ連絡があり、警察署に被害届を提出し、現場検証を行った。今後は、容器をチェーンで固定し、施錠することとした。
188	2010-683	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/14	兵庫県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス8kg容器2本が盗難にあった。
189	2010-684	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/14	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月14日16時5分に、定期の供給設備点検等の実施者からLPガス容器がないとの連絡があり、直ちに販売店の担当者が消費先に行ったところ、設置していたLPガス20kg容器1本がネジ継手から外され盗まれていた。16時8分、警察署に連絡し、現場検証を実施した。
190	2010-685	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/4/15	兵庫県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者は、事務所敷地内に酸素ガス7m3容器、アセチレンガス7kg容器を保管している。従業員が、平成22年4月15日の朝8時頃に社社したところ、酸素ガス7m3容器1本とアセチレンガス7kg容器1本が盗難されていることに気付いた。なお、盗難された容器は同日午後1時に付近の竹藪で発見され、4月16日午前9時頃に回収した。今後は、容器置き場を施錠できる構造に改造することとした。
191	2010-686	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/15	宮城県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 自動車	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月15日午前9時00分頃、消費先よりガスが出ないとの連絡があった。午前9時30分に販売店従業員が現地に着し確認したところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることを確認した。4月6日に検針員が、容器が設置されていることを確認している。同日、被害届を提出した。
192	2010-687	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/16	栃木県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月16日16時20分頃、消費先の飲食店従業員がLPガスを使用しようとしたところ、点火しなかったため、販売店に連絡したところLPガス50kg容器1本が無くなっていることに気づいた。なお、平成22年2月11日には、販売店担当者がメーター検針を実施しており、LPガス50kg容器4本を確認している。消費先の飲食店は、冬季は休業であり従業員は常駐していない。今後は、月に1回以上の巡回を行うこととした。また、チェーンを施錠することとした。
193	2010-688	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/16	愛知県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月16日に、公民館の管理者からガスの残量が少ない様子の確認してほしい旨の連絡を受け、販売店の担当者が現地を訪問した。訪問の結果、供給設備に充ててしまったLPガス20kg容器2本が設置されているところ、この販売店の空容器が2本設置されているのを発見して、盗難が発覚した。今後は、高圧ホースと容器を、簡単に取り外せないような措置を講じるなどして防止策を図ることとした。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	事故原 因	着火 源	事故概要
194	2010-689	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/16	宮城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月16日、消費先でLPガス10kg容器2本が紛失している、販売店に連絡があった。現場を確認したところ、無くなっていることを確認した。また、配達委託先にも連絡し、容器の引き取りが行われた訳では無いことを確認した。同日午後、販売店より警察署へ連絡。現場検証は消費者の立会のもとに行われ、消費者から警察署に被害届を提出した。なお、現在は代替の容器を設置しているが、盗難防止措置として施設のできるチェーンで固定している。
195	2010-690	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/17	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	3月12日の近隣の公民館で、容器盗難事故が発生したことに伴い、行政会会館の管理者が月1回程度、会館の点検確認を実施するよう取り決めた。4月17日、管理者が点検を実施した際、LPガス10kg容器1本及び調整器が無くなっているのを確認した。(ホースを切断し持ち去られていた。)確認後、管理者から警察へ通報し、警察から販売店へ連絡が入り現地確認を実施した。盗難容器的残量は、2kg程度であったと推定される。この行政会会館は、国道に隣接しているが、容器設置場所は会館の裏であり道路からは確認できない。周辺は通行量及びび人通りが少なく、会館には街灯も設置されていないことなどから、現地に於いて容易に持ち去ることが出来たと推測される。
196	2010-691	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/17	滋賀 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月17日に、販売店従業員が消費者宅を検針で訪問したところ、LPガス20kg容器2本のうち予備側の1本が無くなっていることを発見した。なお、警察に届け出ており、現地検分を終了している。
197	2010-692	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/17	大阪 府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	運送	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置された、LPガス20kg容器1本が、ホースを鋭利な刃物で切断され盗難されていた。
198	2010-693	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/19	愛知 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	一般消費者から、設置していたLPガス20kg容器2本がなくなっていると販売店に連絡があった。調査した結果、転倒防止チェーンが切断され容器が盗難されていることが判明した。たまたま、警察署に被害届を提出した。今後は、盗難防止チェーンを2本切断され盗取されたため、消費者に都市ガスに供給先を変更するよう依頼することとした。
199	2010-694	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/19	滋賀 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月19日朝、消費者からLPガス20kg容器1本が無くなっていると連絡があった。なお、17日夜までは、ガスは使用できていたとのこと。
200	2010-695	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/20	滋賀 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月20日11時頃、配達担当者が消費者先付近を通過した際、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることを発見した。なお、警察に届け出ており、現地検分も終了している。
201	2010-696	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/21	埼玉 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (市場)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月21日午前8時30分頃、消費者からLPガス容器が無くなっていると販売店に連絡が入り、社員が現場に向かい供給設備を確認したところ、1本設置されていたLPガス20kg容器が盗まれていた。警察署へ被害届を提出した。
202	2010-730	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/21	茨城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月21日17時、販売店社員が、消費先に設置されていたLPガス20kg容器2本が、盗まれていることを発見した。容器は平成21年7月に一度供給されており、その後11月から数ヶ月使用しないため閉栓状態となっていた。配管はスパナではずされておらず、容器と中身のLPガス以外の被害はなかった。
203	2010-697	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/22	大阪 府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	閉鎖された消費事業所に設置されていたLPガス20kg容器1本が、ホースの継手から取り外され盗まれていた。
204	2010-698	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/22	鳥取 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月23日の消費者先のメーター検針時において、容器があることを確認した。同4月22日11時00分ごろ、販売店従業員がLPガス検針に訪問した際に、LPガス20kg容器1本が無くなっていることを発見し、警察に盗難届を提出した。
205	2010-699	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/23	東京 都	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	3月21日の消費先事務所の検針時には、異常がなかった。4月23日の午前中、販売店従業員が町内の検針を行っている際に、事務所に設置されていたLPガス20kg容器2本のうち予備側の1本が無くなっていることを発見し、警察署に通報した。警察による現場検証、被害届の提出等の事故処理を実施した。
206	2010-700	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/23	岡山 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月23日11時頃、消費者先へ、販売店の配送員が検針に行ったところ、LPガス10kg容器2本のうち1本が無くなっていた。容器置き場は台所直近の屋外にあり、最後に確認されたのは平成22年3月25日の検針時であった。
207	2010-701	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/23	広島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	4月23日16時30分頃、消費者先から販売店に「LPガス容器がないが、長い間使用していないから引き揚げたのか」と問い合わせがあり、現場に行くくとLPガス20kg容器2本が無くなっていた。消費者が気づいたのは、15時00分頃であった。4月7日にガスの検針をしたときには、LPガス20kg容器2本ともあった。4月7日から23日の間に盗難にあったものと見られる。5月23日に警察署へ通報し、同日盗難届を提出した。消費者のある場所は、主要道路のそばであり、1日のうち1時間ぐらいいしか人がおらず、道路から見えにくい盗まれたものと推定される。
208	2010-702	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/25	福島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (ホテル)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月24～25日の期間に、ホテル前でイベントがあり、複数の事業者が露天販売を行うこととなっていた。飲食店が、屋台テントで焼きそばの販売を行っていたためにLPガス10kg容器2本を調整器で接続して使用していた。24日に使用した後、テントを下げて、その中に容器も収納していたが、25日の朝にLPガス10kg容器1本が調整器から外されて持ち去られているのに気づき、同日の午前10時ごろに販売店に連絡した。LPガスの販売店が、警察に通報した。原因は、4月24日に使用した後、鍵のかかる所に容器を収納するのではなく、(野外)テントの足を下げてその中に収納していたためであった。
209	2010-703	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/27	兵庫 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者先に設置していた、LPガス50kg容器1本が盗難にあった。
210	2010-704	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/27	滋賀 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年4月27日13時頃、閉栓中の供給先から閉栓依頼があり、販売店従業員が閉栓に行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち予備容器1本が無くなっているのを発見した。なお、警察に届け出ており、現地検分も終了している。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	事故原 因	着火 源	事故概要
211	2010-705	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/27	京都府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年4月27日に配送員が消費者宅を訪れたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることを確認した。消費者宅は、1月30日に閉栓作業を行い、空き家となっていた。販売業者から警察署に、盗難届を提出した。
212	2010-706	消費	LPガス容 器の紛失	2010/4/28	徳島県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他 (畜産)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年4月28日午前8時30分、消費者先から電話連絡があり、前日の大雨で川が増水し、養豚場の暖房用に設置していたLPガス50kg容器30本のうち6本が流出していることを確認した。その旨、県に連絡し、所轄消防署とともに捜索していたところ、付近で3本を回収した。残り3本については、現在も捜索中である。
213	2010-707	消費	LPガス容 器の盗難	2010/4/28	沖縄県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年4月28日午後2時に、消費者からLPガス10kg容器が紛失しているとの連絡があり、配送員が現場を確認したところ、設置されているはずのLPガス10kg容器1本がなくなっていた。隣近所を自社社員6名で捜索したが、発見されなかったため、翌日29日に交番に被害届を出した。
214	2010-883	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/1	島根県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	集会所の検針時に、設置されていたLPガス20kg容器1本の番号が違ふことに気がつき検針、配置容器帳で確認すると、小学校に設置してあった容器であることが判明した。直ちに、小学校へ確認に行くと、1月10日に消費先である会社事務所から盗まれていた容器が、空の状態が設置してあった。小学校は、24時間監視システムが設置してあり、残量警告又は検針時通信エラーがないと行かないため、何月に盗難にあったか不明である。今後は、容器を施錠することとした。
215	2010-884	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/1	島根県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (学校)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	集会所の検針時に、設置されていたLPガス20kg容器1本の番号が違ふことに気がつき検針、配置容器帳にて確認すると、小学校に設置してあった容器であることが判明した。直ちに、小学校へ確認に行くと、1月10日に消費先である会社事務所から盗まれていた容器が、空の状態が設置してあった。小学校は、24時間監視システムが設置してあり、残量警告又は検針時通信エラーがないと行かないため、何月に盗難にあったか不明である。今後は、容器を施錠することとした。
216	2010-708	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/2	沖縄県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	5月1日に、LPガス20kg容器1本を消費者先へ配送した。その日は午後8時30分頃まで、LPガスを使用した。翌2日午前10時30頃、消費者からガスが出ないとの電話が販売店にはいった。販売店が確認すると、LPガス20kg容器1本が取り外されなくなっていた。
217	2010-709	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/3	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	運送	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月3日17時25分頃、LPガス供給先から、販売店の緊急センターに圧力センサー遮断の入電があり、同緊急センターの担当者、折り返し電話連絡したが連絡が取れなかったため、5月6日午前9時頃、販売店の社員が現地を確認したところ、LPガス20kg容器2本が取り外されていたのを確認した。平成22年5月13日に交番に盗難届、及び市消防局に事故届を提出した。
218	2010-710	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/5	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先より、ガス切れとの連絡が販売店にあり、販売店従業員が調べたところガス切れではなく盗難と判明した。派出所に盗難届を提出し、現在捜査中である。
219	2010-846	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/5	奈良県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (販売店)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月5日、ガス容器設置宅の消費者が、LPガス20kg容器1本が無くなっていることに気付いた。盗難と判断し、平成22年8月18日、所轄の警察署へ届け出た。直近の容器設置は、平成20年6月26日であった。
220	2010-732	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/6	群馬県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月4日まで、消費先ではガスが使えなかったが、5月6日15時30分頃、販売店が検針に行った際、設置されていたLPガス20kg容器2本がないことに気付いた。消費者に販売店が確認を取ったところ、5月11日に消費者から容器を動かしたことはない旨の回答があったため、容器の盗難であり高圧ガス事故であることが判明し、県消防保安課に5月11日15時頃、事故の第一報を入れた。
221	2010-745	消費	LPガス容 器の紛失	2010/5/6	山口県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	漁業	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	LPガス販売業者より、漁船にLPガス20kg容器2本が引き渡されていたが、その漁船が5月6日に船同士の衝突により沈没し、容器も共に沈んだ。海中に沈んだ2本のうち1本が6月9日に福井県小浜湾の海上を漂流しているところを小浜海上保安署が発見、回収し、6月10日に同署員から容器所有者に連絡が入り、今回事故が発生した漁船と共に同社容器が喪失していたことが判明した。発見されていたLPガス20kg容器1本は漁船と共に海中に沈んでいると推定される。
222	2010-773	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/6	大阪府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置されていたLPガス20kg容器1本が継手から取り外されていた。
223	2010-777	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/6	京都府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月6日、配送員が消費者宅を訪れたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本が、無くなっていることを確認した。販売業者から警察署に、盗難届を提出した。
224	2010-778	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/6	京都府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務 所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月6日、配送員が消費者宅を訪れたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることを確認した。販売業者から警察署に、盗難届を提出した。
225	2010-711	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/7	鳥取県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (鉄工所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先より、ガスが出ないとの連絡があり、販売店従業員が確認したところ、供給しているLPガス10kg容器2本が空であったため、交換した。充電し、再度充電しようとしたところ、1本が平成22年1月に同じ消費先で盗難のあった容器であることが判明した。
226	2010-733	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/5/7	佐賀県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	その他 (会社事務 所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月7日午前7時頃、消費先事業所から、容器置場に保管していた切断用に使用する酸素ガス7kg容器1本、アセチレンガス7.2kg容器1本が盗まれた旨の連絡がガス納入会社にあった。消費者によると、4月30日午後6時頃には異常はなかった。同日、消費者は警察署へ盗難の発生について連絡し、事情聴取を受けた。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	事故原 因	着火 源	事故概要
227	2010-712	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/8	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年5月8日午前11時30分頃、販売事業者の担当者が消費先の前を通ったところ、設置されていたLPガス20kg容器1本の喪失を発見した。容器の喪失を発見後、現場付近を探したが容器の発見はできず、配送委託先に状況を確認した。その後、盗難と判断し関係官庁等へ連絡した。発生日時は、平成21年6月29日(転出日)に容器を確認していることから、以降発見に至るまでの間で盗難に遭ったものと考えられる。
228	2010-734	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/9	群馬県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年5月9日8時00分、藤岡市内のお菓子店の店主が、ガスを使用しようとしたが点火しないため、ガス置場を確認したところ、LPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることに気づき、販売店に連絡した。今後は、LPガス容器を施設することとした。
229	2010-735	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/11	長崎県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	5月11日午前10時45分頃、消費先より容器を撤去したのではないかと販売店に電話があった。販売店従業員が、消費先を確認したところ、LPガス20kg容器2本がなくなっていた。周辺を確認したが見あたなかったもので、盗難と判断した。同日14時に、警察署へ盗難届を提出した。容器の最終設置は、平成22年4月1日であった。
230	2010-713	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/12	愛知県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	5月12日10時頃に、配達員が、納品時に、LPガス10kg容器6本のうち1本がないことに気づき、消費者に相談した。確認作業をしても見つかった結果、社内及び営業所では、発見できないと、5月25日に当社に連絡があった。5月28日に、交番へ盗難届を提出した。原因は、倉庫外に容器を置いていたためであった。今後は、事業者倉庫内に容器を施設して保管することとした。
231	2010-714	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/12	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	5月12日午前10時頃、容器交換の配達事業者が、消費先に設置していたLPガス20kg容器1本がなくなっていることを確認した。5月8日の検針時には容器を確認しており、盗難と判断し警察へ盗難届を提出した。
232	2010-736	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/12	長崎県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年5月12日午前9時頃、販売店の担当者が、消費先のLPガス20kg容器2本がなくなっていることを確認した。なお、消費者は、容器が無いことに気づいていた。このため、盗難と判断し警察署へLPガス容器の盗難届を提出した。
233	2010-737	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/13	大分県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	公民館に設置されていた、LPガス10kg容器2本が盗難された。最終使用時(平成22年4月17日)から定期検針時(平成22年5月13日)までの間に盗難にあったものと推定される。5月13日、警察署へ盗難届を提出した。
234	2010-738	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/14	東京都	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	5月14日9時30分に、販売店従業員が、消費先に設置されていたLPガス20kg容器1本が盗難されたことを確認した。販売店が都に連絡した。なお、警察に被害届を提出していないことから、届け出るよう都が指導した。
235	2010-746	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/14	茨城県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年5月14日10時頃、消費先に隣接するテナントの従業員から、販売店にガス臭がするとの通報があった。販売店従業員が急行すると、LPガス20kg容器2本設置のうちの1本が盗難されていることを発見したため、同日警察へ通報した。なお、ガスのにおいの原因は、盗難された容器のバルブが緩んでいたためであった。
236	2010-715	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/15	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年5月15日午前11時30分頃、販売事業者の担当者が消費先の前を通ったところ、LPガス20kg容器2本のうち1本の喪失を発見した。容器の喪失を発見後、現場付近を探したが容器の発見はできず、配送委託先に状況を確認した。その後、盗難と判断し関係官庁等へ連絡した。発生日時は、平成18年3月31日(転出日)に容器を確認していることから、以降発見(平成22年5月15日)に至るまでの間で盗難に遭ったものと考えられる。
237	2010-739	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/5/15	静岡県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先の事業所従業員が、アセチレン容器、及び酸素容器を使用しようとしたところ、所定の容器置き場に容器がないことと盗難に気づいた。原因は、容器置場は引き戸で、施設されていたが、戸を持ち上げて外すことができず、防犯が徹底されていなかったためであった。今後は、容易に持ち出しができないように容器を鎖で繋いだ上で施設し、責任者が鍵を保管することとした。
238	2010-716	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/17	三重県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年5月17日8時、消費先が廃業のため、販売店従業員が容器の回収に行ったところ、LPガス20kg容器1本が無くなっていることを発見した。容器所有者者に連絡し、容器保有者から県に連絡した。今後は、当該施設敷地の出入口を施設、及び容器にチェーンを巻き施設することとした。
239	2010-717	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/17	鳥取県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	委託先の配送センターからの通報を受信し、販売店従業員が消費先を確認したところ、自動切換調整器に接続してあったLPガス20kg容器1本(満タン)の盗難を確認した。
240	2010-740	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/17	長野県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	5月17日に、消費先よりLPガス容器が無いとの苦情があり、LPガス販売店職員が現場に行ったところ、2本設置してあったLPガス50kg容器が1本しかないことを確認した。その後、配送を行った販売店に容器について確認したが回収した記録が無いため、盗難と判断した。消費先は別荘であるため、年間の配達の実数も少なく、最後に確認された平成22年1月21日から平成22年5月17日までの間に盗まれたと推定される。
241	2010-718	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/18	宮城県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年5月18日に、販売店の従業員がメータ検針のため現場に行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が紛失しているのを発見した。販売店が消費者に聞取りを行ったところ、5月14日には容器を確認したが、17日には無くなっていったとのこと。同日、販売店から警察署へ被害届を提出した。
242	2010-719	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/19	宮城県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	5月19日、コミュニケーションセンター利用者よりガスがつかないとの連絡があり、同日午前11時00分頃、販売店従業員が点検に訪問したところ、LPガス20kg容器1本がないことに気づいた。容器は、ホース接続ネジを外れていた。5月10日の検針の際には、容器は確認されており、その後に盗難が発生したと推測される。5月19日に、最寄の駐在所に盗難の被害届を提出した。
243	2010-720	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/19	富山県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	LPガス販売事業者は、消費者にLPガス50kg容器1本を供給していた。平成22年5月19日8時40分頃に、消費者がガスコンロを使用したところ着火しなかったため、販売事業者と連絡した。販売事業者が現地を確認したところ、LPガス50kg容器1本が取り外され、紛失していることに気づき、知事業者の従業員とともに周囲を探索したが発見できなかったため、盗難と判断し、警察に被害届を提出した。なお、消費者がガスコンロを最後に使用したのが18日の16時頃であるため、盗難にあったのは18日16時頃から19日8時40分頃の間と考えられる。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状態	事故原因	着火源	事故概要
244	2010-721	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/20	島根 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月20日午後11頃、自治会から公民館に設置していた、LPガス8kg容器がなくなっていると販売店へ連絡があった。平成21年12月22日にガスの詰め替えを行っており、それ以降、盗難にあったと推定される。
245	2010-741	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/20	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (一般化学)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	5月20日9時頃、消費先で配送員が容器がないことに気付いた。販売店担当者で現場を訪問すると、設置されていたLPガス20kg容器1本が無くなっていた。同日17時48分、交番に被害届を提出した。
246	2010-747	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 紛失	2010/5/20	静岡 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (紛 失)	鉄工所	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	販売店担当者、容器貸出先である消費先を訪問したところ、消費先が売地となっており、敷地内からアセチレン7kg容器1本、及び酸素7m3容器1本が無くなっていた。
247	2010-722	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/21	広島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月21日15時00分頃、販売店の従業員が消費先のカスメーターの検針に行ったところ、4月13日の検針時には4本あったはずのLPガス20kg容器が、3本しかいないことを確認した。消費先は、昨年の7月14日からガスの使用がなく、連絡もつけない状態であったためメーターにてガス止めをしており、容器引き上げを検計しているところであった。5月21日に警察へ通報し、5月25日盗難届提出、同日警察による現場検証を実施した。
248	2010-742	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/21	埼玉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (倉庫)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	5月21日13時頃、販売事業者が検針のため供給先を訪れたところ、LPガス30kg容器2本が高圧ホースから切断され盗まれている。警察署へ被害届を提出した。
249	2010-723	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/22	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月22日8時30分頃、LPガス消費先の職員が出勤してすぐに、5号湯沸器を点火しようとしたところ点火しなかったため、同湯沸器の電池交換を試みたが点火しなかった。午後になってから、不審に思い屋外の供給設備を確認したところ、LPガス20kg容器2本が、何者かに持ち去られていたのを発見した。同日15時30分頃、消費者が交番に盗難届を提出後、16時30分頃、販売店に緊急時連絡があり、販売店従業員が事故現場に臨場し、LPガス20kg容器2本が高圧ホースから取り外されていたのを確認した。平成22年5月24日、市消防局に事故届を提出した。
250	2010-724	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/23	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月23日午後1時頃、地区住民が公民館を利用の際に、ガス湯沸器を使用したところ点火しなかったため、LPガス20kg容器の元栓を確認に行ったところ、LPガス容器置き場に設置してあったLPガス20kg容器1本がなくなっているのに気づき、販売店へ連絡し、さらに警察署に通報した。同日、午後1時30分頃、警察署と現場検証を行った。ガスの検針委託先を確認したところ、検針員が平成22年5月12日午前9時40分頃に公民館を検針したときには異常がなく、平成22年5月12日午後から平成22年5月23日未明の間に盗難されたと推定される。
251	2010-743	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/24	埼玉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	5月24日8時50分頃、消費者から「点火しようとしたところ火が着かない」と販売店に連絡が入り、販売店従業員が現場に向かい供給設備を確認したところ、LPガス20kg容器2本のうち予備側の1本が、高圧ホースから切断され盗まれている。警察署へ被害届を提出した。
252	2010-725	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/25	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月25日13時30分頃に、警察署より、販売店のLPガス10kg容器1本が投棄されていると販売店に連絡があった。容器の製造番号を確認したところ、LPガス10kg容器1本を供給している消費者の容器が、盗難にあっていることを確認した。平成22年4月15日に消費者を訪問し、LPガス設備調査、点検した時点では、容器があることを販売店の従業員が確認している。事故発生日時は、4月15日の容器確認後から連絡が入った5月25日の期間にあったものと推定される。
253	2010-726	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/26	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月7日、販売店従業員が消費者先に行った際は、所定のLPガス20kg容器2本がそのまま設置されているのを確認した。配達予定であった26日AM9時30分頃、現場に交換に行ったところ、LPガス20kg容器2本が設置されているはずが、1本しかないことに気付き警察に通報した。
254	2010-744	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/5/29	新潟 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先の従業員が、5月28日に容器を確認しているが、翌日の5月29日に保管していたアセチレン7kg容器1本と、酸素7m3容器1本がないことに気付いた。
255	2010-727	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/31	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月31日13時30分頃、空き家の新居者よりガス管工事依頼があり、販売店従業員が現場に行ったところ、LPガス20kg容器1本がホース接続部分から外され紛失していることが分かった。平成22年6月2日、交番に盗難届、同年6月4日、市消防局に事故届を提出した。
256	2010-771	消費	LPガス容 器の盗難	2010/5/31	鹿児島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年5月31日午前10時頃、配達業者が配送途中に集荷センター前を通りかかった際、設置されているはずのLPガス20kg容器1本がないことを確認した。集荷センター関係者、販売店に問い合わせしたが、行方が分からず、しばらく捜索したが見つからなかったため、平成22年6月8日、警察署へ被害届を提出し、同日、現場検証を実施した。
257	2010-779	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/1	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (自動車)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置されていたLPガス20kg容器1本が盗難にあった。
258	2010-748	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/2	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年6月2日6時50分頃、地区自治会長より販売店に、集会所に設置されたLPガス20kg容器1本が盗難されたと通報があった。なお、調整器等の損傷は無かった。
259	2010-749	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/2	群馬 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年6月2日、アパートの空室に設置してあるLPガス20kg容器2本及び調整器が長期間閉鎖中であったため、販売店が取り外しに行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち、1本と調整器が紛失しており、盗難にあったと推定される。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
260	2010-806	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/2	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社 事務)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月2日12時30分頃、消費者からガスが出ないの販売店に連絡があり、販売店で容器2本を交換したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が、昨年11月に盗まれた容器であることが判明し、何者かが再度、空容器と充てん容器を交換し持ち去ったと推定される。直ちに、警察署へ通報した。以前盗難に遭った後の対策として、南京錠をつけていたが毎月一回の検針時は確認していなかった。
261	2010-750	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/3	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社 事務)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月3日16時頃、消費先の職員がLPガス50kg容器3本の盗難を発見し、販売店に通報した。
262	2010-755	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/4	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月3日22時頃、スーパーの店頭で、催事業者が、明石焼、たこ焼き、クレープの実演販売の閉店準備をし、帰宅したが、6月4日8時頃閉店準備の為に現場到着したところ、屋台の外側に置いてあったLPガス10kg容器2本のうち1本が無くなっていることに気がついた。スーパーには、出入りが3箇所あるが、閉店時には施錠しているが、西側の出入り口については、業者は出入り可能であった。
263	2010-751	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/5	石川 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月5日19時30分頃、集会場近所の住民が、物音で集会場のLPガス8kg容器1本の盗難を目撃し、区長が警察署へ通報、翌日区長から届出があり、販売店の職員が、警察署に容器番号、被害金額を届け出た。今後は、容器をチェーンで固定し施錠することとした。
264	2010-752	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/5	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (倉庫)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月5日、消費先事務所の職員が盗難を発見し、警察に通報した。6月11日に、警察から販売店に連絡があった。販売店は、消費先事務所の以前の使用者とガス使用契約を結んでいたが、以前の使用者の閉店に伴う契約解除後も、容器を回収していなかった。なお、現在の消費先事務所は、販売店とガス使用の契約を結んでいない。
265	2010-753	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/7	山形 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社 事務)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	会社事務所で、消費者が燃焼器を使用しようとしたところ、ガスが出ないため、販売店に連絡した。販売店が確認したところ、LPガス20kg容器1本の盗難が判明し、警察に届け出た。
266	2010-780	消費	フルオロ カーボン 容器の盗 難	2010/6/7	大阪 府	0	0	0	フルオ ロカー ボン	その他 (盗 難)	販売店	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	販売事業所において、倉庫に保管していたフルオロカーボンガス10kg容器1本が、出入り口付近のガラスが破られ、盗まれた。
267	2010-754	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/8	秋田 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	6月8日14時30分頃、閉栓中の空き家に設置してあったLPガス20kg容器2本のうち1本が紛失していることを検計作業員が発見した。社内で容器追跡調査を実施して、6月9日10時に容器の盗難と判断した。警察署に被害届を出し、秋田県庁、関東東北産業保安監査部に報告した。
268	2010-756	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/9	埼玉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月3日、消費者が、ガス料金を滞納していたためガスを止めた。平成22年6月9日午後2時頃、消費者が経営する会社が倒産したとの情報を知り、販売事業所社員は、他の社員がすでに容器を回収したと思い、こみそのまま帰社した。翌日、容器を回収した事実がないことから、盗難であることが判明した。警察署へ被害届を提出した。
269	2010-757	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/9	三重 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月9日、検針のため、販売店従業員が客先を訪問したところ、LPガス20kg容器1本が無くなっていることを発見した。前回検針の5月15日には、異常のないことを確認していた。警察署に被害届を提出するとともに、県に連絡を入れた。
270	2010-758	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/9	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月9日、販売店からLPガス20kg容器1本が盗難されているとの連絡があった。担当者が出勤し、現場周辺を調査したが容器を発見できなかったため、同日の17時30分に、交番へ被害届を提出し現場検証を行った。盗難があった場合は、現在空き店舗となっており、LPガス20kg容器が2本設置されていた。平成22年5月に担当者は、容器があったことを確認しているの、盗難時期は、平成22年5月29日～6月9日の間と推測される。
271	2010-759	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/9	福島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月9日の夜、消費先の従業員が帰宅する際に、LPガス容器が盗まれていることに気づき、ガス販売店に連絡した。10日の9時に確認のため、販売店が消費先を訪問し、LPガス20kg容器2本立ての内予備側の1本が盗まれていることを確認した。同日、駐在所へ行き、駐在の警察官による現場確認の下、経緯を報告し盗難届を提出した。なお、盗難されたLPガス容器は、事務室用(非工業用)であった。事故(盗難)発生場所は、夜間が利用がなく、無人の状態であった。今後は、警察へのハットロール強化依頼、消費者等への周知、及び見回りの強化を実施することとした。
272	2010-760	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/6/10	栃木 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月10日、事業所内の作業場に置いていた溶断機一式と酸素7m3容器1本と、アセチレン7m3容器1本がなくなっていた。同日、警察へ盗難として通報した。今後は、作業場に置かずに自宅に持ち帰り、チェーン掛けをして保管することとした。
273	2010-775	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/12	青森 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月12日12時30分頃、交番から、青森市の山の中に、販売店の社名がペイントされたLPガス20kg容器1本が、投棄されていると販売店に連絡が入った。このため、販売店従業員が容器を確認したところ、平成17年1月13日までLPガスを供給し、それ以降は空き家になっていた一般住宅に設置していた容器であることが判明した。この容器は警察の調査が終了した後、7月27日に販売店が回収した。なお、容器は空になっており、人的及び物理的被害はなかった。今後は、6ヶ月以上の空き家については、容器を回収することとした。
274	2010-761	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/14	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	6月14日午後、3月より空家となっている消費先の前を通りかかった販売店職員が、建物が解体されLPガス20kg容器1本がなくなっていることを確認した。空屋となった3月末時点では、容器があることは確認している。解体業者に確認したところ、解体を始めた6月4日時点で容器はなかったと説明しており、解体前に盗まれたものと判断し、警察へ盗難届を提出した。今後は、空屋となった建物における、充てん容器の管理体制を見直すこととした。
275	2010-762	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/15	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月14日、終業時の18時にLPガス容器はあったが、翌15日7時30分、事業所の社員が出動した際に、LPガス20kg容器2本のうちの1本の盗難が発覚した。今後は、容器が見えないようにフロアシートをかぶせてから帰宅することとした。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
276	2010-763	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/15	石川 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月15日午前10時頃、消費先に設置されていたLPガス20kg容器2本中1本が無くなっていった。5月17日午前10時頃、2本あることを確認している。設置してあった販売店所有の容器の所在が判明しないため、警察署刑事第一課窃盗係へ盗難の届出を提出し、発見され次第、販売店に連絡することになっている。なお、消費先は供給設備の休止中の間に転居したもので、盗難があるまで空き家としての認識はなかった。
277	2010-764	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/15	新潟 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	LPガス販売店の従業員が消費先を訪問した際、LPガス20kg容器2本の内、片側の1本(A容器)が無くなっていることを発見した。また、同事業所内の別の場所に設置してある、LPガス20kg容器2本の内の片側1本(B容器)も無くなっていることを確認した。LPガスの使用には支障がなかったため、消費先は容器が無くなっていることに気づかなかった。容器の直近の配達日は、A容器は平成22年4月9日、及びB容器は4月27日であり、その日から6月15日の間に盗難されたと推定される。
278	2010-765	消費	アセチレン 容器の盗 難	2010/6/17	秋田 県	0	0	0	0	アセチ レン	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	6月16日13時頃、消費先に酸素7m3容器1本、アセチレン7kg容器1本を納品した。6月17日8時20分頃、アセチレン7kg容器1本が盗難にあったと、消費先から販売店に連絡があった。土崎臨港署、交番、各巡査部長立会、現場検証の結果、盗難と判断された。なお、6月16日終業時には、容器の存在を確認していた。
279	2010-781	消費	フルオロ カーボン 容器の盗 難	2010/6/17	大阪 府	0	0	0	0	フルオ ロカー ボン	その他 (盗 難)	販売店	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	販売事業所において、空調機の補修のため駐車場に仮置きしていた、フルオロカーボンガス10kg容器1本が盗まれた。
280	2010-766	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/18	宮城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月18日、販売店従業員が、メータ検針のため現場に行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が紛失しているのを発見した。同日、交番へ被害届を提出した。
281	2010-767	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/20	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者より、ガスが着火しない旨の連絡が販売店にあり、販売店従業員が調べたところ、LPガス20kg容器2本のうち1本の盗難が判明した。(残っていた1本もバルブが閉められており、ガスが出なかった。交番に盗難届を提出し、現在捜査中である。今後は、容器をチェーンで固定することとした。
282	2010-768	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/20	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者より、ガスが出ないとの連絡が販売店にあり、販売店従業員が調べたところ、ガス切れではなく盗難と判明した。交番に盗難届を提出し、現在捜査中である。
283	2010-769	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/21	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者より、LPガス容器が紛失しているとの連絡が販売店にあり、販売店従業員が調べたところ、LPガス20kg容器2本の盗難が判明した。交番に盗難届を提出し、現在捜査中である。
284	2010-772	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/21	長崎 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商社)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月21日午前9時頃、配送事業者が、設置先のLPガス20kg容器2本のうち1本が、なくなっていることを確認した。配送事業者は、容器引き上げの指示が無いことを確認し、販売事業者へ連絡した。販売事業者が、消費者に確認後、盗難と判断し警察署へ盗難届を提出した。
285	2010-774	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/23	熊本 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月23日午後4時頃、消費先である住宅を管理している不動産事業者から、容器引き上げ依頼があり、販売店社員が容器回収に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっているを発見した。住宅の主人は、3ヶ月前から入院して無人の状態であり、最後に容器が確認されたのは、6月15日の定期検針が最後であった。そのため、6月15日から6月23日の午後4時以前までに盗難にあったと考えられる。なお、警察への被害届については、6月24日に提出済みである。
286	2010-776	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/25	宮城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月25日午前11時頃、交番より、販売店のLPガス容器が設置してあり、交番へ持ってきたので引取に来るよう電話が入り、販売店従業員が直ちに引取に向った。容器を確認し、詳細を調べたところ、現在も設置状態の容器であることが判明したので、設置先へ向い容器が盗難にあっていることが判った。平成22年6月29日、交番へ連絡し、警察が現場検証を実施した。平成22年7月4日、交番へ盗難届を提出した。
287	2010-782	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/25	奈良 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月25日午前10時頃、LPガス容器設置宅の消費者が、LPガス20kg容器1本が無くなっていることに気付いた。発見後、盗難と判断し、すぐに所轄の警察署へ届出した。直近の容器確認は、平成22年6月16日であった。
288	2010-770	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/28	茨城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年6月28日10時頃、販売店従業員が、空き家となっている消費者の閉栓を確認したところ、LPガス20kg容器2本が盗難されているのを発見し、警察に通報した。平成19年8月31日に契約を解除した後、発見当日まで確認しておらず、盗難発生日時は不明である。
289	2010-783	消費	LPガス容 器の盗難	2010/6/30	広島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	6月30日午後2時20分頃、配送事業者から容器が無くなっているとの連絡があり、確認に向かうとLPガス20kg容器1本が無くなくなった。日付は特定できないが、6月6日から30日の間に盗難にあったものと推定される。設置場所は借家で、現在、入居者はいないとのことであった。
290	2010-784	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/2	岡山 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス10kg容器2本設置中のうち予備用の容器1本が、バルブを外されて盗難されていた。なお、LPガスは給湯器用として設置されていた。今後は、南京錠をつけることとした。
291	2010-785	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/2	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	7月2日17時30分頃、かねてより空家となっていた建物で、販売店従業員が訪問したところ、設置されていたLPガス50kg容器2本のうち1本がなくなっていることを確認し、現地の状況から盗難と判断して残りの1本を回収し、7月6日に盗難届を提出した。この建物は、平成19年12月より空家となっており、その後、容器の確認は行っており、盗難時期は不明である。今後は、検針の際に空家についても確認を行うこととし、特に今回の様な集合住宅については、ガスメーターだけでなく、容器収納庫についても確認するよう保安体制を強化していくこととした。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	取 扱 態	事故原因	着火 源	事故概要
292	2010-927	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/4	愛知 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	7月4日9時頃、月極駐車場の管理者より、駐車場にLPガス50kg容器2本が放置されているとの連絡が販売店にあった。翌日、放置容器を回収し、容器の番号から本来の設置先が判明したため現場に向かったところ、設置されているはずのLPガス50kg容器2本が両方ともなくなっていた。この現場では、平成18年8月から平成20年9月まで他の消費者がこの容器を使用していたが、現在は空家となっていた。7月8日、警察へ盗難届けが出された。
293	2010-786	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/7	島根 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月7日14時頃、販売店従業員が、検針へ行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器2本中1本が無く、転等防止チェーンも外れた状態になっていた。周辺等を探したり、消費者や社員にも確認しましたが、分からないので、警察署へ被害届を提出し、県消防防犯課へも報告した。
294	2010-788	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/9	千葉 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月9日11時半頃、販売店従業員が空家である消費者宅へ状況を調査しにいったところ、他社の容器と供給設備が設置され、消費者が入居していた。付近を探索したが、販売店のLPガス50kg容器2本、及び調整器等は発見されなかった。現供給事業者が、平成19年1月に現消費者に供給開始をした際には、販売店の供給設備は無かったところ。なお販売店は、平成17年7月19日に不動産からの依頼により、空家である消費者宅に供給設備を設置した。それ以来、事故発生日まで現地に向かうことは一度も無かった。盗難として警察署に被害届を提出した。今後は、空家からは容器を引きあげることとした。
295	2010-789	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/9	山形 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	事業所内で、従業員が朝に確認したLPガス20kg容器2本が、11時30分頃、なくなることになり、盗難として警察に通報した。今後は、鍵を設置し、LPガス50kg容器に変更することとした。
296	2010-790	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/9	福岡 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成21年12月21日以降、消費先は閉栓中であり、現在は空家である。平成22年7月9日15時00分頃、容器配送事業者の配達員が、容器を引き取りに行った際、LPガス20kg容器2本のうち1本の紛失を確認した。その後、販売店に連絡を行い、同日、販売店から空家に被害届を提出した。
297	2010-952	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/10	大分 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (農協)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月12日、販売店から、消費先のLPガス20kg容器2本が紛失したと連絡があった。消費先によると7月8日の日中は火がいったが、7月9日の朝には火がつかなくなったので電気ポットでお湯を沸かしていた。7月10日の昼、火がつかないのて供給設備を見に行くと、設置されていたLPガス20kg容器2本がなくなっていた。7月12日、14時に警察署に被害届けを提出した。
298	2010-791	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/13	愛媛 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (農協)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	7月13日、消費先の従業員より、ガスの火が点かない旨の連絡を受け、販売店従業員が確認を行ったところ、LPガス10kg容器1本の配管が外されていることを発見した。発見された容器は、販売店が消費先に設置した容器ではなかったため確認を行ったところ、販売店が設置したLPガス10kg容器1本が盗難にあって、盗難被害にあったものと断定し、盗難届けを出した。過去2回、消費先の近隣にある集会所のLPガス10kg容器が盗難にあっており、各集会所では盗難対策として容器をLPガス20kg容器に変更するなどの対策をとっていた。しかし、この消費先には、LPガス20kg容器のほかにはLPガス10kg容器も1本設置されていたため、夜間及び休日に無人となり、運びやすいLPガス10kg容器が盗難の対象となったと考えられる。
299	2010-792	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/13	愛媛 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	7月13日、販売店が集会所へ設置したLPガス10kg容器1本が、他の消費先で発見されたとの連絡が、容器所有者からあり、容器が盗難にされていることが判明した。このため、盗難被害にあったものと断定し、事実を確認した販売店従業員より県に通報した。管理者が常駐していない施設であったため、被害に遭いやすい状況であったと考えられる。
300	2010-793	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/14	兵庫 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス20kg容器1本が盗難にあった。
301	2010-794	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/14	山梨 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月14日12時30頃、容器の配送を委託している事業者の社員が、消費先に容器交換に行ったところ、設置されていたLPガス30kg容器4本とLPガス20kg容器2本のうち、LPガス20kg容器1本がなくなっているのを確認した。直近の検針日の平成22年7月8日には、異常がなかったことを確認していた。施設管理者にも確認したが、容器を取り外していないとのことであり、状況から考えて、盗難にあったと判断して、7月14日に管轄する警察署へ盗難届を提出した。
302	2010-795	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/14	埼玉 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月14日午後1時頃、町役場から、LPガス20kg容器1本が道路脇に放置されているので、回収して欲しいと容器配送委託事業者と連絡が入った。配送事業者から容器所有者である販売事業者と連絡し、販売事業者が、放置されていた容器を回収、確認したところ空家に設置している容器であることが判明した。直ちに、空家に向かい、供給設備を確認したところ、LPガス20kg容器4本のうち残りの3本も盗まれていた。警察署へ、被害届を提出した。
303	2010-796	消費	LPガス容 器の紛失	2010/7/14	広島 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他()	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (紛失)	<その 他> (紛失)	無	7月14日17時50分頃、販売店より県消防防犯課へ、消費者宅で使用していたLPガス50kg容器2本が、調整器ごと川の増水により流出し、行方不明であるとの電話連絡があった。容器は充電状態にあったが、閉栓状態にあったため漏えいはなかったものと推定される。なお、人的被害はなかった。8月6日12時現在、LPガス販売店に容器の回収について電話照会したが、依然発見されていないかった。
304	2010-797	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/15	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成21年7月15日、販売店従業員が検針のため消費先を訪れたところ、既に建物が解体されており、設置していたLPガス20kg容器2本がなくなっていた。解体業者を調べ連絡をとっていたが、途中から連絡がとれなくなり、容器の所在が不明とのことで、交番へ紛失届を提出した。平成22年7月17日、交番に盗難届。同年7月20日、市消防局に事故届を提出した。
305	2010-807	消費	LPガス容 器の紛失	2010/7/15	山口 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	貯蔵基地	容器 本体	<その 他> (保管 中)	<その 他> (紛失)	<その 他> (紛失)	無	豪雨による上流ダムの放流と、上流にある堤の決壊により、貯蔵施設が冠水し、貯蔵してあったLPガス容器が流出した。周辺に散乱していた容器は当日回収し、また、河川から海上まで流出した容器の一部は翌日以降に回収したが、平成22年8月26日現在で、LPガス20kg容器4本とLPガス10kg容器1本を喪失した。
306	2010-798	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/16	三重 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月16日7時頃、容器所有者が空き家を訪れたところ、玄関引き戸が破壊され空き巣が入ったことが確認された。盗難被害を確認したところ、台所のコンロ口に接続していたLPガス5kg容器1本が無くなっているのを発見し、警察署に被害届を提出した。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	取 扱 態	事故 原因	着火 源	事故概要
307	2010-799	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/16	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	閉鎖された消費事業所に設置されていた、LPガス20kg容器2本が継手から取り外され盗まれていた。
308	2010-808	消費	LPガス容 器の紛失	2010/7/16	広島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (紛失)	無	平成22年7月16日、夕方の豪雨による川の増水、土石流等により、庄原市内の民家4軒に設置されていたLPガス20kg容器が合計7本喪失した。
309	2010-800	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/17	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月17日午前7時30分頃、消費者宅において、LPガス20kg容器1本が紛失していることを確認した。同日、交番へ盗難届を提出した。
310	2010-801	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/17	福岡 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月17日8時34分、消費先の工務店より、ガス供給会社へガスがつつかない旨の連絡があった。同日8時55分、ガス供給会社が現地へLPガス20kg容器2本のうち1本の盗難を確認した。その後、警察署の現場検証を終え容器を補充した。工務店へは、供給を開始して1年3ヶ月程で、設置後一度も交換しでなく盗難にあった容器は、ほとんど使われていなかったと推定される。今後は、容器をチェーンにて固定し、施錠することとした。
311	2010-802	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/17	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月17日9時頃、町内会長より、販売店に集落センターに設置されていたLPガス20kg容器1本の盗難通報があり、販売店従業員が現場に出動した。現場にはすでに警察が出動しており、検証の結果、高圧ボース1本が切断されており、LPガス20kg容器2本のうち1本が消失していることを確認した。今後は、平成19年にも盗難があり今回再び盗難があったため、より小型の容器に切り替えて室内に設置する等、容器の設置位置を消費者と相談することとした。
312	2010-803	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/17	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月17日13時30分頃、販売店の検針員が、LPガス供給先である空家(従前は事務所であったが、顧客から販売店に連絡がないまま引越され、空家となっていた。)に7月検針のため訪問したところ、供給設備に設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が、紛失していることを発見した。7月20日17時40分頃、以前事務所として使用していた顧客が近隣に移転していたことが判明したため、顧客に容器の所在について確認したところ、紛失していたことは知らない旨の回答であったことから、容器盗難、喪失と推定し、同日17時50分に、交番へ盗難届を提出した。なお、同年6月16日の検針時には、容器を確認しており異状はなかった。平成22年7月23日、市消防局に事故届を提出した。今後は、ガス未使用が長期に継続する場合の社内規定を設け、充てん容器の撤去、若しくは空容器への交換等について社内で検討することとした。
313	2010-804	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/18	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月18日午前5時30分頃、周辺住民が生活センターを通りかかった際に、LPガス20kg容器1本が無くなっていることに気づいた。原因は、容器管理の不備と推定される。
314	2010-805	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/20	山梨 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月20日8時00分頃、消費者が使用できないとの連絡があり、販売事業者の職員が確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち2本とも外され、うち1本がなくなっていた。前日の使用時には、異常がなかったことを確認している。消費者に確認したが、容器を取り外してははいないとのことであり、状況から考えて、平成22年7月19日夜間から翌7月20日早朝にかけて盗難にあったと判断し、7月20日に警察署へ、盗難届を提出した。
315	2010-810	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/20	長野 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月20日9時頃、別荘の所有者が、設置されているはずのLPガス20kg容器2本中1本が無いことを発見し、別荘管理事務所へ連絡した。容器は盗難されたと推定される。消費先は、長期無人状態であるが、4月13日の時点で、販売店職員がLPガス20kg容器2本の存在を確認している。販売店は、警察及び県地方事務所へ連絡した。
316	2010-811	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/20	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	7月20日、販売店従業員が、消費先の近くに検針業務へ来ていたため寄ったところ、LPガス20kg容器1本が紛失していることを発見した。直ちに警察に連絡し、警察の調査終了後、盗難届を提出した。道路側から確認できる位置に設置されていた容器は、単段調整器を残し、LPガス容器のみがなくなっていた。道路脇に設置されているLPガス20kg容器の残量は、約18kg程度と推定され、現在、消費者は施設に入っているようであり、自宅には誰もいない状況であった。今後は、長期留守にする際には、容器を撤去するようにする。また、容器ボックスの設置、施錠又は、容器を撤去するようにする。また、容器ボックスの設置、施錠又は容器固定用の鎖に鍵を取り付けることとする。
317	2010-812	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/20	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	7月20日、販売店従業員が検針に行ったところ、LPガス20kg容器が紛失していることを発見した。直ちに警察に連絡し、警察の調査終了後、盗難届を提出した。道路側から確認できる位置に設置されていた容器は、単段調整器を残し、LPガス容器のみがなくなっていた。道路脇に設置されているLPガス20kg容器の残量は、約18kg程度と推定され、現在、消費者は施設に入っているようであり、自宅には誰もいない状況であった。今後は、長期留守にする際には、容器を撤去するようにする。また、容器ボックスの設置、施錠又は、容器を撤去するようにする。また、容器ボックスの設置、施錠又は容器固定用の鎖に鍵を取り付けることとする。
318	2010-813	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/20	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	7月20日午後4時頃、集会所の管理者より、LPガス容器を取り外しかつと問い合わせがあり、販売店従業員が現地を確認したところ、LPガス20kg容器2本が取り外され持ち出されていることを確認した。販売店で取り外してはいないため、盗難と判断し、当日最寄りの交番に盗難届を提出した。集会所の容器については毎月検針しており、6月の検針では容器を確認しているが、7月1日に行った検針時には、容器がなくなっていたが、販売店で取り外したものだと思い、連絡していなかったことが後日判明した。
319	2010-814	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/21	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	7月21日午前8時30分頃、消費先から販売店へ、給湯器用のLPガス容器がなくなっているとの連絡があった。同日、販売店従業員が現場へ行き、LPガス20kg容器1本が無くなっていることを確認し、警察署へ盗難届を提出した。
320	2010-815	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/23	青森 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	スタンド	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月23日午前10時頃、検針員が給油所へ検針に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器2本が無いことに気づいたが、販売店に連絡しなかった。その4日後の7月27日の朝、給油所職員が出動時にLPガス20kg容器2本が取り外され、このことに気づいた。このため盗難と判断し、販売店に連絡し、販売店担当が警察に通報した。
321	2010-816	消費	LPガス容 器の紛失	2010/7/23	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月23日11時頃、販売店従業員が消費先(空家)へ検針に行ったところ、家屋等は何も無く更地になっており、設置していたLPガス20kg容器2本等の供給設備も無くなった。消費者宅は、平成22年4月21日の転出以降、空家となっていたが、販売事業者は毎月検針に行き確認していた。6月24日の前回の検針時は、異常が確認されなかった。販売店は、交番に紛失届を提出した(交番が盗難として扱えないと判断したため)。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 重 傷	計 傷	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態 度	事故原因	着火 源	事故概要
322	2010-817	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/26	埼玉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (寺社)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月26日午前9時30分頃、販売事業者が、神社で行われた祭りに使用された、LPガス10kg容器3本を回収しに現場を訪れたところ、社務所に置いてあるはずの容器が3本とも盗まれていた。警察署へ被害届を提出した。
323	2010-847	消費	アルゴン、 混合ガス 容器の紛 失	2010/7/27	宮城 県	0	0	0	アルゴ ン、炭 酸	その他 (紛 失)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (紛失)	無	7月26日に消費先の工場が倒産したため、7月27日に容器の引き上げに行ったが、アルゴン7m3容器1本とアルゴン混合ガス7m3容器1本の容器が無かった。弁蓋士を合意にて工場内を捜したが、発見出来なかったため再度容器の行方を捜してもうこうにした。8月26日、消費者に確認を取ったところ、従業員及び関係先などに確認したが容器の所在は分からなかった。
324	2010-886	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/7/29	神奈 川県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	自動車	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	工場内に高圧ガス容器、バーナー等の資材を保管していたところ、7月29日18時頃に事業者がアセチレン50kg容器1本と、酸素50kg容器1本が紛失していることに気づいた。
325	2010-809	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/31	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (金属加 工)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月31日、消費先から湯沸器が燃焼しない旨の連絡があり、販売店従業員が現場を訪れたところ、設置していたLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることを確認した。なお、残っていた1本はバルブが締められた状態になっていた。平成22年7月31日、交番に盗難届、同年8月2日、市消防局に事故届を提出した。
326	2010-818	消費	LPガス容 器の盗難	2010/7/31	沖縄 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月24日、消費者に対し販売店のLPガス5kg容器を貸し出した。平成22年7月31日に、消費者より盗まれたとの報告を販売店が受けた。
327	2010-887	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/7/31	栃木 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先の倉庫から、溶断用の装置、酸素7m3容器1本、アセチレン7kg容器1本、その他の工具等、ユニック付き車輦1台が盗難された。平成22年7月30日の業務終了時に、倉庫を施錠せず平成22年7月31日の朝、確認したところ、ユニック付きの車輦の隣りに置いていた溶断用の装置、容器、工具等と車輦そのものが盗難されていることが判明した。平成22年7月30日業務終了時には、翌日の作業が早朝の予定であったことから、倉庫を施錠していなかった。直ちに、警察へ被害届を提出した。
328	2010-888	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/1	島根 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	8月1日、消費先へ検針に行った際、設置していた容器とは違う容器が取り付けられていた。24時間監視システムがないため、毎月月初めに検針に行っており、7月検針時には異変がなかったため、7月検針後から8月1日の検針の間に盗難にあったものと推定される。この時点で警察へ連絡し、被害届を提出した。LPガス20kg容器1本であった。
329	2010-819	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/3	福島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (農業)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月3日、検針員が、消費先へ検針に行った際、ガスメーターに圧力遮断のエラー表示が出たことを担当者が発見した。圧力遮断の原因は、ガス切れによるものだったが、前回検針からメーターが回っていないなかったため、容器を確認したところ、LPガス20kg容器1本が、別の空容器にすり替えられていることがわかった。また、平成22年2月2日の検針時にも、同様の事例があった。なお、警察署への被害届は、8月10日に提出した。今後は、容器チェーンに鍵を取り付けることとした。
330	2010-827	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/3	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成21年2月27日、借家の消費者から、転居するのでガスの解約をしてほしいとの依頼があり、閉格した。その際に、借家のオーナーから、平成21年3月以降に解体予定と聞いていた。しかし、平成21年3月頃、販売店の担当者が変更となり、後任者への申し送りに一部不備があったことから、平成22年7月下旬頃まで未確認状態で放置していたことが発覚した。平成22年8月3日10時頃、販売店従業員が現場を確認したところ、既に借家は解体され更地になっており、借家に設置されていたLPガス20kg容器2本をはじめとした供給設備全てが喪失していた。元消費者及び借家のオーナーについては、現在所在が不明なため連絡が取れない状況である。解体業者についても不明であった。平成22年8月12日14時頃、警察署に盗難届を提出した。平成22年8月13日に、市消防局に事故届を提出した。今後は、空家となった場合の建物については、充電容器を撤去し、空容器を代替で設置することを検討する。
331	2010-828	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/3	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月3日11時00分、配達担当者が消費先を通りかかった際、容器がないため、販売店へ連絡した。直ちに担当者 が現場に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器1本がナットから外され盗まれたことを確認した。なお、ガスメーター、調整器等供給設備等は、異常がみられなかった。同日、警察署へ盗難届を提出した。
332	2010-829	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/3	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	3月以来、家主は長期不在であるが、家主の要望でLPガス容器はそのまま設置していた。8月3日、設備確認で販売従業員が訪問したところ、LPガス20kg容器1本の紛失に気づいた。8月6日、交番に盗難届を提出した。
333	2010-848	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/3	奈良 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月3日午後1時頃、ガス容器設置宅の消費者が、LPガス20kg容器1本が無くなっていてことに気づいた。発見後盗難と判断し、すぐに所轄の警察署へ届け出した。直近の容器設置は、平成20年9月24日であった。
334	2010-830	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/5	愛媛 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月5日9時30分頃、ガス配送センターより、松山市東方の空き地にLPガス20kg容器1本が捨てられているとの連絡が、販売店にあったため、容器照会を行ったところ、捨てられていた容器は、東温市北方の空家に設置されているはずの容器(現在は使用していない)であることが判明した。このことから、販売店従業員が現地確認を行ったところ、設置してあったLPガス20kg容器が1本とも紛失していることが判明した(紛失した2個の容器の内1個が今回発見された容器である。)。ガス配管、調整器、ガスメーターも取り外されていたが、これらは現場に放置されていた。この家屋は、平成19年10月19日から空家状態であったことから、その頃から平成22年8月5日の間に盗難にあったと推定される。8月6日、警察に盗難届を提出した。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	重 傷	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
335	2010-831	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/6	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月6日15時30分頃、販売店の検針員が、LPガス供給先である事務所に検針のため訪問したところ、この供給設備に設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が、紛失していることを発見した。事務所の職員にLPガス容の所在について確認したが、心当たりがないという回答であった。さらに付近を探索したが、発見出来なかったことから、同日16時50分に交番に盗難届を提出した。平成22年8月9日、市消防局に、事故届を提出した。今後は、転倒防止用チェーンが容易に取り外しできないように、消費者の了解の भी 施錠防止対策を早急に行うとともに、消費者に対しては注意喚起した。
336	2010-844	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/7	長野県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月7日12時頃、町営の屋内ゲートボール場の定期検針に訪れた販売店の従業員が、設置されていたLPガス20kg容器2本が1本になっていることに気付いた。会社の販売記録、配達事業者の配達記録等を確認したが、回収した記録が無いため、8月24日に盗難と判断した。最後に容器が確認されたのは、前回の定期検針日7月8日なので、7月8日～8月7日の間に盗まれたと推定される。
337	2010-849	消費	酸素容器 の盗難	2010/8/7	兵庫県	0	0	0	0	酸素	その他 (盗 難)	その他 (電気)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月7日、消費者において、工事現場の駐車場内に、酸素ガス0.5m3容器1本を盗んだ状態のトラックを約12時間停車させていた。その後、酸素ガス0.5m3容器の有無を確認しないまま事務所へ戻り、8月9日に車両を確認した際に、酸素ガス容器が盗難されていることに気付いた。
338	2010-820	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/9	愛知県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (消防署)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月9日の検針日に、消防団詰所のLPガス20kg容器2本がなくなっていることが発覚した。なお、前月の検針は7月9日であった。
339	2010-832	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/9	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月9日10時30分、消費先からガスが出ないとの連絡があり、直ちに販売店従業員が現地に赴いたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本がナットから外され盗まれていることを確認した。なお、ガスメーター、調整器等供給設備等には、異常がみられなかった。同日12時00分、警察署へ盗難届を提出するとともに、翌日、総合振興局等の関係機関に対し電話連絡した。今後は、盗難場所の再確認、近隣の巡回強化、及び容器をチェーンで施錠することとした。
340	2010-833	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/9	群馬県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月9日、販売店従業員が消費先に検針に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器2本が無くなっていることに気がついた。消費先が、8月7日から8月17日まで夏季休業中であったため、休業明けを待って確認をしたところ、容器が盗難であることが発覚した。その後、県消防保安課に電話連絡した。今後は、容器チェーンを施錠することとした。
341	2010-834	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/9	北海道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月9日、消費先のガスメーター検針担当者から、警報表示が出ているとの連絡があり、直ちに販売店従業員が現地に赴き、17時10分に、設置されていたLPガス20kg容器2本がナットから外され、無くなっていることを確認した。なお、ガスメーター、調整器、供給設備等は、異常がみられなかった。容器がいないことについて、消費先に確認をしようとしたところ不在のため、翌日10日に再度連絡をとり、盗まれたことを確認した後、交番へ盗難届を提出するとともに、翌日11日総合振興局等の関係機関へ電話連絡した。今後は、盗難場所の再確認、近隣の巡回強化、及び容器をチェーンで施錠することとした。
342	2010-835	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/10	千葉県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月10日17時30分頃、集会場に設置されていたLPガス20kg容器1本が、無くなっていることを近隣の住民が発見した。翌日、販売店へ連絡が入り、同日10時頃、販売店従業員が自治会長と現地確認を行い、低圧ホースが切断したLPガス20kg容器1本が無いことを確認した。その後、警察署へ盗難届を提出した。平成22年7月25日の公会堂使用時には異常が無かったことから、この間に盗難されたと推定される。今後は、この集会場は、平成21年12月に2本の異常が確認されたことから、メーターはそのまま残し、容器をLPガス8kg容器に変更して、屋内へ設置することを検討する。
343	2010-850	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/10	大阪府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者先に設置していた、LPガス20kg容器が継手から取り外されていた。
344	2010-821	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/11	宮城県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月11日午前11時30分頃、検針員が消費先へ検針に行ったところ、建物北側に設置していたLPガス20kg容器2本が高圧ホースを外され、なくなっているのに気づき、交番に通報した。翌日、警察官と現場検証を行ない、被害届を提出した。7月12日午前12時頃の検針時は異常なく、その後盗難にあったと推定される。
345	2010-836	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/11	千葉県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月11日、LPガス販売事業者の従業員が被害のあった消費先宅(空家)近隣へ配送のため、この消費者宅の前を通りかかった際、LPガス20kg容器4本有るべきところ、その内1本が無いことに気付いた。社内連絡を受け、営業担当者が現地に赴き容器の盗難を確認した。この消費者は、平成22年4月に降空家となった。最終の配送が2010年4月2日であり、これ以降に盗難にあったと推定される。LPガス販売事業者は、交番へ盗難届を提出した。
346	2010-949	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/11	石川県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月11日、消費先から販売店へ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無いと連絡があった。販売店従業員が現地を確認し、警察署に盗難されたことを通報し、同日、警察の現地調査を行った。
347	2010-851	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/12	京都府	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月9日午後、消費先のガスメーターを撤去したが、LPガス20kg容器2本を公用車に積載出来なため、後日引き上げに訪問する了解を得て、12日に配送員が訪問すると2本とも無くなっていた。21日午前に消費者から事実確認ができたため、警察に被害届を提出した。
348	2010-837	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/8/14	千葉県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	8月11日、作業員が工事現場から酸素7m3容器1本、アセチレン7kg容器2本を工場敷地内に持ち帰り帰宅した。8月14日、販売業者が容器を引き取りに工場敷地内に訪れたところ、容器が紛失していることに気付いた。直ちに、警察署へ被害届を提出した。原因は、作業員が容器を収納庫へ戻さなかったこと、及び工場の門扉を施錠せずに帰宅したことであった。
349	2010-889	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/8/15	神奈川県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月14～15日、解体現場で、酸素7m3容器1本、アセチレン7kg容器1本にブルーシートを掛けて台車に乗せていたが、台車ごと盗難された。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状状態	事故原因	着火源	事故概要
350	2010-838	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/16	栃木 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者先である別荘に設置されていた、LPガス20kg容器1本が盗難された。この別荘は、平成21年7月30日に供給開始し ており、盗難を知覚した平成22年8月16日は初めて容器交換をするため、販売店の配達員が現地を訪れた時であった。被 害にあった容器は、LPガス20kg容器2本のうち予備側の1本の容器で、昨年、那須町内で別荘のLPガス容器盗難があり、 そのLPガス20kg容器(空の容器)がこの別荘に接続されており、盗難の発見を遅らせるためにカモフラージュしたものと考 えられる。
351	2010-852	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/16	奈良 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月16日、ガス容器設置 宅の消費者が、LPガス20kg容器1本が無くなっていることに気付いた。盗難と判断し、翌 日、所轄の警察署へ届け出た。直近の容器設置は、平成22年8月10日であった。
352	2010-822	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/17	宮城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月17日13時頃、別荘の所有者がガステーブルを使用しようとしたところ点火せず、LPガス容器を確認すると、 設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本しかなかったため、販売事業者の連絡をしたところ、LPガス容器の盗難が発 覚した。もう1本(残量96%程度)も高圧ホースがはさまれていたが、ガス残量の少ない(残量36%)軽い容器の方が盗難さ れていた。前回の検針時(8月6日11時頃)には容器が2本とも接続されていることが確認されているので、平成22年8月6日 11時頃から、平成22年8月17日13時頃の間に盗難されたと推定される。
353	2010-839	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/17	埼玉 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月17日午前8時45分頃、消費者から、LPガス容器の片方が無いとの連絡が販売事業者に入った。現場に駆け つけた販売事業者社員が、供給設備を確認したところ、LPガス20kg容器2本のうち1本(予備側)が盗まれていた。直ちに、 警察署へ被害届を提出した。
354	2010-853	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/17	滋賀 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月17日9時半頃、販売店従業員が消費先の容器設置状況の確認、メーター検針等のため訪れたところ、LPガス 20kg容器2本のうち1本が無くなっていることを発見した。なお、16日までは2本設置されていた。警察に届け出ており、現地 検分も終了している。
355	2010-823	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/19	岡山 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (塗装)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月19日、塗装工 場は午後から稼動することになっており、14時頃出張した工場長がガスを使うため、元栓を開 けようとして容器置場へ行つたところ、LPガス50kg容器 10本が設置してあるはずが、予備容器4本が設置されていないこと に気づき、15時10分頃、販売店に連絡をした。
356	2010-840	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/19	千葉 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月19日14時30分頃、LPガス販売事業者の従業員が消費先を訪問した際に、設置されているLPガス50kg容器2 本の内1本がなくなっていることに気づき、至急警察に連絡した。この消費先は、建物の裏側に供給設備が設置されてい たが、誰でも建物の裏側に入ることができるので、車を供給設備に停車できる状態であった。また、平成20年2月17日に 初回の容器設置を行ってから、一度も容器交換作業を行っていないため、平成22年8月8日、料金滞納のため、検針時に ガスを閉栓していたが、その後、消費者と連絡が取れず、確認のために8月19日に消費先を訪問した際に設置されている LPガス50kg容器2本の内1本がなくなっていた。LPガス販売事業者は、警察署へ盗難届を提出した。
357	2010-841	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/20	茨城 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年7月21日の消費者への検針時は、供給設備に異常がなかったが、平成22年8月20日の検針時に、設置されてい たLPガス20kg容器8本のうち4本の盗難を発見した。同日、警察に被害届を提出し、現場検証を行った。
358	2010-854	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/20	兵庫 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス20kg容器1本が盗難にあった。
359	2010-855	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/20	兵庫 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	販売店	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	8月20日、イベントで使用するLPガス8kg容器2本を貸すために、「LPガスご利用のお知らせ」に氏名、住所電話番号を記入 して、8月22日の午前中までというところでLPガス8kg容器2本を貸し出した。8月23日に消費者に電話をしたが、他人の電話 にかかったことから盗難にあったと分かった。警察に盗難届を届出した。なお、警察調べたところ、住所についても該当する 所在地はないとのことであった。
360	2010-842	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/23	北海 道	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月23日、消費者からLPガス容器が紛失しているとの連絡があり、販売店従業員が現場を確認したところ、LPガ ス20kg容器2本中1本が紛失していた。平成22年8月23日に、交番に盗難届を提出した。平成22年8月24日に、市消防局に 事故届を提出した。
361	2010-843	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/23	千葉 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月23日13時55分頃、販売店の従業員が消費先へ検針に行つたところ、設置してあったLPガス20kg容器2本の 内1本が盗難されていた。盗難されたLPガス20kg容器の残ガスは約7kgと推定される。この消費者は、平成22年7月23日 の検針時には、供給設備に異常は確認できていなかった。今後は、容器のプロテクターをチェーンでつなぎ、南京錠を取 り付けることとした。
362	2010-824	消費	酸素容 器の盗難	2010/8/24	宮城 県	0	0	0	0	酸素	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	8月24日午前、仙台市太白区で、釣り人が川の中に沈んでいる容器を発見し、近隣の交番に通報した。その後、交番よ り国土交通省名取川出張所へ連絡があった。15時頃、国土交通省職員及びびガス会社にて容器の確認を行い、17時頃、酸 素7m3容器1本を引き上げ、容器番号より所有者(販売店)へ連絡を行った。残ガスが約50%あったが、現場にて放散し処 理を行った。8月25日9時30分に、国土交通省職員立会いの下、所有者へ容器の回収作業(移送)を行った。26日午前に、 市消防局へ事故発生 の概要を説明した。
363	2010-890	消費	アセチレン 容器、酸 素容器、 窒素容器 の盗難	2010/8/24	神奈 川県	0	0	0	0	アセチ レン、 酸素、 窒素	その他 (盗 難)	冷蔵	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	8月24日7時頃、事業所社員が出社時に車庫に盗難を確認し、警察に通報した。車庫には、36L及び41Lアセチレン容 器、34L及び20L酸素容器、47L窒素容器がそれぞれ1本ずつ精蔵されていた。盗難とみられる。車庫には鍵がかかってい たが、事業所の出入り口の門は施錠されていた。今後は、車庫に容器の積み置きを禁止し、車庫のハンドルのロッ ク、及び門の施錠を実施することとした。
364	2010-845	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/27	佐賀 県	0	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年8月27日午後4時頃、販売店の容器配送の委託先の担当者が、公民館に容器交換に行つたところ、LPガス20kg 容器2本のうち1本が無くなっていることを確認した。すぐに販売店担当者が現場に到着し、確認した。その後、コンピュ ーター端末での確認を行い、盗難であると判断(メーター検針日である8/17~の間の)した。翌日、販売店から地元警察署へ 盗難届を提出した。なお、内容量は満タンであったと考えられる。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
365	2010-825	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/28	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	8月28日、消費先の会社事務所で、コンロに火を着けようとしたが、火が着かないので容器置き場を確認したところ、LPガス20kg容器1本が無くなっているのに気づいた。
366	2010-874	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/28	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置していた、LPガス20kg容器2本が盗難にあった。
367	2010-891	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/29	静岡 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	設置されていたLPガス20kg容器2本のうちの1本がなくなっているとの連絡が、設置場所の住人から販売会社へあった。販売会社社員が確認し、盗難と判断した。当日に盗難されたものと推定される。今後は、鍵付きの容器庫に設置することを検討している。
368	2010-826	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/30	山形 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (寺社)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費者が、ガスコンロを点火したところ立ち消えしたため、メーカー、容器周囲を確認したところ、チェーンが外され、LPガス20kg容器1本がないことに気づき、販売店に連絡した。販売店が、警察に盗難届を提出した。今後は、容器チェーンに南京錠を設置することとした。
369	2010-892	消費	LPガス容 器の盗難	2010/8/31	島根 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	8月31日、消費先へ検針に行った際、設置していた容器とは違う容器が取り付けられていた。24時間監視システムがないため、毎月月初めに検針に行っており、7月検針時には異変がなかったため、7月検針後から8月31日の検針の間に盗難にあったものと推定される。確認後すぐに警察へ連絡し、被害届を提出した。盗難容器は、LPガス20kg容器1本であった。
370	2010-856	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/9/1	北海 道	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	運送	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月1日朝方、警察署から消費先である運輸会社に電話連絡があり、町内において金庫破り事件があり、その事件現場に運輸会社名が記載された酸素7m3容器1本、アセチレン7kg容器1本が放置されていたことと、運輸会社の事業所の容器等(溶接機一式)を盗難したところ、紛失していることに気づいた。運送会社は、8月31日夕方に容器等(溶接機一式)を確 認していることから、その日の夜間に盗難にあったと推定される。運輸会社の事業所において、酸素7m3容器、アセチレン7kg容器1本(調整器含む)及び溶接機一式は接続したままの状態であった。盗難容器の残量は不明である。原因は、消費先の事業所の入り口は、施設等ははさまれておらず、他者が自由に進入できる状態であった。酸素、アセチレン容器及び溶接機一式には、容易に持ち出すことのできない措置はされていなかった。また、現地付近の状況について、夜間は人通り及び車両の通行はほとんど無く運輸会社の構内であり、他者の出入りにしても不審に感じること はなかった。今後は、運輸会社の入り口を施錠し、容器等が容易に持ち出すことのできない措置をとることとした。
371	2010-857	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/9/1	福島 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	8月31日、いわき市内の空き地において、販売店の酸素7m3容器(空き容器)が発見された。販売店が販売記録を確認すると、製作所に販売した容器であることが判明した。9月1日、製作所で、販売店と製作所の社員が共同で、貯蔵庫内の容器の数量と販売記録(空き容器の返却)を照合したところ、発見された容器とは別に酸素7m3容器4本、アセチレン7kg容器7本の所在が不明であった。盗難と判断し、盗難届を提出した。
372	2010-858	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/2	青森 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年8月3日午前11時頃、検針員が消費先にガスの検針に行った際は、LPガス20kg容器は設置されていたが、同年9月2日午前11時頃、次の検針に行った際には、LPガス20kg容器1本が無くなっていた。検針員は、販売店が検針業務のみのために雇われているパート員であり、事故現場である公園内の施設については、昨年、施設を管理している町役場総務課から、冬期間はガスを使用しないのでLPガス容器を外してほしいと依頼を受けたことがあるため、今回も同様検針時にガスを使用しないために取り外したのと思い、容器が無くなったことを販売事業所に報告しな かった。9月21日に販売事業者が、請求書を作成するために検針員に施設の検針結果を確認したところ、容器が無かった ことの報告を受け、盗難であったことが判明した。なお、9月29日に警察署に盗難届を提出し、現場検証も終了している。
373	2010-893	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/2	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月2日9時頃、設置されていたLPガス20kg容器2本のうちの1本が、無くなっていることに社員が気づいた。販売店担当者 が現場を確認して盗難と判断し、警察署に被害届けを提出した。
374	2010-919	消費	LPガス容 器の紛失	2010/9/2	宮崎 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他 (飲食店)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	9月2日、LPガス8kg容器2本を積載した焼鳥の移動販売車と、従業員が行方不明となった。捜索したが発見できず、10月6日に事故届けを提出した。
375	2010-859	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/7	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月7日16時頃、消費先から、ガスの火が着かないと販売店に連絡があった。販売店従業員が、現場を確認したところ、ガスメーターがガス切れの状態になっていた。LPガス20kg容器を交換するため容器BOXを開けたところ、販売店所有の 容器が持ち去られ、代わりに他社の空容器が調整器に接続された状態で設置されていることを発見した。盗難容器の残 量は、10kg程度と推定される。9月17日に事故届を提出した。この消費先は、ほとんどガスは使用していない状況であっ た。また、容器設置場所は人目に付きにくい場所、車面や人が頻繁に通行人と通行するところではなかった。
376	2010-860	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/7	鳥取 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年8月23日、消費先へのメーター検針時において、容器が設置されていることを確認した。同9月7日16時30分頃、盗難防止対策として、LPガス20kg容器2本をチェーンで結束し、南京錠で施錠するために訪問した際には、LPガス20kg容 器が2本とも無くなっていた。同9月8日警察に連絡し、現場検証を行った。
377	2010-861	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/7	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月7日、販売店が消費先で発生した盗難(9月15日事故届提出)に係る連絡を受け、消費先を確認したところ、他の販 売店のLPガス20kg容器1本が持ち去られ、代わりに、販売店のLPガス20kg容器が接続されていた。同日17時頃、販売店か らの連絡を受け配送センターにて容器番号を検索したところ、空き家に設置していた容器であることが判明した。この空き 家は、平成19年5月14日から空き家で、販売店では約3年間容器等の確認は行っていないかった。盗難時期については不明 である。盗難容器の残量は、12kg程度であった。なお、容器設置場所は、建物の陰になり道路からは確認できない箇所であ った。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	取 扱 態	事故 原因	着火 源	事故概要
378	2010-875	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/7	京都府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年9月10日、配達員が検針のため消費者宅を訪れた時は、LPガス20kg容器が2本ともあることが確認できたが、次の検針日である9月7日には、LPガス20容器1本が盗難されていた。販売業者から警察署に、盗難届を提出した。
379	2010-876	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/8	愛知県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	窯業	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月8日15時30分、消費先である陶芸用作業場へ販売店従業員が検針へ行ったら、LPガス50kg容器4本のうち1本が喪失していることが発覚した。8月3日の検針時は異常がなかった。なお、8月16日に陶芸用の機器が盗難にあつた被害があった。その際、LPガス容器が盗難されていたかは不明である。また、この陶芸用作業場は、使用頻度が少なく、人の出入りも少なかった。
380	2010-894	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/8	埼玉県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月8日8時40分頃、集会所を通りかかった通行人から、「LPガス容器が無くなっているようだ。」との連絡が販売店にあった。販売店職員が現場を確認したところ、高圧ホースが切断され、設置されていたLPガス10kg容器1本が盗難されていた。直ちに、警察署へ被害届けを提出した。
381	2010-895	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/8	埼玉県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月11日15時50分頃、消費者から、「LPガス容器が無くなっている。」との連絡が販売店にあった。販売店職員が現場を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器1本が盗難されていた。直ちに、警察署へ被害届けを提出した。今後は、容器をチェーン等で固定することとした。
382	2010-896	消費	LPガス容 器の紛失	2010/9/8	静岡県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (紛失)	無	台風9号による河川の氾濫で、設置されていたLPガス50kg容器1本が流された。8月9日に流されたものと推定される。
383	2010-920	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/8	宮崎県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空地)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月8日、ガスメーターの点検のため販売店従業員が現場に行ったら、家屋が解体され、LPガス20kg容器1本が無くなっていた。なお、メーター、調整器、容器チェーン等はそのままの状態であった。盗難と判断し、直ちに警察に通報した。8月21日までは、盗難されていないことを確認していた。
384	2010-897	消費	LPガス容 器の紛失	2010/9/9	静岡県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	台風9号による河川の氾濫で、設置されていたLPガス50kg容器2本が流された。9月8日～9日の間に流されたものと推定される。うち1本は相模湾で発見されたが、残り1本は所在不明である。
385	2010-898	消費	LPガス容 器の紛失	2010/9/9	静岡県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (紛失)	無	台風9号による河川の氾濫で、設置されていたLPガス50kg容器1本が流された。9月8日～9日の間に流されたものと推定される。
386	2010-921	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/10	熊本県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月10日13時頃、消費先の職員より、設置されていたLPガス容器がなくなっているとの連絡が販売店にあった。販売店担当者が現場を確認したところ、ホース等の器具は損傷もなく現場に残され、ガス漏れもなかったが、容器が盗難されていた。販売店において最後に容器を確認したのは、5月8日の容器交換時であった。職員の話では、夏頃はほとんどガスを使用していなかったため、盗難された時期は不明とのことであった。なお、警察への被害届けについては、当日中に提出済みである。
387	2010-922	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/12	熊本県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月12日8時30分頃、公民館を使用していた住民より、ガスが使用できないと販売店に連絡があった。販売店担当者が現場を確認したところ、設置されていた容器がなくなっており、代わりに別の販売店の空容器が設置されていた。ホース等の器具は損傷もなく現場に残され、ガス漏れもなかった。販売店が最後に容器を確認したのは、3月29日の容器交換時であった。地元関係者の話では、この公民館は普段は無人であり、ガスもあまり使用していなかったため、盗難された時期は不明とのことであった。なお、警察への被害届けについては、当日中に提出済みである。
388	2010-882	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/13	宮城県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年9月13日午前8時45分頃、消費先からガスが出ないとの連絡があり、午前9時05分に販売店従業員が現地に到着し確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることを確認した。同日、盗難届を提出した。
389	2010-883	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/13	秋田県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年9月13日11時頃、借家にて家主がLPガス20kg容器2本のうち1本が無いことに気付いた。販売店、及び配送センターで確認した結果、容器盗難と判断し、警察署に被害届を出した。この借家は、7月12日に引越があり、新たな借家人が入居予定だったため容器をそのまま取り付けていた。今後は、空き家については、容器を撤去することとする。
390	2010-884	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/13	宮城県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年9月21日、販売店の担当者が、消費先へ検針に訪れた際LPガス20kg容器2本が紛失していることを確認した。同日、盗難届を提出した。消費先は、町営住宅であったため、役場に確認をとったところ、役場においては平成22年9月13日に容器がないことを確認していたが、同住宅の住人が平成22年9月9日に退去したため、販売店において容器を撤去したと思い、連絡していなかった。
391	2010-923	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/13	佐賀県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月13日10時頃、公民館の消費者から、ガスが点かないので点検の依頼があったため、販売店担当者が現地を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器1本及びLPガス10kg容器1本のうち、LPガス10kg容器1本がなくなっていた。また、盗難された容器的の代わりに、他の販売店の8kg容器が設置され、高圧ホースがいろいろ接続口に差し込んであり、容器が盗難されたことと推定される。なお、この公民館では8月27日、設置容器の変更に伴う事前調査を行い、LPガス10kg容器1本の設置を確認していることから、その後に盗難されたものと推定される。9月13日、警察署へ盗難届けが提出された。なお、残量は満タン(10kg程度)と推定される。
392	2010-885	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/14	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月14日9時頃、消費者宅より販売店に「ガスが出ない」との連絡があり、現場を確認したところ、LPガス20kg容器2本が持ち去られていた。前日には容器的の存在を確認しており、14日の朝までに盗難にあつたものと推定される。同日、交番に連絡し、翌15日に盗難届を提出した。
393	2010-877	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/14	愛媛県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月14日、販売店の担当者が定期検針に消費先に行ったところ、設置していたLPガス20kg容器2本の内、1本がなくなっていることを発見した。同日、警察へ被害届を提出した。消費先は、住人が常駐していなかったため、被害に遭いやすかったものと考えられる。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計 傷	物質名	現象	業種	設備 区分	取扱状 態	事故原 因	着火 源	事故概要
394	2010-924	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/9/15	宮崎 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	その他 (工事現 場)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	9月15日、酸素7mkg容器及びアセチレン7kg容器がそれぞれ1本ずつ盗難されていることが判明し、直ちに警察へ通報した。なお、9月13日までは、盗難されていなかったことが確認されていた。
395	2010-899	消費	アルゴン ガスの盗難	2010/9/17	千葉 県	0	0	0	アルゴン	その他 (盗 難)	販売店	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	9月17日9時頃、前日19時から駐車場に駐車しておいた営業車両が盗難されていることが判明し、警察に通報した。車両には、アルゴン47L容器が1本積載されていた。今後、高圧ガスを車両上に積載して貯蔵しないようにすることとした。
396	2010-900	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/17	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	9月17日10時45分頃、配達員が配送中に消費先を通ったところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうちの1本が、高圧ホースが鋭利な刃物にて切断され外されていることに気付いた。消費先は、数ヶ月間使用量がゼロであり、消費者とは連絡がつかず、8月3日に閉鎖されたが、容器はそのまま設置されていた。8月3日以降に盗難されたものと推定され、警察署に被害届けが出た。今後、閉鎖した場合は、容器を撤去することとした。
397	2010-901	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/17	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	空家を解体することになり、販売店が容器の回収に行ったところ、設置されていたLPガス50kg容器2本のうちの1本が無くなっていた。周辺を探索したが見つからなかったため、警察署に被害届けを提出した。盗難とみられる。今後、空家の容器は、なるべく回収することとした。
398	2010-941	消費	福井県越 前市岩内	2010/9/17	福井 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	販売店に消費者より、消費者宅に設置していたLPガス8kg容器1本が盗難されたとの連絡があった。
399	2010-866	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/18	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年9月18日14時頃、販売店の検針員が、消費先の空家へ検針のため訪問したところ、供給設備に設置されていたLPガス20kg容器2本が、紛失していることを発見した。さらに付近を探索したが、発見出来なかったことから、同年9月21日、交番に盗難届を提出した。平成22年9月24日、市消防局に事故届を提出した。
400	2010-902	消費	フルオロ カーボン 容器の盗 難	2010/9/18	埼玉 県	0	0	0	フルオ ロカー ボン2 2、フル オロ カーボ ン407 A、フル オロ カーボ ン410 A、	その他 (盗 難)	電気	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	9月18日1時頃、作業員が駐車場に向かったところ、車両が盗難されていた。車両には、前日に業務で使用したフルオロカーボン10kg容器8本が積載されていた。警察署に被害届けを提出した。作業員に対し、適切な容器の貯蔵方法の周知がなされた。
401	2010-925	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/18	佐賀 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	9月18日8時頃、公民館の消費者から、容器がないとの連絡が販売店にあり、担当者が消費先を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器1本がなくなっていた。なお、この公民館では9月16日14時頃に検針が行われており、その後に盗難されたものと推定される。9月18日、警察署へ盗難届けが提出された。なお、残量は10kg程度と推定される。
402	2010-867	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/19	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年9月19日午前10時頃、消費先の集金場において、地元住民の老人会(会)の集まりがあり、会の代表者がLPガス10kg容器1本の盗難に気付いた。容器が調整器から外された状態であり、他の供給設備は異常がなかった。
403	2010-878	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/19	香川 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	集会所に販売店が設置していた、LPガス10kg容器1本が、ホースコックから取り外され、盗まれていた。9月19日、集会場の使用者から、警察へ通報があった。
404	2010-868	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/21	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (病院)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年9月21日午前9時7分頃、消費先からガスが出ないと販売店に連絡が入ったことにより、保安業務を行っている事業者がLPガス20kg容器2本を交換し、引き取った容器を確認したところ、1本が他の消費先で盗難されていたLPガス20kg容器であることが判明した。前回の容器交換日である平成22年2月24日から平成22年9月21日の間の定休日、夜間等人が少ない時に盗難されたものと推定される。
405	2010-903	消費	アセチレン 容器の紛 失	2010/9/21	宮城 県	0	0	0	アセチ レン	その他 (紛 失)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (紛失)	無	工事現場において使用されていたアセチレン7kg容器1本がなくなっていることが判明し、アセチレンを使用していた建設事業者が資材、機材の返却整理と合わせて捜索したが、発見できなかった。なお、納入されたのは平成21年1月29日である。再発防止策として、高圧ガス取扱者名簿の作成、容器管理責任者の選定及び作業後の所在確認を行うこととした。また、作業員に対し、現場での高圧ガスの受払い、維持管理についての教育がなされた。
406	2010-869	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/22	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年9月22日、配送委託先の担当者が、盗難先とは別の同じ敷地内にある消費先へ容器交換に訪れた際、LPガス20kg容器1本が紛失していることを確認した。同日、盗難届を提出した。
407	2010-870	消費	LPガス容 器の盗難	2010/9/22	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年9月22日、販売店の農業協同組合員が、LPガス50kg容器2本を設置しているのはずの民家(空家)の容器が1本無くなっていることを発見した。配送委託先に確認したところ、撤去していないことが確認されたことから、同日、交番に盗難として届け出た。2月後は、空き家の容器について、状況を把握し、撤去を進めることとした。
408	2010-879	消費	炭酸ガス 容器の盗 難	2010/9/24	愛知 県	0	0	0	炭酸ガ ス	その他 (盗 難)	その他 (鉄工所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者は、平成22年2月4日社内外注先に業務を請け負わせており、この事業者が炭酸ガス40kg容器1本を自社内、及び請負先の工場で使用していた。その際、容器台帳により容器管理していたが、現物の容器本数と台帳上の容器本数が合わないことを担当者の思い込みにより放置していた。9月22日に警察署から消費者に連絡が入り、9月24日に現場確認したところ、消費者の容器置場から炭酸ガス40kg容器1本が盗難にあったことが発覚した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状状態	事故原因	着火源	事故概要
409	2010-871	消費	LPガス容器の盗難	2010/9/25	宮城県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公民館)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年9月25日、販売店従業員が、近辺を通過中に消費先に設置されていたLPガス20kg容器1本が紛失していることを確認した。同日、盗難届を提出した。
410	2010-880	消費	アセチレン容器、酸素容器の盗難	2010/9/25	滋賀県	0	0	0	アセチレン、酸素	その他(盗難)	その他	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年9月25日午前10時頃、消費先の従業員が工場へ行ったところ、アセチレン7kg容器1本および酸素7kg容器1本がなくなっていることに気づいた。前日の午後1時頃までは、容器があつたことは確認できている。なお、警察に届け出ており、現場検証も終了している。
411	2010-872	消費	LPガス容器の盗難	2010/9/27	岡山県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費先の寮で、LPガス10kg容器2本設置中のうち1本が盗難された。なお、LPガスは炊事用として設置されていた。
412	2010-873	消費	LPガス容器の盗難	2010/9/27	北海道	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(商店)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年9月27日13時頃、屋台の店主からLPガス8kg容器1本が紛失している旨の連絡が、販売店に入った。直ちに、販売店従業員が現場に行つたところ、予備のLPガス8kg容器1本が紛失していることを確認した。周辺を捜索したが、発見できなかったことから、9月30日10時頃、交番に盗難届けを提出した。なお、通常は店舗内の一定の場所にLPガス8kg容器(予備)を置いていたが、9月26日18時30分頃、食材搬入の邪魔になるため、屋外に移動、そのまま放置し忘れ、翌日、容器の紛失に気づいた。
413	2010-881	消費	LPガス容器の盗難	2010/9/27	和歌山県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	LPガス販売業者が、月末のガス検針時、消費先に設置しているLPガス20kg容器2本がなくなっているのに気づき、家主に聞いたが一切さわっていないとのことであつたため、消防署に届け出た。
414	2010-950	消費	酸素容器の紛失	2010/9/28	沖縄県	0	0	0	酸素	その他(紛失)	販売店	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(紛失)	無	クレーン車で、クレーン車のウェイト(おもり)を吊り上げようとしたところ、クレーン操作員の不注意で揺れたウェイトが、落ちてあつた酸素7m3容器に接触し、そのはずみで酸素容器が海中に転落した。すぐに、確認したが、酸素容器を見つけたことは出来なかつた。11月8日に、ダイバーが海中を捜索したが発見出来なかつた。
415	2010-926	消費	LPガス容器の盗難	2010/9/29	宮崎県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	9月29日、消費者が供給設備を確認したところ、設置されていたLPガス8kg容器1本がなくなっていることに気づいた。捜索したが見つからないため販売店に連絡し、盗難と判断された。この容器は9月14日、鳥成幡用の爆音機に使用するため、販売店から貸し出されたものであつた。なお、9月28日には設置されていたことが確認されていた。
416	2010-942	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/2	和歌山県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(病院)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	10月2日午前9時半頃、消費先からガス臭いという電話があり、10時頃に販売店従業員が現場に行き容器を確認したところ、LPガス20kg容器2本のうちが抜き取られたことが分かつた。前日までは匂いもなく、普通に使用していたとのことであり、消費先ではガス臭いについで電話をしたので当日に抜き取られた可能性が高い。また、抜き取りには音とガス臭が伴うので、別の場所で抜き取られた可能性が高い。同日、販売店が警察に連絡した。
417	2010-979	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/2	北海道	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年10月2日9時頃、消費者(LPガス供給先)から、設置しているLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっている旨の連絡が販売店にあつた。直ちに、販売店担当者が現場を確認したところ、LPガス20kg容器1本が高圧ホースの接続部から外され紛失しているのを確認した。平成22年11月2日、交番に盗難届を提出し、平成22年11月4日に、市消防局に事故届を提出した。
418	2010-943	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/3	福井県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公民館)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	販売事業者が、消費先のLPガス20kg容器2本の喪失に気づき、盗難が発覚した。
419	2010-930	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/4	茨城県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年10月4日8時50分頃、検針に向かいかけた担当者が、消費先に設置されていたLPガス20kg容器2本が盗難されていることを発見した。10時5分に、警察署に被害届を提出した。
420	2010-928	消費	酸素容器の盗難	2010/10/5	長崎県	0	0	0	酸素	その他(盗難)	その他(個人)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	消費者がバイクで外出した際、酸素11L容器1本が入つたリュックをバイクの前カゴに入れた状態で、パチンコ屋の駐車場に止めていた。戻つてみたら、リュックがなくなつていた。10月6日に、派出所へ盗難届を提出した。10月12日に交番より、西夜社郡で発見された旨、販売者へ連絡があつた。同日、販売者が盗難容器受取り、目立った損傷等はなかつた。
421	2010-931	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/5	長野県	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	機械	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年10月5日15時頃、ガスの交換に訪れた配達事業者の社員が、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっているのを発見した。販売記録や配送記録等を確認したが、回収した記録が無いため10月6日に盗難と判断し、容器所有者が盗難届の提出を行った。最後に容器が確認されたのは前回の定期検針日の9月8日なので、9月8日～10月5日の間に盗まれたと推定される。
422	2010-944	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/6	大阪府	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(商店)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	LPガス20kg容器1本が、ホース継手から取り外され盗難された。
423	2010-945	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/6	大阪府	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	運送	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	LPガス20kg容器1本が、ホース継手から取り外され盗難された。
424	2010-1009	消費	アセチレン容器、酸素容器の盗難	2010/10/6	静岡県	0	0	0	アセチレン、酸素	その他(盗難)	その他(農業)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	平成22年10月6日、消費先の事業所にガスを供給しているガス事業者が、容器置場に容器が無いことに気づき、事業者と連絡したところアセチレン2kg容器1本と酸素3m3容器1本の盗難に気づいた。
425	2010-904	消費	LPガス容器の盗難	2010/10/7	北海道	0	0	0	液化石油ガス	その他(盗難)	その他(公園)	容器本体	＜消費中＞(停止)	＜その他＞(盗難)	無	10月7日午前11時頃、販売店従業員が消費先である事務所の検針に訪れたところ、自動調整器とLPガス10kg容器2本がなくなっていることを発見した。前月の検針時(9月9日)には、容器を確認しており、盗難と判断し、当日警察署に盗難届を提出した。事務所では、10月4日にガスコンロを使用しようとしたが、使えなかつたこと説明しており、その際はコンロの故障かと思つたが、その時点で既に盗まれていた可能性がある。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状状態	事故原因	着火源	事故概要
426	2010-426 906	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/8	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	10月8日、消費先である住宅へ10月の検針のため訪問したところ、設置であったLPガス20kg容器1本が盗まれていた。9月の検針時は転居予定の連絡もなく、10月の検針時には空き家になっていた(この時まで転居の連絡はスタンダムに入っていないかった。)。住居者の転居先が判り、確認したところ、9月30日までに引越を終了し、その時点でLPガス20kg容器は存在していたと言っており、建物周辺、LPガス20kg容器の取扱所などを確認後、13日に最寄りの駐在所に盗難届を提出した。
427	2010-427 932	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/8	茨城県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年10月8日10時頃、契約者が死亡したため、容器引き上げに出向いた担当者が、調整器、高圧ホース2本、及びLPガス20kg容器2本が無くなることを発見した。調整器まではずさされていたので引き上げ履歴等を確認し、盗難と判明したため、10月12日10時に警察署へ被害届を提出した。
428	2010-428 951	消費	LPガス容 器の紛失	2010/10/12	愛知県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛 失)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (紛失)	無	高圧ガス販売店がLPガス容器の所在確認をしていたところ、平成18年7月7日に建設会社に販売したLPガス10kg容器1本が返却されていないのに気づき、確認したところ不明となっていた。容器の受領者は建設会社の下請けの事業者で、道路の舗装、補修用にトーチバーナーを使用するたため貸出されていたが、現在下請け事業者は倒産しており、連絡が取れない状況となっている。
429	2010-429 905	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/13	福島県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	13日8時頃、販売店従業員が容器交換に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていて、5日に、この集合所近くの工事を行った際は、容器の設置状況に異常はなかった。この集合所はガスの使用頻度が少なく、年1回程度の容器交換をしている消費者であった。(検針は2ヶ月に1回おこなっていた)この消費先では、平成20年8月にも容器盗難が発生しているため、容器を窃盗しやすい状況になっていたと推定される。今後は、設置容器をLPガス30kg容器1本に変更する。また、定期的な設備の管理を行うこととした。
430	2010-430 933	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/10/13	神奈川県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費事業所の従業員が10月13日18時30分頃、車を駐車場に止めその日の仕事を終了して帰宅した。翌朝10月14日7時50分頃仕事に向かうため、従業員が駐車場に行くと、車が盗難されていることを確認した。その後警察に連絡し、車の盗難及び車に積んでいた酸素7m3容器1本、アセチレン7kg容器1本の盗難も伝えた。
431	2010-431 907	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/15	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	10月15日9時頃、販売店従業員が公営住宅7号棟へ訪問した際、7号棟向かい側の公営住宅8号棟の他社の供給設備に、販売したLPガス20kg容器1本が設置されていた。設置されていた容器は、別の公営住宅に設置されていた容器で、平成21年10月13日から空き家状態であった。盗難時期については不明である。事故現場周辺は、公営住宅群で車や人が頻繁に通行するところではないため、不審者等には気づきにくい状況であった。
432	2010-432 918	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/15	広島県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (学校)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	10月15日午後2時頃、販売店従業員がガスメーターの検針に消費先を訪れたところ、前回検針の9月14日には2本あったはずのLPガス20kg容器が2本とも無くなることを確認した。消費先の建物も、現在出張診療所として使用されているが、昨年の2月より使用実績は無く、ガスの使用も無かった。
433	2010-433 908	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/16	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	10月16日11時頃、公営住宅の空き家について、容器の撤去作業を実施していたところ、設置していたLPガス20kg容器1本が無くなることを発見した。取り壊し予定の公営住宅であることから、周辺を捜索したが容器を発見出来なかった。この消費先は、平成21年3月31日から空き家状態であったが、2ヶ月に1度程度は、販売店が容器等の確認を実施していた。この容器の最終確認は、平成22年9月13日に行い、異常ないことを確認していた。なお、盗難容器の残量は18kgであった。事故現場周辺は、公営住宅群で車や人が頻繁に通行するところではなかった。また、事故現場周辺の公営住宅は取り壊す計画のため、ほとんど空き室になっている状態であり、不審者に気づかない状況であった。
434	2010-434 909	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/16	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	10月16日11時頃、以前から予定していた公営住宅の空き家について、容器の撤去作業を実施していたところ、設置していたLPガス20kg容器1本が無くなることを発見した。取り壊し予定の公営住宅であることから、周辺を捜索したが容器を発見出来なかった。この消費先は、平成21年7月21日から空き家状態であったが、2ヶ月に1度程度は、販売店が容器等の確認を実施していた。この容器の最終確認は、平成22年9月13日に行い、異常ないことを確認していた。なお、盗難容器の残量は18kgであった。事故現場周辺は、公営住宅群で車や人が頻繁に通行するところではなかった。また、事故現場周辺の公営住宅は取り壊す計画のため、ほとんど空き室になっている状態であり、不審者に気づかない状況であった。
435	2010-435 934	消費	アセチレン 容器の盗 難	2010/10/16	千葉県	0	0	0	アセチ レン	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	10月15日、建設事業者が、アセチレンガス7kg容器1本を引き取り持ち帰った。その後、他の機材と共に4tユニーク車に搭載し、作業員宿舎の駐車場に15日19時00分から翌朝5時00分まで駐車した。16日5時00分に現場へ向かうため、駐車場に向かったところ容器を搭載した車両ごと盗まれているのに気づき、警察に通報し、盗難届を提出した。
436	2010-436 965	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/16	栃木県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年10月16日、LPガス販売店が検針のため消費先に行ったところ、建物が解体されていた。LPガス50kg容器4本のその他ガス設備も紛失しており、建物の所有者に連絡したところ、所在不明との回答であった。平成22年3月下旬、建物の解体工事が行われたが、建物所有者及び解体業者からの連絡はなく、解体現場にそのまま放置されたと推定される。今後は、LPガスの使用実績のない顧客に対して、実態調査を行う。また、集合住宅の空き部屋についても、半年に一度程度の検針を行うて現況を確認することとした。
437	2010-437 910	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/17	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年10月17日9時頃、消費先からガスが出ないとの連絡があり、販売店従業員が現場を確認したところ、LPガス20kg容器2本が紛失していることを発見した。直ちに同現場から110番通報し、臨場した警察官とともに現場検証を行った後、交番に盗難届を提出した。平成22年10月18日、市消防局に事故届を提出した。今後は、盗難防止策として、容器ボツクスの設置等を検討することとした。
438	2010-438 911	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/18	北海道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年10月18日8時30分頃、消費者が、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が盗難されたことを告知し、警察署に連絡した。同日8時40分頃、販売店に連絡を入れ、販売店の担当者が9時20分頃に現場に到着した。現場確認を行ったところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていた。その後、周辺の確認や隣人への聞き込みを行ったが、容器は発見できなかった。同日16時頃、交番に盗難届を提出した。
439	2010-439 935	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/18	香川県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	食品	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置していた、LPガス8kg容器2本と2mゴムホース付き調整器2個が盗まれた。10月18日、消費先の従業員から連絡を受けた販売店従業員が盗難を確認し、警察へ通報した。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計 傷	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	事故原 因	着火 源	事故概要
440	2010-946	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/19	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	LPガス20kg容器1本が、盗難にあった。
441	2010-913	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/20	福島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	10月20日に販売店従業員が検針に廻ったところ、集会場に設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることに気付いた。同月4日に容器が2本設置されていることを見つけたため、4日以降に盗まれたものと推定される。この集会所はガスの使用頻度が少なく、年1回程度の容器交換をしている消費者であった。(検針は毎月おこなっている)町道沿いではあるが民家との距離があるため、容器を窃盗し易い状況になっていた。今後は、容器用のボックスを設置することとした。
442	2010-914	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/20	三重 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (印刷)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	客先で20kg容器2本の供給設備を使用していたところ、10月20日16時45分頃、消費先より販売店に通報があり、販売店従業員が現場を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち2本が盗難されたとした。
443	2010-936	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/20	香川 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置していた、LPガス50kg容器1本が盗まれていた。10月20日、販売店から警察へ通報した。
444	2010-937	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/24	長野 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (農業)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年10月24日6時頃、畑の所有者が、鳥追いの爆音機用で畑に設置されているはずのLPガス8kg容器1本が無くなっていることを発見し、販売業者に連絡した。前日の23日には、所有者が容器の存在を確認していた。販売事業者は、県地方事務所へ連絡を行った。なお、警察署へ所有者より盗難届を提出した。
445	2010-915	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/25	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	9月24日の検針時には異常なかったが、10月25日の検針時に、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち2本とも盗難されていることが発覚した。
446	2010-938	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/25	栃木 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	販売事業所は消費者と契約していたが、ガス料金を滞納していたため7月7日に閉止した。10月13日、販売事業所の従業員がLPガス20kg容器2本を確認しているが、10月25日には既に無くなっていた。
447	2010-980	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/25	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス20kg容器1本が盗難にあった。
448	2010-939	消費	混合ガス 容器の盗 難、酸素 ガス容器 の盗難	2010/10/26	神奈 川県	0	0	0	酸素、 アルゴ ン、二 酸化炭 素	その他 (盗 難)	運送 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年10月25日、容器を横浜市鶴見区所在の事業所で車(2tトラック)に積み込み、内2本を配送し、残りは翌日に配送するため午後5時00分ごろ自宅近郊の海老名市の駐車場に停めていた。翌26日午前4時に車ごと7m ³ 容器4本(混合ガスA・80%・CO2 20%・2本、混合ガスA・80%・CO2 20%・1本、残ガス容器、及び酸素ガス1本、残ガス容器)が盗難されたことに気が付き、26日4時30分に警察署に通報した。なお、車に鍵は付けていなかった。
449	2010-940	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/26	長野 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年10月26日11時頃、販売事業者の職員が消費先へ点検に行ったところ、設置されているはずのLPガス50kg容器2本が無くなっていることを発見した。消費先はパチンコ店であったが、既に営業を停止し長期間無人となっており、いつ頃盗難にあったかは不明である。平成19年11月8日の時点で、販売事業者の職員がLPガス50kg容器2本の存在を確認している。販売事業者の職員の話では、消費先は平成19年10月に破産後、管財人から現場の保全指示があり、容器の撤去ができなかったとのこと、販売事業者は、警察署への届出及び県地方事務所へ連絡を行った。
450	2010-929	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/27	大分 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス10kg容器1本が盗難された。
451	2010-948	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/27	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	LPガス20kg容器が、ホース継手から取り外され盗難されていた。
452	2010-916	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/28	秋田 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	廃品回収	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	10月28日7時30分頃、リサイクル施設の社員が出動した際、湯沸器が点火しなかった。供給設備を確認したところ、LPガス20kg容器2本のうち2本とも無くなっていることに気付いた。販売店へ連絡し、警察が立ち会ひのもと、現場検証を行った。推定残量はそれぞれ、20kgと18kgであった。再発防止対策として、容器チェーンの両端の金具を壁に固定し、チェーンをブロークターの内部に通し、南京錠を取り付けた。
453	2010-917	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/28	秋田 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	漁業	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	10月27日17時00分に、消費先の従業員が容器を確認して帰宅したが、10月28日10時00分にLPガス20kg容器1本が無くなっていることに気付いた。28日に従業員が警察署に連絡し、販売店にも連絡した。なお、推定残ガス量は4kgであった。
454	2010-1010	消費	LPガス容 器の盗難	2010/10/29	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	10月29日11時頃、ガス配送時に、消費先に設置していたLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることがわかった。まず、消費者に連絡したところなかなか連絡がとれずにおり、11月14日に消費者に確認がとれ、盗難であることが判明した。11月14日、警察署に盗難届を提出した。
455	2010-953	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/1	熊本 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月1日午後3時頃、消費先職員より、LPガス20kg容器が無くなっているとの連絡が販売店にあった。その後、販売店職員が現場に向かい確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本が無くなっていることを確認した。なお、調整器の盗難及びホースの切断、ガス漏れの被害は無かった。消費先職員の話では、この事務所にはほぼ毎日職員が勤務しており、前日(10月31日)もタフマでガス器具を使用したとのことである。盗難については10月31日の夜間、若しくは11月1日の早朝であると推定される。なお、警察への被害届については、翌日(11月2日)に提出した。
456	2010-966	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/1	神奈 川県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス20kg容器1本が、自動切り替え式調整器のネジ接続部から高圧ホースごと外され持ち去られた。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状態	事故原因	着火源	事故概要
457	2010-954	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/2	佐賀県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（消防署）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月2日、消防団からLPガス10kg容器1本が無いとの連絡が販売店にあったため、担当者が消防団に向いたところ、LPガス10kg容器1本が無いことを確認した。同日中、警察署へ盗難届を提出した。ちなみに、前回の使用日は、平成22年10月13日であった。
458	2010-960	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/2	福島県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（農業）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月2日の検針時に容器を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本の内の1本が空容器であったため顧客管理台帳を確認した結果、記号が違っており、満タンのLPガス20kg容器1本が空容器に置き換えられたことが判明し、県及び警察署に通報した。この施設では、今年の8月にもガス容器の盗難が発生していたため、チェーン施設による防犯対策を講じていたが、錠を壊された盗難であった。また、今回置き換えられた空容器は、平成22年8月3日（盗難判明日）に同所で盗難にあった容器であったことから、同一人物による行為であることが推定される。盗難発生場所は、周辺に住宅がない施設であり、夜間に管理者は常駐していなかった。また季節的に使用する施設であるため、2～8月は日中も管理者等が不在であることが多く、人の目が届きにくい状況となっていた。今後は、防犯ライトの設置、容器を50kgに変更することなど対策を検討することとした。
459	2010-967	消費	酸素容器的紛失	2010/11/2	東京都	0	0	0	酸素	その他（紛失）	その他（個人）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（紛失）	無	11月1日、病院から入院中の患者が、10月28日に死亡したと連絡があった。翌日に、患者の自宅で貸与していた医療用機器を回収した際、酸素220L容器1本がなくなっていた。直ちに、警察署へ被害届を提出した。
460	2010-968	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/2	神奈川県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	機械	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月2日14時15分ごろ、湯沸し器を使おうとしたが点火しないので調べたところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなっていることを発見した。自動切り替え式調整器の出口側の弁が閉止された状態で、使用側の容器が盗難されていた。直ちに、警察署に盗難届を提出した。なお、盗難された容器の事業所への配送年月日は、平成21年4月15日であった。
461	2010-961	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/4	宮城県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（公民館）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月4日（木）16時ごろ、消費先より、設置されていたLPガス10kg容器1本が無くなっているとの販売店に連絡があった。直ちに、販売店従業員が現場に向かい紛失事実を確認し、翌日警察署に被害届を提出した。原因は、容器管理の不備と推定される。
462	2010-969	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/4	栃木県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（個人）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年10月11日、LPガス販売店が消費先である別荘へ、月に一度の検針を実施したが異常はなかった。平成22年11月4日、定期保安検査を実施しようとしたところ、この別荘に取り付けたLPガス20kg容器1本がなかった。また、平成22年11月4日に、他の消費設備で不審容器（販売店等のペイメント）が検針されたことと匿名の情報が有り、平成22年11月5日に現地で容器番号等を確認したところ、別荘で盗難された容器であることが判明した。警察署に連絡し、被害届を提出した。
463	2010-982	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/4	北海道	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（個人）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月4日、共同住宅に配送委託業者が容器交換のため訪れたところ、LPガス20kg容器10本中1本が高圧ホースが外されなくなっていることを発見した。同日、交換に届いた。
464	2010-955	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/5	佐賀県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（農業）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月5日、消費先へ、配達業務委託先の従業員が容器配送に向いたところ、LPガス50kg容器2本のうち1本が無いことを確認した。販売店社員が、10月7日に検針を行った際は、この容器の設置を確認していることから、その後11月5日までの間に盗難にあったものと推定される。本来ならば、この盗難が発覚した11月5日中に盗難届を出すべきであったが、事務連絡のミスにより、12月2日、警察署へ盗難届を提出した。ちなみに、コンピュータ端末で容器設置状況を確認したところ、盗難にあった容器の内容量は、配送伝票及び検針伝票からみて満タンであった。
465	2010-983	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/7	北海道	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（個人）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月7日15時00分頃、消費者から事業所にガスが使用できなく、LPガス容器も無いとの連絡があった。同日15時05分、事業所が警察に通報、同時に消費者宅に出勤し、LPガス20kg容器2本の盗難を確認し、交換へ盗難届を提出した。15時40分に、警察とともに現場検証を行った。
466	2010-990	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/7	岡山県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（公民館）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月7日の夜、公民館で集まりがあった際、1ヶ月以上前からLPガス8kg容器1本が無くなっているという話が出たため確認すると、ホースを切断されてLPガス8kg容器1本が無くなっており、盗難に遭ったことが判明した。その時までは容器が無いことには気付いていたが、ガスが空になって一時的に取り外されているのではないかと思っていたとのこと。盗難された日について特定はできないが、7月4日に使用した際には、ガスコンロを使用しているため、7月4日～10月初旬の時期に盗難されたものと推定される。
467	2010-970	消費	アセチレン容器、酸素容器的盗難	2010/11/8	東京都	0	0	0	アセチレン、酸素	その他（盗難）	鉄工所	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	平成22年11月8日8時30分頃、従業員が鉄工所内に置いてあったアセチレン7kg容器2本のうち1本と、酸素7m3容器3本のうち1本、及び溶断設備一式がなくなっていることに気付いた。
468	2010-991	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/8	岐阜県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	建設	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	11月8日に、LPガス消費者から販売店へガス切れの連絡があり、交換のため現地に行ったところ、LPガス20kg容器2本の内1本がなくなっていることを発見した。
469	2010-956	消費	アセチレン容器、酸素容器的盗難	2010/11/9	福岡県	0	0	0	アセチレン、酸素	その他（盗難）	鉄工所	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	11月9日8時00分頃、ガス消費先の従業員が出勤したところ、容器置場に置いていた容器10本中、アセチレンガス7kg容器1本と酸素ガス7m3容器1本の紛失に気付いた。その後、ガス販売業者と警察署に連絡を行った。
470	2010-992	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/9	三重県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（個人）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	消費先では、LPガス20kg容器2本の供給設備を使用しており、当日、販売店従業員が点検のため訪問したところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が盗難されており、直ちに警察署へ通報し、現場検証を実施した。
471	2010-993	消費	LPガス容器の盗難	2010/11/9	三重県	0	0	0	液化石油ガス	その他（盗難）	その他（個人）	容器本体	＜消費中＞（停止）	＜その他＞（盗難）	無	消費先では、LPガス20kg容器2本の供給設備を使用しており、平成22年11月9日、販売店従業員が点検のため訪問したところ、LPガス20kg容器2本のうち1本が盗難されており、直ちに警察署へ通報し、現場検証を実施した。

番号	code	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取状態	事故原因	着火源	事故概要
472	2010-994	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/9	鳥取 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年10月30日のメーター検針時において、容器があることを検針員が確認していた。同年11月9日15時頃、冬場のチェックのため訪問した際に、LPガス20kg容器1本が無くなっていった。同日、警察に盗難届けを提出した。
473	2010-957	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/10	大分 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (学校)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	11月10日午後3時過ぎ、小学校より、コンロの火の点がかないと販売店に電話があった。担当者が、現場に向き確認したところ、鉄格子で囲い南京錠で施錠していたガス置き場施設の南京錠が壊され、LPガス10kg容器2本のうち1本が無くなっていた。同日、駐在所に盗難届を提出した。
474	2010-962	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/10	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月10日9時00分頃、販売店の従業員が消費先にて定期検針に訪れた際、予備側に取り付けていたLPガス20kg容器1本がなくなっていることを確認した。周辺を探索したが見つからず盗難と判断し、会社へ報告及び消費先に状況の説明、並びに今後の対策について話しをした。平成22年10月8日の定期検針時には異常は見られなかった。盗難にあった容器は、平成22年3月10日に設置していた。今後は、転倒防止チェーンに鍵を取り付け、専用収納庫を設け施錠することを検討する。
475	2010-984	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/10	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月10日、検針時に家屋が解体され、LPガス20kg容器2本等が喪失しているのを検診担当者が発見した。翌11日及び12日、現場付近を探したが容器の発見はできず、解体業者にて容器の存在について確認を行ったが不明なため、11月24日に警察署に被害届を提出した。発生日時は、平成22年5月7日(臨検)に容器を確認していることから、家屋解体(平成22年8月下旬)に至るまでの間に盗難に遭ったか、家屋解体時に喪失したものと考えられる。
476	2010-995	消費	酸素容器 の盗難	2010/11/10	岡山 県	0	0	0	酸素	その他 (盗 難)	その他 (プラスチック加工)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	容器の所有者が、平成22年1月5日に消費先に納入した酸素7m3容器1本が長期停滞していたため、代表者へ確認をしたところ、見当たらず不明となり、警察と消防へ届け出た。
477	2010-985	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/12	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月12日14時頃、消費先である住宅に、ガスメーター検針のため担当者を訪れたところ、LPガス20kg容器2本中1本が高圧ホースの接続部から外され、なくなっていることを発見した。同日、交番に盗難届けを提出した。
478	2010-971	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/13	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月13日14時頃、解体業者より建物を取り壊すために、容器を引上げて欲しいとの連絡が販売店にあった。同日16時頃30分頃、販売店従業員が現場を確認したところ、LPガス30kg容器2本のうち1本が無くなっていったため、警察署に被害届を提出した。平成22年11月9日の検針時には、容器は2本設置されていた。
479	2010-972	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/14	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月14日9時30分頃、公民館利用者が設置されていたLPガス20kg容器がないことに気付いた。販売店従業員が現場を訪問すると、LPガス20kg容器2本が無くなっていった。11月15日11時20分、派出所に被害届を提出した。
480	2010-963	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/15	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月15日11時00分頃、配達事業者より販売店に、LPガス20kg容器1本がなくなっている連絡があったことにより、盗難が判明した。容器設置先は、平成20年7月28日より空家となった。配達事業者が、容器盗難現場前の消費先宅に前回検針及び配送を行った際は、盗難現場には容器が2本設置されていたとのことであった。実際に盗難にあったと思われる期間は、平成22年10月中旬頃から平成22年11月15日11時00分頃までの間と考えられる。
481	2010-973	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/16	東京 都	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (学校)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月16日、幼稚園から、LPガスの容器がなくなると販売店に連絡があったため、現場に急行したところ、LPガス20kg容器2本がなくなっていた。盗難が考えられるので、警察に通報した。10月25日検針時には異常がなかったため、その日以降に盗難にあったと考えられる。
482	2010-974	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/16	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (学校)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月16日、検針時に設置されていたLPガス10kg容器1本が盗難にあったことに気づき、同日警察に被害届を提出し、現場検証を行った。
483	2010-975	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/18	群馬 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月18日、販売店から委託を受けた事業者の職員が、消費先に定期点検に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器1本がなくなっていることに気がついた。なお、消費先はほとんどLPガスを使用していないため、コンロに火がつかない等の連絡は販売店には無かった。また、メーターの検針で11月10日に訪問した時には、容器は存在していた。以上のことから、11月10日から18日の間に盗まれたものと推定される。
484	2010-976	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/18	神奈 川県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (金社事務所)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	11月18日14時00分頃、蔵沢市内の事業者から敷地内に、販売店のLPガス20kg容器1本が放置されているとの通報があり、販売店従業員が販売店のLPガス容器であることを確認し回収した。調査したところ、販売店の小田原充てん所から消費先に配送された容器であることが判明した。同充てん所従業員が、この配送先を調査したところ、LPガス20kg容器2本立てのうちの1本がなくなっていた。
485	2010-986	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/18	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	11月18日9時頃、消費先の事務所において、ガスコンロに火を付けようとしたが、着火しなかったため、屋外に設置しているLPガス容器を確認したところ、LPガス20kg容器2本がなくなっていた。その後、販売事業者に報告し、販売事業者の地区担当者が現地を確認した際、LPガス20kg容器2本が高圧ホース接続部から外され持ち去られていた。周辺の捜索及び近隣への聞き込み、配達事業者へ確認したが容器の発見には至らなかった。消費先の直近の容器交換は、9月14日に容器1本を交換し確認を行っていた。容器の残量はそれぞれ、満タンと半分程度だった。11月17日18時頃閉店したことから、事故発生時間は、11月17日18時頃から11月18日9時までの間と推定される。容器設置場所は、道路に面し確認できる位置に設置しているが、周辺に街灯はなく夜間は薄暗い状況であった。事故現場周辺は、日中でも人通り及び交通量は少なく、夜間になるとほとんど交通量はないため、不審者に気づきにくい状況であった。
486	2010-977	消費	LPガス容 器の紛失	2010/11/19	神奈 川県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (紛失)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (紛失)	無	11月19日、容器の配達事業者から、空き店舗に設置されていたLPガス20kg容器2本が紛失していた。直ちに、警察に遺失物届を提出した。11月22日に、販売店従業員が、現場を確認したところLPガス20kg容器2本が紛失していた。直ちに、警察に遺失物届を提出した。
487	2010-989	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/19	長野 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年11月19日、配達事業者職員が、消費者宅(平成21年8月より閉止しており、容器が放置されていた。)の近所に容器交換に行った際、消費者宅に設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることに気づき、販売店へ報告した。11月19日16時に、警察署へ盗難届を提出した。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計 傷	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 態	事故原 因	着火 源	事故概要
488	2010-488 987	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/20	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置していた、LPガス20kg容器2本が盗難にあった。
489	2010-489 988	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/20	大阪 府	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	機械	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	LPガス20kg容器が、ホースの継手から取り外されていた。
490	2010-490 996	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/23	石川 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年11月23日9時38分に、消費者から、販売事業者にLPガス20kg容器が無い旨の電話連絡があった。10時頃、販売事業者が現地を確認したところ、LPガス20kg容器2本、調整器、及びメーターからの配管が盗難されていた。販売事業者は、11時頃、警察署に盗難された旨の通報を行った。同日、警察は、現地調査を行った。24日に販売事業者は、県に盗難があった旨の電話報告を行った。今後は、LPガス容器を20kgから50kgに変更し、転倒防止チェーンに鍵を付けることとした。
491	2010-491 998	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/25	福岡 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	他の販売店からの依頼により、入居者の決まっていない住宅へ設置していた、LPガス20kg容器2本が盗難された。当初、販売店は、入居者の有無を把握していなかった。
492	2010-492 964	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/25	山形 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先の利用者から、販売事業者にLPガス20kg容器2本がなくなっている旨の連絡があった。販売事業者での内部調査及び配達事業者への確認の結果、盗難に遭ったものと判断し、警察署に届け出た。センターの前回利用日が11月6日のため、この間に盗難に遭ったものと推定される。
493	2010-493 959	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/11/26	佐賀 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年11月26日午後、消費先の現場担当者から、現場にある容器の本数(4本)が納入された本数(7本)より少ないことになり、販売店へ連絡した。現場は、ダム建設工事の現場であり、消費現場が広範囲であること、協力業者が持っている可能性も考えられたため、11月29日に改めて現場周辺の捜索、及び協力業者への容器番号照会を行ったが、酸素ガス7kg容器2本及びアセチレンガス7.2kg容器1本が確認できなかった。現場担当者によると、7月中旬の大雨時に、容器を消費現場から退避(恐らく建設中の橋の上)にさせたが、その後使用していなかった。
494	2010-494 978	消費	LPガス容 器の盗難	2010/11/30	茨城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (農業)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年11月23日、配達担当者が消費先を訪問した際、設置されていたLPガス50kg容器1本がなくなっていたため、営業担当に連絡したところ、盗難にあったことが判明した。同日警察に被害届を提出し、現場検証を行った。
495	2010-495 1011	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/1	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月1日9時頃、配送員が配送中に近所の人より、容器の本数が少ないのではないかと言われ、10時頃担当者、が消費先の現場を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が高圧ホースから外されていた。なお、ガスの漏れはなかった。同日、11時頃警察署に被害届を提出した。消費者は入院中のため閉栓中であり、この容器は2008年11月20日に交換、最終の検針(容器交換時等供給設備点検を兼ねる)は、2010年11月22日に行われ、この時容器は2本とも設置されていた。
496	2010-496 1012	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/2	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	運送	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	販売店からブタンガス容器等の配送を委託している事業者のユニット付トラックが、ブタンガス500kg容器3本とブタンガス450kg容器2本を積載したまま、車庫に駐車していた。翌朝6時頃、駐車場にトラックを取り付けたところ、門のチェーンが壊され、トラックの鍵はかかっても開かず、トラックごと何者かに盗まれた。すぐに警察署に盗難届を提出した。その後、当日の13時過ぎに、春日井市内のコンビニからトラックが長時間駐車場にあるとの連絡があり、現場へ急行し確認後、警察署へ連絡し、警察の現場検証終了後、盗難されたトラックとガス容器が無事に戻ってきた。
497	2010-497 1013	消費	アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/12/3	栃木 県	0	0	0	アセチ レン、 酸素	その他 (盗 難)	鉄工所	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先の工場敷地内で、車両に酸素0.047m3容器1本とアセチレン0.041m3容器1本とその他工具備品を積載していたが、平成22年12月3日に確認したところ、車輛ごと盗難されていた。なお、車輛には施設していた。
498	2010-498 1014	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/3	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	自動車	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月3日午前11時頃、販売店従業員が、保安点検のため消費先の自動車整備工場を訪問した際、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無いことを確認した。地区担当者へ連絡、消費者へ事情を聞き、午前11時10分頃、警察署へ連絡した。午前11時30分頃、警察による、現場検証及び事情聴取を行い、警察へ被害届を提出した。午後1時頃、消防署へ連絡し、その後、市消防局が連絡をうけた。なお、前回保安点検時の同年11月8日には、容器は確認していた。
499	2010-499 1015	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/3	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (飲食店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス20kg容器1本が盗難された。
500	2010-500 1016	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/3	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	12月3日8時半に、消費者より販売店にコンロの火がつかないとの連絡があり、メーター遮断だと思い復帰方法を伝えた。その後、再度連絡があったため現場に行ったところ、LPガス10kg容器2本で供給しているところがガスが充てんされている予備側の1本がなくなっており、残っていた1本もガスがなくなっていた。そのため、圧力低下でメーター遮断していた。
501	2010-501 1017	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/3	愛知 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年3月18日、LPガス5kg容器1本を公民館に質量販売し設置した。12月3日、公民館長が見回りをしていたところ、設置されていたLPガス5kg容器1本、調整器、低圧ホースが紛失していることを発見した。
502	2010-502 997	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/4	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月4日14時頃、配達業務委託事業者の社員が、供給先である共同住宅に容器交換のため訪問したところ、供給設備に設置されていたLPガス20kg容器1本が、不足しているを発見した。配達員より連絡を受けた販売店従業員が、現場に臨場して確認したところ、設置していたLPガス20kg容器8本のうち1本が、高圧ガスホースから取り外され紛失しているのを確認した。前回の容器交換が同年11月2日であることから、11月8日から12月4日までの間に紛失したものと推定された。同日15時40分頃、文番にその旨を連絡し、警察署員とともに現場検証を行った後、盗難届を提出した。平成22年12月7日、市消防局に事故届を提出した。

番 号	code	事故 区分	事故名称	年月日	県名	死者	軽 傷	計 傷	物質名	現象	業種	設備 区分	取 扱 状 態	事故原因	着火 源	事故概要
503	2010-1018	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/4	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置していた、LPガス10kg容器1本が盗難されていた。
504	2010-1000	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/5	宮城 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公園)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先においてLPガス10kg容器1本とLPガス5kg容器1本、3巻特殊コンロが盗難にあったもの。12月5日午前中、地区イベントにLPガス10kg容器1本、LPガス5kg容器1本に3巻特殊コンロを付けて貸出した。同日15時頃、容器回収に行った際、容器等がないことを確認したが、消費者が片付けて保管したものと思い、その場での確認はしなかった。翌日、消費者に確認したところ前日使用した場所において来たと言われ、イベント関係者にも確認したが所在が分からないとのこと、盗難のあった事実を認知した。消費者へ、容器等の回収方法を確認しなかったのが原因と推定される。
505	2010-1019	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/5	岡山 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者宅に設置されていた、LPガス10kg容器2本のうち1本が盗難された。今後は、容器チェーンを二重巻きにして南京錠を取り付けることとした。
506	2010-1020	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/5	長野 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月5日午前9時頃、事務所の掃除後に、LPガス20kg容器2本が無いことに気付いた。12月6日午前10時半頃、販売店に連絡し、配送状況等の確認を行ったところ、容器の盗難と判明した。12月2日の検針後から5日の間に盗難されたと推定される。12月7日午前中に販売店から交番に、盗難届を提出した。
507	2010-1021	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/5	兵庫 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (商店)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費先に設置されていた、LPガス20kg容器2本が盗難された。
508	2010-998	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/6	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	12月6日9時00分頃、消費先の事務所内で、ガスコンロを使用したところ着火しないため、販売店に連絡した。販売店従業員が現地を確認したところ、設置されているのはすのLPガス20kg容器1本、及び調整器が外され持ち去られていた。この容器は、平成22年7月10日に設置し、直近の検針は11月16日に実施し容器等を確認していた。消費先の事務所で最後にガス使用したのは、12月4日17時00分前であることから、12月4日17時00分頃から12月6日9時00分までの間に盗難に遭ったと推定される。なお、盗難容器内の残量は、11kg程度であった。今後は、容器設置場所に容器倉庫を設置することとした。
509	2010-999	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/6	北海 道	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月6日15時頃、配達業務委託業者の社員が、供給先である事務所に容器交換のため訪問したところ、供給設備の設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなくなっていることを発見した。この連絡を受けた販売店従業員が、現場に臨場して確認したところ、LPガス20kg容器1本が高圧ガスホースから取り外れ紛失していることを確認した。さらに周辺を調査するも発見に至らなかった。12月6、7日は、消費者が不在だったため、12月8日に改めて現場を訪問し消費者とともに調査したが、発見できなかったことから、同日、交番へ盗難届を提出した。なお、同年11月17日に当社の検針員がメーター検針のため訪問した際は、異常がないのを確認していることから、11月17日から12月6日15時頃までの間に盗難されたものと推定される。平成22年12月13日、市消防局に事故届を提出した。
510	2010-1022	消費	酸素容器 の盗難	2010/12/6	岐阜 県	0	0	0	酸素	その他 (盗 難)	建設	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月4日17時00分頃、消費者が現場作業を終了し、酸素ガス7m3容器1本とアセチレンガス容器1本を支柱に固定し、現場に残して撤収した。12月6日に消費者が現場に到着したところ、酸素ガス7m3容器のみがなくなっていた。
511	2010-1023	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/6	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月6日11時30分頃、販売店従業員が消費先へ検針に訪れたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無くなくなっていたため、配達委託先に連絡した。直ちに、配達委託先の従業員が付近を捜索したところ容器を発見できず、LPガス20kg容器2本のうち1本が無くなくなっていたため、警察に通報し、交番へ立会いのもと被害届を提出した。平成22年11月8日の検針時には、容器は2本設置されていたことを確認していた。
512	2010-1001	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/7	熊本 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月7日午後2時頃、ガス販売店社員がメーター交換のため消費先を訪れたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本が無くなくなっており、替わりに他社のLPガス容器2本が設置されていることを発見した。この消費先は、普段は無人の個人住宅であり、販売店社員が11月に検針を行った際には容器を確認しており、盗難にあった時期は特定できていない。なお、調整器の盗難及びホースの切断、ガス漏れ等の被害は無い。同日、警察へ被害届を提出した。
513	2010-1002	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/8	鹿児島 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月8日16時30分、配送中の職員が、個人宅に設置されていたLPガス20kg容器1本が無くなくなっていることに気が付いた。付近の捜索を行ったが、容器は発見されなかった。12月14日、最寄りの警察へ被害届を提出し、当日午後に現場検証が実施された。
514	2010-1024	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/8	山梨 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月8日7時00分頃、ガスが着火しないため前日の使用時には問題には問題にはなかった、消費者が供給設備を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器が2本ともなくなっていることが判明した。その後、状況から考えて、盗難にあったと判断して、容器所有者及び販売事業者者立ち会いのもと、現場確認を行い、管轄する警察署へ盗難届を同日提出した。
515	2010-1025	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/10	千葉 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月10日10時頃、LPガス販売事業者の検針員が、消費先である集会所で、高圧ガスホースが切断され、LPガス20kg容器1本がなくなっていることに気づいた。LPガス販売事業者から容器の所有者である警察署へ盗難届を提出した。同日、警察署に被害届を提出した。
516	2010-1003	消費	LPガス容 器の盗難	2010/12/11	大分 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	平成22年12月11日午前9時頃、公民館の使用人から販売店の担当者に、ガスがつかないことと連絡が入った。担当者が行ったみると、設置されていたLPガス10kg容器1本がなくなっていた。同日、警察署に被害届を提出した。
517	2010-1026	消費	LPガスの 盗難	2010/12/15	長野 県	0	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その 他> (盗難)	無	消費者が24日に無断使用を確認したため、再度遮断した。しかし、同日27日に再度無断使用を確認したため、ガスメーターを撤去した。12月15日に販売店の配送員がこの消費先を確認したところ、消費者は自動切換調整器をメーター出口に接続し、無断使用していたことが判明した。同日、販売店は警察に盗難届を提出した。

番 号	事 故 区 分	事故名称	年月日	県名	死者 名	重 傷	計 傷	物質名	現象	業種	設備 区分	取扱状 態	事故原因	着火 源	事故概要
518	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/16	埼玉 県	埼玉 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月16日午前10時30分頃、LPガス20kg容器がないとの連絡が消費者から販売店に入った。高圧ホースが切断されているようであり、販売店従業員が現場へ直行した。同日午前11時頃、到着した従業員が、高圧ホース使用していたLPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっていることを確認した。なお、調整器、配管等は残されていた。同年12月14日、検針員が同工場のメーター確認をした際には、異常なかった。工場においては以前よりガスが使用されておらず、このLPガス20kg容器2本の中身は、満タンであった。被害については、交番に届出を行った。
519	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/17	佐賀 県	佐賀 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事 務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月17日12時30分頃、消費先に配送業務委託先の社員が容器配送に向いたところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が無いことを確認した。消費先の担当者に聞いたところ、12月4日まではガスを使用していたところから、その後17日までの間に盗難にあったものと推定される。17日、警察署へ盗難届を提出した。なお、コンビューター端末で容器設置状況を確認したところ、盗難にあった容器の容量は配送伝票、及び検針伝票からみて満タンであった。
520	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/18	鳥取 県	鳥取 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月18日午後3時頃、消費者から、LPガス20kg容器2本のうち1本がなくなっているとの連絡を受け、現地で販売店従業員が確認した。同日、警察に盗難届を提出した。
521	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/17	神奈 川県	神奈 川県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (建材)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月17日15時頃、仕事を終了し資材センターに、LPガス10kg容器1本を置き帰宅した。翌18日9時に出社したところ、LPガス10kg容器1本がなくなっていることに気づき、同日、警察署に通報した。
522	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/20	熊本 県	熊本 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月20日午前8時30分頃、公民館を利用して住民より「ガスが点かない」との連絡が販売店へあり、従業員が確認に行ったところ、設置していたLPガス20kg容器2本と連結用高圧ホースが無くなっており、替わりに他社のLPガス20kg容器1本が設置されていることを発見した。この公民館は書段は無人で、12月7日に販売店担当者が検針を行った際には容器はあったとされており、検針日以降に盗難にあったと推定される。なお、警察への被害届については、12月21日に提出した。
523	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/20	宮城 県	宮城 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (金属加工)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月20日10時ごろ、販売店従業員が、消費先へLPガスのメーター検針に行ったところ、設置されていたLPガス20kg容器2本のうち1本が盗難にあったことが確認された。翌日、警察署に被害届を提出した。
524	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/20	島根 県	島根 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (公民館)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	12月21日午前9時10分、配送委託先の配達員が近くを通りかかった際、集会所の体積販売のLPガス10kg容器(予備倒れ)が1本紛失しているのを目撃したため、販売店職員に連絡をとった。職員が現場に到着するとLPガス10kg容器(予備倒れ)が確かに無くなっており、容器の盗難にあったと考えられたため、警察署へ連絡して現場検証を実施した。検証内容、検針員が12月2日の14時30分から15時00分頃の検針時には容器の存在を確認しているため、これ以降から本日まで盗難にあったと考えられる。ただし、近所の人が12月11日に当集会所を利用したときには異常が無かった。高圧ホースをはずし、容器チェーンをはずして盗難したと推定される。今後は、盗難防止チェーンで容器と配管をつないで施錠することとした。
525	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/21	千葉 県	千葉 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月21日、農協職員が、ガスが点火しないことを不審に思い容器置場に向いたところ、LPガス20kg容器の盗難の事実に関与する警察署に通報した。前日の午後6時10分頃に職員が帰宅する時点では、異常がないことを確認していることから、その後盗難されたものと考えられる。今回の盗難については、高圧ホース2本を鋭利な刃物等で切られ、そのうち残ガスの多い容器が持ち出された。
526	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/22	熊本 県	熊本 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月22日夕方、配送委託先の配達担当者が、消費先の付近を走行していた際に、設置していたLPガス20kg容器1本とLPガス50kg容器1本に異常を感じたため確認したところ、LPガス20kg容器1本が無くなっていることを発見した。住人に話を聞いたところ、無くなっていたことには気付かなかったとのことであった。盗難された容器については11月末に設置され、12月10日に検針を行っているが、検針時に容器があったか分からないとのことであり、盗難にあった時期には特定できていない。なお、調整器の盗難、ホースの切断、及びガス漏れの被害はなかった。また、12月24日に警察へ被害届を提出した。
527	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/22	千葉 県	千葉 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (空家)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月22日、賃貸住宅の大家が空家(戸建5戸の内、3戸分のLPガス50kg容器6本(2本×3戸)がない)に急に気づき、派出所へ届け出た。11月10日には異常がなかったもので、その後盗難されたものと考えられる。今回の盗難については、高圧ホースは全て金具で外され、ホースの切断はなかった。
528	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/24	福岡 県	福岡 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (会社事務所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月24日午前10時頃、販売店社員が消費先事務所へ検針に立ち寄ったところ、設置されていたLPガス20kg容器1本が無いことを確認した。平成22年11月24日の検針時には、容器の存在を確認しており、その間に盗難にあったものと推定される。
529	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/24	高知 県	高知 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (役所)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	平成22年12月24日午前11時20分頃、配送員が容器交換へ行ったところ、LPガス10kg容器2本のうち1本が空の容器(昨年の平成21年12月13日に盗難にあった容器)と交換されていた。
530	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/25	長野 県	長野 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	12月25日午前11時半頃に、消費者はLPガス20kg容器2本が無くなっていることに気づき、同日午後5時頃に販売店へ連絡した消費者によれば、12月中旬には容器は存在していたとのこと。販売店は社内の記録等により確認したところ、撤去等の記録は無く、盗難に遭ったと判断した。26日午後2時頃に販売店従業員が現場を確認し、27日午前中に警察へ盗難届を提出した。地方事務所には、25日午後7時頃に連絡した。
531	消費 器の盗難	LPガス容 器の盗難	2010/12/26	茨城 県	茨城 県	0	0	液化石 油ガス	その他 (盗 難)	その他 (個人)	容器 本体	<消費 中> (停止)	<その他> (盗難)	無	12月26日、消費先を容器交換及びメーター確認のため配達員が訪問した際に、平成22年5月25日に配送し設置してあったLPガス50kg容器2本のうち1本が他社容器に入れ替わっているのを発見した。販売店は、入れ替えられた容器の販売店に自社容器の所在確認を依頼した。調査の結果、入れ替わっていた容器は盗難されたものであることが判明し、販売店の容器は所在不明であったため、盗難されたと判断した。

番号	事故区分	事故名称	年月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	現象	業種	設備区分	取扱状態	事故原因	着火源	事故概要
532	2010-1039	消費 LPガス容 器の盗難	2010/12/27	埼玉県	0	0	0	0	液化石油ガス	その他 (盗難)	その他 (公民館)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	平成22年12月27日14時頃、消費先である集会所の利用者から販売業者へ、LPガス容器がないとの連絡が入った。販売業者が現場を確認したところ、設置されていたLPガス20kg容器2本がなくなっていた。同年12月18日20時頃、集会所が利用された際には、異状なかった。警察署に被害届けを提出した。
533	2010-1033	消費 アセチレン 容器、酸 素容器の 盗難	2010/12/28	大阪府	0	0	0	0	アセチレン、酸素	その他 (盗難)	機械	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	消費先で使用していた、アセチレンガス0.042m3容器1本と酸素ガス0.047m3容器1本が盗難された。
534	2010-1034	消費 酸素容器 の盗難	2010/12/28	山口県	0	0	0	0	酸素	その他 (盗難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	酸素療法のため、医療機関から圧縮酸素ガス1.1L容器を借り受け、車内(自宅駐車場)に置いていたところ、12月28日に車上荒らしにより盗難された。販売店へは、12月28日14時11分頃連絡し、28日14時30頃、警察へ盗難届を提出した。
535	2010-1036	消費 LPガス容 器の盗難	2010/12/29	茨城県	0	0	0	0	液化石油ガス	その他 (盗難)	その他 (個人)	容器 本体	＜消費 中＞ (停止)	＜その 他＞ (盗難)	無	12月28日、他の販売店より、消費先に販売店の容器が設置してある旨の連絡があり、29日、容器を回収した。容器番号を確認したところ、この容器は販売店の消費先で解約された際に設置されていた、LPガス50kg容器2本のうちの1本であることが判明した。盗難場所では、2009年8月に販売店とA氏は解約し、同住所において2010年7月にB氏と販売店は契約を結んだ。その際、容器がなかったため販売店ではA氏と解約したときに容器を引き上げたものと判断していたが、今回の他の販売店からの確認依頼でLPガス50kg容器2本が盗難されたことが判明した。なお、2009年8月時点で両容器はガスの入った状態であったが、今回発見された容器は空容器であった。